昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和34年1月20日印刷 昭和34年1月25日発行 第40回第1号（毎月1回25日発行）



竹腰健造特集

日本建築協会

1959 建築と社会

明るい床材
三星プラスタイル

三星アスファルトタイル
三星Pタイル
（2耗厚）
三星マチスタイル



規格　寸法　12″×12″　厚サ　1/8″
又ハ　9″×9″　又ハ3/16″
価格一面坪 2,300円 ～ 4,800円(材工共)

三星の弾性床タイルは何れも製法の専売特許品で、日本の多湿多雨の氣候でも優れた性能をもつ、舶来品の追随を許さない製品です。

●屋外には使用出来ません

●各製品毎のカタログ見本
技術報告書を御請求下さい

◆ 特　徴

施工後故障が少い・工期が早い
価格が手ごろである・手入掃除が簡単
色彩が自由に選沢出来る・永持ちする

三星ルーフイングの

田島応用化工株式会社

東京・東京都足立区小台町633　TEL 王子(91)代表1181
大阪・大阪市西区京町堀上通1～14　TEL 土佐堀(44)代表0810

軽い
燃えない
腐らない

フェザーグラス

極細硝子繊維

大手町ビル
新朝日ビル
丸の内東宝劇場
第二大手町ビル
千代田ビル

に使用された

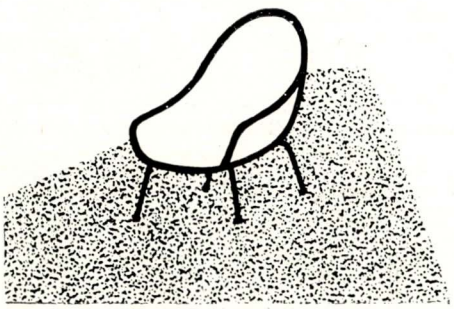
効果的な断熱・吸音材

PARA MOUNT GLASS M.F.G.

パラマウント硝子工業株式会社

本社・工場　福島県郡山市長者町225　電話(郡山)3451～4
東京出張所　東京都中央区八重洲6－1(日東紡)ビル　電話(東京)(28)7205～6
大阪出張所　大阪市東区北浜2－85北浜清友会館(日東紡績(株)大阪支店内)　電話(大阪)(23)0331～4

皆様の設計と施工に東洋の床材



リノリューム
リノタイル
ビニール系新製品
ビニラートタイル
ビニール製
スポンヂシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

カタログ進呈

東洋リノリューム株式会社

本社工場　兵庫県伊丹市伊丹558
電話伊丹(代)3531・大阪(48)4490
東京支店　東京都中央区銀座4丁目三和ビル
電話京橋 ⑯ 1701・2564
大阪事務所　大阪市東区瓦町2丁目三和ビル
電話北浜 ㉓ 0375～0379

近代建築を生かす軽快な昇降！



三井銀行神田支店納　都内最初の複動式エスカレータ

日立
エスカレータ

・エレベータ
・ダムウエータ

日立製作所
大阪営業所
大阪市北区梅田2番地(第一生命ビル)電話大阪(36)1301(代)

N－04

特許

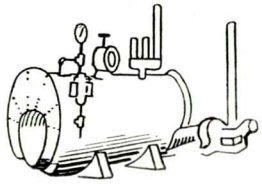
平川-MPボイラ

煙管式ボイラの「革命兒」現る！

経費節減527万円の
利益を生む

☆高性能・輻射型
☆石炭・オイル・ガス焚
☆1年間(7200時間)の燃料節約額
7′×30′ランカシヤボイラと
比較して
527万円益
(但し E.E.2000kg/hr.
6000カロリー石炭6000円/屯
1日24時間1月25日として)

大阪府立工業奨励館
公式試験成績
汽缶効率
81.2%
石炭焚にて
排ガス温度 197℃



◁営業科目▷ 平川～水管ボイラ、平川～機関車型ボイラ
平川～竪型ボイラ、外ボイラ全般・輸送機械

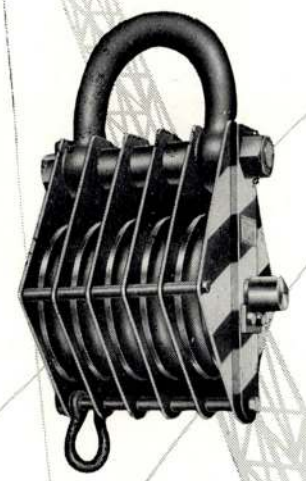
株式會社 平川鉄工所

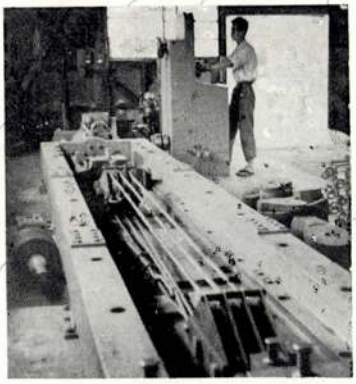
本社・工場　大阪市大淀区大仁西2の1　電話福島㊸1975－8
東京営業所　東京都中央区八重州6の7　電話㉘5883・7787－8
九州出張所　福岡県小倉市富野545　電話　小倉⑤1362

強力型 重荷用 鉄ブロック スナッチ

MKK

技術・性能・信用を誇る
安全度の高い





アムスラー油圧式横型引張試験機
（日本海事協会検定No. 3788）
製品は本機によって試験す



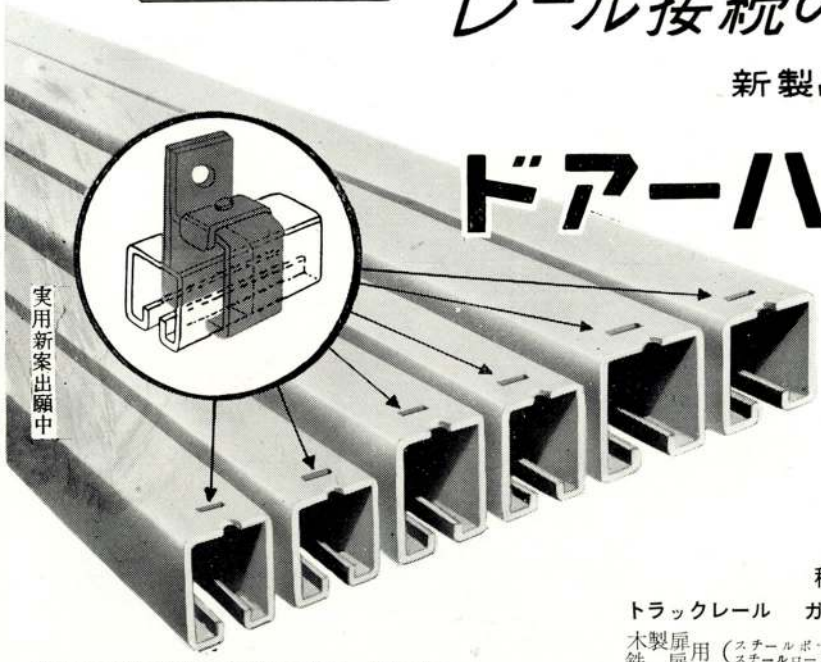
御用命は全国有名土木機械工具
金物店へ御照会願います

MKK

レール接続の革命！

新製品 完全防錆

ドアーハンガー





御用命は全国各地有名建築金物店へ御照会願います

種　目

トラックレール　ガイドレール　カーブレール

木製扉用
鉄　扉用（スチールボール／スチールローラー入）**複車・単車**ハンガー

軽 50㎜, 60㎜, 70㎜

その他ブラケット附属品一切

株式会社 三谷製作所
東京都足立区高野町二一八番地
TEL　足立 (88) 4048・4239

驚異的近代感覚の吸音壁貼材料

新製品

カラド クロース

原紙に着色せる優秀製品

ニッポン クロース

壁

オリエンタル クロース

壁

製造発売元

河津装飾株式会社

大阪市北区堂島上一ノ二四　TEL大阪㉞1351—3

代理店

株式会社　京橋松屋商店

東京都中央区八重洲5—1

TEL㉘1803・7615

おちついた
ふんい気で
スマートな
お買物……

綜合特選売場＜サロン・ボエーム＞●3階



越

大阪・高麗橋

三越

金曜定休

電話㉓1551

アサヒ印耐火ボードの新製品　化粧ボードの決定版！

美しいプラスチックの化粧板
エスロンボード
ソフトタッチの立体模様
エンボスボード
経済的な　化粧板
カラードボード

●耐火ボード
●アサヒトーン
●ラスボード
●ボード用プラスター
（カタログ進呈）

アサヒ

大阪耐火ボード株式会社
本　社　大阪市北区堺筋町50　堂ビル
電話大阪㊱4033・4034・7609㊱1141
東京営業所　東京都千代田区神田東松下町46
電話東京㉕2938・5801

DK
伝統の歴史と最高の技術を誇る!!
ダントウタイル
カタログ進呈
淡陶株式会社
大阪支店　大阪市西区阿波座中通1丁目48番地
電話新町㊸432・1247・6706番
東京支店　東京都中央区日本橋浜町2丁目47番地
電話兜町㊼7309番

東陶の衛生陶器と付属金具

L-92 に代る

L-220

オパール
OPAL



ビル・アパートはもとより一般住宅
にも御採用頂けるよう寸法や価格の点では従来最もよく
御愛用頂いていた製品L－92を基準として考慮いたしました。

Toyotoki

定　価

陶　器(1級)L 220 ¥ 2,900
金　具 (Toyotoki印)
立水栓 T205Y
@¥ 600 (2個) ¥ 1,200
止水栓 T4AY
@¥ 670 (2個) ¥ 1,340
排水金具 T6P ¥ 1,210
バックハンガ
取付木ネジTL220D ¥ 200
計 ¥ 6,850

参考定価

陶　器(並級)L 220 ¥ 2,320
金　具 (TTK印)
立水栓 K205Y
@¥ 510 (2個) ¥ 1,020
止水栓 K4AY
@¥ 570 (2個) ¥ 1,140
排水金具 K6PC ¥ 1,030

東洋陶器株式会社

本　社
小倉市篠崎町458
TEL ⑤2481～5

大阪営業所 大阪市東区伏見町5の3 TEL ㉓4518～9
各地営業所 東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
TEL 2105～8

ビニール製 壁・襖貼材料

ロンフイックス



特殊加工がしてありますから，どんな糊でも
又素人でも容易に貼れます。
インク，油，手垢等の汚れも石鹸水できれい
にとれて水拭が可能です。 (特許出願中)

床材料の決定版！

ロンリウム

(ビニール製)



東京地下鉄・東急，新車に使用されています。
それは感触が柔らかく，手入れが簡単でしかも毎日多数の乗降者に耐え得る等その特性が他の床材より優れている事が認められたからです。
標準寸法幅6尺×長30碼×厚2.5粍(1巻15坪)

川口ゴム工業株式会社

東京都葛飾区本田四ツ木町54 電話葛飾 (69) 1946—9
(全国有名内装工事店に御照会下さい) (カタログ贈呈)

会員の受賞

会　員　の　受　賞

12月8日，下記のとおり本会々員が建設事業関係功労者として褒賞を授与されました。ここに誌して，その栄誉をお祝い申し上げます。

記

黄綬褒賞	井上福蔵君	(元理事)
同	河村茂君	
同	黒木源次郎君	(九州支部副支部長)
同	長谷部鋭吉君	(名誉正会員)
同	藤木正一君	(理　事)
藍綬褒賞	置塩章君	(建材審査委員長)
同	村野藤吾君	(元理事)

11月4日下記のとおり本会々員が大阪府の建築行政に寄与した功労により表彰されました。ここに誌して，その栄誉をお祝い申し上げます。

青柳貞世君	池田宮彦君	石川寛三君
石原季夫君	伊丹久吉君	今林彦太郎君
今西留吉君	小河吉之助君	鍵仲尊雄君
久保幸一君	黒田茂君	坂内幾三郎君
榊弘美君	坂本広吉君	佐久間逸治君
作間日出生君	嶋田良馨君	田辺信君
永田鼎三君	波江悌夫君	長谷部鋭吉君
藤阪捨治郎君	前野慶太郎君	牧村利勝君
増井敬君	松本芳太郎君	水間常次郎君
森西龍太郎君	山田文次君	渡部圭吾君
大倉由平君	白石登喜男君	田中庄太郎君
浜田理一君	大和栄衛君	相沢喜久太郎君
越田英嗣君	丹司定治君	福田好雄君
吉崎源三郎君		

建材優良証明

ゴーレックスEC優良証明発行

昭和33年1月29日提出された資料につき本会建材審査委員会において審査の結果，下記特徴により向う1ケ年間有効の優良証明を昭和33年11月10日付発行した。　　社団法人　日本建築協会

記

品　　名　ゴーレックスEC

製造会社名　富国合成株式会社

特　　徴

1. 防水性能は優秀である。
1. 防水膜に柔軟性が保たれるから下地コンクリートに0.1耗程度の亀裂を生じても防水膜は破損しない。
1. 防水の補修が簡単にできる。

建築基準法改正に関する要望書提出

本会法規委員会では，かねて建築基準法の改正に関して検討をつづけておりましたが，中央における同法改正機運の進展にかんがみまして下記のとおり要望書を提出いたしました。会告申し上げます。

要　　望　　書

建築基準法の改正に関し要望の件

建築基準法の改正に関して下記のとおり要望いたします。

建築基準法第55条第１項に対する緩和規定として下記趣旨の条項を新設すること。

地方公共団体は，土地の状況によりやむを得ないと認める場合は，建設大臣の承認を得て，条例で区域を限り第55条第１項の規定による制限を緩和することができる。

理　　由

建築行政当局の多年のご努力にも拘わらず，違反建築が跡を絶たないことは誠に慨嘆にたえない処であります。違反建築のうちでも特に悪質のものは無届のものでありまして，その原因は種々あると思いますが，空地制限に抵触するために手続のできないものが非常に多く，しかも地区的に集中して起る状態であります。

依って，この制限を地方の条令で例えば次のような緩和を行うときは，相当数の無届建築をルートに乗せることができ，構造，防火など重要な建築指導を行うことができます。

1．商業地域内では過小敷地（１００平方米未満）の密集している所では「十分の七」を「十分の八」に緩和する。

2．住居地域または準工業地域内で，業務と住居が併用されている建物が密集している所では「十分の六」を「十分の七」に緩和する。

以　上

上記，要望申し上げます。

昭和 33 年 11 月 29 日

社団法人　日本建築協会
会長　工学博士　尾崎久助

建設大臣　遠藤三郎殿

建築基準法改正に関する要望書提出

建　築　士　年　次　届

大阪府では，一級建築士および二級建築士の方は，来る１月15日までに「建築士年次届」をしていただくよう要望されています。まだ届出されてない方は，至急「年次届」をされるようお願いします。

届出用紙は大阪府建政課に準備してあります。なお詳細については，同建政課へお問合せ下さい。

謹　賀　新　年　　昭和34年元旦（追加分・順不同）

川崎盛治 大阪市北区曽根崎中１丁目19 株式会社　小坂井組	内藤資忠 京都市左京区田中大堰町１３ 内藤建築事務所　電⑦0716

昭和34年1月

会と催

新年午餐会

新年午餐会開催通知

恒例により新年午餐会を下記により開催いたします。

会員相互倍旧の懇親を重ねて参りますよう，新年第1回の午餐会に多数会員のご出席をお願い申し上げます。

記

1. 日　時　1月12日（月）正午
1. 場　所　今橋クラブ（東区今橋・日本経済新聞社）
1. 映　画　朝日ニュース（新春封切）
黒部峡谷（第2編）
1. 会　費　￥500
1. 申　込　1月10日午前中までに会費を添え事務局までお申込み下さい。

若い会員の集い

新春の若い会員の集い

（海外から帰られた青年建築家を囲んで）

1. とき　1月8日（木）午後6時～8時
1. ところ　ミユンヘン北店2階（大阪市北区神明町22・但し梅田新道交叉点を東へ約1丁南側・電話㊿5593番）
1. 申　込　折返し電話でお申込み下さい。会費は200円（別に補助があります）
1. 海外の建築のあれこれを，六車熙君（京都大学）・池田武彦君（東畑建築事務所）にスライドをまじえてお話しいただくことにしております。

謹賀新年　昭和34年元旦（追加分・順不同）

中松通明 大阪市東区伏見町5—3 東洋陶器株式会社大阪営業所所長	津村芳一 尼崎市長洲字稲川新田44 オリエンタルメタル製造株式会社

謹賀新年　昭和34年元旦　(50音順)

青木友一
大阪市天王寺区大道3丁目
東洋洋瓦株式会社社長

浅井貞治
大阪市北区堂島中2—37
双星社 竹腰建築事務所

浅沼猪之吉
大阪市天王寺区石ケ辻町13
株式会社 浅沼組

浅野重太郎
大阪市北区富田町
第一工業株式会社大阪支店

浅海正雄
大阪市東区北浜2—69
浅海電気株式会社

安藤芳雄
大日本土木株式会社大阪支店

池田宮彦
大阪市西区京町堀通2—37
株式会社大阪建築事務所取締役社長

石川寛三
大阪市天王寺区茶臼山町111
石川建築事務所

石原達偉〔季夫〕
大阪市北区宗是町1 大ビル916号室
石原建築設計事務所

石丸正名
大阪市北区真砂町32
株式会社戸田組大阪支店・常務取締役支店長

伊丹久吉
大阪市東区両替町1—17
株式会社藤木工務店

井田泰玄
大阪市浪速区西円手町1017
井田商事株式会社代表者

伊東正也
大阪市北区綿屋町5
伊藤建築設計事務所

伊藤貞亮
大阪市東区内淡路町1—11(中大江ビル)
創研社設計事務所 電㊾9345

糸井直太郎
自宅 茨木市大字総持寺170—21
株式会社 内外土木建材社

井上福蔵
枚岡市石切山荘

井場績
大阪市西区新町北通1—40
日新工業株式会社大阪支店

今林彦太郎
神戸市東灘区本庄町深江

今村騰
大阪市北区曽根崎上1—41
中央電気工業株式会社

入江雄太郎
岐阜市上材木町373
入江設計事務所

謹賀新年　昭和34年元旦　(50音順)

岩崎甚太郎
兵庫県川西市栄根字豆阪1—11

岡本行善
大阪市西区阿波座下通2—30　電㊿0795
株式会社　昭和建築設計事務所

上西圭治
株式会社　建材社

小河吉之助
大阪市南区瓦屋町4番丁8
設計監理　小河建築設計事務所

宇賀一郎
大阪市北区若松町28尾崎ビル12号室

奥村太平
大阪市阿倍野区松崎町1—51
株式会社　奥村組

内田成之
須賀工業株式会社

小栗贊吾
清水建設株式会社　常務取締役
大阪支店長

浦辺鎮太郎
倉敷レイヨン株式会社

尾崎久助
大阪市東区北浜5—13
日建設計工務株式会社　取締役会長

株式会社　エービーシー商会　大阪出張所
大阪市西区京町堀通1—18
電　㊹　0500・3915

尾崎博一
大阪市北区茶屋町38
旭化工板製造株式会社

大林芳郎
大阪市東区京橋3—75
株式会社　大林組

置塩章
自宅　神戸市東灘区御影町上ノ山1661—1
電　⑧　4681

岡三郎
大阪市北区堂山町89
株式会社　岡組　取締役社長

笠原梯治郎
社員一同
大阪市西区京町堀上通1—14
田島応用化工株式会社大阪出張所

岡田平蔵
名古屋市西区西菊井町2—12　電㊽0121・2057
合資会社　岡田建材店　代表者

辛木貞夫
東海興業株式会社大阪支店

尾亀清四郎
三晃商会　常務取締役

河井覚弘
大阪市北区兎我野町18　電㉞3330・3339
河井建築事務所

謹賀新年　昭和34年元旦　(50音順)

川口哲雄
尼崎市南竹谷町2—89
田中工業株式会社大阪出張所

鴻池藤一
大阪市住吉区浜口町402—21

河津喜之助
大阪市北区堂島上1—24　電㊿1351～3
河津装飾株式会社　取締役社長

小岩増太郎
尼崎市尾浜字国広1—1
神東塗料株式会社社長

河東義方
自宅　大阪市天王寺区餌差町49—1　電㉟0850
大阪郵政局建築部　電㊾6300

小西岬
大阪市西区阿波座下通2—28—1　電㊸7830・㊿2080
株式会社　田中小西建築事務所

神田正平
大阪市東淀川区田川通6—38
株式会社　日本シャッター製作所

小林清
大阪市北区堂島上2—11
株式会社新住宅社

北村平作
大阪市東区北浜1—25
佐藤工業株式会社取締役大阪支店長

小林得志
大阪市北区堂島中町29
小林得志建築事務所

木戸口信義
大阪市天王寺区北河堀町54
大洋建設工業株式会社取締役社長

佐藤音松
大阪市天王寺区上本町7—34
株式会社今西組

木下光雄
大阪市西区江戸堀南通5—35
株式会社　木下謹三商店

佐藤四郎
名古屋市東区東芳野町1—75

久保幸一
株式会社　久保商店

佐藤太
近畿電気工事株式会社

栗田政次郎
大阪市西区南堀江1番町14
大阪朝日瀝青株式会社

斎藤光夫
箕面市百楽荘3—242

栗原信虎
大阪市北区永楽町8　電㊿1234
栗原工業株式会社

坂内幾三郎
大阪市西淀川区御幣島中1—2
坂内建築設計事務所

謹賀新年　昭和34年元旦　(50音順)

三座建築事務所
大阪市北区中之島4—33　電㊊4940・5448
東京都中央区築地3—8　電　㊿3745〜6

三田一男
神戸市生田区楠町5丁目2—4
三田建築設計事務所所長

志垣正次
株式会社　明正社

清水和弥
自宅　豊中市桜塚東通5—8
山下寿郎設計事務所大阪支社

白杉嘉明三
神戸市東灘区本山町野寄字山田19—1

菅谷三郎
大阪市西区江戸堀南通1—37
株式会社大阪電気商会・大阪暖房商会

鈴木清市
大阪市東淀川区新高南通1—14
株式会社　ケントク

銭高輝之
大阪市西区京町堀上通1—33
株式会社　銭高組

高橋伸光
大阪市南区大宝寺町東之丁41
大阪セメダイン商事株式会社取締役支配人

第一建築部長　**高山馨**
第二建築部長　**益邑義一**
大阪市北区茶屋町38
大鉄工業株式会社

竹腰健造
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所

太刀川達太郎
大阪市西淀川区御幣島中3—4
株式会社　不二製作所大阪支店取締役支店長

田邊信
株式会社　大林組

田村巍
大阪市東区南久宝寺町4
亀井株式会社

地頭政人
大阪市北区若松町30　電㊍9004・9016
株式会社　小俣製作所大阪出張所

千原大五郎
株式会社　大阪建築事務所取締役東京支所長

知見義夫
大阪市西区土佐堀通　大同ビル7階
株式会社　斎藤省三商店大阪支店長

塚本猛次
日建設計工務株式会社

東畑謙三
大阪市東区伏見町5
株式会社　東畑建築事務所

富家宏泰
京都市中京区烏丸通押小路上ル　電③3917・6024
富家建築設計事務所
大阪市東区道修町1　加藤ビル　電話㊋3390
東京都中央区八重洲4—5　梅田ビル　電話㊋5684

謹賀新年　昭和34年元旦　(50音順)

長尾正大
大阪・天六・阪急ビル
日本エレベーター工業株式会社代表取締役

中沢誠一郎
守口市滝井元町3—27
電大阪㊾1848

中之島製鋼株式会社
大阪市東区弁天町4

西嶋徳太郎
大阪市西区京町堀通2丁目37—2
株式会社　大阪建築事務所常務取締役

伴秀雄
大阪市大淀区中津南通2—51
株式会社　西原衛生工業所大阪店

平田伊三郎
大阪市西区阿波座中1
株式会社　平田タイル取締役社長

平田作太郎
大阪市西区阿波座中1
株式会社　平田タイル専務取締役

福井ビニール工業株式会社
本社　福井市木田町22
東京営業所　東京都港区芝浜松町2—11
大阪営業所　大阪市南区順慶町通2—46

福岡庄一郎
滋賀県甲賀郡石部町大字石部2476
日本スタッコ株式会社社長

福田朝生
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所

福永薫
大阪市南区順慶町通4—61　電㉙5189
福永建築設計事務所所長

福山忠治郎
大阪市北区神山町26
栄進鋼業株式会社社長

藤井徳義
大阪市北区絹笠町16　大江ビル
新晃工業株式会社　取締役社長

藤木正一
大阪市東区両替町1—17
株式会社　藤木工務店　社長

藤本憲治
大阪市北区梅田町　第一生命ビル
小野田セメント株式会社大阪支店　取締役支店長

藤本庄之助
大阪市城東区西鴫野6—43
株式会社　工盛社

宝来佐市郎
大阪市東区京橋3—75
株式会社　大林組

牧村利勝
大阪市東区横堀2—70　電㊐代表5035
株式会社　間組大阪支店取締役支店長

町田信治
兵庫県伊丹市伊丹558
東洋リノリューム株式会社

松井邦彦
大阪市北区高垣町80　電代㊱0178・4161
耐酸化学工業株式会社　取締役社長

謹賀新年

昭和34年元旦　(50音順)

松村雄吉
大阪市東区京橋2—28
株式会社　松村組

松本芳太郎
大阪市東区今橋2—16 電㊁6951(代)
株式会社 松重電機商店

三国利道
自宅 京都府下西向日町稲葉25
大阪市東区安土町2—22 (株)安井建築設計事務所

南長吉
斎久工業株式会社大阪支店長

村井幸治
布施市横沼町1—46
敷島金物株式会社　専務取締役

村尾富
自宅 高槻市大字西五百住300
松下電器産業㈱管球事業部照明技術課長

向井保晴
兵庫県伊丹市伊丹558
東洋リノリューム株式会社

村石秋吉
大阪市浪速区幸町通3
浪速合板株式会社

室谷山水
株式会社 室谷商店

柳田癸巳夫
大阪生コンクリート株式会社

株式会社 **矢橋大理石商店** 大阪出張所
大阪市東区高麗橋2　野村ビル5階

山口吾郎
豊中市栄通2—5
不二建設株式会社

山田文次
大阪市西区京町堀上通1—7
山田工業株式会社

山中義一
大阪市東区高麗橋詰町43
栄興建築株式会社

山邑励二
神戸市東灘区魚崎町大川原774
鹿島建設株式会社

山本博三
大阪市北区中之島3—3
朝陽電気株式会社

山本義樹
株式会社 錢高組

山本龍太郎
自宅 大阪市住吉区帝塚山西4—21
大阪市北区西堀川町15 (株)ヤマト電気商会

吉田信武
大阪府大東市三箇1140

鷲尾健三
大阪大学工学部構築工学教室



建築技術者のための 空気調和と電気設備

戦前戦後を比較して建築の変りようは実に目をみはるものがある。構造，意匠，設備，材料等のどの点についても戦前の知識，考え方は通用しなくなっている。そのうちでも螢光灯や暖冷房の方式の進歩等は正に画期的といえる。（中略）建物主体が耐震耐火であるべきは勿論だが，今日ではその工事費は主体工事費の半分にもおよんでいて，さらに多額になる傾向にある。日本建築協会はかかる情勢に鑑みて始めて「建築設備講習会」を開催する。そのテキストが本書である。建築の設計および現場に働く中堅技術者を主なる対象としている。従って本テキストの内容も簡潔ながら実際的を旨とし，例をあげたり，建築との工程の関係や経済性からみた設備の考え方などまで含めている。また筆者も学者のほか多くの実務家を煩わした。（**発刊のことば** より抜萃）

本書は大別して空気調和設備編と電気設備編よりなる。空気調和設備編においては，これを八章に分ち，最近のビル建築で建築計画上極めて密接な関連をもち，かつウエイトを大きく占める空気調和装置，暖冷房設備に関する内容を主眼にして記述した。

電気設備編においては，これを六章に分ち，最近のビル建築における電力の需要増加にかんがみ，受電，変電設備に関するものを第２章にまとめて，内容の充実をはかり……強電設備，照明設備……各種弱電設備……昇降機設備に関する記述を追加して，一応電気設備に関する諸資料はほとんど包含されるものとなった。（**はしがき** より抜萃）

最新刊！

内容紹介

▶発刊のことば……日本建築協会会長　尾崎　久助
▶はしがき……同　空調と電気設備編集幹事会
▶**空気調和設備編**……250頁
とびら
目　次
第１章　空気調和の基礎科学……前田　敏男（京　大）
第２章　暖冷房の熱負荷…吉川　照夫（大阪暖房）…三村　胖
第３章　暖　房……三村　胖（須賀工業）
第４章　送排気及び除塵……上西　圭治（建材社）
第５章　空気調和……柴田　文三（高砂熱学）…上西・吉川
第６章　自動制御……田辺　実（山武計器）
第７章　騒音と振動……前川　純一（神　大）
第８章　建築設備室……高橋　誠義（大林組）
特別資料……（36社）
索　引……
▶**電気設備編**……150頁
とびら
目　次
第１章　近代建築と電気設備…真砂野　昭…西崎誠（関西電力）
第２章　電源設備……真砂野　昭（近畿電気）…鳴尾　源蔵
第３章　屋内電気設備と避雷針設備……鳴尾　源蔵（大阪電気）
第４章　照明設備……北島　英二（東京芝浦）
第５章　弱電設備……山瀬　暁平（三機工業）
第６章　エレベータ設備……木村　武雄（三菱電機）
特別資料……（26社）
索　引……

編集幹事（50音順）

石黒　次郎（K.K.竹中工務店設備部長）
川口与四郎（近畿地建設備課長）
高橋　誠義（K.K.大林組建築部次長）
中原　茂（近畿地建計画課長）
前田　敏男（京大教授・工博）
真砂野　昭（近畿電気工事K.K.営業部次長）
三村　胖（須賀工業K.K.設計課長）

お申込は……
発行：日本建築協会へ……
所　：大阪市東区北浜３……
電話：北浜㉓9648・9649・9640……

編集：日本建築協会 空調と電気設備編集幹事会
B５版・総頁 400 頁……
定価：¥550．送料：¥70会員は割引の特典あり

誰れもが認めて下さるプラスチック床材料の最高峰

桂のビニールタイル

新床材料販売並施工
桂のビニールタイル
（責任施工）

規格

厚サ	4 ㎜	5 ㎜	6 ㎜
寸法	303 ㎜角 1尺×1尺	303 ㎜角 1尺×1尺	303 ㎜角 1尺×1尺

特徴
- ○ 曲げても、叩いても破損しない
- ○ 耐薬、耐油、耐燃性
- ○ 耐磨耗性にて優れた耐久力
- ○ 色調優美で程良い弾力性

KATURA VINYL TILE

発売元

株式会社 桂商会

大阪市大淀区天満橋筋6—12　電話大阪㊱6625番



完全防錆シャッター出現！

（パーカライジングの上　赤外線焼付加工）

シャッター業界最新最大の設備を誇る
パーカライジング工場
赤外線焼付工場　完成





三和シャッター

全国に有力なる
代理店を求む
（カタログ贈呈）

株式会社 三和シャッター製作所

本社・工場　尼崎市久々知字コエ23　電話㊽2959　9748
営業所　東京・札幌・金沢・富山・長岡・松本・名古屋・四日市・京都・別府・佐世保・長崎

絶讃！ナイロンカーペット…

東レナイロン絨毯 ・緞通は100%スパンナイロン糸を使用したもので・摩擦に強く
・弾力性に富み・吸塵性が少なく
・虫の害を全く受けません

Toray トーレ Reg. Trade Mark



東レ ナイロン

絨毯・緞通

このほか価格低廉な 100%レーヨンによる
東レカーペットも好評を博しております

東洋レーヨン株式会社

発売元 (株)泉 商 会
大阪市北区宗是町(大ビル150号)
電 (44) 2736～9

耐火・断熱・軽量骨材

新製品 三井パーライト

パーライトは真珠岩を急速に加熱、膨張せしめたもので主成分は硅酸であり小さな真空状のガラス質の巣の集りで形成されて居ります。
パーライトは非常に軽く耐火的であるのでプラスターに混じ耐火、断熱用壁仕上に又、コンクリートとしては砂の代りに使って断熱、軽量コンクリートとして使用されます。

用途の一例

(1) 軽量コンクリート用細骨材
(2) 左官材料（セメント・プラスター骨材）
(3) 保温断熱材
(4) 油 井 用
(5) 濾 過 助 材



（パーライトを使用した国連ビル）

特 性

軽いセメントモルタルの½以下（嵩比重0.04～0.20、砂の重量の1/40～1/20）
耐火性が大である セメントモルタルの4倍の効力がある（熔融温度1000℃以上）
断熱効果が大である セメントモルタルの2倍以上（伝熱係数 λ =0.03～0.05kcal/mh℃）
亀裂予防になる 殆んど亀裂が出ない
遮音吸音効果が大 セメントモルタルの2倍以上
施工が容易である 他の軽量骨材に比し施工が容易である
化学成分 SiO_2=75.5、Al_2O_3=15.3、Fe_2O_3=0.9 CaO=0.12、K_2O=4 Na_2O=3.5
有機不純物揮発分なく、長期保存するも変質しない

パーライトセメントモルタル調合その他・パーライトプラスターの配合説明書贈呈

三 井 金 属 鉱 業 株 式 会 社

本 店	東京都中央区日本橋室町2の1	日本橋 (24) 4101～9・2371～9
大阪支店	大阪市北区中之島3の5	土佐堀 (44) 3731・3751
東京営業所	東京都中央区日本橋室町2の1	日本橋 (24) 4101～9・2371～5
名古屋営業所	名古屋市中村区広小路西通2の26	笹 島 (54) 3171～5
福岡営業所	福岡市天神町39	中局 (4) 9336～9

建築と社会

1959年新年号目次

1

竹腰健造特集

表紙：竹腰健造邸茶室
撮影：恒成一訓
デザイン：村尾栄

建築と社会
第40集・第1号
売価 本号に限り1部250円・送料共
昭和34年1月20日印刷
昭和34年1月25日発行
発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話 北浜㉓ 9648・9649・9640番
振替口座 大阪39975番
発行人 沖田誠一
編集人 松井昭光
印刷所 株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話 ㉞ 2091～3番
印刷者 網野栄

巻頭の言 ……尾崎 久助… 27

竹腰健造エッチング 1915～17

Trafalgar Square, London …… 29
S. Gimignano, Italy …… 30
Somerset House, London …… 31
Piccadilly Circus, London …… 32
S. Pietro, Assisi …… 32
Siena, Italy …… 113
Urbino, Italy …… 114
Venice, Italy …… 125
東横堀川（大阪）大正8年 …… 138
スケツチ Rouen, France …… 137

竹腰健造作品

戦前の部：大阪証券取引所ほか …… 33
戦後の部：聖心女子大学ほか …… 41

回顧五十年 ……竹腰 健造… 55

序 …… 57
私はいかにして建築家になったか …… 58
日本ホロータイル株式会社 …… 64
紐育で …… 69
住友の建築課 …… 80
財界不況 …… 82
長谷部・竹腰建築事務所の創設 …… 85
住友へ復帰 …… 93
改戦 …… 97
財閥解体 …… 102
活路を求めて …… 104
追放 …… 110

近代建築偶感 ……竹腰健造講演…115
——昭和31年2月22日・大阪倶楽部講演転載——

竹腰健造氏を語る（順不同）

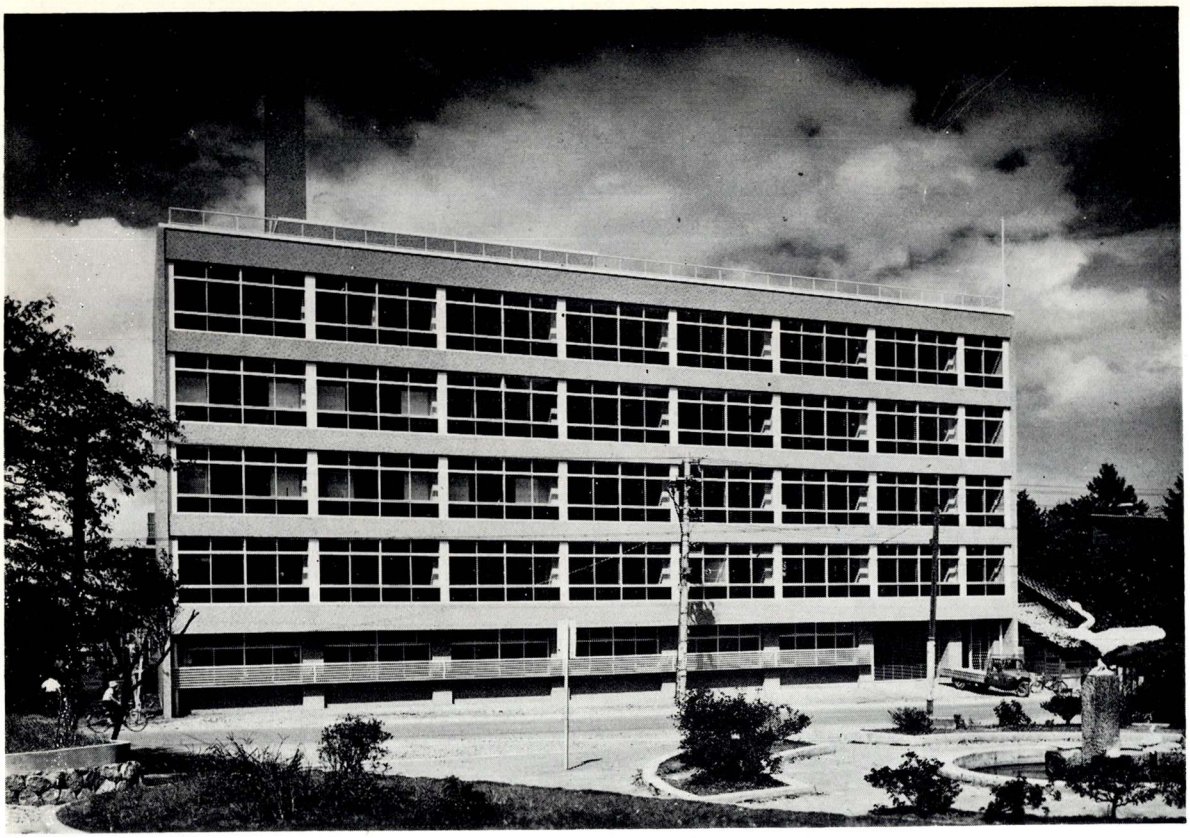
竹腰さんを語る ……山本為三郎…126
竹腰君を語る ……川田 順…127
竹腰健造への期待 ……藤村 朗…128
竹腰さんの功績 ……波江 悌夫…129
竹腰健造君を語る ……西村 好時…130
竹腰君と私 ……山下 寿郎…131
竹腰先生の古い思い出 ……中沢誠一郎…132
竹腰先生 ……東畑 謙三…132
竹腰先生と京都大学 ……棚橋 諒…133
竹腰先生に望みたいこと ……河津喜之助…133
旅の思い出 ……池田 宮彦…134
竹腰さんの一断面 ……田路 舜哉…135
時間・空間・建築家 ……浦辺鎮太郎…136

大正時代の大阪の建築を語る …… 139
座談会……（50音順）…今林彦太郎・置塩 章
波江 悌夫・鷲尾 九郎

大正時代・子供の遊びさまざま ……牧村 史陽…144

近代建築史年表 ……147
——海外・日本・関西（附・竹腰健造）—— 島田勝次編

建築の眼 ——本号より新執筆者—— …… 26
昭和33年中に竣工した新建築（P.R） …… 14
会合（11月分） ……173

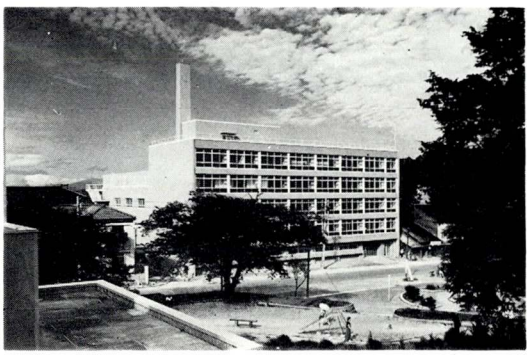


日本電信電話公社金沢総合局

設　計　日本電信電話公社　建築部

所在地　金沢市殿町65
敷地面積　3,298 m²
建築面積　1,377 m²（　417坪）
延面積　5,455 m²（1,650坪）
構造規模　鉄筋コンクリート造5階建塔屋2階建
竣工日　昭和33年8月31日

施　工　株式会社　戸田組大阪支店





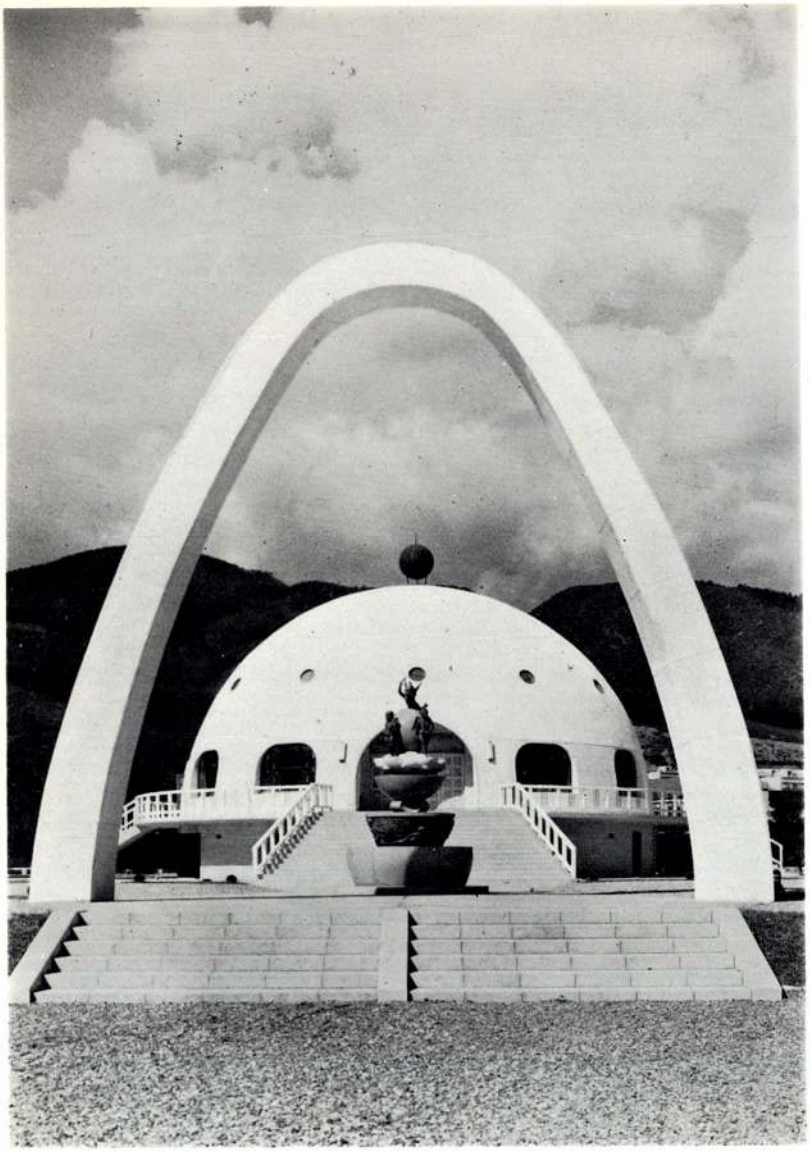


株式会社　住友銀行甲子園運動場

設　計　日建設計工務株式会社

所在地　西宮市南甲子園3丁目9
敷地面積　12,162.71坪
建築面積　500坪
延面積　建物870坪　プール，野球場，テニスコート，バレーコート
構造規模　RC造・鉄骨造
竣工日　昭和33年3月

施　工　株式会社　鴻池組



所在地　箕面市新稲
敷地面積　7,425m²
建築面積　932.479m²
延面積　1,259.061m²
構造規模　SRC及びRC構造
竣工日　昭和33年11月27日

宇宙の宮

設計：遠藤建築事務所

施工　大日本土木株式会社大阪支店
衛生・暖房　斎久工業株式会社大阪支店
電気　富士電業株式会社



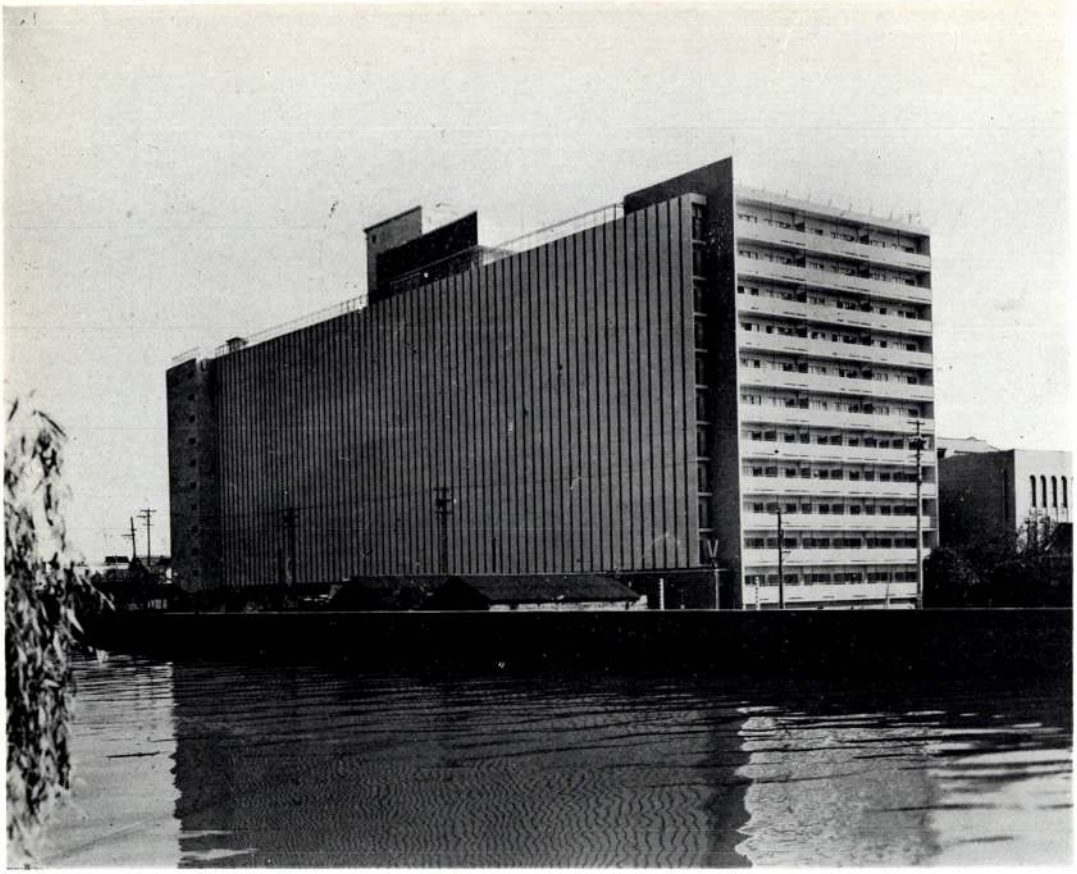
所在地　大阪市北区堂山町
敷地面積　約600坪
建築面積　203.8　坪
延面積　511.96坪
構造規模　鉄骨，鉄筋コンクリート，3階建，
　　1部地階
竣工日　昭和33年6月10日

クラブアロー

経営　株式会社大和会館
設計　意谷建築事務所



施工　大日本土木株式会社大阪支店
電気工事：近畿電気工事株式会社南支店
空気調和：不二電化
給排水衛生工事：清水工業



西長堀高層共同住宅

設　計　株式会社 大阪建築事務所
　　日本住宅公団大阪支所

所在地　大阪市西区西長堀南通り4丁目103ブロック1の1
　　市電白髪橋駅下車

敷地面積　1,099.19坪

建築面積　374.95坪

延面積　4,907坪

構造規模　鉄筋コンクリート造 地下1階地上11階塔屋2階

竣工日　昭和33年11月15日

施　工　鹿島建設株式会社大阪支店



武田薬品工業(株)研究所

設　計　双星社竹腰建築事務所
　　竹腰健造

施　工　株式会社 大林組

所在地　大阪市東淀川区十三西之町4－54
　　武田薬品工業株式会社　大阪工場内
建築面積　2,144m²（　648.5坪）
延面積　12,095m²（3,658.7坪）
構造規模　地下1階地上6階塔屋2階　R・C
竣工日　33.8.25



新朝日ビルディング

所在地　大阪市北区中之島2丁目
敷地面積　（2,466坪884）　8,153.052m²
建築面積　（2,060坪564）　6,810.164m²
延面積　（22,930坪842）　75,786.328m²
構造規模　鉄骨鉄筋コンクリート造，地下2階
地上13階，塔屋付，軒高45m，最高
103m
竣工日　昭和33年4月3日

設　計：株式会社 竹中工務店設計部　　監　理：新朝日ビルディング建設委員会　　施　工：株式会社 竹中工務店

関西テレビ放送株式会社・本社・スタヂオ

所在地　大阪市北区梅ヶ枝町20
敷地面積　3,022.64m²
建築面積　2,572.69m²
延面積　9,876.37m²
構造規模　鉄筋コンクリート造一部鉄骨
地下1階地上5階送信鉄塔付
軒高19.60m，最高54.50m
竣工日　昭和33年10月



設計：株式会社竹中工務店設計部　監理：ＫＴＶ技術局　施工：株式会社竹中工務店



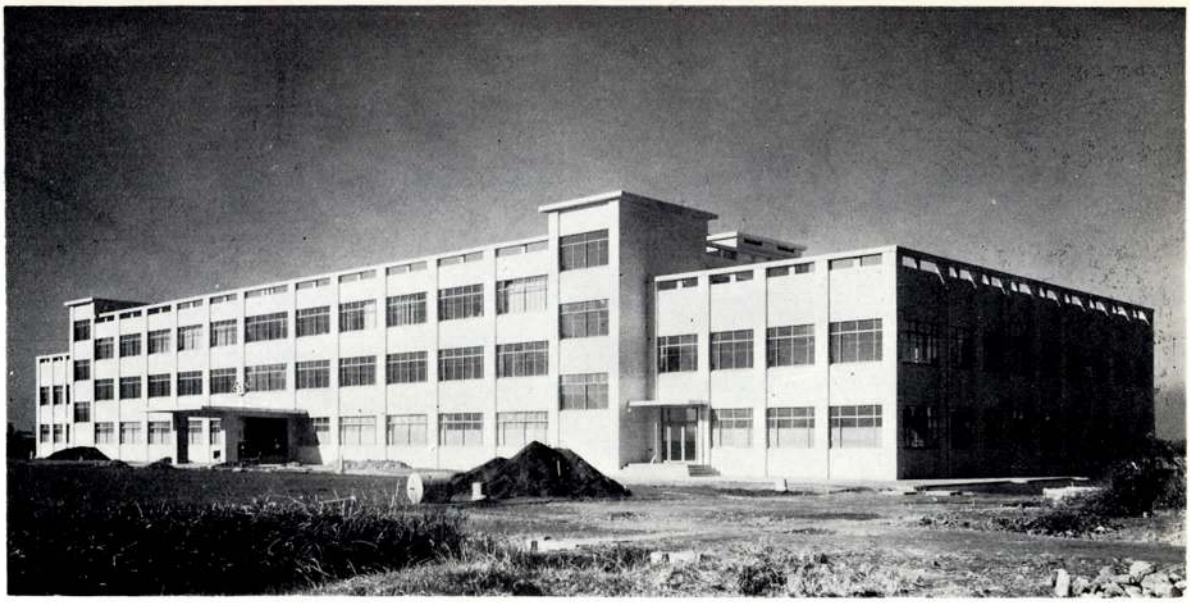
有楽ビルディング

設計　三菱地所株式会社

所在地　大阪市東区南本町4丁目20番地
敷地面積　394.510坪
建築面積　318.115坪
延面積　3,457.123坪
構造規模　鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階地上8階（他に中2階塔屋2階）
軒高31m塔屋最高頂部37.75m
竣工日　昭和33年6月30日



施工　大成建設株式会社大阪支店



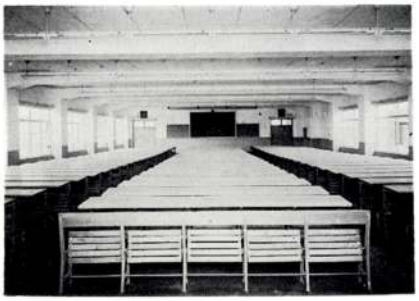
全　景

大阪府立大学経済学部校舎

設　計：大阪府立大学施設課



学部長室



大講堂

所在地　大阪府堺市土師町
敷地面積　22,380 m²
建築面積　2,173 m²
延面積　5,553 m²
構造規模　鉄筋コンクリート3階建両翼2階建
　　塔屋付1棟
竣工日　昭33. 2. 28.

施工　株式会社　浅沼組



玄関詳細

森田汽船株式会社本社

全景

設　計　清水建設株式会社大阪支店設計部

所在地　大阪市西区川口町15番地

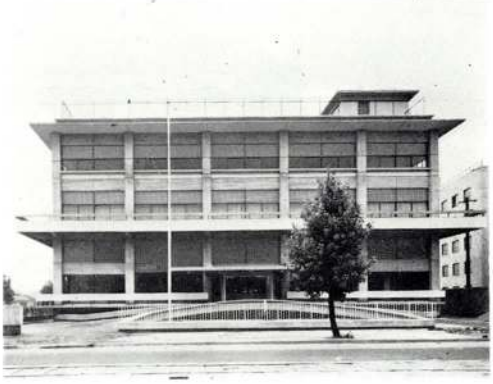
建築面積　148坪055

延面積　860坪424

構造規模　鉄筋コンクリート造4階建1棟

着工日　昭和33年6月23日

施　工　清水建設株式会社大阪支店



昭和33年中に竣工した新建築



布施市立 布　施　市　民　病　院

主　管　布施市建設部建築課
設計監理　建財設計工務株式会社

所在地　布施市御厨555・556番地
敷地面積　15,735m² (4,761坪)
建築面積　2,268.68m² (686.27坪)
延面積　6,686.92m² (2,022.79坪)
内訳　病棟延床面積　2,811.90m²
　　診療管理棟床面積　3,875.02m²
構造規模　地上4階塔屋つき鉄筋コンクリート造
竣工日　昭和33年10月30日

施　工　株式会社 銭　高　組

生（なま）

新年号ですから生新な話題を持ち出してみました。生（なま）ということ。皆さんの日常語としての生はいろいろに用いられます。正月のあざやかな色の生魚の鯛，みずみずしい生野菜，また回礼の生酔から生兵法の稚気など，など。レデーミクストコンクリートは企業歴すでに40年，若々しいとはいえませんが品質の生新が表看板です。この建材が最もきらうのは硬化老化風化といったおよそ生とは正反対のものです。レデーミクストコンクリートといい，まだ固まらないコンクリートといい，なんと回りくどい表現でしよう。これを生（なま）コンとズバリいってのけた日本人がどこかにいるはずですが，真に敬愛に値します。生は ψ（くさ）が一（つち）の上に芽を出して発育する象です。鉄骨鉄筋の生コン造ビルが新年もまた戦災地の上にすくすくと崩え出ずるさまは私ども建築家の楽しい夢です。ビルが皆生生生の字にみえて来ました。 (YK)

建築物の再生産性

建築物はもともと消耗品でなく耐久財であって，設計者自身も永古不変を願ってその空間構成に傑作をものするから，非再生産的であることはいうまでもない。

ところで，当初計画で将来の拡張を考えた融通ある設計がなされる場合がある。時には後に至って建物の用途変更すらなされることがある。工場建築などにその好例がある。この場合，建物の転用は建築的空間の再生産性を意味しているといえよう。建築物も急速な時勢の流れに応じ，機能的にも感覚的にも大規模な改造，あるいは用の変更などが要求されるとすれば，その建築的空間が設計者の固着された思想への懐想としてではなく明日の時代にも生きるために，今日の設計計画において10年20年後の見通しのもとに，空間の転用—再生産性を検討考慮しておく必要はないだろうか……と考えたらデザイナーに叱られるだろうか。 (GY)



本号より６月号まで上記の新執筆者によって続けることになりました。

すぐれた作品を吟味して　よろびこを得ることが，
趣味を得るまえにまず必要である。

このよろこびのこころを持たない人は，
決して趣味をも得られないであろう。

よろこんでこそ，
遂にはそのよろこびの原因を見出しうるのである。

私註：（趣味とは　真偽・美醜を判別しうる能力をいう。Taste の訳）

C・R・Cockerell の 1845 年ロイヤルアカデミー講演より

(TI)

電　子　冷　房

世の中は電気時代から電子時代へと進んでいる。この寒いのに冷房の話で恐縮だが，一度聞いてもらいたいので私の第一話として取上げた。

「Peltier 効果」というのを思い出して下さい。温度測定に使うサーモカップル（これは Zeebeck 効果）の丁度可逆現象です。つまり異金属を二つくっつけてそれに電気を流すと一端で吸熱し他端では放熱する。正に冷凍機の evapovator と condenser に相当し，冷媒を電子ガスに置きかえたに過ぎない。とにかく騒々しいモーターもコンプレッサーもいらぬ，全く音のしない勿論冷却水もいらぬ冷房時代が早晩やってくる。1957年ボストンで Whirlpool Corp. が試作品を発表したのでいささか旧聞に属するが，私の紹介した目的は，実は，科学者と技術者の協力による実験室から工業化への並々ならぬ努力の賜物と，発展のめまぐるしいテンポを建築家にもう一度認識してもらいたいためである。 (TR)

巻頭の言

会長 尾崎久助

人のねうちは棺を覆うて定まるといわれる。また人の行動の是非については後世の史家に待たねばならぬともいわれる。人が死去すると門人，関係者によって追憶録が編まれて，故人の学徳業績が讃仰せられ，逸話が語られる。

また他方近年しきりに褒賞授与が行われて，発明家，社会への奉仕業績の顕著な人，長年自己の職業を誠実に勤めあげた人等が存命中に顕彰される。戦前からの文化勲章は稀少価値の高いものである。戦前は位階勲等があって存命中に授けられた。ただしこれは主に文武の役人に対してであった。戦後位階はなくなったようだが，勲章は物故者に追授されている。

いづれも誠に結構なことだが，追憶録に代る文集のようなものを存命中に作るならばこれはまた大変有意義有益なことと思う。還歴，古稀等に記念文集などが編集されてその人の学徳を仰ぎ業績を讃えることもある。

私は生きた師表を持つことは非常な倖だと思っている。人あに欠点なからんやであるから，どこにも否の打ちどころのない人というのは殆んどあるまい。他人のよいところに気づき，それを手本とすることが幸福なのである。私は昔，中学校で正規の修身科の枠外で伝記を校長先生から教わった。私どものクラスは熊沢蕃山を聞いた。「筑波山葉山繁山しげけれど思い入るにはさわらざりけり」とか「憂きことのなおこの上に積れかし限ある身の力試さん」などと蕃山が詠んだというようなことを記憶している。修身科の講義より蕃山伝の方をずっと面白く聞き，従ってためになっている。かかる次第で，ことに日常接する機会のある人のうちに敬慕する人があるということは非常な倖といってよかろう。現在老いてますます盛に，その事業は驚異の躍進を続けているある実業家を知っている。その人は自分の歩んで来た幾十年の足蹟を語った書物を作られたが，そのなかに「自分は，父，先生，主人，恩人それぞれから教訓を得，それを糧として今日あるを得ている」という意味のことを書いておられる。その実業家の盛運の因って来るところの一端が語られているのだと，その実業家に私は敬服している。私は幾人かの手本とすべき人を持っている。その一人が竹腰先生だ。本誌は前本会々長竹腰健造先生についての特集号とした。本会々長としての先生の功績については私は本誌昨年5月号に述べた。本誌には，建築界ばかりでなくひろく先生に関して先生の友人知己等の各位が執筆されたものを集めた。それとともに先生自ら筆をとられた「回顧五十年」をいただいて載せることが出来た。

竹腰先生が恵まれた才能をもって財閥住友に入り，約20年にして工作部が解散されるや，その一統を率いて長谷部竹腰建築事務所を設立し，住友ばかりでなく一般の建築設計監理の業務を引受けて盛大を来し，戦争末期に事務所が新設立の住友土地工務株式会社に吸収せられるやその専務取締役に任じ，さらに同社が日本建設産業株式会社となった後その社長の職につかれたが，財閥解体による追放で昭和23年に退職せられ，その後は双星社竹腰建築事務所を経営されて今日に及んでいる。学校卒業以来30余年を住友に終始されたことは羨ましいというべく，またそうありたいと希うべき境涯である。それは先生が建築家としてばかりでなく，何をやっても衆に抜きんでる才能を持ち，しかもことに当って極めて熱心であられることを思えば故あるかなである。

竹腰先生は現実を重んぜられる人であると思う。むかし尾崎行雄が「変節改論は進歩なり」と見得を切り，犬養毅が「修練による心境の変化だ」とうそぶいて必ずしも前言にこだわらなかったことは議政壇上有名な話となっている。また来年のことをいうと鬼が笑うといわれる。先生は徒らに過去に執せずまた未来に頼ることをせぬ方であると私は考える。私に茶道を語る資格はないが，茶道の方で有名だという「南坊録」に関して私の尊敬している先輩学者の書かれたある書物に，茶道での過去現在未来観についての説が出ている。それによると「茶道で使用される道具は所詮過去の遺残物である。黙茶に到る作法は幾万先輩努力精進の結実である。しかしながら道具を活かして使うのは亭主であり，それは『今』である。利休居士が，それまで一向に顧みられなかった井戸茶盌に茶器たる生命を賦与した時の『今』が大切だ。若い人達が明日への自己完成の一方便としてお茶をやっているが，彼等は自己の心―『今』―を磨いており，『今』の完成に努力しているのだ」というのだ。茶道の説というものは甚だむつかしいが，要するに現在というものの大切な所以を語っているのだと受取られる。そしてまた「古代人は過去に心を向け，中世人は未来に心をつなぎ，今日を意識するのは近代人のみの有する誇である。故に古代人は歴史を語り，神話を作り上げ，神の世界への復帰を人間の希望とする。中世人は人間の死後に往くべき世界を探し求め，神仏の来り迎えてくれる浄土を未来に描いた。しかるに近世になると，神仏の威力が減退して人間の存在が意義ありとされ，人間が肯定せられ現在が是認された。この人の世の森羅万象を仮相と見ずして，それを実相の姿として受け容れた」というのである。

竹腰先生のバックボーンとして貫いているものの一つに現実―即ち「今」―尊重の大精神があり，それは誠に尊いものであると私には思われる。偶々上記の説を興味深く読んだので私なりの竹腰観の一つとともにその裏付けとして掲げたわけである。

本号によって竹腰先生の人間像は立体的の浮彫（デッサンであるかも知れぬが）を見せたことと思う。読者は本号によって建築家としてばかりでなく，広く大いに得るところがあるはずである。

私は，貴重な寄稿を賜った各位と「回顧五十年」を自ら執筆された竹腰先生に深く感謝し，なお適切な企画によって特色に満ちた本号を作りあげられた編集委員各位の労を高く評価して敬意を表する次第である。

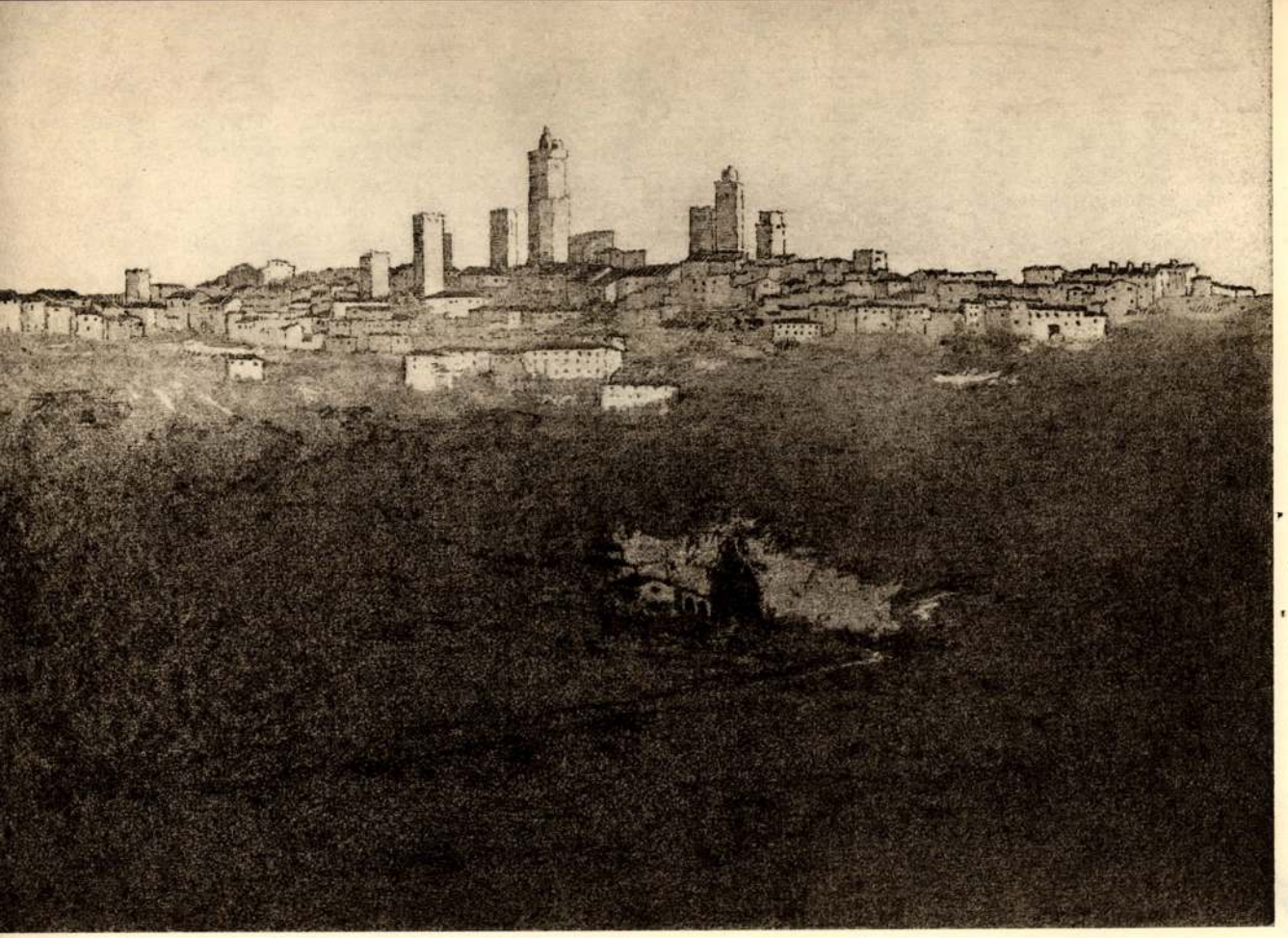
（筆者　本会会長・日建設計工務株式会社会長）

エッチング

1915～1917

The Royal Academy Exhibition に入賞

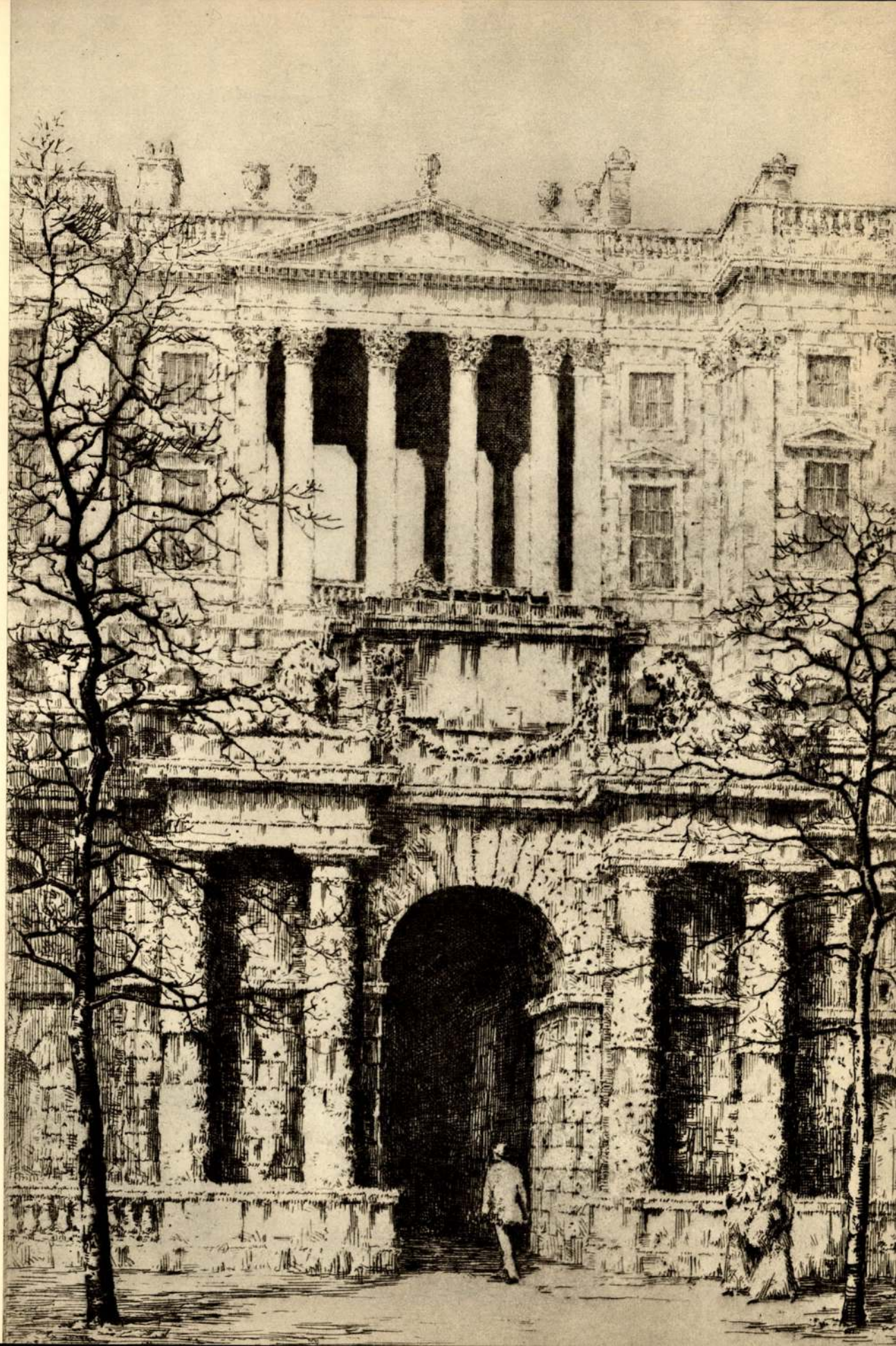




S. Gimignano, Italy

Royal Academy
1917

Somerset House
London ▶





Piccadilly Circus
London

竹腰健造エッチング

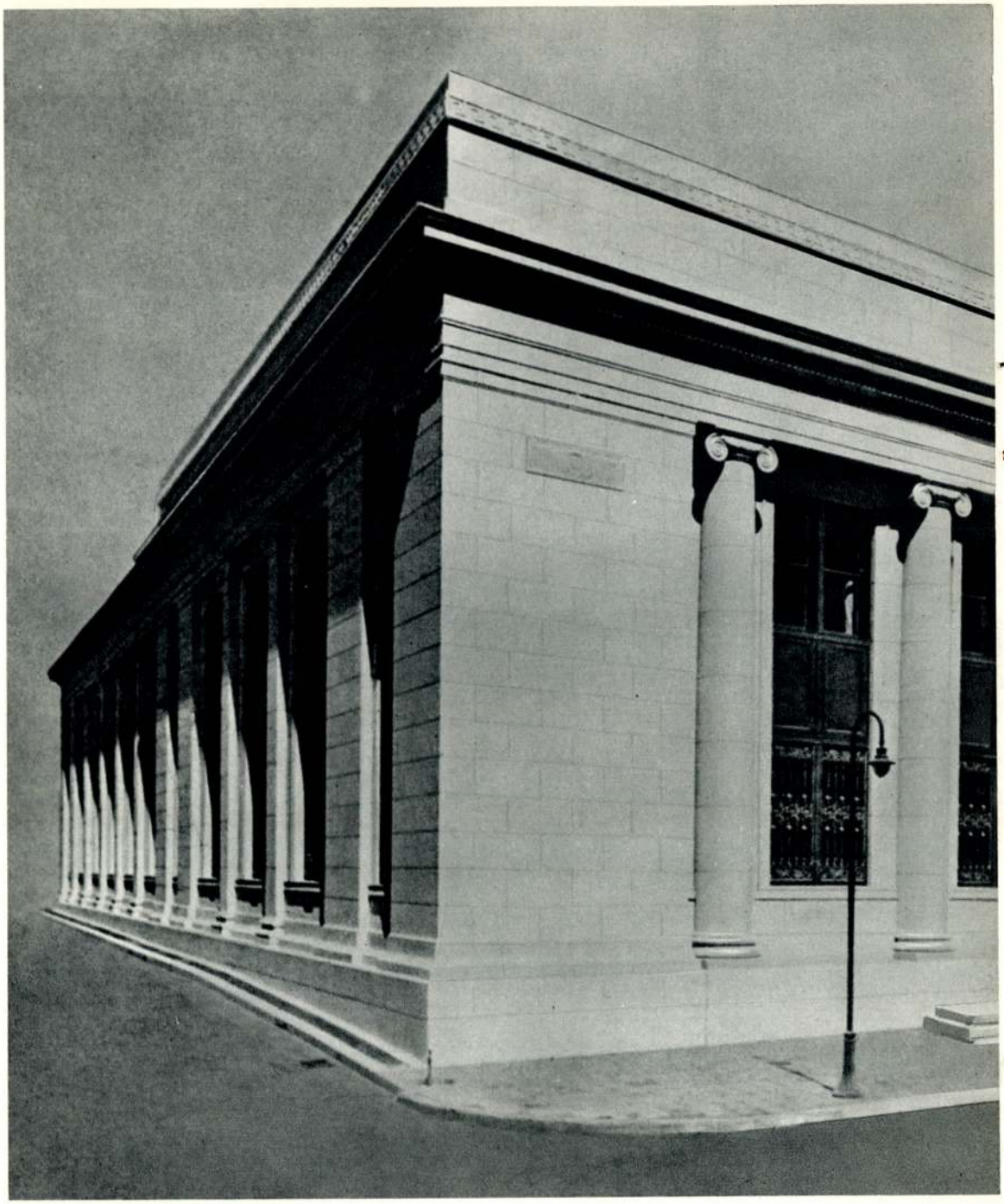


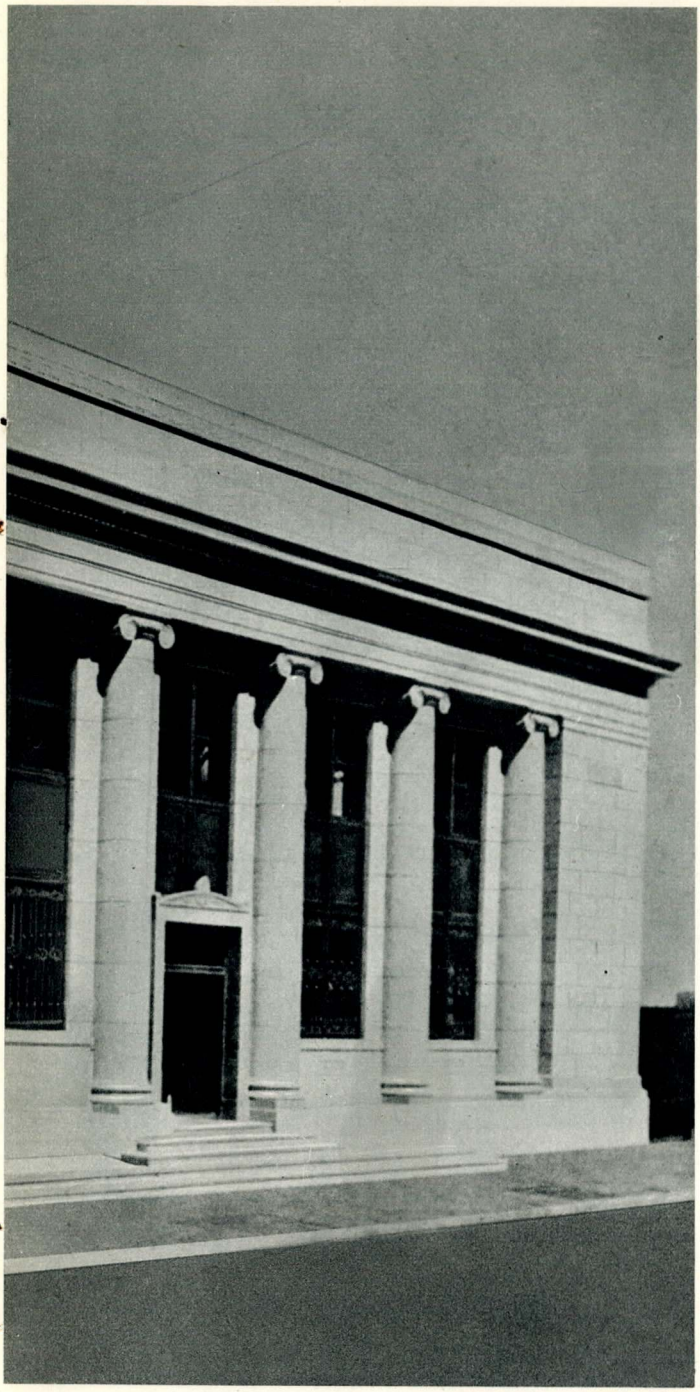
S. Pietro,
Assisi

大阪証券取引所 昭和10年

仝事務所 （右）昭和11年







東京手形交換所　　昭和12年

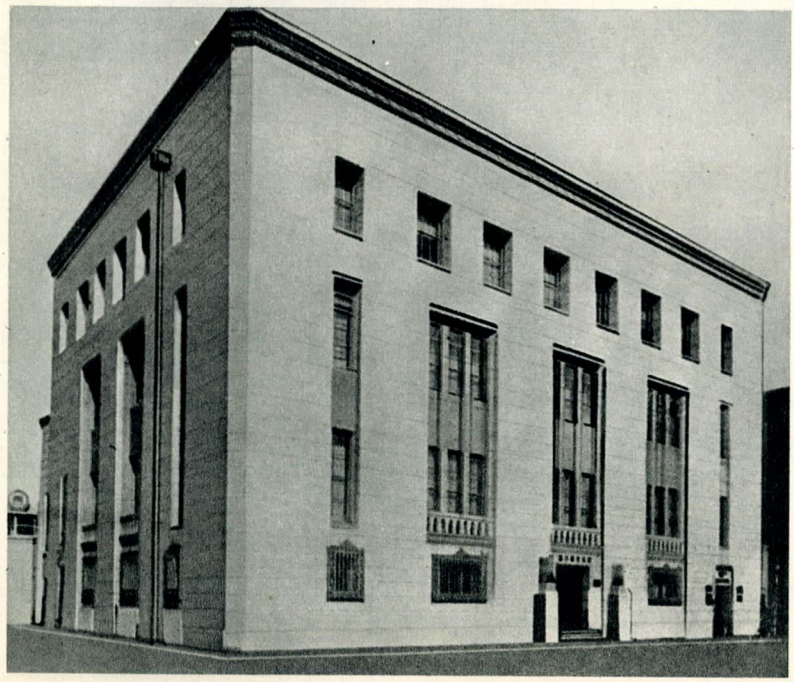


神戸銀行本店　（元神戸岡崎ビル）

昭和8年



神戸住友ビルディング　　昭和9年



福岡住友ビルディング

昭和9年



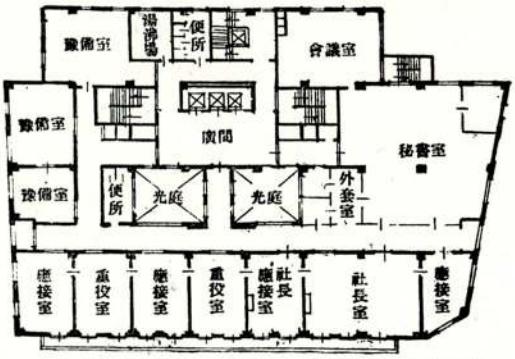
大同貿易株式会社　神戸・昭和１２年



住友銀行新宿支店　昭和１１年



1　階



4.5.6階

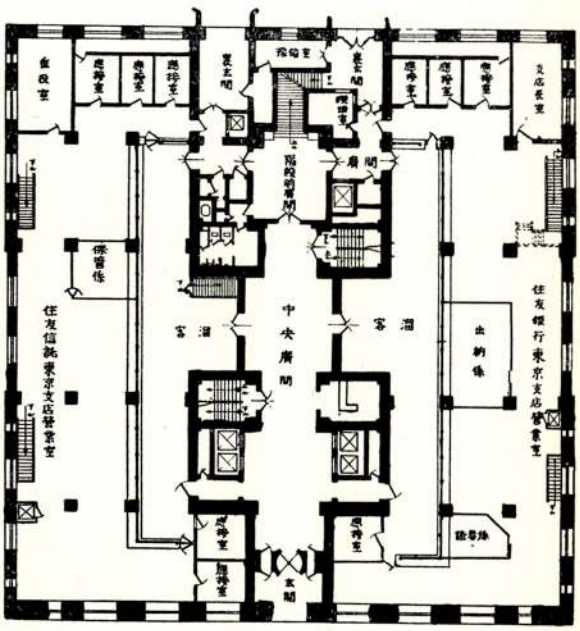


宇治電ビルディング

大阪・昭和12年

東京住友ビルディング　昭和8年

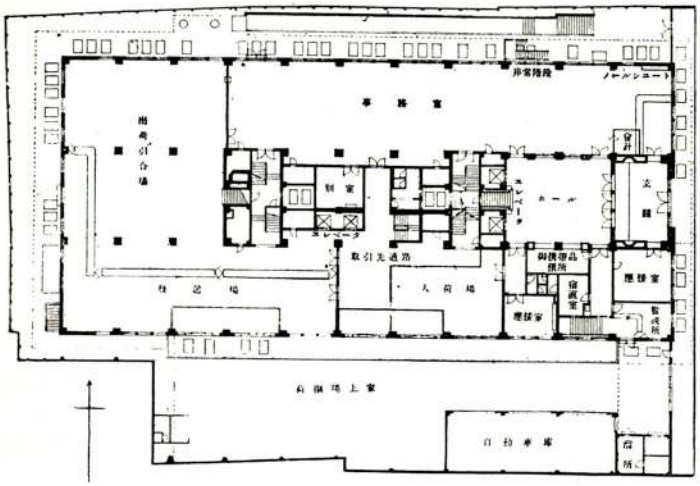




元 丸紅商店京都支店

昭和13年

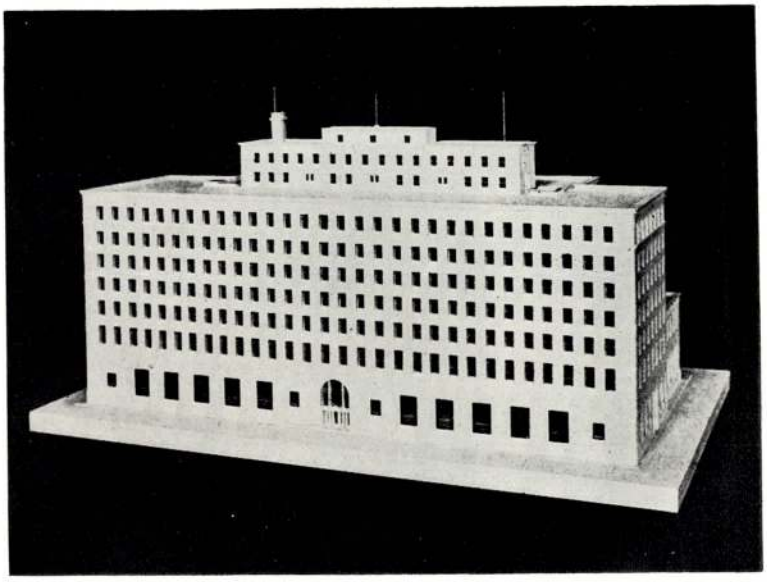


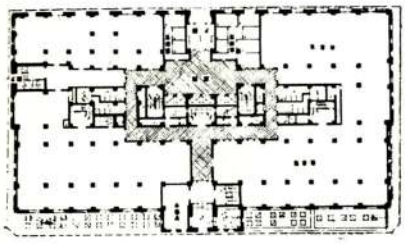


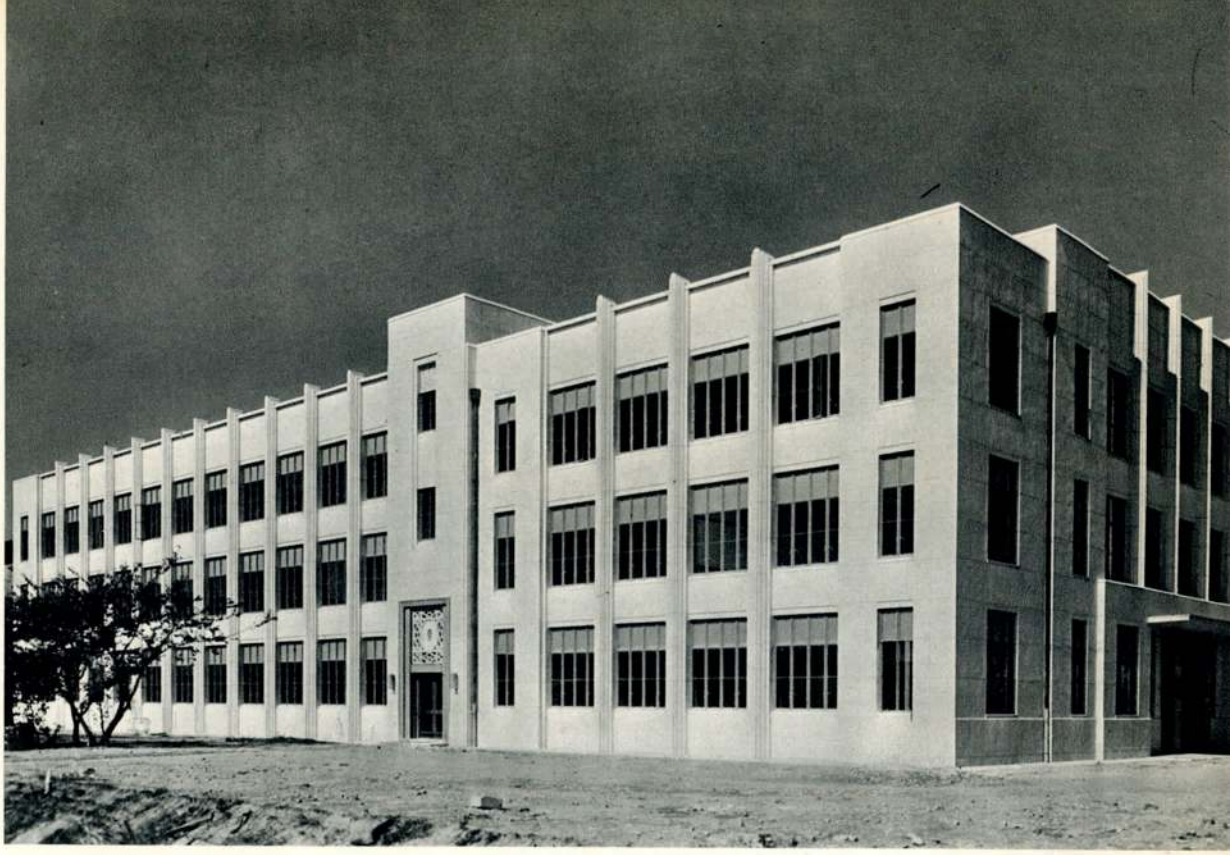
1 階 平 面 図

日 本 生 命 保 険 株 式 会 社

大阪・昭和14年







被昇天学園　大阪・昭和29年

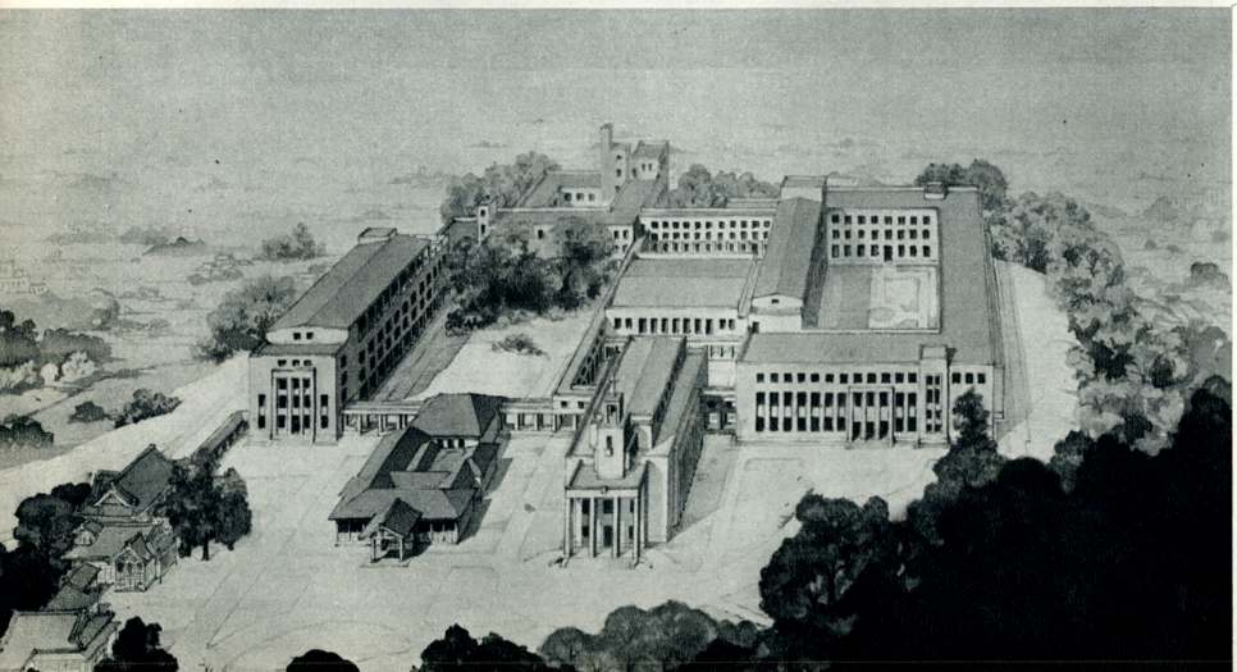
竹腰健造作品・戦後の部

聖心女子学院　東京・昭和31年



聖心女子大学　昭和24－33年

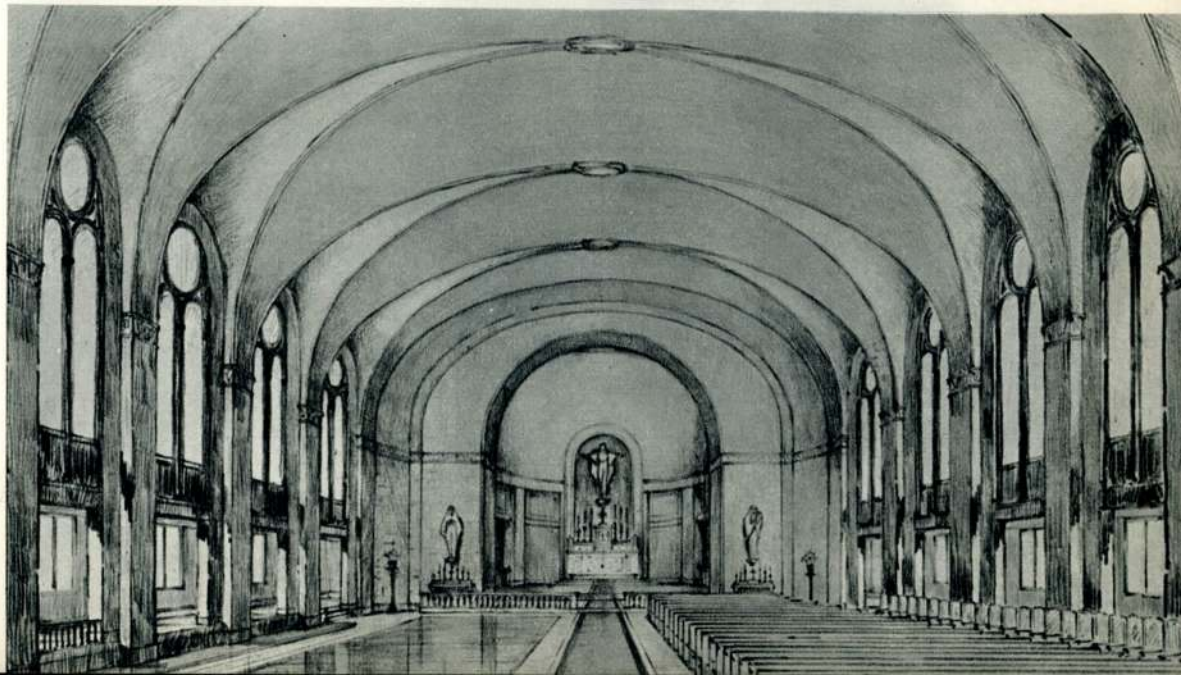
全景鳥瞰図





聖心女子大学　東京

礼拝堂　昭和33年



マ リ ヤ 幼 稚 園　　西宮・昭和３０年



海星女子学院礼拝堂

神戸・昭和２７年



仁　川　学　院

西宮・昭和３０年



愛徳童貞会 舞子礼拝堂

神戸・昭和３２年



愛徳童貞会聖母病院厨房

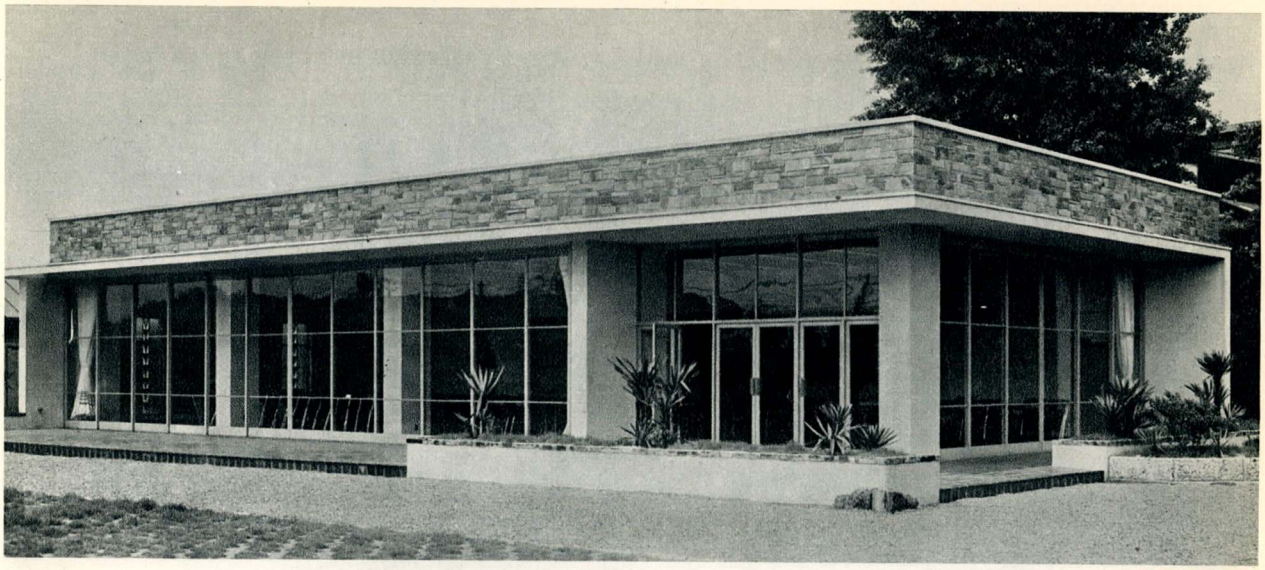
大阪・昭和３３年



西宮カンツリークラブハウス　　西宮・昭和30年

武田薬品工業株式会社夙川寮　　西宮・昭和31年





朝日ビール株式会社吹田工場ビヤホール　吹田・昭和28年

中　尾　邸　西宮・昭和31年



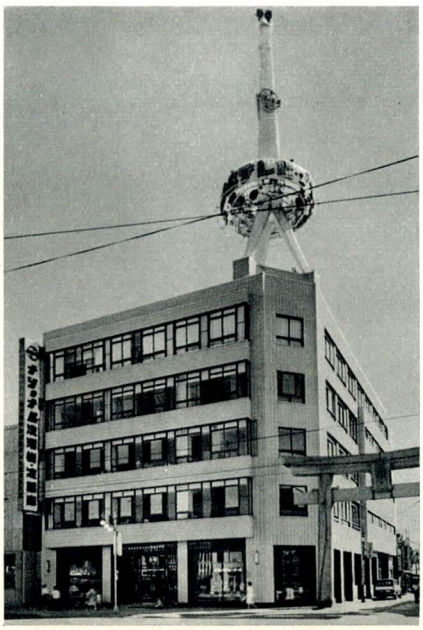


石川交通株式会社

金沢・昭和３２年

松下電器産業株式会社営業所

福岡営業所・昭和３２年

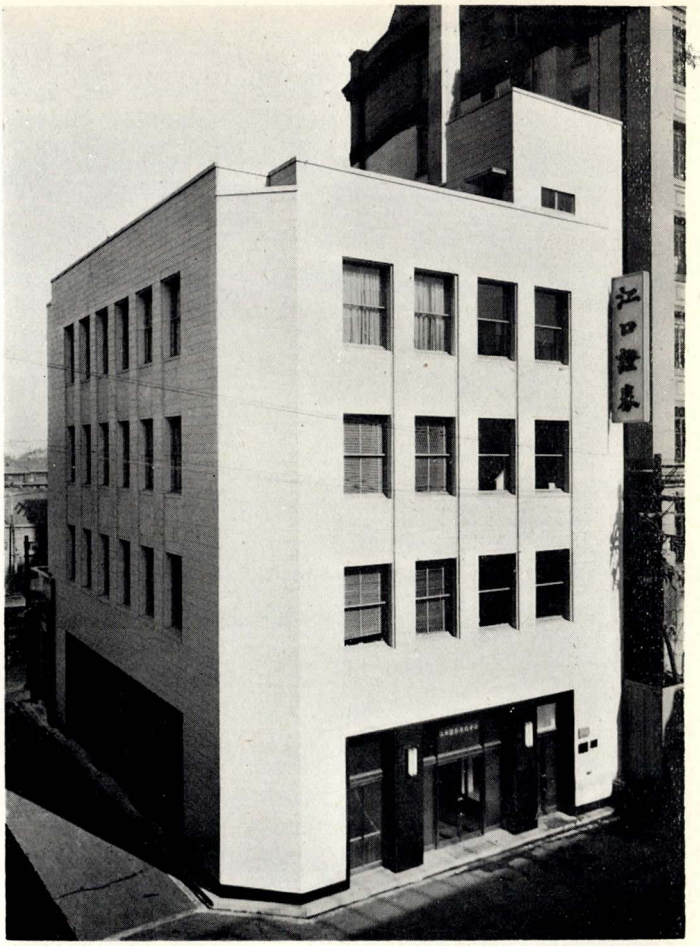


広島営業所・昭和３２年



江口証券株式会社

大阪・昭和28年



岡三証券本社

大阪・昭和28年



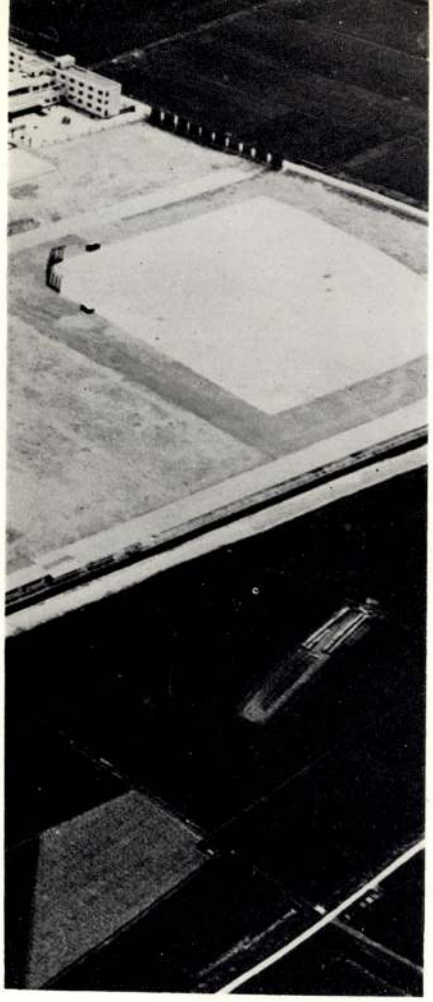
松下電器産業株式会社各工場

上：テレビ工場
茨木・昭和32年



左：配電器工場

豊中・昭和32年





中川電機株式会社冷蔵庫工場

布施・昭和32年

松下電器産業株式会社ラジオ工場

門真・昭和30—33年





武田薬品工業株式会社研究所　　大阪・昭和33年



大阪市長公館　昭和34年竣工予定

能楽会館案　昭和33年





竹腰健造邸茶室



昭和32年・自宅にて

回顧五十年

竹腰健造



古稀の祝

序

人間の叡智だけではどうにも予知できない「偶然」という厄介者が時々刻々われわれを襲つてくる。「偶然」は無軌道無秩序で計画性のない我儘者である。「偶然」の正体を突き止めようとすると狂わしくなり、最後は神に押付ける外に道がなくなる。

われわれの運命はこの日々に起る「偶然」をどう処置していくかの判断で定つてくる。「運が悪い」と諦める前に判断の良否を考えてみる必要がある。

この「偶然」という障碍物の間を縫つてわれわれの職業が選ばれる。そうして私は建築士という職業に私の一生を方向付けられてきた。

明治四十二年東京帝国大学工学部建築科に席を置き、建築の専門学科を修め始めてから五十年になる。その間世の中の推移の波に揺られながら徒らに老境に達した。

過去を回顧すると、技術一筋の路を側目もふらずに進んでいくことのできる多くの建築士のような幸福な一生ではなかつた。財閥という大正、昭和時代の経済界の一つの形式の船団に入つて、財界の波濤に揺られながら夢中で働き、六十才を迎え還暦という老境に入つた年にこの船団は、敗戦による財閥解体という大嵐によつて支離滅裂の状態となつてしまつた。

財閥船団の一船長をしていた科で私は公職追放という罰を受け、船から海中に投げ出されたが辛じて溺死を免れた。幸か不幸か、生きんがためには再び老軀に鞭つて働かねばならない。元々建築の技術で半生を過した身には生恥をかきながら、また元の手慣れた技術に糊口の路を開くより外に方法はない。こうして七十才を迎え、十年の悪戦苦斗の時代が過ぎた。中には溺れかけている船長の足を引張るものもあれば、一塊の木片を投げてくれる者もある。こんな時に周囲の人の性情がよくわかる。時に思わぬ人のなさけに泣くこともあつた。

私の生涯は外見目には華々しいものとみえたかも知れないが、しかし、平穏な生涯と見る人はないだろう。どんな苦悩も過去となつてみれば懐しい思い出と化する。私も波乱万丈の七十年をそう歎じ、私と同じく建築の技術をもつてこの世の中に生きようとする人のために私の一生の記述が若干の参考となれば幸いと思つて、敢えて老齢と禿筆とを顧りみずこの一編を草したのである。

私はいかにして建築家になったか

私達の年頃の者が、小学生時代に、大きくなったら何になると聞かれると、大将になるとか大臣になるとか答えたものだ。私もご多聞に洩れず、同じ様な答えをしていたことを覚えている。

私の学んだ中学は、小倉市から7里程離れた田舎だった。しかしまだ小倉には中学は無く、旧小倉藩の豊前の国に唯一つの中学で、県立になって私が十八回の卒業生だから、相当古い歴史を持っていた。その中学というのは、明治維新の際、徳川譜代の小倉藩が長州藩に攻められ、小倉城は兵燹に罹って藩主が、一時避難していた土地に残った藩校が基礎となったものだ。

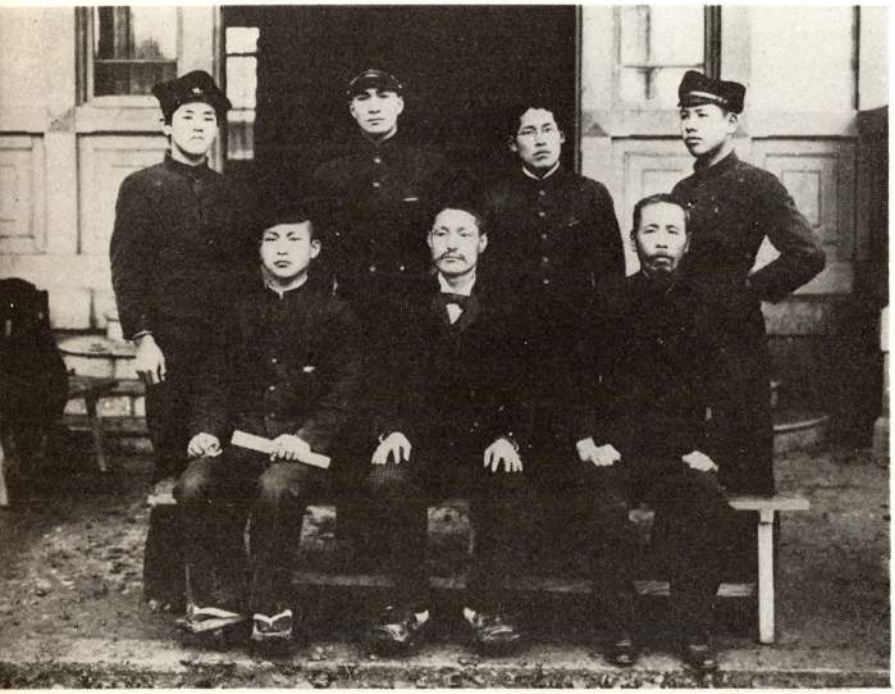
藩政を一時移した土地だけあって、要害堅固な地勢で町は東西に走った丘陵の上にあり、南北は断崖となり、犀川と抜郡川とが絶壁の下を流れている。こういう地形だから遠く英彦山を川上に望んで風光明眉の地であった。昔は難行原（ナンギョウバル）といい、昼でも狐が出るといわれる程さびれた土地だったが、それでも、往古は一時文化の栄えた処らしく、国分寺の遺跡があって、荒れてはいたが、三重の塔が残っており、何とはなしに文化の香りのする処であった。そして、今は小倉に帰った旧士族の屋敷跡が朽ちた土塀に囲まれて各所に残っており、旧藩士の隠居してなおこの地に住み着いている者も相当数あった。

こういう土地柄だから、この中学の卒業生は、軍人か文士が多かった。

軍人の方では大先輩は奥大将である。それから杉山大将は私より7、8年前の卒業生、又満洲事変を劃策した、参謀本部の並彼も私より2、3年後の卒業生だったという話を後に聞いた。

文学方面の先輩では、先づ村上仏山先生を挙げねばなるまい。仏山は藩の儒者で中学の前身育英校の師範だった。私の時代は仏山の弟子の緒方清渓先生というのが漢文の先生で、教室で生徒が学業に倦むとよく漢詩を朗詠して元気を付けてくれたものだ。先生は山羊の様な顎髭を生やした痩身の詩人で全生徒の人気を集めていた。

この両先生の教を受けた先輩に白川鯉洋、水野葉舟、堺枯川などがいる。小宮豊隆氏は、私より3年先輩であ



明治38年
豊津中学雑誌部委員

前列左から
斎藤惣一，大森校長，緒方清渓先生
後列左から
筆者，青木正二，大日方退蔵，田原鎮雄の各氏

一高時代一年生 ▶
後列左より2人目が筆者

る。

私が中学を卒業した夏の事であった。当時注意人物といわれてやかましかった社会主義者の堺枯川が、故郷に帰り、緒方清渓先生を訪問した時のことを枯川が万朝報に書いていた。清渓先生の屋敷は学校から数町離れた渓間の大きな椎の木のある雑木林の中にある一軒屋だったが、枯川が訪ねると挨拶がすむかすまぬに、久し振りにといって孝経の講義をされたそうである。枯川はこれを「さあ、コレラ患者が来た石炭酸をまけ」といった感じだと書いていた。当時社会主義者の行く処必らず、私服の警官が後をつけていたもので、それを先生納屋の影に認めての孝経の講義だったのであろう。

清渓先生はそうした極めて小心な人であったが、詩吟は実に巧みで、澄んだ良い声をしており、生徒全体から好かれており、大きな影響力を持っていた。

私は先生の長男健三郎君と同級であり、背の高さも似ていたので、在校5年を通じて殆んど席も隣り合っていた関係から家族とも親しくなっていた。従って先生の宅を訪れ、親しくその風丰にも接する機会も多かった。健三郎君は最近迄、鹿児島大学の学長をしていた文学士である。

こういう環境だから学生の将来に対する志望の傾向は少し腕節の強いものは軍人志望となり、美しい自然と清渓先生の影響を受けた者は文学者たらむと志ざすのも無理もないことだ。

少年時代虚弱であった私は、勿論後者であった。当時の所謂作文ではよく先生にほめられ、修学旅行の時などは記録係として列外におらされたりしたこともある。中学3年頃から国文や作文は神宮皇学館出身の上田先生という、キリスト教嫌いの先生に教えられた。ある時「机」という題の作文の課題で試験があった。私はこれを擬人文で書いて、大いに讃められ面目を施したことがあった。こんなことから私は、いつとはなしに文学に天分でもあるかのごとく誤信するようになった。中学4年頃からは上級の斎藤惣一さん、青木正二さんなどと校友会雑誌の編さんに携わるようになった。斎藤さんは、後にYMCAの総主事となられたが、その時分から熱心なクリスチャンだった。青木さんは漢学者となり、東北大学の教授になり、いずれも文学思想方面で名をなしたのである。こうした環境から私は、将来文学で世に立とうと決心したものだ。今にして思えば文学に天分など持ち合わせない自分を見出して、実に危険千万なことであったと当時を思い出して今日でもヒヤヒヤすることがある。

明治39年この中学を卒業した。元来私は学課の中で何が得意だったというものはなかった。また何がとくに好きというものもなかった。学業の成績も平均していて、





大学時代3年

自分でいうのも変だが未曽有の成績といわれてこの田舎の中学を出た。

私の一家は当時小倉に住んでおり、養父は、前年日露戦役に50才近くで，後備中尉として応召し、満洲に転戦していた。養父は炭坑を経営していたが、留守中養父の伯父が自分の経営している炭坑と一緒にして経営しており、一切はこの伯父に相談せねばならなかったが、子供を持ったことのない伯父は、私の教育のことなどは一切無干渉であった。私は家族から離れて14才の中学1年生の時から、中学のある地に下宿していたが、自分のことはきわめて自由に何んでも自分自身で定めて行った。

いよいよ、高等学校の入学試験を受けるために上京することになり、伯父に文学志望の話をすると、伯父は非常に不機嫌で、文学などをやるのはもってのほかで、父は生きて帰るか、死んで帰るか分らないのに、三文文士などになっては飯が喰えないから絶対に相成らんとのことだった。この伯父は後に代議士に出たが評判のワンマンだった。相当強情だと親兄弟から噂されていた私も、あまりの権幕に一言の抗弁も出来ず、その意に従うことを余儀なくされてしまった。

今にして思えば、あの時良くも反抗心を圧えて志を飜したものだと思う。

当時は中学を3月に卒業し、高等学校の入学試験は7月だった。高等学校も全国一斉に行われ、当時7つあった高等学校を第1志望から第7志望まで全部書くことが出来、その上更に目的の科のほかに他の科も志望順で書くことが出来たので、田舎の中学ではあるが、今までの学歴からして、どこかの高等学校には入れるだろうと割に楽な気持で受験することが出来た。

幸に第一志望の一高に入ることが出来たので、伯父も機嫌が良く、代議士に当選して東京住いが多くなったのでいろいろと面倒も見てくれた。明治40年前後は一高の全盛時代で一高健児として向陵に楽しい3年は瞬く間に過ぎて行った。

明治41年、工科の3年生になった。愈々来年は大学に進む年である。そして工科の中の何科を選ぶかを定めねばならなくなった。

出征していた養父は私の一高在学中に帰って来たが、戦後の不況で経営も思うように行かず、その上出征中事業の経営も伯父などの一族と混交してしまっていて面白からぬ経緯のみが学生の私の耳にも入って来た。本来なら採鉱冶金科でもやるべきかも知れないが、自分はこの仕事に気が向かない。養父に謀っても何んでも好きなものをやれ、一切干渉しないという。私は10才の時からこの父に養われて来たが、私のすることには一切口を出さなかった。中学の入学試験も、一高の入学試験も、殆んど無関心のようだった。ただ学校の成績表を見ることだけは怠らなかったが、小言は一切いわなかった。中学卒業当時私が文学に進むといったら、恐らく父は反対しなかっただろう。またこの父に対しては、私も強情を張っただろう。それで、私は今度も私自身で私の一生の運命を定めねばならぬ破目となった。

3年の1学期から、化学に実験という課目が加わって来る。初めは硝子管を使い、瓦斯バーナーで熱して細工するのだ。これは気に入った。次は酸素を採り、水素を採るのだがこれも無事にすんだ。次は塩素を採る番だ。

ところが、塩素の茶色の重い瓦斯が出て来ると、その悪臭が、何としても私には堪えられなかった。頭が痛み出し、次には嘔吐を催して来た。そして、寮の寝床に入

っても塩素が鼻のどこかに沈滞しているためか、悪臭が2、3日もとり切れぬ気がした。それから、何となしに化学の実験に出ることを怠ってしまった。

当時2部甲、即ち工科3年の課程では化学の実験だけは止めても良いことになっていた。その代り大学のある種の学科に入ることが出来ない規定になっている。そういうことがあったため、何時とはなしに化学の実験は止めることにしていたのであろう。

その内に3学年も終りに近付き大学の入学試験も近付いて来て、もう工科大学の何科を志望するかを定めねばならなくなって来た。化学の実験をやめた私は土木、機械、採鉱、建築のうち、いずれかを選ばねばならなくなり迷いに迷ったものだ。そして、今は一刻も躊躇することの出来ない時期に追い込まれた。私は考えた。

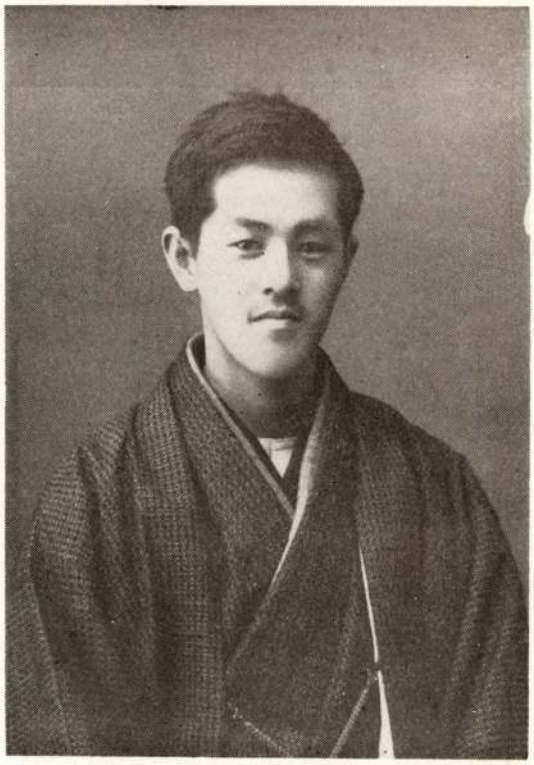
土木をやっても、機械をやっても、採鉱をやればなおさら、結局は、伯父とその一族と父との処で働らかねばならぬ運命になるだろう。あの複雑な関係の中に入るのは嫌だ。その上鉱山に入っての田舎住いも面白くない一生だ。そうすると、建築以外に道はないことになる。

私は社会に出てからの建築家の仕事というものを当時良く知らない。しかも私の周囲には建築に関係のある者は一人もいない。先輩にも知人がいない。そういう境界にいて建築界に出て果して将来がどうであろうという不安が強く心に浮んで来るのである。

私は前にもいったように、特に得意というものはない。その代り化学の実験以外、しかも塩素を除いては、とくに嫌だというものもない。建築科に入って特に必要だといわれる製図も嫌ではない。絵を描くことも、昔からひまひまに楽しんでいて、これも嫌ではない。

こういう風にいろいろと思いを廻らしている内に、いよいよ明日は定めて学校の方に知らせねばならぬという土壇場になって、志望を建築科と書き込んでしまった。

私が建築家になったのはこうした経緯からだ。



大学卒業　大正元年

ロンドン留学時代　大正4年



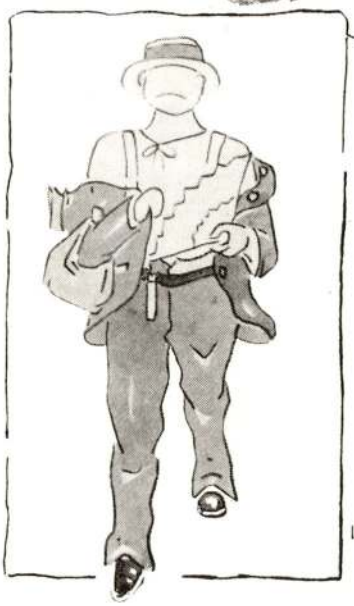
大学時代
先生・同窓生



伊東忠太先生



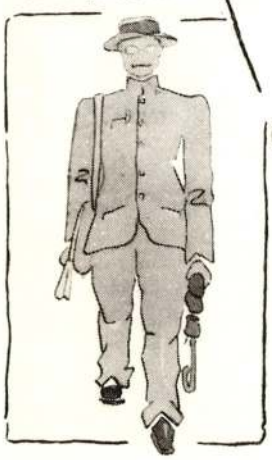
栗谷鶉二君



山下寿郎君



西村好時君



石田信夫君



渡辺　仁君

田中秀夫君





某文学士君

吉田享二君



坂本　登君



明治44年の夏である。京都三条小橋の安宿に集合したわれわれ帝大建築学科の三年生は，恒例によって伊東忠太先生に引率されて，京・大和の古社寺見学の旅に出かけた。

今日のように道路も整備せられておらず，もちろん大型バスや自動車はない。汽車のほかはすべて徒歩である。

室生寺，多武峯の大和路を暑い天日のもとに汗を流して歩くのである。われわれ若い者でさえ楽でないから，先生には辛かったであろう。

当時の学生は今日ほど服装など統一されていなかった。下駄ばきもあれば，草履ばきもある。靴よりは山路は歩き良い。脚絆をはいておるものもあれば，皮のゲートルを着けておるものもある。焼きつけるような日射をふせぐために雨傘をさして歩くものもあった。渡辺仁などは茣蓙を着て歩いた。

同級生で最もハイカラなのは坂本登（俳優のような名にふさわしい）。最もバンカラなのは西村好時。キッチリした見なりをしたのは吉田享二（当時宮脇姓）と石田信夫。山下寿郎は伯父さんの伊東先生に気兼ねしてか，上着を着ると暑いし，脱いでは失礼といった恰好。

先生は流石に大学教授の風格を保って先頭に立たれた。いまから思えばご苦労な旅であった。

この行に，文学士某が一人加っている。名前は思い出せないが篤学な人であった。恐らくのちに名をなしたであろう。

この一隊の風姿を私が夏休みに書いたのが，この図である。九月木曜会で発表したら喝采を博し，伊東先生にほめられた。幸に50年後の今日まで筐底に残っていた。当時の学生風俗の一面がうかがわれよう。

岡大路君



寺田勇一君



武富英一君



高橋理一郎君



日本ホロータイル株式会社

先代住友吉左衛門友純様の御長女の孝子様に鳥居子爵家から忠輝様という御養子を迎えられ、我々住友に勤めている者は御分家と申上げていた。立派な青年紳士で将来は住友の事業の中核となるべき素質を具えておられたと思われたが、大正12年に病没せられた。

大正6年3月に御分家は欧米の事業を視察のため外遊の途につかれ、米国においては漸く発展の緒についた住友銀行の紐育出張所の開設にも携われたのである。そして帰朝後取り揚げられた事業に日本ホロータイル株式会社というのがある。

日本ホロータイル株式会社は、材料は違うが、今日のブロック建築を作る会社である。このブロック建築が採りあげられるまでの経緯を述べる前に、御分家を補導しておられた支配人、山下芳太郎という人の人物を少し述べて見よう。

山下芳太郎さんは外交官出身で、西園寺公の秘書をしておられた。進取の気に富み、住友第一の俊秀だといわれ、我々仲間の者には住友社長の令兄である西園寺公からの付け人だと噂している者もあった。外交官出身だけあって英語が巧で、一面からいうと社会改造論者、理想主義者的なところがあり、余りに遠き将来に目標を置かれるため、目前の利益に添わない点もあったかと思われるが、財界の各方面からも尊敬され、私等も非常に山下さんの人柄に私淑していたものだ。この山下さんが、御分家のアメリカで得たアイディアであるホロータイル会社を推奨され、御分家を援助しておられると同時に、板硝子を連続して作る日米板硝子会社、今日の日本板硝子会社の設立を主唱せられていたのである。

当時の住友は今日の大住友とは異なり、英語の自由に話せるのは山下芳太郎さん位のものであったが、日米板硝子の関係から米国のリビーアンドオーエンを代表してスタレットという建築家が来た時や、その他に、外人の客などがあった場合、山下さんが社用で忙しい時は、当時英国から帰りたてで、まだ英語を忘れていなかった私を良く代理に使って応待させられた。そんな関係から私は公私ともに親しく可愛がって貰っていたのである。

ある日、重役会議室から私にすぐ来いという電話がかかって来た。私のような下級の一社員が重役会議の席に呼ばれるなどということは先ずあり得ないこと。何事が起ったのかと恐る恐る会議室に入って行くと、正面の長椅子に総理事の鈴木馬左也さんが例の顎鬚をしごいて、一人悠然と構えておられる。総理事を中心にして円形に中田錦吉、湯川寛吉その他の重役連中は小さな椅子に倚っておられる。

私は、こんな所に出るのは始めてで、いささか気遅れがしたが、総理事はいきなり私に

「竹腰君、君は英語が話せますか」

と聞かれた。

私は何の意味か分らずドギマギしていると、横から山下さんが、「竹腰君は達者に話しますよ」と代って返事をして下さった。総理事はあまり機嫌が良くない。そして、私は何のことだかさっぱり分らないのと、余りに偉い上役ばかりの集りであるその席の重苦しい気分に圧倒されて困っていると、

「K君はいないのですか、竹腰君をこういうことに使うのは良くないですね！」

といわれる。K君は最近住友で雇入れた通訳専門の米国仕入のハイカラである。

K君は今日はいないことを、理事の誰れかが答えられた。

それから総理事は、

茶臼山の本邸に、フランスの学者で住友家の銅器を見せて貰いたいという人が来て、家長さんが銅器庫で会っておられるが、言葉が通じないので困っておられる。フランス人だが英語は話すそうだから、これから会社の自動車で急いで本邸にゆき、家長様の通訳をせよ、君をこういうことに使うのは悪いが、今日のところは急場のことであるから悪く思わないでくれ。

とのことだった。私はホッとした。鈴木総理事という人は、何という行き届いた人の使い方をする人だろう。これは私も将来心得ておかねばならぬことと、感心した。

私は始めてこういう席に出たのだが、鈴木総理事が自分一人で長椅子を占領し、前に錚々たる重役連中を控えさせて、一座を制圧しておる空気は何んと立派なものだと私の心に強い印象を植えつけた。

当時自動車といえば高級料理店の送りで見る今日のハイヤー位のもので、タクシーなどない時代だ。私の如き若輩がそれに乗れるのだから悦び勇んで茶臼山本邸に赴いたものだ。

しかし、その後も英国のコンノート殿下が来朝せられ、関西では住友が須磨の別邸に招待申上げた時も、接待委員にされ、米国艦隊の歓迎といっても、また接待委員にされる始末だった。

ある時山下さんは私に、こういう注意をされた。

「竹腰君、僕も時に君を通訳に使っているが便利だからといって、会社で通訳ばかりやらされ通訳が本業ということになると一生を誤まるから注意しないといけない。字が上手だからといって祐筆に使われ、珠算が上手だからといって会計ばかりやらされては損をする。こんな能力は一生涯の事業に対し一つの武器として使うものであってそれ自体が職業になってはいけない。」

山下さんの折に触れての人生観や処世論は、私にとって良い教訓となるものが多かった。

山下さんはまた、熱心な国字改良論者であった。そして漢字の如き無数の活字を印刷に使っていては、わが国は、商業の上でも、工業の上でも外国と競争してゆけない。タイプライターを使って、容易に、かつ、便利に事業を進歩させねばならぬ。それにはわが国には仮名というものがある。漢字を全廃して、全部仮名で用を足すようにすべきである。仮名の中でも、平仮名は縦書に適するが、横書きには適しない。これに反し、片仮名は簡明でありかつ工夫すれば横書きに適したものとなるという意見を持っておられた。そして、建築課員で京都の高等工芸学校を出た平尾善次君という図案家を使って、盛んに横書きになる片仮名の形を研究しておられた。伊藤忠兵衛、星野則行などという大阪財界での進歩的理想主義者達を談らって、仮名文字協会を作り盛んにその主張を宣伝しておられた。

こういう性格の山下支配人が御分家から聞かされたのは、住友銀行紐育支店の開設の際、同支店に当るべきシンガービルの建物に使ってあったホロータイルの進歩的であり便利なことである。銀行支店には当時紐育ダウンタンの最繁華街、その中でも、紐育第一の高層ビルとして有名であったシンガービルの2階が選ばれ、店舗の設備改装のために専門の建築関係者との接衝が開始された。

シンガービルの2階表道路に面する相当広い面積が店舗に充てられるのであるが、非常に細かい間仕切がしてある。しかも、木造間仕切のような簡単なものではない。御分家その他の関係者はこんな煉瓦かコンクリートと見える間仕切を取払うことは大変な大工事で、時間も相当かかるだろうと懸念された。しかも開店は急を要するのである。ところが専門家の建築関係者は、この間仕切りは一夜で取除くことが出来るといい、事実その通り一夜明けて行って見ると全部の間仕切が取除かれ、前日の面影を想像すべくもない広々とした、如何にも立派な銀行の営業室になりそうな大きな部屋に変っていた。

御分家始め一同これには驚嘆した。

一体、あの頑丈そうで立派に見えていた間仕切壁、しかも、それは取除こうと思えば一夜で始末出来る。それは一体いかなるもので出来ているのだろうということになり、専門家に聞いて見ると、それはホロータイルという中空の口の字を集めたような焼物の積み重ねであるから取毀ちも容易だと教えられた。

この早業に感心し切った御分家は、なおもホロータイルについて調査を重ねると、このホロータイルは単に間仕切りに使われるはかりでなく、建物の主体に使うのが主たる使命であって中に鉄筋を入れてコンクリートを充塡しつつ積み重ねて行くと、高層建築も出来、高価な堰板を使うことを要せず、迅速に工事が出来上り、その上保温、防湿の効大なりという良いことづくめの結論を得た。

若くして血の気の多い御分家は、これは日本の建築界のみならず産業の進歩発達のためにも、どうしても早く取り入れなければならない建築構造法であると考えられたのである。御分家が帰朝後この仕事を取上げ、住友の事業として軌道に乗せようと努力され始めたのが、私が住友に入って間のない大正7年頃からである。

ホロータイルの事業化の可否は、当時私の上司で技師長であった日高胖さんなどにも相談があったことと思う

が遂に資本金50万円の日本ホロータイル株式会社というものが出来上った。

当時、宮島耐火煉瓦株式会社というのが広島にあり、峠という山下さんの義弟に当る人が経営していた。その宮島耐火煉瓦の工場が備後の三津にあったのを買収して、ここでホロータイルを造ることとなった。

ある日、私は建築課長の村上庸吉さんから呼ばれた。

村上さんは、大阪市の助役から住友に聘せられて、建築課長をしておられた当時の私の上司である。村上さんは私に御分家様が今度日本ホロータイルという会社を作られるので、君に手伝って貰いたいとのことだから伺って良く御用命を承って来いとのことである。

御分家からは、次のようにいいつけられた。今度日本ホロータイルという会社を作ったことは君も聞いているだろう。自分は国家の進運のために畢生の事業として育成しょうと決心しているのだが、折角出来上っても他から真似られては経営が困難になるから、何とかして形の上で特許を取っておきたいと思うのだが、何か考案して貰いたい。特許に関する専門的な相談は住友総本店の向い側に浅村樋口という住友の出入の特許弁理士があるからこれに相談せよ。との極めて懇切な言葉での要請があった。

私は建築家ではあるが、まだかけ出しで、ホロータイルのことなどは良く分らない。しかも、御分家の方がいろいろの文献など読んで良く知っておられる。しかも特許でも取ろうという大野心を持つにはどうしても、もっと勉強してホロータイルというものの知識を得ねばならないので、外国のカタログなどを御分家から貸して頂いたり御分家に教えて貰ったりしていろいろと工夫して見たがいくら考えて見ても特許になりそうな名案が浮ばない。

日高先生に教えを乞うたが、いかに建築界のベテランでも、容易に名案は出ない。

当時建築課に小寺弥一という中年の人がいた。この人はいろいろ工夫をすることの上手な人で、鉄のサッシュやシヤッターに新案を出していた。この注文を受けたサッシュメーカーで、これで特許を取ったものもいた。この人に相談して見たがこれも名案が出ない。

形とか寸法とか表面のモルタルの附きのよいような工夫が頭に浮ぶ度毎に、浅村樋口の樋口氏に相談に行くがどれも一つの工夫ではあるが特許にはなりそうにもないといわれる。これには殆んど困り果てた。

御分家に、その都度報告すると、こういうものは急いでも急に出来るものではないから、仕事の余暇に考えてくれ、工場の製品は米国のものに倣って作って行く。その中に遇然にでも名案が浮ぶこともあろう。という寛容なお言葉であった。

その内にいよいよ工場の方も製品が出る運びとなり、効能を書き立てた立派なカタログも出来上った。そして、御分家の別墅を工場の近くに造ることになり、私にも一度来いとのことで、三津に行った。

その時代にはまだ山陽線の呉線が出来ていない時代であって、三津に行くのには宇品港から内海回りの小蒸気で音戸の瀬戸を通り、瀬戸内海の沿岸の小島の点在する間を通って行くのが最も便利な方法であった。宇品で峠さんと落ち合いこの航路で三津に行ったが、折柄晩春の海は油を流したように静かで、島と島の迫った間を縫うて行く心持は長閑であった。

三津は美しい小港で島影の海に落ちる水路を前にした景勝の地に、御分家の別墅の地が選ばれていた。そして工場からは盛んに黒煙が立ち登り、製品も相当量積み上げられていた。

私は御分家のこの事業が実を結ぶことを祈願しつつ、夕方の船で広島に帰った。私の特許の使命はまだその緒にもついていないのを苦慮しつつ。

その後ホロータイルの製造も漸く本格的となったが、先ず、自ら、これを使った建築をすることが必要であるとの議が起ったらしく、御分家の家を住吉にホロータイル建築で造営することとなり、日高技師長の設計である程度工事が進んだ。

この頃になると、ホロータイル建築と同業のホローブロック建築というのが、世間にも提唱されるようになり、中村鎮氏のチンブロックなどが宣伝され、東京でもボツボツ、ブロック建築が建つようになり、ホロータイルの事業の将来も明るくなると同時に、競争者をも考慮に入れねばならぬ気運に向って来た。

一方数年前から住友の事業の本拠である住友ビルディングの建築の議が起っていたがいよいよ機が熟し、その設計に着手した。大正11年7月には略設計が完了したので、私は急に米国に派遣を命ぜられた。使命は、第一が

鉄骨を米国で入札して請負人を定め、ファブリケートして発送すること。第二が金庫、エレベーターの買付。第三が彼地で住友ビルの機械設備の設計をさせることであった。

私はホロータイルの特許のことが気にかかっていたのでいろいろ苦慮していたが、遂にこれなら特許になるかも知れぬと、特許弁理士の樋口氏も同意してくれた案を得た。御分家様にも同意を得て、その後の手続一切を浅村樋口特許事務所に依頼して、大正11年9月今の大阪建築事務所の社長である池田宮彦君を伴って渡米した。

紐育では、御分家やその他の人々がその改装の早やさで驚嘆された、シンガービルの2階にある住友銀行紐育支店の一室を事務室として貸して貰い、ここで1年間に亘り事務を処理して、当初の使命を略完了し、残務の取片付けに従事し11月には帰国する予定をたてていた。ところが、9月1日故国日本の地震による大惨事が報ぜられた

午後1時頃、銀行の人から大震災の悲報の電報が伝えられた。電文は只3字

Earthquake Terrible Catastrophe

その後になんの電報も入らない。在留邦人は皆帰る故国を失ったかと心配していた。

夜に入って大震災のため広島以東は全滅という報が入った。

私も池田君も帰国を目前に控えて途方にくれた。

しかし、日を経るに従って災害の実相が知れ、関西にある私達家族の無事が報ぜられて、安堵の胸をなでおろした。

11月末私達は使命を全うして神戸に上陸した。しかし、私は船が神戸に入る2日前から船中で突然盲腸炎にかかった。船は外国船で私達二人の外に日本人はいない。船のドクターは、船客にシカゴの有名な外科医で、怪我のために廃業し、世界漫遊の途に出ている人がいるからといって船室に連れて来た。診断は盲腸炎に間違いないということであった。万一の時はこの外科医に立会って貰って船中で手術しても良いという。

さなきだに、当時医術の遅れていた米国の医者、しかも船医などに開腹の手術をして貰ったら百年目だ。命は先ずないものと覚悟せねばならぬ。今日でこそ、医術の進歩した日本では、盲腸の手術などは手術の中に入らぬ位だが、35年前は、盲腸の手術は大手術の内であった。

腹痛を辛抱し、池田君の親切な介抱に援けられて、無事神戸に着き、担架で県立病院に入院し無事な家族の顔を見て安堵した。

帰国して聞く大震災の惨害は想像以上に酷かった。

一番気になるのはやはり建築物の被害である。中でも漸く宣伝に乗って出来ていたブロック建築が一つ残らず潰滅し、地盤の良い東京の山手にあったものまで潰されたと聞かされたのには悲痛な思いがした。ブロック建築を推奨していた某大学教授まで口をぬぐって、ブロック建築の地震国日本に適せぬことを論じていると伝え聞いた。

入院後も病気の経過が良くないので、会社の方からは私にはなるべく仕事のことは話さないようにと気を配っておられたが、震災の結果最も気になるのは、日本ホロータイル会社の消息であった。これもブロック建築の不評で会社は休止状態だとのことであった。この有様では存続は不可能だろうとのことであった。浅村樋口特許弁理士に依頼した特許のことも自然消滅した形となり、ホロータイルの効用を信じ、御分家を援けて事業として成立させようと努力された山下さんも、製鋼所事件というある出来事のために住友を去られ、ついで地震の前に病気で亡くなった。畢生の事業として努力された御分家様もあたら有為の材を抱いて不慮の病痾のおかすところとなり、若くして世を去られた。

それは震災の年の暮で、私は病院で盲腸炎の高熱で死に瀕している時である。私は御分家の悲報を、九死に一生を得て快方に向ってから聞かされたのである。

御分家の発病も震災の結果ホロータイルの事業の潰滅のための心痛に基因していないと誰れがいい得よう。

御分家、山下さんともに震災と前後して世を去られ、そしてこれに関係した私は同時に瀕死の重病にかかったのである。

御分家、山下さん、私から見ると実に立派な人達であった。将来は大阪の実業界に勇飛すべかりし人であったと信じている。私以外にも大阪の実業界に今日でも両先輩を敬慕する人は少くない。

しかし、その計画された事業のうち日本ホロータイルは大震災とともに倒れ、山下さんの計画された板ガラスの事業は、住友のもつ事業の中でも成績の悪いものの一つに数えられた。そして事業の成績はその人の毀誉褒貶



1917年（大正6年）1月私が30才のとき、足かけ5年に至る滞留の後、ロンドンを去って帰国することになり、通いなれたロンドン市立の美術学校のエッチング・クラスに帰国の挨拶にいった。このクラスの指導にはブランギンの後をうけて、フランク・エマニュエルが当っていた。そして別れにのぞんで、私にモデルになって座れといわれ、モデル台に座らされた。そして、エマニュエルはじめ一同が私のスケッチを始めた。エマニュエルは銅板に直接ドライポイント（dry point）の針を走らせていた。帰国の後に送り届けてくれたのが、"Japanese artist"と題するこの私の肖像画である。この画は、その後エマニュエルの作品として、ローヤルアカデミー展にも出品されたと伝え聞いた。

に及ぶのである。

しかし、戦後は日本板硝子は旧住友関係事業の最優秀のものとなった。そして、旧日本ホロータイル会社が、日本板硝子に買収せられたのも奇縁ではないか。

事業の運命も人の運命と同じく栄枯盛衰は容易に予断を許さないものである。

しかし、私は今日でも日本ホロータイルの消滅、御分家や山下さんの病死、私自身の罹病を思い、日本の如き震災国ではいかに技術が進歩したとはいえ、ブロック建築の設計をする気にはなれないのである。

紐　　育　　で

大正11年7月かねて計画されていた住友総本店の本建築の設計が完成し、いよいよ工事に取りかかることになった。

40年前のわが国の工業は今日のごとく進歩していなかった。したがって建築の計画の技術も材料も、欧米に比して甚しく遅れていた。

鋼材は主として輸入に待っていた。われわれは、当時わが国唯一の鋼材メーカーであった八幡製鉄所の鋼材を信用していなかった。一々試験片をとって厳重な試験をした上でなければ使わなかった。今日八幡製鉄所の製品を試験をせねば買わないなどといったらどういうことになるだろう。鋼材の工作にしても、当時はまだエンドミリングマシンを持っている工作場はなかったのである。

セメントも鉄材同様貧弱な状態であった。強度も弱くかつ不均一で、試験をせずに使用することは危険であった。これがため、住友の工作部ではセメント試験室というものを持っていて、膨張、伸縮の試験、強度試験をする機械設備を持ち、数人の係員が常時試験に従事していたものだ。

電線ですらも舶来品が主として使われていた。住友の電線は今日でこそ世界に製品の質を誇っているが、当時はわれわれは全然信用していなかった。その頃京都鹿ケ谷に住友の別墅の建築が進んでいたが、その電線は舶来品を使用することにしていた。前社長がこれを聞かれ、何故住友電線を使用せぬかという御咎めがあった。絶縁が悪く、粗悪で火災の恐れがあるとお答えすると、最善を尽してなお火災が起る時は仕方がない。その場合は焼けても良いから住友電線を使えといわれた。そして当時われわれはわれわれの見解の狭きを恥じた。住友の今日あるのも聰明な社長がこういう精神でいられたためであろうと思い感慨深いものがある。

その外に最も遅れていたのは建築の機械設備である。屋内電気工事の業者のごときもわずか一二軒に過ぎず、暖房衛生設備の方も同様な状態であった。したがって建設築備の綜合的な設計をする技術者などはいなかったものである。またこの建築には住友銀行、ならびに住友信託の金庫が必要である。

当時金庫もわが国ではわずか一二の貧弱な金庫メーカーがあるに過ぎず、少し大きな金庫を要する場合、金庫扉は外国に注文したものだ。その頃の外国製金庫といえば、英のチヤッブ、仏のフィシエー、独のアーンハイム等であったが、ほかに米国のモスラーなども漸々わが国に販路を拡張しかけていた。

エレベーターももちろんまだ日本エレベーターが国産エレベーターを始めた頃で、まだ完成の域に達していない。米のオーチス、英のウエグウッド、中にもオーチスが主として輸入されていた時代であった。それも自動着床のマイクロドライブさえまだ出来ていない時代で、紐育などの高層建築のエレベーターには水圧のエレベーターが多く使われていたのである。

住友がこういう計画を進めている時、一方東京では三菱が丸ビルの大建築の計画を進め、これは設計施工ともに米国のフラーという建築会社に依嘱して大正11年には完成していた。これも大三菱として進歩した建築の設計施工の技術を米国人の手で行い、わが国の建築界に貢献しようという大きな国家的な見地からの企図であった。

しかし、大正11年5月すなわち大正12年9月1日の関東大震災の前年に、震度の相当大きな地震が関東地方を襲った。丸ビル完成後間もない時期であった。

この地震で日本人の設計になった海上ビルや日本郵船ビルは被害は無かったが、丸ビルは床版の破壊等相当大きな被害を被った。これはもちろん日本の特殊事情である地震に対する考慮が不足していたためである。

住友ビルディングの建設に当っては以上のことを慎重に考慮して、設計はわれわれの建築課ですることになり、私が平面その他の計画をして数案を作り、その中で当時の工作部長で理事であった本荘熊太郎氏や、先輩の日高技師長、その他業務関係の人々で選ばれ、長谷部先輩が住友家長の意向を考慮して、これ又外観を数案を作り、その内の一案が選ばれた。そして構造は専ら光安梶之助氏がその衝に当っていた。

本建築は完成の暁には延坪1万5千坪、7階建で、北は土佐堀川、西は西横堀川に面する四方道路に囲まれる土地に建てられる。当時としてはわが国最大の建築計画の一つであった。

そして当時の住友の事業の規模からいって、この広面積の建物を住友総本店住友銀行等連繋諸会社のみで占めのことも出来ないので、一般貸事務所建築として計画することになり、レンタブルエリアの比率をなるべく大きくして、貸事務所建築としての採算基礎に立って計画したのである。

この敷地の南側半分北浜5丁目に面して住友総本店の仮本店が建っている。これを他に移して一気に全館を完成する議があったが、仮本店を移す適当な土地がなかったのと、また経済的な考慮も払わねばならず、この計画を二期に分割して建築することに議が定まり、現存の仮建築による設計の不便を克服して設計をしたものである。しかし、後に工事途中における関東大震災による経験等により幾多の変更が加えられた。当初の7階建を現在のように5階建とし、当初の計画になかったが、窓・出入口にはシャッターが付けられ、一般的な貸事務所建築という根本方針を変更して住友だけで使うということになったのである。

かくして大正11年7月には設計全部完了し、総本店幹部の間で材料の買い入れや、建築設備の設計を米国でさせるために米国に人を派して、これに当らせた方が良かろうということになったらしい。

ある日私は本荘工作部長と日高技師長から呼ばれた。そして私としては荷の重過ぎる上記の仕事を命ぜられ、構造設計に従事していた池田宮彦君を伴って行くようにとのことであった。そして私の米国での要旨は前に述べたように、第一に鋼材およびその加工の入札、請負決定および日本への発送その代金の支払、第二に金庫、エレベーター等の調査、見積徴収、第三はコンサルティングエンジニアー（建築設備設計者）の選定および設計の完成であった。

第二、第三の仕事は建築家としての知識で処理出来るしかし第一の仕事は明かに輸出入商の仕事である。私は何等の知識をも持ち合せていないのである。

「私に出来るでしようか」と本荘さんに尋ねると「勉強してやって見るんだね」といわれる。

当時はまだ住友には商事関係の事業会社はなかった。

大正6、7年頃、住友内部でも、三井物産や三菱商事の如き商事部門を作ることが論議されていた。これに対しては賛否両論があって相当激しい論争があったが、鈴木総理事は住友は商事会社をやるべきでないという断乎たる決意を持っておられ、遂に商事会社の企図は却けられた。

鈴木総理事の決断は当時として実に賢明であった。間もなく世界第一次戦争は終末を告げ、戦争という大消費が一時に止り、経済界は大恐慌を来した、輸出入の商社は大混乱であった。そして新進の大資本を背景とした大商社も一時は破産するかとも噂される程であった。そして住友はやはり商事活動はするべきでなかった、ということが確認され、この考えは永く続いていた。

しかし、鋼材その他の買付、運送そして外地での代価の支払といえば明らかに商社とくに輸出入商社の主な仕事である。私はこの命を受けた時には、品物の発送支払の条件等全くどうして良いか分らず五里霧中でっあた。そして教えを乞うべき部門は住友にはないのである。

当時住友銀行の外国課に大島堅造さんがおられ、同氏は一つ橋高商の出身であり、外国通である。同氏の許に行って今度の私の使命を告げて教えを乞い、輸出入業務に関係する書籍などを教えて貰った。

この時始めてC．I．FがCost Insurance Freightの略語であること、F．O．BがFee On Boardであること、B．LがBill of Ladingであることなど、一応貿易上の知識を得た。

そして今度の買入では、U.S.Steelのエィヂェントである高田商会とBethlehem Steelのエィヂェントである三井物産から見積を取り、C．I．F神戸でB．LとInvoiceと引替に代金は紐育で弗で支払うこと、発注の際は電報で本社の決裁を仰ぐこと、事務上の本社との打合せで急を要するものはBENTLEYのコードを使って電報すること等の案を上司に提出し本社の了解を得た。今日と異り、飛行機はなく、外国との間にテレタイプもなく、手紙の往復には二ケ月を要した時代である。しかも不慣な貿易事務をやるのであるから責任の重大さを感じた。

出発に際しては100万円のL．Cを持って行くことと

なった。米が1升25,6円とうい大正11年頃100万円は今日では5億位に相当するだろう。35才の青二才の技師にこんな巨額な金を持たせて外国に出すことは会社としては大胆なことと思った。果して本社の会計課長の重岡老人から抗議が出たそうだが、重役から話があって止むを得ず承認されたといいう話を聞かされた。私はますます私の責任の重大なるを感じた。

日常の会話や手紙には不自由を感じない自信はあったが、商用の手紙となっては書いたことがない。そこでbusiness correspondence の本を 2，3 買い込み船中で読むことにして出発の準備に取りかかった。

定った以上、早く紐育に到着するようにとの命令で、米国西海岸迄3週間近くかかるハワイ寄航の日本船に乗ることを止めて、11日で着く北廻りの Canadian Pacific line のエンプレス・オブ・ラシアで、9月中旬に横浜を出発し、途中心地よい海路の呑気な日を送りつつ9月末にカナダのバンクーバーに着いた。

緯度の高い北米の9月はもう秋風が肌に寒く道行く人の姿にも秋の深さを思わせるような季節となっていた。

船中11日間、体の地につかぬ気持をバンクーバーで癒すよりは、カネディアンロッキーの温泉地で一休みしようというので、すぐにこの港をたって加奈陀太平洋鉄道に乗って東行の途についた。

カネディアンロッキーの高地にバンフという温泉町がある。ここは避暑地であり、鱒釣りの名所でもある。近郊にはバファロという北米特有の羊の大きさの動物がいるので有名である。宿の窓から眺めるとロッキーの連山が延々と連り、前には碧流が岩をかんでいる。舩路の労も一日の休養で癒すことが出来た。翌日は車を駆って、ロッキー山中の黄色に紅葉した山路をレーキ・ルイースに遊んだ。山奥の湖の色は紫と見るまでに濃く、対岸には数千尺の山を真二つに切ったような壁面が聳えて、地層の縞を露出している。その有様は往昔の地殻の変動を想像させ、雄大な景観はスイスのアルプスにも勝ること数倍であると感じた。

バンフを発して紐育に向ったのであるが、その列車が途中本年最後のグレート・レーキ・サービスにちょうど都合よく連絡することを知って、陸路を行く代りに途中から大湖を行く船にのり、ヒューロン湖、スペーリオ湖を通ってナイヤガラに向った。湖上北米の晩秋の風景の美しさを満喫しながら湖端に着き、ナイヤガラを経て紐育に着いた。紐育の住友銀行の支店では、前もってわれわれのことが通知してあったので、店内の一室を空けてわれわれのために用意してあった。

この支店のあるシンガービルディングは、エンパイヤーステートビルがまだ建っていなかったので、当時は紐育第一の高層建築であった。そのブロードウエーに面する2階正面が住友銀行の支店である。かつて御分家やその他の人が間仕切壁の除去の素早さに驚嘆し、日本ホロータイル株式会社を設立するに至った由緒のある室である。御分家のホロータイル会社のお手伝をしていた私は興味をもってこの室を眺め、与えられた一室に事務に必要な諸道具を整えて1年間の勤務の準備をした。

私は5年前の2月、欧州からの帰途一ケ月程この地に滞在したことがあるので満更知らぬ土地という感じはしなかった。その時は別に仕事を持っているのではなく、見物に日を暮していて、紐育の仕事をしている人の様相などには考え及ばなかったが、今度事務室というものを持って、日々通って見ると、自動車の排気や人の体臭から来る悪臭が妙に息詰るような感を覚えさせ、はじめはこの環境で1年も辛棒が出来るだろうか、精神的にも、肉体的にも打ちひしがれるような結果になりはしないかと、危惧の念を抱くようになった。しかし、慣れるに従ってあじきなく気のせわしい大都市の生活もさほど苦痛でなくなって来た。

まず第一は鉄骨の入札であるが、これも順調に進んでベスレヘムに作らせることになった。主材は切揃え寸法でミルオーダーとなるが、ミルスケヂュールの関係上工程に間に合わぬ材料があるので、材料の断面の大きさの変更もせねばならなかった。

当時の状態ではこういう大製鉄会社でも、すべてのセクションがストックであるわけでない。また型鋼のローリングのミルスケヂュールは1年分が定められてあって、これを変更することはほとんど不可能なことであるから、切揃え寸法で注文すると、今後ミルスケヂュールにある型に変更せねばならないのである。

見積の結果を本社に電報で許可を得、鉄骨は、C．I．F神戸で、価格を定め、B．LとInvoiceを揃えて持って来ると、代金はその都度弗で支払うことにし、契約書に署名した時は、まず一仕事済んだとほっとした。

これから先はショップドローイングを検査し、製作品の船積まで相当の期間があるので少しは暇もでき、次の仕事に取りかかることが出来ることとなった。

ショップドローイングは、われわれの事務所の近くにあるランゲという人の事務所にベスレヘムから依託してくれた。その方が連絡に便であろうというベスレヘムの心遣いである。池田君は当分その方に詰めて貰うことにした。

このショップドローイングの作り方、図面作製の形式順序等はわれわれに物珍らしく、池田君などは非常にこの点で新しい知識を得たようだ。そして帰国後も鉄骨設計図の作製に定った指針を得、池田君のこの経験は鉄骨の製作の面でわが国建築界に貢献するところが多かった

鉄骨加工の検査は、別にこれを専門的に引受ける事務所があるので仕様書を渡してこれを依頼したが、後になって料金の高い割に信頼できないことが分った。

コンサルティングエンジニアー
(Consulting Engineer)

紐育に着いて鉄骨の見積をさせている間に、私の第2の使命である住友ビルの電気、暖房、衛生その他の機械設備の設計をさせる仕事に取りかかった。

米国ではこういう機械の設計に携るものをその頃コンサルティングエンジニアー (Consulting Engineer) といった。直訳すると顧問技師とでもいうべきであるが、それが建設物の機械設備の技師という特殊な意味に使われていた。

さて広い紐育でコンサルティングエンジニアーを定めるということになると、はじめは五里霧中である。その筋の人に聞いてみても各人いろいの人を推薦する、そしてその数は殆ど無数といって良いくらいで選択に苦しんだ。私としては米国の最高水準の地位にあって、最も高度の技術と経験を持ち、信頼出来る人物に依頼したいのであるが。私の推薦を受ける人は私が満足し得る人とまでは行き兼ねる。

この人選は、私にとっては、鋼材の購入や発送のような事務的な仕事よりも遙かに責任が重い。日本に帰ってからもっと良い人があるといわれたくない。たとえまた紐育で認められ技術において勝れていても、人格的に批判のある人は避けたいのである。

人選について、最後的には工作部長や日高先生の決裁を仰ぐとしても、選択の責任は私にあるから慎重の上にも慎重を要するのである。

私は思案にあまって住友銀行の支店長に相談して見たら銀行の取引先にアメリカン・トレーディング・コンパニーという貿易商がある。その支配人に紹介してやるから、その人からだれかその方面の人に紹介して貰ったらといわれる。

アメリカン・トレーディングはシンガービルディングから遠くないので、支配人に会い私の使命を話して、だれか、この方面の消息に通じてるい人はないかというと

「自分の知人にトラスコン会社の支配人をしている、Pという男がある。この男は最近までトラスコンの東京支社長をしていたのだし、仕事が建築に関係があるから、コンサルティングエンジニァーの消息も知っているだろうから紹介しよう。」という。

トラスコンというのは、カーンという人が工夫した異型鉄筋でその両側についている翼の平鉄の形になっているのを一部切り離して折り上げるとスタラップになるもので、カーンバーと称していた。これと普通の異型鉄筋を組合せて鉄筋コンクリート構造の設計をし、施工も請負う会社なのである。

今日でも大正初期に建てられた建物には、このトラスコンの構造法によったものが残っているが、今日ではわが国の建築界でも、そういうものがあったことすら知る人も少ないくらいである。

私は早速池田君と2人で設計図を携えてP氏に会いに行った。

P氏は、当時、東洋にまで派遣されようという男だけあって、頭の禿げ上った赫顔の見るからに精悍な風貌の持主であった。その頃日本に来る外国人は日本人を自分等より劣った人種の如く見、アメリカではとくにジャップといって軽蔑していた時代であった。しかも相当長期間日本にいて日本ずれがしているのである。

私も日本人としては背も低くない方であるが、P氏は私よりも遙かに背も高い。額にはその頃流行った綠色のセルロイド製のサンシェードをつけすこぶる驕慢な態度で私と池田君を見下して、紹介状を見ながらやって来る

私は一応の挨拶の後来意を告げ、紐育における一流の

コンサルティングエンジニァーで、貴下の推奨できる者があったら教えて貰いたいと丁寧な言葉で頼んでみた。

彼はその住友ビルディングというのはどんな建物かというから図面を拡げて見せると、コンサルティングエンジニァーのことはいわずに、構造をどうするかと聞くから鉄骨でわれわれの手で設計し、米国で買い入れることにし見積を徴収している旨を告げた。

彼はこれは鉄骨よりもわれわれのトラスコンの鉄筋でやるべきである。自分は日本にも長くおり、カーンシステムで高層建築も設計して来たから早速設計してやるから。といって図を持って自分の机の上に置くのである。

私は驚いた。

私は彼にコンサルティングエンジニアーのことを教えて貰うために来たので、構造のことはもう定っているのだから今さら変えることは出来ないといっても、私のいうことに全く耳を借さない。カーンシステムで作るのが君等にも経済であり有利であるから、カーンシステムで早急に設計してやるといい張るのである。

この建物は全部鉄筋で作ると、6.7千噸のカンバーを使うことになり、当時としては相当の商売になると考えて一生懸命になったのであろう。

当時、政治の上でも商売の上でも、彼等はことに処して極めて高圧的である。彼もまたその風貌から見ても言葉使いからいっても、それら思い上った外人の一人である。

ここで私が弱身を見せて彼のいうままになったのでは私の立場はなくなる。まだ鉄骨は見積中で、鉄骨の購入が確定していないとはいえ、私の本荘部長や日高先生から与えられた使命は決定的で、今さら鉄筋で建てることはできないし、また、鉄筋で建つべき種類の建物でもないのである。

私はどうしても拒絶して図面を取り戻さねばならない。ここで挫けては、彼にこの仕事を断らなければならない破目になった時、多額の設計料を払わされて使命に悖る結果となるのが落であることは明白である。

私は日本には地震という特殊事情があって、われわれはそれを学術的に研究し、その基礎の上に立って鉄骨で設計して既に見積中であることを告げたが。見積中であれば取消すことも出来るではないか。われわれはもちろん地震の計算も入れ充分な経験と、カーン氏を主宰者とする卓越した技術で設計するのであるから、耐震建築として立派なものを設計する。そして地震に対して大丈夫であることをギャランティーする。という。

それからギャランティーという言葉の議論が始まった。遂にギャランティーするということは後にその地震で破壊するようなことが起った時に無償で建て直す気かと聞くとそんなことがないようにギャランティーするのだ。という

こうなると議論にならない。この辺から、彼も私も言葉が荒くなり、彼も激し、私も多少平静を缺くようになって声も荒くなって来た。そして何といっても高圧的に出て来て図面を帰そうといわないのである。

私はギャランティーするというが、米国のF会社が東京丸の内にMビルディングという、日本一の大きなビルディングをある大会社の依頼によって作ったが、昨年5月の地震で、このビルディングは非常に破損した。しかし同時に日本人の建築士の設計して建てたものは破損しなかった。地震国である日本の建物は、地震の研究を積んでいる日本の設計によらねば危険であると力説した。私のこの説は彼には非常に手答があったようで、その反駁に逡巡している隙間に、私は彼の机の上にあった図面を取り戻した。

これでこの論争は一応私の勝ちになった。しかし当時のこの私の最後の言葉が禍して後に私が住友において苦しい立場に陥るようになろうと誰が想像し得ただろう。このことは後に記すことにする。

P氏は、すっかり機嫌を悪くし、コンサルティングエンジニァーのことなどはもう話にならない。永い論議に時の過ぎるのも覚えず昼食の時間となったので、この話は打切って食事を一緒にして機嫌を直して貰おうとしたが「ノー」という。けんもホロロの返事で気まづい思いで別れた。

しかも彼のオフイスを出てからも後味の悪さがつづいた。

もうこうなっては人に頼ることもできない。自分で何とかして適当な人を探さなければならぬ。

そこで、まづ近年ニューヨークに立った最も有名で主要な建物を調べて見た。それらの中で最も大切な建物は紐育の連邦準備銀行であって、日本銀行に相当するもの

であることが分った。そこでその建築の機械設備を設計したコンサルティングエンジニァーはだれかと調べて見ると、当時紐育では超一流のテニー・アンド・オームスというコンサルティングエンジニァーの事務所であることがわかった。

住友銀行から連邦準備銀行にこの事務所のことを聞き合せて貰ったら頗る評判が良い。

私達の建築は日本でこそ相当大建築であるが、紐育の建築から見ると小さなものである。テニー・アンド・オームスが、さまで大きくもなく、しかも事情の分らぬ極東での建物の機械設備の設計を引受けるか否かも不明であるが、ともかく一度飛び込んで日本から来たアーキテクトとして会って見ようと思い、池田君と二人でその事務所を訪ねて見た。

始めはテニー氏が会ってくれ、後にオームス氏が出て来た。テニー氏は主としてヒーティング・エンジニァー、オームス氏はその名のごとく電気を専門にしている。ともに温厚誠実な技術者らしい技術者である。

P氏の辣腕に接して来た後であったので、この二人の好紳士に会うことは気持がよかった。同じアメリカにもいろいろの人がいるものだと感じた。そしてわれわれの使命のことを話したら、もう一度明日会おうという。

彼等も若いわれわれ（池田君も年よりは若く見られる）が相当の仕事を持って来たというので少し不審に思い、われわれの身分を調べたらしい。それは無理のないことである。また彼等の堅実性もそれによって窺うことが出来る。

翌日は再び会ったが、今度は仕事のことに話が進み、設計の正式な依頼をし設計料を定め、契約を進めることにした。

ここで私は紐育に来て初めてホットした。彼等を選んだことに対してはどこからも批判されることはないに違いないという自信ができたからである。これで私の使命の重要な部分がみなその緒についたのである。

金庫とエレベーター

私に残された使命といえば、あとは金庫とエレベーターを調査し、その見積をとって帰ることである。決定は帰朝後に本荘部長や日高先生がされるであろう。調査の結果私の正しいと思う判断をすれば良いので気は楽で責任も軽い。

この頃になるとわれわれの紐育に来ていることが日本からの連絡その他で紐育の建築材料関係者のある者の間にも知られて来たのであろう、いろいろの建築材料、建や築用の機械器具の製造者が訪ねて来て宣伝して行くようになった。金庫、エレベーターの製作者はもちろんである。

金庫扉のメーカーで一番大規模なのは何といってもMであった。販売網も米国内はもちろん日本を始めとして東洋にも及んでいる。使用されている量も恐らく紐育でも一番多いであろう。

MにつぐものはYであるが、内容を調査して見ると、各々特徴を異にしている。Mが三越なら、Yはえり円といったところかも知れない。

この二つの金庫メーカーにその納入先の銀行に案内して貰って見て廻った。

こうして見て廻ると、いろいろのことに出会すものだ。金庫とくに保護金庫には銀行の金庫の係の者がいて説明してくれるが、自分の金庫室や扉に非常に満足しているものもあれば、製造社の代人が来たのを幸にいろいろ故障や不足をいう者もある。これらの話からおよそその金庫の評価を想像することが出来る。

銀行建築としては金庫が生命である。銀行の中でも連邦準備銀行は、その特殊性から金庫が重要視される。したがって最高水準のものが使われているに違いない。しかも紐育の連邦準備銀行の建物は最近完成したものであるから、金庫の選択にも最も慎重な注意が払われているだろうし、また最高のものを使っているに違いないと思ったので調べて見ると、これはYであった。

紐育市内でY金庫を使っている銀行を案内して貰って調査したが、到るところその管理者が満足しているように見受けられた。私はそこでYを採用する決心を決めた。

今日老境に入ってその時のことを考えて見ると、私はやはりそのころは世間を知らぬ若輩であった。世の中の複雑な関係や、商人の間の心理状態がどんなものであるかを念頭におかず、ただ一筋に技術上の観点から良否を選定し、これを買うことに邁進するのはその精神は純であっても、世の中を渡る巧な術ではなかった。商人と商

人との間の競争というものは深酷なもの、われわれのような技術者が単純に考えるような生易しいものではない。とくにその競争会社が規模からいいっても最大のものであり、かつ納入地において既に相当の地盤を持っている場合は、この要素をも相当に考慮に入れ、最終的には自分の信ずるところに定めるにしても、順序を追うべきものであると後に悟った。

私はよく世間で「技術者は折衝を要する仕事や事務や商売は駄目だ」という言葉を後年嫌になる程聞かされたが、私も若い時自分の信念のみで猪突猛進した時代のことを考えて、心中忸怩たるものがある。果して金庫のことも後にいろいろと私に間接に不利になるようなことを招いたのである。

しかし、今まであまり日本に知られていないYの金庫を私がまず使ったことは、私としては正しかったと今日でも思っている。後に日本銀行が増築をして大金庫を建設された時、私の調査とは別に独自の立場から米国の金庫を調査し、Y金庫が採用された。日本銀行の当時の責任者は後の三和銀行の頭取、当時の文書課長の岡野清豪氏であった。千百の銀行が住友の例に倣ってYを採用するよりも、日本の銀行の元締である日本銀行がY金庫を使ったことの方が、私の調査の正しかったことを裏書きする何よりの証拠で嬉しかった。

金庫についでエレベーターも詳しく調査して種々の知識を得た。

当時の紐育の高層建築は、殆ど自家発電の設備を持っており直流を使っていた。したがってモーターの回転の制禦も自由であって、昇降機を高速度としても始動停止が容易であって着床も正確であった。しかし交流となると、これがなかなかむつかしい。私のいた頃、ようやく今日の交流のマイクロドライブが出来たが、まだ試験中で発売になっていなかった頃である。

それでもマイクロ・モーターを別につけるということを非常に贅沢なものと思ったほど、われわれのエレベーターに対する観念は幼稚な時代であった

今日のように交流を直流に変えて使うような贅沢な考えは、当時は経済的に到底考えられないことであった。

思えば今日の建築界は一面進歩ともいえようが、一面非常に贅沢なことになったものである。エレベーターは他にも一、二有力な製造家があるが、何といってもOが当時では自他共に許す最高水準にあったので、これが購入については問題はなかった。

○

池田君のやっているランゲ事務所の鉄骨のShop drawingも済み、いよいよ鉄骨の工作がピッツバーグのベスレヘムの製作所で始まり、加工済の分から順次紐育に送り出され、船積の上神戸に向って送り出される運びとなった。

B.L と Invoice を照合して代金を弗で支払い、これらの書類を本店に送ると、本店はこれらの書類によって神戸で品物を受取るのである。純然たる貿易商社の仕事である。私は、この経験から生じた私の潜在的な自信が戦後私が社長をしていた、住友土地工務株式会社を日本建設産業株式会社と改名して、商事部門を作った動機となったものと今日では考えている。

若輩でしかも下級の一建築技師に過ぎない私に、その時代としては、非常な大金である100万円という金を持たせ、しかも商社の貿易部門がやるような仕事を命じた当時の住友の幹部は、その折、一体どんな意図を持っていたのか、今でも私自身にも一寸想像がつかない。まさかこの男が将来住友商事を作るなどと予想していた訳でもあるまい。

その時代の住友はその事業の規模においては今日程大きくはなかった。住友は関西での住友であって、三井三菱の大きさは持っていなかった。東京の日本橋に当時としては大建築であり、後に大震災の猛災に包まれながらなお災害に耐えた住友銀行の東京支店を建てたのも東都進出の旗印であった。この時代は住友が関西の事業家から日本の事業家に進歩する初期であって、鈴木総理事が事業は人によるという信念の許に、しきりに人材を求めていられる時代であり、比較的若い人達に重要な仕事をやらせている時代でもある。歌人の川田順さんや逓信省から入った30代の工学士の大屋敦さんが本社の経理の枢要な地位にあって住友の事業の根幹を握っていた、一風変った組織の許に動いていた時代であるから、私のような若輩の建築技師にこんな仕事をさせたのも、その風変りなやり方の一つであったかも知れない。

クレーム

鉄骨の発送もいよいよ終りに近付いた頃、本社から手紙が来て、一部変更のためベスレヘムで組立てた鉄骨を解体したら、鉄と鉄との接触する部分に、錆止めの塗料を塗ることになっているのにそれが塗ってないとのことであった。

鉄骨加工の仕様書には Parts of contact を錆止めするようになっている。今日であればコンクリートで被覆する鉄骨にはこういうことはしないが、当時としてはこんな丁寧なことをする仕様もあったものである。これは不都合なことであるから加工検査を請負わせた会社を呼んで詰問したが、仕様書通りであるといい、刻々の報告書にも完全に施工されてあるとかいてある。ベスレヘムの紐育支店に質しても仕様書通りに施工してあるといい張るのである。

見積書にはその塗装費が4,000弗余り計上してある。鉄と鉄との接触面に塗装することは絶対に必要とは考えられない。また当時の米国での鉄骨加工ではこのような場合は塗装しないのが慣習ではある。しかし施工してないものに対し4,000弗支払うことは不合理であるので、直接ピッツバーグまで出かけて実状を見て善処することにした。

一日池田君と一緒にピッツバーグに行った、夜遅く着いてホテルに着き、池田君と二人一つの室に泊った。

建築家には悪い癖がある。室に入るとあっちこっちの施設を点検して見る。室の入口に近く扉があるので物入れかと思って把手を廻して見ると隣室から「キヤッ」という女の叫ぶ声が聞える。あわただしく電話でホテルの事務所に急を告げる女の声が聞える。これはしまったと思ったがどうすることも出来ない。仕方がないからこの方も電話で理由を話し、隣室に行く前に私の部屋に寄ってくれるように頼んだ。

やがて黒人のボーイが来たから、幾らかつかませてしかるべく陳謝して呉れと頼み幸にことなきを得た。隣室が男であったらこんな騒ぎも起らなかったことと思うが女であったのが災難だった。思わぬ旅の失敗であった。

翌日は朝早々交渉の困難を覚悟しつつベスレヘムの工場に着いた。

まだ幹部が来ていないからというので、技師長という人が工場を案内してくれた。ロールミルに型鋼が赤い蛇の如く伸びて走る偉観と、大きな工場に、人間は只一人ホット・ソーのところにいるだけで、所定の寸法に切られて自動的に送り出されて行く有様に目を見張った。今日ではわが国でも珍らしいことではないが。最後に鉄骨の加工組立工場にいった。

当時の日本の鉄骨加工工場が貧弱なものであったのに引かえ、これはまた大規模であるのに驚いた。あらゆる工作機械がズラリとならんでおり、不器用だと思っていた米人の職工が、素早く器用に手を動かしてドリルを動かしているのに驚いた。厚く鉄板を重ねて十数本のドリルを廻転させながら、型板の孔に手早く当て嵌める器用さに、器用なのは日本人だけではないと覚った。

やがてこれが住友ビルの鉄骨だという加工場に来た。これはまた他のものに比して何と貧弱な部材であろう。その組立が進行しているのを見ると、明かに鉄材と鉄材との接触面に錆止めが塗ってない。技師長にこの部分にはペンキを塗らぬのかと何気なく聞くと、米国の習慣ではこんな所には塗らない、また必要もないという。私は池田君と顔を見合せただけで黙って次の工場に進んでいった。技師長は何も詳しいことは知らぬらしい。われわれの仕様書も読んでいないのではなかろうか。

一応工場の見学が済んで、エキスポート・マネーヂャー（輸出担当の支配人）が会うというので、その室にいく。エキスポート・マネーヂャーというのは、40才位の頭の禿げた堂々たる風采の温厚そうに見える人であって、机を離れて来て慇懃に挨拶して座につく、技師長という人がその右に座し、関係者と思われる者が二、三人向側に座る。これに対し私と池田君とが座ると、大男の揃ったベスレヘム側に対して、自分等の体格の貧弱さと若さとが感ぜられ、何となく圧迫感を覚えるのである。しかし向うは流石に大会社の幹部だけあって、内心「何のジャップが」と思ってるいのだろうが、顔には出さない。

一通りの挨拶が済んで、いよいよ問題の錆止の件に移ると、技師長は余り事情を知らぬらしく変な相貌をしている。支配人は自分の会社では、仕様書と違ったことは一切せぬ。仕様書に塗料を施すとあらば必ず施してあるに違いないといいはる。私は日本から通知で、塗ってない

といってきているから、その報告に間違いないと主張する。先方では頭から自分の方には間違いないと主張して、調査するともいわず、一歩も譲らないのである。

こういうビジネスの話になると、温厚と見えた支配人の顔も相が変ってきて、慇懃丁重だった言葉も荒くなってきて、容易にけりがつきそうにない。

ところが技師長が見兼ねてか、横から支配人に耳打ちをしている。私には聞えぬと思ってだろうが、確かにあれは塗ってない、塗らないのが常識だといっているのが言葉の端から察せられた。

私はすかさず、技師長が今塗ってないといわれたのではないか、現に少し前、工場で住友ビルディングのものだという品物を見たが、塗ってなかった。そして技師長は塗らぬのが慣習だといっておられた。と突込んだ。

これには支配人も参ったらしいが、しかし、なおいろいろと、仕様書にあれば塗ってあるべきだと主張したが遂に塗ってないということは認めざるを得なくなった。しかし請負金から4,000弗差引くことについては、なおもいろいろと反対していたが最後にはこれも譲らぬわけにはいかなくなった。

何処の国でも技術者は単純であり比較的正直である。

温厚と見えた支配人も自分の敗けとなると、急に強面となり言葉も荒く機嫌も悪くなったのである。

商人となるといかに米国人でも、自分に不利となると覿面に応対振りが変り、相手に対する感情も悪意を持つように見えてくる。

私はこの取引に勝った。しかし、後に記す窮境に陥った原因の一部にこの勝が影響を持つことを思うと、私の一生としては勝ちではなかったのである。

こうして私は彼等と分れたが、席に連なっていた一人が、せっかくピッツバーグにきたのだからといって、自動車で町の一部と郊外のゴルフ場を見せてくれた。人のよさそうな男だったが。

きょうは愉快でない話できてくれたが、他日「on different errand」にゆっくりきてくれ、その時はもっと愉快に過そうといってくれた。

苛烈な商売道

私の紐育における仕事もほぼ終りに近づいた。仕事の関係を通じていろいろの人にも会い、日本から建築資材の買付にきているというので、関係ある事業上の人々の間にも噂に上っていたに違いない。ある日住友支店の副支配人が私に

「君のことを米人が、Shrewd Japanese だといっているぜ」

と話してきかせてくれた。恐らく「Shrewd Jap」といったのであろう。Shrewd という言葉はぬけ目のないとか、機敏という意味であるが、日本語もそうであるように、その言葉のニュアンスとしてはあまり香しくないものがある。

私はこれをどういう風に取って良いか分らず、苦笑いをしたのであった。

ある日、本社からの手紙が届いた。その中に私宛の親展書が入っている。本荘部長からの手紙であるが、私は読んで愕然とした。

手紙の内容は、「別紙写のような手紙が横浜の米人弁護士K氏から、小倉理事宛に来たから、今後言動に注意せよ」。というのである。手紙の字句は穏かで咎める言葉は使ってないが、薄気味の悪いものであった。

K氏から小倉理事宛の手紙というのは英文で、その大意は、「貴社の使用人である建築技師の竹腰健造が、住友ビルディング建設に関し紐育において仕事をしているが、F建設会社のことを悪しざまに吹聴している。これは誠に怪しからぬことで、かくの如き者を使用せられることは宜しくないから、ただちに解雇せられるべきであると考える」とかいてある。

Fのことを口にしたのは、トラスコンのP氏に、コンサルティングエンジニアーのことを聞くために会いにいった時だけである。強引に設計をトラスコンの構造法で設計するといって図面を取り上げられた時、議論しても分ってくれないので、止むをえず引合いに出した以外に口にしたこともない。これは明らかに、P氏の暗躍が主となったためであろう。しかし、金庫の件、また、自分では勝ったと得意になっていた鉄骨の塗料の件、これらの件が集積した、私というものに対する関係米人の気持が反映して、このような手紙が小倉理事に出される幾らかの原因になっいることであろうと想像された。

私自身は私の採った方法は正しくもあり、自分の会社に最も忠実なものと確信しているが、それがこんな結果

を生んだこはと憤慨にたえない。その日から数日間は憤懣やる方なく不愉快な思いに過し、本荘部長には、P氏との会見模様を詳しく述べた弁解の手紙を出した。

しかし飜って考えて見ると、私の行動は正しくはあったとしても、世の中を渡る巧な道ではなかったように思われる。大いに反省さるべきだ。同じ図面を取り戻すにしても、もっと穏やかな方法があったかも知れない。私自身も憤激したが、また彼P氏も、極東未開国の日本人が生意気な態度だと憤っていたかも知れない。

その頃日本はまだ今日のように世界的に地位が上ってはいない。とくに日本にいたことのある外国人は、日本人に対して横暴で押付けがましく威圧的な態度であった。神戸の埠頭などではまだ人力車が主として使われていた時代であるが、車夫が親切心からかける言葉に対しても、言語の通じない誤解から、車夫を杖で打擲する場面がしばしば見られる時代だったでのある。

一体外人などは自分に利益のある話をする者は良い男と賞める。しかし不利なこととなると威丈高になって、悪態にいうものである。そして商売となると卑劣な謀略や、相手方の人の中傷などは平気である。後年に至つても、そういう事実を自ら経験もし、他の実例を見聞きし、上に立つものはよほど注意をせねばならぬと思ったことがある。

商売道の真剣さ、苛烈さ、そしてそのためには不道徳も平気で行われるということが、世の中の経験に乏しい当時の私に身に泌みて感ぜられた。そしてこれは、私にはこれから世の中を渡る上に良いみせしめだと考えたことである。

それにしても私はこの事実に憤激やる方なく、英語のdirty trickというのは正しくこんなことだなどと、池田君に話して、わずかにやるせない思いを慰めていたものである。

私がShrewdだと噂されていたことがこんな結果をもたらしたのであろう。

私はアメリカ滞在中仕事が一段落つき、次の仕事にかかるまでの暇を見、本社の許可を得て欧洲旅行に出かけた。

大正6年に英国を去ってから5年振りである。その間に第一次世界大戦を経たが、欧洲大陸は民情こそ変ったが、都市の様相は昔と同じである。建築の方もとくに目立った変りはなく、旧友と旧交を温め、スケッチブックを持っての、仕事を離れての旅は楽しかった。

私のニューヨークにおける仕事も終りに近づいた頃、大正12年9月1日の大震災があったことはすでに前に述べたが、悪い時には悪いことがつづくもので、私は帰国の途中外国船中で盲腸炎に罹った。そのことはこれまた前に述べた通りである。

病気も全快し、久し振りに会社に出勤したが、本荘部長は私の米国における労苦を犒って下さった。

私が部長の前に出て気を重くしていたことは、例のK氏の手紙の一件であったが、私が悲痛な思いをした程には重要と考えていられないらしい言葉に私もやや安堵した。ただ直情径行も良い。また君のやったことはあれで良い、しかしもっと穏かにやれなかったかね。君もまだ若いからね。と冷やかされた。本荘さんはいつもわれわれには、親父のような物のいい方をする人だった。

私は自分の心の僻みからかも知らないが、K氏の手紙のことが重役の頭にあって、私に対する態度が前と違っているのではないかと思い、帰朝後は何となしにすがすがしい心持になれなかったが、2年程経ったある日、本荘部長が一寸こいといわれるので、部長室に入って見ると「君も薄々知っているだろうが、住友肥料製造所のH君が、空中窒素から硫安を作る工場の建設に外国の会社と契約するため、外国にいったが、渡欧の際、本社と打合せていったことと違うことを押つけられて、契約をして帰った。そのままで実行すると、住友も破滅に陥るかも知れぬというので大騒動しているが。何でも相手方に押しつけられることを聞いた結果がこれだ。こうなって見ると、米人から中傷されたけれど君の方がましだったかも知れんという話が重役の間でもあったよ」、といって笑って話して聞かせてくれた。

私も3年振りで心中何となくモヤモヤした雲のようなものが去って、晴々した気持になった。



大正12年米国よりの帰途
エンプレス・オブ・オーストラリア甲板にて。
左が筆者　右が池田宮彦君

住　友　の　建　築　課

帰朝して病中ながら聞かされる関東大震災の話は――その惨状実に驚嘆すべきものがあった。そして漸く病の危機を脱し、幸に九死に一生を得て久し振りに会社に出勤して説明を聞くと、住友ビルディングも、当初の計画が変更せられ、7階が5階建となり、一般的の貸事務所建築という当初の計画が変更せられて、住友だけの専用の建築ということになり、本質的に建物の性質が変ったとのことであった。

さらに一度東京にいって、災害の跡を見てこいとのことで上京してみて、さらにさらに建物の被害の甚大なのに驚かされた。幸か不幸かそれまでに、私の設計した建物は東京にはなかった。相当大丈夫と思われていた建物までも、被害は免れていない。鉄筋コンクリート造で建築中の内外ビルは潰れて、数百人の圧死者を出したということだし、頑丈にまた華麗に見えた東京会館さえ、鉄骨の柱が中途でツイストされて押出されていた。そして地震に相当耐えた建物も、附近に木造建築の多いものは内外ともに火災で見る影もない姿となり、使い物にならなくなっていた。

こんな状況の許に、日本橋に数年前建てられたわれわれの技師長日高胖先生の設計にかかる住友銀行東京支店だけが焼野ケ原の真中に、外面が火災につつまれたため損傷している他、構造には何等被害なく、内部に至っては何等震災前の姿と変るところなく厳然と残っており、震災の翌日からでも、営業が出来る状態にあったのである。

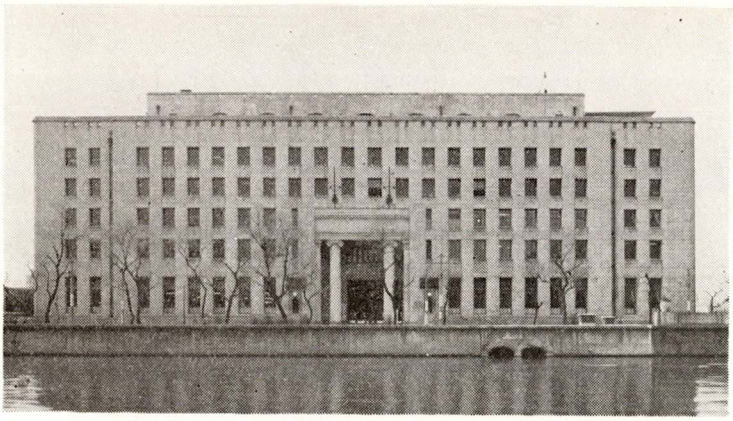
これは住友としても大きな誇りであり、設計をされた日高先生、ひいてはその後に連るわれわれ部下としても名誉であり、住友の信用はこれによって一躍高まり、住友建築課の設計の堅実性と、住友事業の堅実性が新聞や雑誌にも宣伝せられた。

この建築の出来た大正6年頃から、住友も漸く財界に頭角をあらわし、主脳部は社員に秀才を需めるに急であったし、この当時としては雄大と目せられる建築が、日本橋にでき上るとともに、住友の東京進出の基盤ができた。住友建築課としても、当時全国の注目をひいた明治大帝の偉業を永遠に顕彰するための、青山の聖像記念絵画館の設計競技に、長谷部さんと私とが入賞した。二人揃って入賞することは、一人が入賞することよりも、住友建築課の名声を揚げるのに遙かに効果があった。

この頃から野口孫市先生に初まり、日高先生によって主宰される住友の建築課というものが、その存在を広く建築界からも、一般社会からも認められはじめたのである。

野口先生は人も知る名デザィナーであった。日高先生も極めて行届いた設計をする優秀な設計者であった。先生の防火に対する周到なる諸技術が今回の成果を齎したことはもちろんであるが、その跡についていったわれわれも防火の点では完璧に近い設計をするように訓練されたものである。その結果第二次世界戦争の空襲に際しても、住友関係の銀行会社の建物およびわれわれが委託を受けて設計した建物は、大震災後の住友銀行東京支店と同じように火災を免がれたものが多く、これらの人々から戦後大いに感謝されたものである。

住友銀行東京支店の建物が、大震災の結果、何等の損傷を受けなかったということが、財界における住友の地位を高めるに非常に役立ったということは、また住友内部での建築課の地位をも若干高めた。今まで直接営利に関係のない、いわば、消費的な存在として軽視されていたものがこれもまた住友発展に一役買ったという観念が生れたのかも知れない。そして住友の事業の幹部も、建築課を自ら高く評価するようになり、われわれも、今までよりは比較的建築設計者として、尊敬してくれるように感じてきた。とかく営繕や建築に従事するものは、自社の者から軽視されやすいものであるが、住友に関する限りではそうでない気運に向ってきた。そうすると不思議なもので、社外からも自然住友の建築課というものを、高く評価するようになるのである。そして、また課員も皆住友の建築課員であるということを誇とするようになってきて、自然各人が技術の向上に専念するように



住友ビル本社



住友営繕課時代

なる。これがまた一層世間の建築課に対する評価を高め、原因が結果を生み結果がまた原因を生むこととなり、名声は次第に向上していくこととなる。われわれはこの時代を最も幸福な時代と思っていた。

住友ビルディングの設計変更

住友の幹部は東京の戦災に鑑みて、大阪の新築中の住友ビルディングをあのままでよいか再検討した。戦災後の私の米国滞在中から私の病中にかけて、次の変更が加えられることになっていた。

1. 7階建を5階建に変更する。
2. 原設計には、大衆向建築として窓の防火扉は付けてなかったが、全部の窓出入口に防火扉を設ける。内部の造作も出来るだけ、不燃質のものとする。
3. 外部に賃貸することをやめ住友の関係会社だけで使用する。

第2、第3の変更はわれわれにも納得出来る。東京の建物が残ったのは、正しく完全に外部からの火災を防止できる設計であったために違いない。またいかに設備が完全であっても、これを正しく使わなかったら内部の延焼は免れない。東京の場合も住友銀行の庶務課長が一身を挺してこの設備を完全に整え、建物が四方から火災に包まれ、内部は焦熱地獄の暑さであったのに、一歩も退かずに守ったために、この成果を挙げ得たのであって、多数の賃貸人が入っていたのでは統制が取れず、恐らく他の建物と同様に内部に延焼しただろう。

こういう見地から第2、第3の変更は、われわれにも納得できるが、7階建を5階建に変更することに対してはどうも納得ができない。耐震的には充分の強さがある。平面計画は変らぬまでも、外観は不釣合となるのを免れないのである。

今日でもあの建物が建築規則による高さの限度まで建っていたら、さらに偉観を添えただろうと残念に思うのである。

7階建を5階建に変更した理由は、われわれの周囲の人はだれも知らない。ただ住友の家長様が総理事に命じて、顧問の伊庭貞剛さんに相談された結果から定まったのだ、と聞かされているのみである。

しかし、当時われわれの想像していたことは、東京震災の結果第2、第3の項はどうしても変更したい。それには工費も嵩むから2階削って、その費用をこれに当てよう。また住友だけで使うのであれば、面積も5階あれば足るではないかという理由ではないかというのであった。

住友ビルディングの第一期工事はこうして耐震とともに耐火に重点を置いて進められていった。

財　界　不　況

科学が進歩し、破壊力の強い武器が使用され、物量で戦う時代の戦争では、その後には勝った国にも、負けた国にも、不況が二度くるようだ。

近代の戦争というものは、急激な大消費であると同時に、大破壊を伴うのである。戦争の終結とともに大規模の戦争資材の生産が止まる。工業界には生産の転換が必要となり、戦時資材の価値低下をきたす。そして不況がきて経済界にも人員の整理が始まる。

これら戦時中動員された生産業界は、戦争によって破壊されたり、供給不足となっていた物資の生産に転換する。その需要は自然平和のつづいた時に必要とする量の数倍になる。この時の数倍の需要率は、破壊されたり、供給不足であった穴埋めが済んでも永く続くものと誤認され、無暗に増産の設備をする。やがて数年を経って穴埋が済み、あとは平常の消費だけの需要よりなくなると今度は設備過剰生産過多となる。こんな時代に輸出しようとしても、他国もまた同じ状態にあるので、輸出も伸びない。そして再び不況に襲われる。そして第二回目の不況の来るのは大概戦後10年のようだ。いかに供給不足や大破壊があっても、10年すると正常の状態に帰るものと思われる。

第一次大戦の後10年を経た、昭和5年頃に、この不況が起ってきた。

経済界は大恐慌である。銀行までも破産する状態である。労働問題のさほどやかましくなかった昭和の初めのことであるから、各所に人員整理大馘首が始まるのである。堅実な経営をしていた住友といえども、この必須の天理から免れ、超然としていることは出来ない。

まづ、事業店部から馘首が始まって、今日は九州で40人、明日は大阪で50人と、連日のごとく離職者が出る。住友にも明治45年と、第一次世界大戦の終結した大正8、9年に社員整理があったが、今度ほど大規模ではなかった。

社員は皆いつ自分に申渡しがあるかも知れぬと、安き心もない。馘首になった人の中には、随分優秀な人と見做される人もあるが、比較的高齢で高級であるがためであろう。

こんな時、何時も本社の方は後回しになるという噂があったが、非生産的な仕事をしている工作部も本社の中にあるので、整理が遅れていた。

当時は住友ビルディングの第2期工事も済み、東京の住友ビルディングも工事が完成に近く、大不況のこととて建築工事はほとんどなく、しかも工作部には最盛時には140人位の人がいた。

本荘理事も工作部長をやめて、温厚な日高先生が工作部長であったが、遂に工作部も馘首の悲運を免れることはできなかった。

あの人の良い日高先生が、苦しそうに退職の申渡しをされている有様は、外の見る目にも気の毒であった。部員は皆優秀な人であったが、中でも小川安一郎、平尾善治などという抜群の技倆を持った人も、年長の故をもって整理されていったのである。

これらの人が申渡しを受けて、工作部長室から出てくる時の面貌は悲壮である。中には捨鉢な言葉を残していく者もあれば、直ぐ外に出て酒をあおって来て私達の席にきて毒つく者もある。だが、この人達の将来を考えると実に目頭が熱くなるのを覚えるのである。

さて、私自身はどうであるか。Kの手紙以来何となく重役の私を見る目が違うように感じていた。私もいつ同じ運命に陥る日が来るかも知れぬと安き心はない。

財界の不況はなおも続く。設備過剰、生産過剰は何か新しい急激な消費がないかぎり救われない。過去においては幸か不幸か約10年毎に戦争があったが、今度は中々そういう気運にも向わない。しかし、財界も民衆も次第に焦燥観を呈してきていることは事実である。

整理が進み、残る工作部員が7、80人になった時、日高先生は停年の故をもって退職せられた。顧れば先生が住友の建築課の名声を挙げることに貢献せられたことは大きい。そして先生は関西の地を去って、東京に老後を養うことになったのであるが、時々西下せられる度にわれわれで迎え、往時を偲んで一夕の歓談を尽したものであった。

長谷部さんが工作部長になってもいっこうに財界は好転しない。

工作部には、建築、工作、工務という三課があって、私はその頃建築課長と工作課長を兼務していた。

工務課長には最首一治という一つ橋出の私と同年の非常に真面目な人がいたが、最首君の話によると工作部は他店部の建築の設計料を貰っても、まだ大きな赤字で、一応馘首の大嵐は済んでも、このままでは済むまいといって私達同様戦々兢々たる気持でいるらしく見えた。

工作課というのは、元は他の店部に勤めていた、電気機械の技術者を集めた課であって、大阪港の住友埠頭の繋船岸壁の仕事や、連系会社の荷役運搬施設や、建築の手伝等をしていたのである。

工作課の課員というのは、住友が数年前計画していた、宮崎県耳川の水力電気の計画のために官片からきた電気土木の技術者が多く、耳川の発電事業が途中頓挫したために本社に工作部を作り、その下に建築課と工作課の技術者の課を設けたもので、その他に別子の鉱業やその他の事業店部で席のなくなった人も、技師となって工作課に席をおいていた。

技師長もいれば技師も多数いて、大学卒業年度からいっても、年令からいっても私よりはずっと古い先輩が多く、私には坐り辛い課長の椅子であった。

しかし、土木、電気、機械の技術者は、建築の技術者よりも人物が鷹揚でこせついていない。それが工学のこれらの科を出た技術者が、世の中に出て大きく用いられる所以かも知れない。私のような者が課長になってもなんとかやっていけたのは、この人達がみな良い人であったのも一つの理由であったかも知れないが、一つは職業が生むこの人々の性情のためであっただろう。

住　友　金　庫

住友の店部の中、不況の影響が一番強かったのは、鉱業、石炭、倉庫等であるが、金属とくに住友製鋼所などは経営が苦しいらしかった。

その頃住友の製鋼所の設計課長に、玉井という人がいた。宗教家らしいところがあり、その言動も神がかり的なところがある変った人だったが、仕事にも極わめて熱心であった。

この玉井さんが私のところにきて、建築はまだほかの産業に比して景気が良さそうだが、われわれの方でできるもので建築方面の仕事はないか。鍛造と鋳鋼の仕事がなくて、工場は閑子鳥が鳴きそうで困っている、といわれる。なるほど建築界は景気不景気が、1年乃至1年半遅れてきて、今のところ建築界も閑散とはいえ、まだ他の産業より見れば羨しい位良い方である。しかし、建築の方で鋳鋼や鍛造の製品を使うことは稀である。何かないか考えておこうと答えると、それ以後再々私の机の横に坐り込みにこられるが、私にも製鋼所救済の役に立つような名案はない。

玉井さんは建築鉄骨のベースの部分が、非常に鉄骨が複雑になっているが、あれを鋳鋼で作るから使って貰いたいといわれる。

考えて見れば同型の柱が沢山あれば使えないこともないが、数百ならともかく、20や30同じ型で作ったのでは、コスト高になる。それでも何とかして作らせてくれぬかと強硬に出てこられる。

当時は製鋼の事業というものは、経営が困難らしく、製鋼所にいって見ると、他の住友の工場と違って、合理化と節約が徹底していて、気の毒なくらいである。

ある日、内藤多仲君に会った時、何か建築の方面で鋳鋼製品の量産の出来るものはないだろうかと相談したら鉄骨の柱と梁の接続点に、ステーの付いたアングル様のものができたら、相当需要があるだろうと教えてくれた。今日から考えると誠にチャチなもので、アングルの入隅の中央に三角形の鋼板を熔接した形のものであった。熔接がまだ使われていない時代だったから、これを鋳鋼で作っても引き合ったのだろう。

玉井さんに教えてあげたら悦んで、上司とも相談して「住友のトップ・アングル」として特許をとり、立派な「カタログ」まで作って売り出された。

住友の製鋼所の不況は、「トップ・アングル」位のもので救われない。玉井さんはまた毎日のように私の机の横で頑張って、「何かないか」、「こういうものは使えないか」とねばられる。

熱心が過ぎて私の仕事の邪魔になり少々迷惑だが、変った人だから他人の迷惑などはお構いなしである。しかし好意の持てる人であり、仕事に対する熱意には頭が下る。

私はある日考えた。建築に使う鋳鋼で一番大きいものは金庫扉である。その頃鋳鋼技術も進歩してきて、金庫扉もラミネーテッド・タイプ（合板形式）から、キャスト・タイプ（鋳物形式）に変りつつあった時代だから、仕事が複雑だが、製鋼所にできぬこともあるまいと。

先年米国に滞在して金庫扉を買う時、金庫の構造、種類、各製造者特徴等は充分調べてきたことだし、まだ日本にその製造者のないことを残念に思っていた時である。

玉井さんに金庫扉製造の話をし、その構造を説明したら、金庫扉の框および扉の外郭の鋳物はできる。しかしドリルにも、ガスの炎にもたえる扉の充塡物ができないのと、精密な機械仕事が困難だといって、二の足を踏んでいた。

しかし、私としては、あの高価な金庫扉が日本でできたら、輸入防圧にもなるし、また住友の仕事としては相応しいのではないかと思ったのである。

住友電線製造所に、志田という電気の工学士で常務をしていた人がいた。大学は私と同年であるが、器用な人で自分で家具なども作るし、またいろいろと物の工夫をすることの好きな人である。

何かの会合の席で志田君に金庫の話をして、ドリル・プルーフでバーナー・プルーフの材料はないかと聞いてみた。

「住友金庫か！それは面白いな。それには幸に住友電線が特許を買って持っている Wiedia というのがある。これは電線を引延す時に、引出口のダイスに使うのであるが、これならどんなドリルを持ってきても大丈夫だ。それに製鋼所には耐熱鋳物の特許があるはずだから、この二を組合わせれば良い。Wiedia は独乙語の Wie diamand の略語で、ダイヤモンドの如く堅いというもので大体は Tangsten Carbide だ。よし！おれが見本を作ってやろう」という。

電線製造所の常務が、こんなものの見本を作るというのも変だが、数日後1尺角ばかりの Wiedia の破片を何かで練り合わせたものを作ってきてくれた。志田君という人は、そういう風な気軽な良い男だったが、惜しいに大戦争の初期に急病で死んだ。

玉井さんは、志田君の作った見本を持って帰って、幹部と相談の結果、住友製鋼所は住友金庫として金庫扉の事業をやろうということに決ったようだ。そして機械的な部分は、住友職工養成所に工作機械があるのでそこでやることとなった。

住友で金庫が出来るとすれば、当時計画中であった住友銀行の広島支店、その他にも使うことができる。このことを銀行当局にも了解を得て試作してもらうことにした。

住友職工養成所の所長は尾形作吉という老人であった。ある日住友ビルの食堂での尾形さんの話では、外国製の金庫扉を見たが、精密度が悪くあんな工作では機械の中に入らぬと自慢しておられたので、さぞ立派なものが出来るに違いないと期待していたのである。

住友職工養成所で作っていた住友金庫が、いよいよでき上ったので見にきてくれというので出かけていった。なるほど立派にでき上り、外国製になんら損色がない。大成功だと思った。

ところが係りの人が、扉を閉めて見せようとしたが、最後のところで閉らない。養成所では昨日まではうまくいったのだが、といって首を傾げる。結局精密過ぎて閉らなくなったという結論だった。

私は尾形老人に

「尾形さん、過ぎたるはなお及ばざるが如しですね」

といって皆で大笑いした。

しかし、精密度は修正されて、立派な金庫ができ上った時は、私も嬉しかった。

住友金庫はこうして生れ、まづ新築せられる住友銀行の各支店に使われ、その後日本銀行の大阪支店にも使って貰い、満洲中央銀行にも使って貰ったようだ。

製鋼所では、その後金庫室の壁のライニングも、金庫扉の充塡物と同じ材料で作るようになった。

その頃、河井昇三郎君が、製鋼所の常務をしていたがある日私に

「日本銀行が金庫室にライニングを築造することになり、文書課長の岡野清豪氏が、北区の宿屋に来ているので、一緒に会いにいってくれ」といって来た。私は初めて同氏に会った。そして住友のライニングのことを説明した。同時に日本銀行本店に、Y金庫を採用するに至るまでの同氏の苦心談を聞き、私がY金庫扉を住友ビルディングに採用したことの可否の裏書をして貰った結果になったことを謝したことだった。その後、種々折衝の結果、住友製鋼所のライニングが採用されたことを知らされた。

こうして、住友金庫は次第に販路を拡げていったが、そのうちに第二次世界大戦が拡大し、住友製鋼所も金庫など作っていられない時代となり、その製造を廃止して今日に至っている。

長谷部・竹腰建築事務所の創設

連系会社の店部の職員解雇はあい変らず続いている。一時のように多数同時に解雇せられたのではなく、間隔をおいて小数宛行われていった。そして遂に工作部にも縮少の命がきた。

日高先生時代には、解雇の場合は自身で決行されたが長谷部さんにはその性格からいってこういう仕事は無理な仕事であるから、本社幹部の圧力は、いつからともなく私にかかってくるようになった。

長谷部さんは、温厚で無口な好紳士である。私は永年隣に坐って共同で仕事をしていたが、私の方から口を利かねば殆んど1日中話をされず、孜々として図板に向って考案に熱中する芸術一筋の人である。人も知るように意匠設計の技能は抜群で、当時並ぶものはないくらい卓越したデザイナーであった。

解雇は多くの場合、人数が指定されて来るが、日高さん時代から解雇される人の心境、その後の生活等を見ていると、誠に気の毒で人の世の果敢なさを感じさせられる。それにどの人を見ても、永年机を並べて仕事をした人ばかりで、だれに白羽の矢を立てようもない。それでも世の中全体が不景気でもなかには有能な人を需めているところもあるから、私は全力を尽してこういうところを探し、就職口のできた人からやめて貰うことにした。

最も困難を感じたのは、工作課の人である。土木、機械、電気の技術者の行く先を探すことは、私にはほとんど不可能である。もっとも2、3の人は建築の電気関係の会社や私の同級生が重役をしている請負会社の土木部に採用して貰ったが、こんなことでは要望の数に充たない。これはやはり住友の連系会社の中に頼んで転勤して貰うよりほかに路はない。なかには当時の顕官の縁者もある。この人にも退職して貰うのかと人事課に詰め寄るとなんとか始末をしてくれといわれる。それでも連系会社の幹部をおどしたり、平身低頭して頼んだりして、大部分に転勤を承諾して貰った。なかには同級生が幹部をしているところに、無理をして採って貰ったところもあるが、不況で人事縮少の間でも、こうしたことのできるだけ住友も大きくなったものだと思った。

こうして、1、2年の間に相当数の人が、伝統ある住友の工作部を去って往った。そして30数人の人が残るのみとなった。永い間の伝統と誇とを持っていた住友の建築課を去っていく人の心境を思うと、涙なくしてこれら去りゆく人に接することはできなかった。ただ私が工作部縮少の衝に当って以来、住友退任後の職業のない人を作らなかったことを、せめてもの慰としていた。

工務課の方は事務系統の人が主であったが、課長の最首一治君がこれも苦しみながら整理に当っていたが、この時代でもまだ技術者の始末の方が楽であったため、その苦慮の状態を見ると真に気の毒であった。昭和8年になっても、世界的な経済界の不況はなお続いた。人心は焦燥を覚え始める。不況は財界のみでない。軍備は縮少され、軍人の失業者が非常な数に登ってきた。国民の貧困は深みに入るばかりである。大陸に突破口を見つけようとしてことを起すまでになったが、まだ不況を打開するには至らない。

われわれの住友の工作部にも、いよいよ最後の日がせまりつつあった。

今日までに建築の技術者、約40人だけ残るまで迄に減員したのであるが、財界の不況のため住友内部にはほとんど建築の仕事はなくなってきて、工作部は1年の赤字約10万円、このままでいったらこの赤字はさらに多くなる、という話を聞かされた。

私はこの上はさらに多人数の馘首か、または住友以外の仕事をも引受けて、この苦境を脱するよりほかに道はないと考えていた矢先に、大阪株式取引所が新築することになり、理事長の浜崎定吉さんが、元住友にいた関係で私が懇意にしていたので、私のところに相談に来られた。従来とても旧大阪倶楽部など住友以外の建築でも、委嘱を受けて設計したものもあるので、幸に閑散な折でもあるから、重役にも相談してその設計を引受けることにした。

ところが設計も漸く進捗した頃、思わぬ故障が起った。

ある日渡辺節さんほか2、3の人が住友にこられ、住

友の建築課が住友以外の仕事をすることは、市井の建築事務所の業務を圧迫することとなり、住友の社会における位置から考えて、そういうことは止めて貰いたいというのである。

成程一理ある抗議である。

これに対し住友の幹部は、どう答えられたか知らないが、一応われわれにもその事態が知らされた。住友としてはその財界における地位、信望からも、他の怨を買うようなことは避けねばならず、一応そういうことも考慮せねばならぬものと考えられたようだ。

しかし、一旦引受けた仕事であるから、今さら断ったのでは却って取引所に対し住友の不信を招くことになるので、この仕事は続けられた。そして住友の建築課としても、外部の仕事をする以外に不況突破の道はないのである。

渡辺さんの抗議が動機となったかどうか知らないが、住友の幹部の話として、工作部廃止論が噂に上るようになってきた。

もし、当時住友の建築課というものが、技術の点においてなんら取るに足らぬものであったら、何の躊躇もなく廃止せられていたことだろう。

しかし、野口、日高両先生によって培われ、技術における誇りと伝統とは今は外部の人からも認められ、また住友の内部においても技術に対する信頼を克ち得ていた。また、かっては住友の業務の信用とその発展向上にも、一役買ったことのあるのを認められている。こういう工作部を簡単に取潰すことはでき難いという雰囲気も一部にはあった。

財界の不況はいつまでつづくか見当もつかず、連系会社の経営も苦しく、したがって本社の経済も苦しい。こんな際、幹部の一部の人の間とはいえ、工作部解散の説が出されると、われわれ工作部員は居辛くなる。

住友ビルディングも、東京の住友ビルディングも全部完成した今日、住友としても、その本拠である住友ビルディングを作るために設けた建築課であるから、その任務を果した以上、その存続の意義がないと考えることは無理ではない。また頗る合理的な考え方である。

今日とは異り、その頃は労働問題もさほどやかましくなく冗員整理は割合に簡単に行われていたのであるが、工作部廃止、全員解雇となると問題は大きい。

重役の中には、解散に対しては慎重論を唱えていた人もあったと聞いている。私自身のことをいえば、大正9年京都帝大の建築科に転ずることになっていたのを、当時住友から態々断って、住友に留めたという経緯もあるので今さら不用であるからといって、簡単に解雇することも、徳義上考えねばならぬという考慮もあって、解散論の実行が躊躇せられた一因であるとも噂されていた。

こうして荏苒(じんぜん)日を過している中に、また工作部縮少論が起ってきた。

今日まで度重なる縮少で、最盛時の3分の1となったものを、さらに解雇縮少することは、私には到底できない。私自身が自ら退く外はない。否私だけ退いたのでも、現在の工事量にあうような規模にするには、相当多数の人も退職せねばならぬだろう。私自身このような時代に退職しても、新しい就職口もないだろうが、今日となっては同時に退職する人はどうなるだろう。一方には又工作部解消論が、相当強力に前面に押し出されている。

こういう周囲の状況のもとに、坐り心地の悪い椅子にいつまでも頑張って、会社の命をまっていることは苦しいものである。何とか解決の道を、われわれ自身で考えねばならないと思うようになってきた。

住友本社としては、工作部を解散するのが、最も良い方法と考えていただろう。元本店社屋建築のために作った時臨建築課が発展して、今日の工作部となったのであるから、その本来の目的が達せられた今日、住友事業の本体とは関係のない、厖大な非生産的な部課を抱えておくことは、贅沢だと考えることは無理もないことである。

工作部解散という線に沿い、本社の経済的の負担を除く案としては、長谷部さんや私を始めとして、建築技術者全員が退職して、一団となって設計の事務所を開設して、自立することである。

私の同期の者や、先輩にも自分で設計事務所を経営しているものもある。しかし、永年俸給生活をしてきた私達が、急に設計事務所を開いて果してやっていけるだろうか。また私達にその経営の能力があるだろうか。長谷部さんは、設計の技倆は比類のない程勝れておられる。しかし、聖者の如き性格では、世の荒波を乗り切っていくことができるだろうか。翻って私自身、自分を観察し

てみても、長谷部さんに比べれば俗人であるが、設計事務所を経営していくような能力があるとは信じられない。その上住友という温床にあって、仕事は自然に流れてくるし、広く世間と交ることもなかったため、自ら性格が非社交的になっている。同級生との会合の節も皆の評は、私のように頑固で、無愛想で、非社交的な者は設計事務所など出来ないという。

これらを勘案していくと、この案は最も会社の希望に沿う案であろうが、われわれには自信のない不安な仕事で、遂には失敗に終って世の物笑いとなり、野口先生以来の伝統も誉れも失われる結果となりはすまいかと案ぜられるのである。

しかし、今は現在のまま無為に過し会社の処置を待つか、自発的に会社の希望に沿うように動く積極案をとるか、何れかに決せねばならぬ破目になった。

私の性格からいうと会社の欲しない現状に恋々として須臾の安逸を貪ることは出来ない。長谷部さんに相談したら、やはり皆んで退職することを申出た方が良かろうという説である。

私は意を決して会社の幹部にこの話を持出し、縁あって永年住友に勤務したのであるから、われわれのいる限り独立後はできるだけ住友として、援助して貰いたいと申し出た。

この申し出は会社としては、願ったり叶ったりで思う壺である。

しかし、この不況時代に工作部解散全員解雇となると、住友としても軽々しくは扱われない。われわれのこの悲壮な決意は非常な同情を買い、その態度を潔しとして、できるだけのことをしてやろうということになった。大正8年の春3月のことである。

住友本社のこの問題を処理する事務当局は、経理課課長の小林晴十郎君（後の住友化学社長）である。小林君は科は違うが、一高以来の私の後輩である。大正6、7年頃は、他の2、3人とともに、私のところに謡を習いにきていたので、極めて親しい間柄であるから、私等のために好意をもって取扱ってくれることはもちろんである。

最後に本社案として示されたのは、次のような極めて恩情のあるものであった。

本社は永年住友で働いた長谷部、竹腰の二人が、建築課員を率いて独立するならば、その事業をできるだけ応援しよう。しかし、せっかく貰った退職慰労金を費い果すようなことがあっては悪いから、事業を始める資本金は、二人の退職金以外に別に出してやる。その額は5万円である。万一、5万円使い果してなお経営ができぬ時は、さらに5万円出してやる。これが限度である。

それには資本金10万円払込5万円の会社組織にした方が二人の無限責任とするよりは、退職金も保持されてよかろう。君等二人には300株づつ貸し渡す。他は住友本社で持つ、重役は本社銀行の君等二人の親しい人になって貰ってやる。名前は長谷部竹腰建築事務所とするがよかろう。そして本社には2、3の技術者を残して営繕課を作るから、二人は当分本社の嘱託にしてやる。

これはまた、何んという恩情の籠った思いやりのある取扱いであろう。私は涙なくしてこの有難い申し渡しを受けることはできなかった。恐らく住友として、前後に例のない破格の取扱であったと思われる。

先輩の相当重要な地位の人々の退職の例を見ると、多くは職に恋々として居坐り、遂に気まづい思いをして互に悪い後味を残して去るのが普通である。われわれのように非常な同情を受け、思いやりのある取扱いを受けて去るもののあったことを知らない。小林君は「これは君等が潔い出方をしたためだ」といってくれた。

一切の法的な手続きは、経理課長の小林君のところで遺漏なく進めてくれた。

ここで一番問題になるのは、建築事務所の経営を株式会社の組織でやることである。建築設計の業務は、外国では医者、弁護士とともにプロフェッションであってビジネスではなく、個人的な技能の信頼による職務とされている。その業務を株式組織ですることは、古今東西に例がない。私には今後の運営上、その可否の判断はできないが、われわれの退職慰労金に手をつけさせまいという、本社の思いやりは有難い。それに先輩の建築事務所の経営をみてもみな苦しく、不況の時は、先生よりも所員の所得の方が多い時があると聞かされた。

温床に育ったわれわれ二人に、先輩の経営者より良い経営ができるとも思えないし、いずれは資本金も食い潰すくらいが落と考えるのが当時の常識であるから、疑問を持ちながら本社のいわれるまま、世界にも例のない日本唯一の株式会社の建築事務所で出発することにした。

当時工作部の建築の技術者は約40人いた。しかし、住友化学工業の方が、空中窒素から硫酸アンモニウムの人造肥料を作る事業を完成しつつあったので、吉田知之君ほか3人建築課から出向いていた。また四国水力電気の方にも出向いていたので、これ等の人々は各出向先の会社に引取って貰うように努力した。これらの連系会社でも、建築の幹部級となると将来のことも考えるから、定ったように将来建築の工事が済んだときに、他の一般的の業務もできるかと聞かれる。吉田君のごときは何でもで来る人だということを保証して採用して貰ったが、果して後に安東軽金属会社の常務として、戦争中満洲に活躍していた。

そのほか営繕課に残す人を除けばわれわれと一緒になる者はちょうど30人となった。事態がこう決定してくると、一面今までの不安定な地位のための焦燥感は去ったが、他方将来に対する不安感が生れてくる。大会社に俸給を貰って安定した生活をすることは、人生にとってはあまりに恵まれ過ぎた幸運である。この幸福な生活から去り、危険を侵して自分の責任で経営するとなると、果して将来にどんな運命が待っているだろうかと不安にたえない。

こんな時には、平素何気なく見過していた世の中を、別な観点から見るようになる。床屋でも、うどん屋でもどんな小さな職業でも、自身の責任で経営しているものが偉いものに見えだした。

宅に出入の悉皆屋の番頭がいる。彼には妻もあれば子もある。それが1年程前から独立して、菊屋という名で営業を初めた。永年月給取りをしていた私は、この頃になって妻に「菊屋は偉いね」といったが、妻はあまり感じないようであった。私は女は幸だと思った。

当時の設計による収入を予想して支出を考えてみると30人が住友時代の俸給を取っていたのでは、資本金などたちまち食い潰してしまう。何とかせねばならない。そこで私達二人の月収は住友時代の3割カットと定め、池田宮彦君以下の人にもそれぞれ若干の格下げをして貰うことにした。

工務課の方は課長の最首君が、これも毎日を悲痛な面持ちで仕末に奔走していた。大部分が事務員であるし、営繕課に残る者もあるので数人の始末が氏の仕事である。氏の努力で転勤等で片がついたが、問題は氏自身の処置で、本社といろいろ直接交渉していたが、本社が転勤させようという連系会社が氏の意に満たないのと、工作部が解散し、建築課が30人袖を連ねて解雇せられるという何となく騒がしい雰囲気の中にあっての昂奮から、氏の希望している地位を与えてくれねば、退職するというのである。この時節にせっかく本社が転勤させてくれるというのに、振り切って去るというのはもったいない。命のとおりにしてはとすすめてみたが、氏も中々の一徹者で聞かない。遂にわれわれと同時に辞職してしまった。氏には本荘工作部長のような事務出身の人で、人の面倒を見てくれるような人が上司にいなかったことが不運であったのだ。

当時の建築界の状況からみると、建築事務所などは技術者だけでやることが出来、事務関係はほんの一人か二人補助にいれば良いという考え方であったので、最首君がわれわれの事務所に来ることなどは思いもかけぬことであった。またこんな先の暗い仕事に技術者なら止むを得ないが、君程の人が入るなどということは想像もできない時代であった。

それにしても、折角転勤させてやろうというのを振切って、やめるとは惜しいことをしたものだ。しかし、氏は故郷に帰り、後年戦時となって企てたある事業に成功した。

こうして、昭和8年5月18日愈々住友銀行船場支店の4階の空室を借りて本拠とし、長谷部竹腰建築事務所が出発した。所員は住友建築課の伝統と栄誉とを持った、互に気心を知り合った者30人である。皆悲壮な覚悟でこの不況時の難局に処することを誓った。また私は所員一同と次のようにかたらった。

今不況のドン底に、われわれは新しく建築事務所を発足したのである。住友関係の事業会社には、今のところ殆んど建築の仕事はない。自然外部の仕事の委託によらねば、事務所の経営は成立しない。結果は他の同業者との競争ということになる。しかし、欧米の例からいっても、アーキテクトの仕事はプロフエッションであってオーナラブルな仕事であり、社会的な地位も普通のビジネスマンより高く見られている。請負人や一般の商人はビジネスマンであって、英国などは手紙でも、請負人にはMr何々と書くが、アーキテクトには何々エスクァイヤーと書いて尊敬の意を表されている。したがってアーキ

テクトは請負人やビジネスマンのような、見苦しい競争はできないことになっている。

われわれは建築の技術においては、住友建築課の伝統と栄誉を受けついでいるから、充分の自信がある。また世間も認めている。この栄誉と技術を持っておれば、不潔な技巧を弄して仕事を需めずとも自ら委託者があるに違いない。また醜悪な仕事の獲得は、その品位を害するばかりでなく、ひいては昔育成された住友というものの世間の信用をも損ずることとなる。いかに繁栄しても、建築界から指弾され、嫌悪されるようなことになりたくない。われわれは建築界全体からもまた、社会一般からも尊敬される建築事務所を作りたい。と。

これが事務所発足の当初における希願であった。

果して、昭和8年中は収入は少く、年末に所員に出す賞与にもこと欠く程であった。苦しかった昭和8年も暮れた。来ん年に幸あれかしと祈りつつ事務所最初の新春を迎えた。

株式会社解散

世界にただ一つよりない株式組織による建築事務所は、事務所が繁栄していくにしたがって、その経営に矛盾があらわれはじめた。

われわれの貴重な退職慰労金を失わせまいという住友本社の思いやりで、5万円の株式会社を作って貰ったのであるが、当初の半年のように僅かの収入で利益もないような場合は、金5万円という極少資本で処理して、決算面が都合よくいく。しかし利益金が資本より非常に大きくなると、会社のため非常に不利になるのである。

もちろん、不況のドン底に、はてしもない暗黒境を前途に望みつつ、自信もなく不安に馳られながらやむをえず乗りだした仕事であるから、普通ならばこの組織で十分であるべきである。

しかし、苦しかった昭和8年が過ぎ9年の下半期頃から僥倖といおうか、幸運といおうか、財界も景気もやや上向きとなり、仕事も増してきた。そして10年には仕事の量も非常に増し、利益が資本金の十数倍になってきて、昔日の危惧と不安とは長夜の夢と化した。辛苦艱難を切り抜けた創立当初からの30人は、寝食を忘れて働いた甲斐があったことを、互に手を握って悦び感激の涙を流したものである。

こうなってくると資本金が小さいことと、その上株式がわれわれ二人の600株を除く全部が住友の所有であるために、住友の同族会社ということになり、莫大な同族加算税を課せられ、利益金の大部分は税に取上げられるのである。

税務署の調べの時も署員が、気の毒だと思うが、組織がこうなっている以上やむをえない。この業務を株式組織ですることは間違いである。大資本とするか、または個人の匿名組合とすべきである。と署員があまりにも気の毒に思ったのか教えてくれた。

私は私から願って、住友本社には迷惑と知りつつ、他の連系会社と同じように、住友本社の定期の会計検査をして貰っていたが、検査の報告も税務署のいうところと同じであった。

3年前の悲惨な状態を思うと、今昔の感にたえない。嬉しい悲鳴である。

住友本社の経理課長の小林晴十郎君に相談したら、もう将来の目算もつき、経営の自信もできただろうから、改組して長谷部君と二人の匿名組合とした方が、働く人にも働き甲斐があるだろう。株式会社解散の手続きは、住友本社でしてやろうということになり、昭和11年に株式会社を解散し、長谷部竹腰二人の個人経営に改組した。そして小林君の慫慂で出資金5万円を住友本社に返済した。小林君の説では当時の事務所としてはこの位の額は僅かであり、返却した方が住友本社会計の処理が容易であり、かつ欠損して失ったのなら良いが、利益が多いのに退職金のほかにさらに贈与することは、悪い前例を作るということである。誠にもっともな話である。

旅立ちに親の慈悲で作ってくれた麻衣では間に合わなくなり、錦とまではいかなくとも、せめて絹の衣を着たい迄に児が育ったのである。しかし、いつまでも麻衣の時代の一生懸命に心を合わせて働いた時代が懐しい。

こうして世界で唯一の株式会社の建築設計事務所も、遂に消滅したのである。

昭和12年3月、合資会社住友本社が解散して、株式会社住友本社が生れた。これはまたわれわれの場合とは逆である。

この手続きも小林晴十郎君の手許でやったのである。小林君、ひそかに曰く、「この改組をやる手習のため

に、貴方のところをしてあげたんですよ。」

私「道理であまり親切が過ぎるように思った。」

東京に事務所を

昭和11年春、住友銀行の秘書から電話があって、重役が会いたいとのことであるから、きてくれといってきた。いってみると、岡橋さんから私に次の話があった。

今度東京の手形交換所が、日本銀行の裏手に新築することになり、建築委員が出来た。三菱銀行の串田万蔵、三井銀行の万代善四郎、安田銀行の森広蔵、第一銀行の明石照男、第百の関根各頭取と住友銀行は東京の支店長の野田哲造が建築委員となり、安田の森広蔵氏が銀行協会の会長である関係から、委員長をしている。そして各銀行が推選する建築士の間で、設計の競技をして、当選者に設計監督を担当させることになり、森委員長から住友にも良い建築家がいるそうだが、推選してくれとのことだったから応じてはいかがというのである。

これは有難い話である。当落は別として、この競技に大阪者が入れて貰えることだけでも、光栄である。私はその厚意を深く謝し、ぜひ推選して頂きたいと頼んでおいた。

審査員はと聞くと、各銀行ともそれぞれの技術の機関もあることだし、加盟銀行の主なものの投票で、多数決で定めるということである。

もちろん推選されたのは、東京でも名の知れた一流の建築事務所ばかり。大阪からはまだかけ出しの私だけである。もちろん東京に事務所など持っているはずがない。

手形交換所から、交換所の要求する室数、その大きさと必要条件を記した書類を渡され、また競技参加の建築士の提出図面の打合わせを行なうから出てこいとの通知を受取った。

交換所で集ってみると、中には名は聞いていても会ったことのない人も交っているが、多くは良く知っている先輩や、同輩である。打合わせの結果は、案は1案だけ出すこと。図面は平面図、立面図、断面図ほかに透視図、概要書だけとする。透視図は一つで良いが、他の図面および概要書は、各銀行が持ち返って慎重に調査するために、青写真にして十数組（確かな数字は今日覚えていない）提出するという協定をした、もちろん記号は暗号によるとの取定めであった。

手形交換所といえば、銀行手形の交換をする経済界の重要な機構で、手形の交換高は経済のバロメーターである。しかも各銀行の頭取が、建築委員となっているので、建築の設計者としては、この仕事は小さくとも、最も望ましい仕事である。みな全力を尽して優れた設計をするように努力するだろう。

提出の期限に設計を出したが、間もなく交換所から電話があって、あなたには1案出したか、2案以上出したかと聞いてきた。私は協定に基いて1案出した。その他の図面なども協定通り約束を厳守したと答えた。

その時の電話の模様では、2案以上出したり、模型まで持ち込んだ人があるが、協定に反したことは一切認めぬこととしたから、2案以上出した人には棄権する案を撤回して貰うため聞いているのだとのことだった。

流石は銀行家の集りで、物堅いことである。それにしても協定に違反して、2案出したり、模型まで持ち込むとは驚きいったことである。後に当選が決定して聞いて見ると、協定通りに出したのは、私と三菱の地所部だけであったという。偶然かも知れぬが、三菱と住友では人間の訓練が、似ているのかも知れない。設計の世界でも現実の厳しさに対する考えが、われわれのような温床育ちとは違うことを初めて知った。

投票の結果は幸にも、れわわれの案に対する投票が多かった。

こうして昭和8年我々の事務所開設以来初めて、東京に仕事ができた。今まで事務所とてもなかったこととて東京住友ビルディングの5階が空いていたので、1室を借りて新らしく事務所を作った。

東京事務所はこうしてできた。

交換所の設計に取りかかったが、われわれは関西で細々と不況時に出発したので、建築関係の人はともかくとして一般には関東では知られていない。しかも東京の手形交換所の設計を大阪の建築士がするということに、奇異の感があったのも無理はない。交換所の事務当局も、無名の関西の建築事務所が大事な工事の設計に当るというので、初めの間は不安があったようだ。中にはわれわれの事務所を中傷するものもあったし、また私の透視図の視点が、遠くとってあったことを取り上げ、現実には

あの角度で見ることはない。これは狡猾だいってくる人もあったとのことであった。深酷なこの業務の一面をここでも味った。

設計の決定、請負者の選定等はすべて委員会で定められる。委員がすべて大銀行の頭取で財界の大物だけあって、皆揃って立派な人々である。これらの人々と親しく接する機会を得ただけでも人生の勉強となり、教訓ともなり私は幸福だと思った。始めは大阪から出てきた無名の建築士、何をするか分らぬから注意せねばいかぬと、下僚に注意したと伝え聞いた事務長からも次第に信用して貰えるようになり、後には委員長の安田銀行の頭取は、御自分の親戚になる人の事業店舗の設計までも依頼されるようになったことを悦んだ。

工事は清水組に定まり、今の清水建設の常務の吉川君が現場主任であった。そして、昭和11年2月28日が、地鎮祭と定められたが、26日には2.26事件が起り、上京してみると帝都は上を下への大騒動だ。自然地鎮祭も3月初めに延期となったが、反徒の鎮定までをステーション・ホテルで不安な気持で送った。

こうして東京事務所の業務もその緒についたのである。手形交換所の工事が進捗していくと、工事上かれこれと日本銀行とも交渉を要することが起り、その文書課の人とも相知るようになった。

昭和12年交換所の工事が完了し、翌13年初のことであった。日本銀行の文書課長が、私に会いたいという。用件というのはこうだ。「御承知のように日本銀行の増築工事は長野博士の設計で、構造は内藤博士に依頼し進捗させていたが、いま全く完成した。

ついてはこの工事のため多数の係員を雇入れていたが、小数の営繕係員を残し、これを解散することになったが、技術者の処置について苦慮している。その内の主脳者である設計関係を担当している阪東義三君と、構造関係を担当している尾崎久助君と二人の内、いずれでも良いから貴方の方に引取って頂けないか」

というのである。

交換所の工事中関係工事のことで、阪東君には2、3度会ったことがあるが、立派な人である。尾崎君にはまだ会ったことはないが、友人の吉田享二君に聞くと、阪東君と相並ぶほどの立派な人であるとのことであった。日本銀行の増築工事といえば当時の大工事である。設計



長谷部竹腰建築事務所時代　昭和13年

主脳者は他に、これだけの工事を日本銀行にあって主宰することは非常に大きな経験である。

しかし、一方にいずれか1人採用するとすれば、現在の所員との釣合なども考えねばならぬ。また文書課長からの依頼ともあれば、あるいは将来設計の委嘱を受けることもあろうかという慾も手伝って、いずれかを採用せねばなるまいと考えた。

文書課長には考慮の上返事する旨答えて辞去した。

それにしても、いずれか一人を選ぶということは困難なことである。

東京事務所の方は手形交換所以来、委員長の森広蔵さんの推選などで、仕事の方も相当量持っていたので、これを主宰する人をおいても良いと考えられるので、幸に地位はある。本来建築事務所の主脳者には、意匠関係の人が適当と思うが、一方また業務であるから、他とも交渉の上手な人が望ましいのである。阪東君は会ったことがあるが、一応尾崎君にもあって見ることにした。

一日上京のついでに尾崎君に会って見ると、応待も上手だし、態度も立派である。構造の方が得意らしく、早稲田大学でその方面の講義をしているということだが、意匠の方面も出来ぬことはあるまい。少くとも良い意匠

設計者をリードしていくことはできるだろうと思った。選択は困難なことである。

それにしても、われわれには了解しがたい一点があった。

今度の日本銀行の工事関係者の解散は、われわれが住友の工作部の解散と殆んど規を一つにしている。違っている点といえば、意匠や構造の設計者が他にあるということだけである。しかも相当多数の人員を擁していて、主脳者が意匠の阪東、構造の尾崎という立派な人が揃っているのである。一方日本銀行側でも人の処置には苦心しておられるのである。この際、われわれが住友を去る時と同じ方法がどうして採られなかっただろうかという点である。

われわれが建築事務所を初めた時は不況のドン底で、もちろん将来に対する自信などは毛頭なく、不安と危惧の念に駆られながら困難を克服して、今日漸く経営も楽になってきたのである。

今日はわれわれが初めた金解禁の不況時とは違い、財界も稍々好転してきている。しかも、われわれのときのように資金の応援がなくとも、日本銀行という大きな力の援助があればわれわれの場合よりも遙かに有利であるなぜそれができなかったのだろう。またなぜしなかったのだろう。そして二人が別れて、われわれのところのような同じ立場から生れた新米の建築事務所に、その内の一人が入ることになったのであろうと、不思議に思われてきた。友人にこの話をして見たらそれは二人の性格から出来ぬことだという答えであった。そうするとまた、将来のことを考えて不安が生じてくる。

いろいろと聞き合わせもし、将来の所内の平和と協力とを考えると、なかなか意を決することが躊躇されて時が経つ。また私の決心がついたら、所内の人も納得させねばならない。こういう有力な人を迎えるとなれば、相当な地位を与えねばならない。そうすると今日まで苦難の中を一緒に切り抜けてきた所員の上席の者に対し、心よく受け入れてくれるように内部を工作する必要もある。この点で私は一番心を痛めた。

この間尾崎君は、私が上京する度に熱心に訪ねてきてくれるが、阪東君はその後一度会っただけでさらに消息がない。他から聞いたところでは事態を知っていることは確なのである。そういう態度が床しくは感ぜられるが、一方見方によってはくることを好まないとも思われる。

こうしたある日、住友本社から使いがきて、私に日本銀行総裁の結城さんから、小倉総理事宛の手紙を届けにきた。内容は「尾崎君が、長谷部竹腰建築事務所に就職の希望があるからよろしく願う」というのである。

ここで私の意は決した。

内部を纏めるにもこの手紙は都合がよい。かつあの熱心さと総裁を使う手段とで、将来建築事務所の主脳者として、成功するだろうと思ったのである。

幸に、長谷部君を始め、内部の主だったものも承諾してくれたので、文書課長にもその旨を答え、東京事務所に勤めて貰うことにした。

阪東君はその後病痾のため逝去されたと聞いた。あるいは縁あらば私などと事業をともにしていたかも知れぬ有為な人物、惜しいことである。

その後尾崎君の肝入りで日本銀行の仕事も1、2させて貰った。

住　友　へ　復　帰

忘れもしない。昭和16年12月8日私は、住友金属が名古屋に新工場を作っているので、翌日これを訪うために長良川ホテルに泊った。夕方わが国が英米に対し戦を宣しすでにハワイを攻撃したという言葉が、ロービーのラジオから流れてきた。私は私自身の耳を疑った。いろいろの流説はあったが、まさか英米を相手に戦争をするなどということはなかろうと確く信じていた。わが国の為政者もそれほど愚でないと考えていたからである。

私はこれは駄目だと思った。日清日露の場合と違って世界の同情がない。また日本を庇って不利になった時に、仲裁に入ってくれる者もない。窮極まで追いつめられて破滅になるだろう。何か天祐ともいうべき人智の及ばぬ出来事のないかぎり。

その夜はまんじりともしなかった。

戦争は緒戦の華々しさに比べて、18年始めともなると敗色が感ぜられるようになってきた。

北支事変の進展とともにわれわれの建築の方も忙しくなり、朝鮮、満洲、北支の各地から上海までもわれわれの仕事は伸びてゆき、昭和18年には300人に近い所員を擁する大建築事務所となってきた。数年前建築協会の宴会の席で鹸中一良というなんでもいいたいことをいう男が酔って私を捕え

「竹腰さん、私はあんたがあれだけの所員をしまいにどう処置するか興味を持って見ている。」

といったことがある。彼は酒癖が悪い。しかしそのいう所には一理ある。

戦争は酣になってきた。大本営発表の情報は、国民の多少の疑惑中にも、威勢の良いことばかり報道している。昭和18年暮のことであった。

住友本社の古田総理事が、会いたいといってこられた。何のことかと思って伺って見ると、

「突然だがもう一度住友に復帰して、働いてみる気はないかね」

と聞かれる。これは予期しない言葉である。昭和8年一旦退職し、その後引続き今日まで嘱託という、恩恵的な取扱いを受けて来ているが、私ももう今年は、57才である。本社の高等職員という、官庁でいえば親任官に相当するものでも60才が停年で、連系会社の社長といえども多くは55才で停年になるのである。今更建築技師の私が住友復帰でもあるまい。

「それはどういうことですか」

と聞く。

「実は大阪北港土地株式会社と株式会社住友ビルディングの2会社を合併し、それに住友本社所有の不動産を加えて、住友の不動産を纒めた土地会社を作ろうと思う。君にそれを主宰して貰いたいのだ。もっとも一旦やめて貰ったので、初めから社長というわけにはいかぬから、北沢君なら君も親しいし、住友本社の筆頭常務理事だから1年位北沢君に社長になって貰うことにしたい。どうかね？。」

この戦争の忙しいのに戦力とあまり関係もない、不動産会社いぢりでもあるまい。その上今の私の事務所は戦争中で住友関係以外にも軍関係の仕事で忙しいのである

「この国運を賭しての戦争の最中、しかも住友の関連事業は戦力に影響するものが多く、本社も多忙を極めている際に、不動産の総合会社を作るというのは、変ではないですか。」と聞くと古田さんは、

「それもそうだが、僕はもう一度君と一緒に働いてみたいんだよ。」

古田さんらしいいいまわしである。

古田さんのこういう殺し文句に、大概の人はころりと参ってしまう。感激して大の古田党になるものも沢山ある。

流石に住友伸銅所の一技師から、住友の総理事になるまでの人気を集めるだけの素質を持っている。

そこで私は古田総理事に聞いた。

「その場合、長谷部さんと一緒にやっている建築事務所の方はどうなるのですか。」

と聞いたら、

「細かいところは田中君、河合君と相談してくれ給え。」

という答えであつた。忙しそうであったので退去した。

古田さんに私が初めて会ったのは大正14年の冬のことであった。

当時、住友ビルディングの第1期工事が次第に進捗し建物の外郭はすでに出来上り、内装や機械設備を進めねばならぬ時期に達していた。そして、現在の住友金属工業の前進である住友伸銅所に注文してあった給湯用の真鍮管が、現場に納入されたのを見ると、肉が薄過ぎて捩子切りが出来ないという問題が起っていた。

今から僅か30年前のことだが、当時わが国の建築は今日程進歩していなかった。とくに建物の機械設備の技術に至っては極めて幼稚なものであったから、将来は大いにこの面の発達を計らねばならぬというので、住友ビルの建築に当っては、前述のとおり私がニューヨークに行きテニー・アンド・オームスという彼地の一流のコンサルティング・エンヂニアーに設計させたものだった。

給湯管にテニー・アンド・オームスの設計どおりの肉厚の真鍮管を使うと、工費も非常に嵩むし、また、耐久力の点から考えても、それほどの厚みの必要もあるまいということになり、伸銅所には「捩子が切れる程度の薄いもの」といって注文した。

ところが、出来上って納入されたものは、肉が薄過ぎて捩子が切れないというので、工作部と伸銅所との間に紛争が起り、双方にいい分があっていずれも譲らず、その間に工事は進んで今は一刻も猶予が出来ないという時期に立ち到った。

ある日工作部長の木莊熊次郎さんが私を呼び、伸銅所に注文した給湯用の真鍮管が薄すぎて捩子が切れない。工務課から掛合っているが埒があかないから、君一つ伸銅所に行って、私の使だといって古田という男に会って作り替えるように交渉してきてくれ。この問題は大分紛糾したあとだし、また古田という男はしっかりした男だから、君も敗けぬようにやってきてくれ」ということであった。

木莊さんは、もう停年近い年配で、当時設計を担当していた若年の私から見ると、上司というよりはむしろ親父という感じの好々爺であった。工作部にこられるまでは、伸銅所の支配人をしておられたので、古田さんは、いわば旧部下なのだから、木莊さんの使として交渉すれば容易に解決がつくだろうと、高をくくって伸銅所に出かけた。

当時、住友伸銅所は現在中央市場となっているところにあったが、来意を告げると、応接間に通された。そこに出てきたのは古田さんでなくて、頭の禿げた小男の、名は忘れたが庶務課長と名乗る人であった。

この庶務課長殿、私を若僧と見縊ったものか、非常に高飛車に出てきて、古田さんに何の用事で会いにきたのかと聞くから、用件の大意を説明した。

ところが庶務課長曰く

「自分もその話なら聞いているが、非は工作部にある。木莊さんはもう頭が古い。そんなことで古田さんを煩わすことは出来ない。第一古田さんは君などに会われるようなお方とは違う」

と剣もホロロな挨拶であった。

私の上司であり、また最近まではこの人の上司でもあったわが木莊部長を「頭が古い」などとは誠に怪しからぬ男哉と少々ムカムカしたが、こんな男と争っても仕方がないと思い返し、私は古田さんに直接会って話せとの命を受けてきたのだから、ぜひ古田さんに会わせてくれと、いろいろ押問答をした。終には会うまでは帰らぬと頑張るものだから庶務課長困って室を出て行った。

暫くすると、扉の外に靴音がする。そして、庶務課長と一緒に入って来られたのが古田さんで、これが初対面である。

私は、木莊さんからの使命を伝えて、何とか早急に解決して貰いたいと交渉を始めたのだが、もちろん伸銅所の方にもいい分があることとてなかなか応じられる様子も見えなかったが

最後に、

「工作部のようにこの件で伸銅所のみが悪いから作り替えろというのでは、伸銅所の面目にかけてもこれに応じることは出来ない。

しかしだ、同じ住友部内のことであるから、非はいずれにあるか知らないが、実際問題として、使用不能で困っているから、作り替えて貰いたい、というのならば、応じないことはないのだ。木莊さんのような云い分は今日通用しない。木莊さんはもう頭が古い」

オヤオヤ、古田さんまでが、わが木莊さんを頭が古いという。伸銅所ではよほど頭が古いで通っていると見える。それとも、庶務課長、古田さんを真似て同じことをいっていたのかな、と思っておかしくなった。

この頃から話も漸くなごやかになり、結局作り替えて貰うという確約を得て帰って来た。

本荘さんに復命すると、ニコニコして「それでよいよい」と悦んでいられた。もちろん、私は、頭の古い話はしなかった。私が初めて古田さんに会ったのは、こういう経緯であった。

後年、古田さんに折衝が多くなってからも、事態の処理に当って、古田さんのこういう風ないい廻し方を聞くことがしばしばあった。何となく古田さんの人柄の一面を表わしていると思いその折々に初対面の時のことを想起していた。

その後、古田さんは胸部疾患で相当長い間会社を休んでをられたが、ある日阪神電車で病後の痩せた古田さんに偶然会った。古田さんは「お互に身体を大切にしようではないか」と泌々とした気持でいわれた。幼時から病弱であった私は、その頃も盲腸炎の予後で、とかく、健康が勝れなかったのを知っていられたのであろう。その時は前の時とは違って、何となく、人柄に親しみを感じたものだ。

その後本荘さんのいわれた「しつかりした男」の古田さんは、次第に出世せられて、本社の専務理事とまで抜擢せられた。

その頃のことである。ある宴席で古田さんに会ったら、「この間O氏に宴会で会ったら、君がOのやっている冷房の方式を間違っているといってどうしても使ってくれぬといっていたよ、それで、酒の勢もあったかも知れぬがあんな男は首にしてしまえといっていた。それに対して僕は『あの男は、今ではおれの手には負えんのじゃ』と答えて置いたよ。ハッハッ」といわれた。

O氏は古田さんに、当時、住友の建築の設計をさせて貰っていた私に、O氏のものを使うように依頼されたのに違いない。これが他の人であったら、「君、Oから頼まれたからぜひ使ってくれ給え」というところだろう。

古田住友本社総理事の申出で、私は深く考えた。

長谷部さんも私もともに学校を出て以来、住友で永い間その先輩達に薫育され、建築の技術もそれによって学んだのである。昭和8年退職をしたとはいえ、今日あるのは全く住友の恩沢に浴したがためにほかならない。住友の申出には従うべきであろう。しかし一方今は多数の所員を擁しているので、その将来も考えねばならない。

長谷部さんとも相談の上、田中、河合両君と話し合ったがその結果、事務所は買収して貰い、社名も従って住友土地工務株式会社として、建築の設計の業務をも行なうこととした。そして買収の価格や人事一切は、本社の指示に従うこととした。相手は親元の住友本社である。悪いようにはしない。生なか懸引のある取引は禁物であり不利だと知っている。

私は何となくほっとした。私等両人はこれで住友の恩沢に対する義理も済み、所員の将来も国家非常の際、われわれ両人の痩せ腕に縋るよりも安泰であろう。

決定までには相当手間取った。しかし19年8月には大体の決定を見、9月には新会社発足の手筈であったが、また北港会社の手続上の不備のため11月にいよいよ発足することとなり、建築事務所側からは、長谷部、竹腰、池田、尾崎の取締が出ることとなった。長谷部さんは住友の停年規定で、平取締でないとどうしてもいけないということで残念ながら譲り、私が専務で、池田宮彦君を常務取締役にして貰った。しかし池田君が常務になったことは、後に追放問題が起った時、常務であったため追放になるという気の毒な結果となり、平取締役であった長谷部さん、尾崎君が追放を免れて、会社に残留できる幸運に恵まれたのである。「人間万事塞翁が馬」の譬の通りであった。

住友の出戻りである私には別の忙しさが加った。建築の方は長谷部さんや池田君任せで、安心していける。

私はもう建築士としての一生は、この時をもって終りを告げたと考えた。もう再び定規と鉛筆を持つこともあるまい。それにしても、長谷部さんほど意匠の上で天分に恵れていないにしても、建築士としては私は私なりに仕事を楽しんでいくことも出来た。また各方面に勝れた技能を持つ人々を集めて、設計をまとめていく道も知った。今はこの30年の建築士としての歩みを捨てねばなるまい。それにしても懐しく思い出深い過去である。このとき十ケ月後に敗戦の憂目に会い、住友財閥が瓦解しようとは想像もしなかった。

新しい職務についたが、新会社の整備という日々の仕事のほかに、戦時中のこととていろいろ思わぬ仕事や応接がある。

住友には戦争が苛烈になつてから、住友戦時協力会というのができ、総理事が会長で各連系会社の社長あるい



は主脳者が参与となっていた。私も住友土地工務の主脳者ということで参与を命ぜられた。その初仕事は当時不足していた、資材器械の各社の間の停通を計る会議を主宰することであったが、戦争末期の物資不足の際、どんな些細なものでも各社が必要でないものはない。需める社のみ多くて、供出することのできる社などは一社もない。困難な仕事で、私の力には及ばなかった。

私はまた住友の所有する満洲の高岡組の株式を代表して満洲住友金属株式会社の社長である河村君と二人で高岡組の取締役になっていた。満洲住友金属は時にその製品のために鉄骨加工を必要とすることがあった。そのため、高岡組の鉄工部を使うことになり、その株式を持ったのである。

当時は何事もなかったが、敗戦後満洲から帰る住友人がほとんど全部高岡から金を借りていたので、高岡一族が引揚げてきた時に、その借金の返済を迫られた。河村取締役は満洲に抑留されているし、住友本社は解散しており、金を借りて帰った住友人はほとんど元の勤務会社からかえりみられない。結局内地での唯一の住友関係の取締役として、矢面に立たされて処理せねばならぬ立場となった。しかしこれは後に記すことにする。

敗　　戦

昭和20年８月15日正午に、政府の重大発表があるということを、ラジオは放送している。例によって今日は大捷報の大本営発表でもあるのかと国民の大部分は期待をかけている。

戦時中の住友本社の情報はかなり詳細で正確であった。古田総理事は内閣の参与であり、北沢筆頭常務理事は近衛公と親しい。情報をもらさないまでも、真相の片鱗でもお互の間の談話に察知することもできるだろう。私は前日から15日の放送が全面降伏の天皇陛下の声明であることを知っていた。

疎開地三田からの不便な汽車の通勤に、この２年間何気なくみていた山も川も草も木もあらゆるものが14日の帰途には、暗澹たる棲気を帯びてみえた。私は第１次世界戦争に敗北したドイツを、敗戦後まもなくみた。そして戦敗国民がいかに悲惨なものであるかを、現実にこの目でみたのである。連合軍に占領された後のわれわれの生命、国民の窮状を予想すると、戦時中以上に惨澹たるものがあることを察知することができる。戦時協力会議などを作って、この戦争に協力した住友財閥の首脳者達の末端に加っていた私に対し、占領軍が、生活なり悪くすれば生命をも脅かすような処置にでるかも知れないことが、当然の帰結として考えられる。

車中、かれを思いこれを思い、住友の行方を考え、また国家の運命に思いを巡らしつつ、日の長い夏の夜ながら暮れはてた三田駅についた。町は防空処置のため真暗になっている。いつものことながら今日は足が重い。その暗さがいつもと違って陰惨に感ぜられる街路を通って家に帰った。

門を入っていくと、玄関が何となく騒がしい。いつもは老妻と二人限りの生活で物静かであるのに、今日はなにごとかと迎えにでた妻に聞くと、三田警察署の特高課の人が二人きて、宵の内からお帰りを待っているという。

疎開先の田舎家のこととて、広くもない玄関に顔見知りの特高二人が坐っている。なにごとですかと聞くと、

「この１週間余り、県の警察に連絡してもなにごとも要領を得ない。ほとんど見放されたかっこうになっているが、地方も戦争が長びく結果物資も少くなり、人心もなんとなく安らかでない。管内の思想上に注意すべきことでもないかと、県の警察に連絡しても要領を得ない。貴方は住友に関係しているので、なにか聞きこまれたことはないか。私等は特に注意をうけることはないか聞きにきたのだ。」

というのである。彼等も戦局については、多少の不安感を抱き始めていたのではないかと察せられる節もある。

しかし、明日の重大発表がなにであるかは知っていても、私は彼等にまだいうべきでない。

「私は明日の重大発表がなにであるかは知らない。ただ警察は、よかれ悪かれ、いかなる場合にも毅然たる態度で、人心の安定、治安の維持に最善の努力をすべきである」と説いた。彼等はさらに「明日のためになにかしておくことはないか」と聞いたから「特に何もする必要はないと思う、ただ沈着が必要である」と説き、後は世間話をして分れた。戦時中特高の訪問をうけたら、そこにはなにか暗澹たる空気が漂い、特高は恐い鬼のようなものという観念を持っていたが、あってみれば彼等も人間である。職務を離れればつきあいやすい人達である。

警察の特高が帰った後、夜更けになってまた空襲警報が鳴った。夏の夜の晴れた空に星がキラキラ光っている。防空頭巾を被って、恐らくこれが最後の空襲警報だろうと思って外にでてみた。

私の家は三田の盆地を囲む屋敷町と称する小高い丘陵の上にあった。昔の士族屋敷である。邸外の台地にある青く実った水田の南には六甲の裏山が蜿蜒とのびているのがみえる。六甲山の向うは御影、住吉の阪神の都市である。

山の向うにサーチライトが無数に空を照射している。防空砲が一斉に打出されたかと思うと、一、二のアメリカのB29飛行機がサーチライトに照しだされ、私の正面御影辺にきたと思う頃から、焼夷弾や爆弾が無数に投下されだした。キラキラと銀鱗のような光りが、高空から雨のように降って、六甲連峯のシルエットの影に消えていく景観は大偉観である。

しかし、その下に焦熱地獄の苦しみにたえねばならぬ多くの知友同胞のことを考えると心は痛む。

明日は降伏と知っているだろうに、なぜその前夜までも、敵国ではあっても無辜の市民を苦しめねばならぬのだろう。

しばらくするとB29は、われわれの上空を飛んで北に去った。いつものコースである。

六甲山の稜線が背後の市街の火災の光で確然と黒く映しだされてきた。そしてみるみる内に数里を隔てた、三田町の上に濛々たる黒煙が覆いかぶさってくる。譬えようもない悪臭が伴う。

黒煙薄らぎ山向うの火災も納まると、また元の静寂が返ってくる。

山村の気味の悪いほどの静かさというものを今夜ほど感じたことはない。夜が静かであればあるほど目は冴えてくる。私は夜通しまんじりともしなかった。史上始めての外敵のための占領を覚悟して、かれこれ思い巡らしている内に、いよいよ8月15日の暁光がさし始め、いつとはなしに物音が聞こえてきた。

大阪への通勤列車のなかの人々の顔は、長い窮屈な生活で生気もなくなっているが、今日の日本の運命の転機を知らず、昨日と少しも変っていない。

会社では今日の午後、私の室に幹部に集って貰うように命じた。私の室にはラジオがあるので、一緒に聞くためである。

正午から予報の通り、天皇陛下のお声が流れてきた。予知していたとはいえ、途切れ勝ちな陛下の悲痛なお声での全面降伏の詔勅に私は泣いた。みなも泣いていた。

外にはなお爆撃の轟音が聞こえている。砲兵工廠がこの最後の土壇場までも、爆撃されているのである。東北の方大阪城の背後から、黒煙が濛々と立登っているが。この悲しい知らせをうけて、虚脱状態になっている私達には、昨日までの爆撃の恐怖は感ぜられない。思いなしか爆音も空虚に聞えてきた。

この悲報に接しても、さてわれわれはいかに今後に所する方途を講ずべきか、咄嗟に考えも浮ばない。しばらく静観して、今迄通り事務を執ることを命じた。

私はさっそく今後に対する態度処置を聞こうと思って、住友本社へいったが、本社とても別に特別のとるべき手段があるはずもない。ただ陛下のラジオ放送に至るまでの軍部その他の行動や、今なお帝都で続いている軍部の動揺の模様を聞かされた。それにしてもこの際、われわれのところでは社内の静謐を保つことが最も必要と感じ、その処置をとった。

帰途の混雑した汽車のなかは朝と違って、空気が陰鬱であった。三田について宅に帰ってみると、また三田警察の特高が私の帰りを待っている。

その話によると、県の警察でも何も様子が分らない。今日の無条件降伏の勅語をラジオで聞いた後、貴方は今日のことをすでに知っておられたように感じたので、今日はなにかうけたまわることはないかと思ってきたのであるという。

今日となってはもうなにも隠すことはない。私の知っている限りの東京の動乱のことなどを知らせた。そして事態の落付くまで従来通り治安の維持に努め、管下に軽率な行動の起らないようにすべきであると告げた。

会社の活動は殆ど停止の状態であって、もっぱら食料などの配給品の獲得に心を使ったのである。社員の生活は一層苦しくなってきた。

いづれは米軍が進入してくるに違いない。官辺もわれわれもくるべきものがいかなる形をとるであろうかと思い巡らして日々を過した。

警察の力も弱まってきた。大阪駅の構内の大コンコースの地下街への階段の横の壁に、家を失った幾組もの家族が、床に一団づつより添っているのがみえだした。多くは栄養失調で死相が現われる。明日の命がどうかと、案じながらみすごして通らなければならない自分を腑甲斐ないと思うが、いかんともいたし方がない。

翌日同じところを通ってみると死相が出ているとみえた一人がはたして死体となっている。しかし、一緒にある家族の者も死体の処置もできないでいるのが悲惨である。停車場構内のコンコースがこの状態であるから、構外の楠木の植っている芝生の上などは、こういう群が幾組もみられる。そして日に日に衰え、日に日に死んでゆく。

道行く人はほとんど幾らかの栄養失調にかかっていないものはない。それが8月の焼けつくような日光にさらされて、青黒い顔々と化している。8月15日までは、それでも幾分生気を保っていたが、今はだれもかれも亡者の相貌をしている。

流言蜚語のなかに明け暮れている内に８月も過ぎ、いよいよ９月１日ミズリー艦上の降伏という、わが国の歴史に一時期を劃する劇的な戦争の終末がきた。

９月２日からは米軍がいよいよ進駐してきた。餓えた狼のごとき婦女子への暴行が伝えられた。いつの場合でも、被侵入国のこうむるいまいましい宿命である。

気の早い人は、妻や娘を田舎に移し始めた。大和撫子を黒ん坊や碧眼紅毛の外人の本能の餌にすることはたえられない。芸者さえも日本が敗けて外人が入ってきたら、自殺するといっていたものである。

こうしたある日のこと、府の警察から人がきて、われわれの会社のある祭原ビルを検べにきた。それは大阪に米軍が進駐してきて、良家の子女に危害を与えることを防ぐため、市内各所に娼婦の家を予め設けねばならぬ。その下見にきたのだということであった。まだ決定してはおらぬとはいえ、この家をそういう目的に使うことを極力拒絶させた。

その内に株式取引所の設計が当社の一部となった元長谷部竹腰建築事務所の設計により、図面も揃っているということを聞き伝え、また府の警察からこれを娼楼にする設計を頼んできたとかで、警察のことでもあり、設計をしているということを聞いて、私は「もってのほかと思う」と断るように命じた。

その内に陸海軍人が、隊を解かれて帰ってくるようになった。三田にも内地に駐留していた軍人が、ボツボツ帰ってくる。大概解隊の際、軍にあった相当の物資を持って帰る。なかに要領のよい男は、大八車に積みきれぬほどの物資を持って帰る者もある。

ある日大阪駅のブリッヂを、自分の体の数倍もある大荷物を背負い、その重さにたえかねてブリッヂを這うようにして、剣を杖にして登っていく軍人をみた。通り過ぎて見下してみると、なんと人並勝れて立派な八字髭を生やした陸軍大尉である。比較的年をとっていたから、恐らく後備の招集軍人だろう。故郷には妻子が待っているのだろうが、なんと浅間しい帝国軍人だろうと思って、なさけなく思ったことだった。

第１軍司令部住友ビルディングに

東京からは米軍の東京進駐が伝えられ、接収された大ビルディングが、１日、２日の間に全部退去を命ぜられ、家具、什器も無秩序に無理矢理に搬出させられ、大混乱をきたしているという報が頻りに入ってくる。

大阪も何れは同じ運命に陥ることと予期していたが、果して第１軍が和歌山に上陸、先発隊がきて、司令部の建物の接収のため、各所を調査し始めた。住友ビルディングにもきた。大佐級の米軍人が府庁の役人の案内で、ドヤドヤ入ってきて、建物の大きさ設備等質問をして帰った。

今度の接収では銀行の建物は避けられるという噂が伝えられた。住友ビルディングには１階と２階に住友銀行、住友信託が入っているので、あるいは接収されないのではないかと思っていた。しかし当時では、大阪で最高級の建物であるから、米軍がこれを逃すことはあるまいという説もでて、数日は不安の内に過ぎた。
はたして、第１軍の司令部は住友ビルに、当管下第25師団の司令部は、日本生命と定った。ともに私達の設計によるものである。

住友本社では常務理事の北沢敬二郎君と、庶務課長の植村実君とが直接担当していた。ビルディングの所有者としての私の社からは、係の者をだして、本社の手助けをしていたが、この建物から急に退去を命ぜられた場合の処置等考えて、不安の念が全住友に漲っていた。ところがいよいよ接収の交渉が始まるというので、北沢常務理事が、米軍との接衝は私が自身でしてくれ、との命である。あまり香ばしい仕事ではないが、引受けざるを得ない。住友ビル全館が接収されるようなことになると、これは大混乱を起す。なんとかして、接収を最小限に喰い止めねばならない。私の責任は重い。

新大阪ホテルを占拠している、第１軍の先発の接収の係官トーマス少佐から呼出しがあったので、私は単身で出向いた。それは９月23日の夕方のことであった。私の社には英語を話す者が他にいない。先方が緊張している矢先、言葉の分らぬ人を連れて歩くことは、足手纏いでもあり、間違いを起しやすいと思ったからだ。新大阪ホテルにいってみると、これはまたなんと物々しい警戒ぶりだろう。入口やラウンヂには軽機関銃を持った兵が立って、誰何するのである。吉川英治の太閤記にある戦乱時代の場面が、私の頭に浮んだ。敗北して城明渡しの交渉のために、勝ち誇った敵陣に、単身乗り込んでいく英雄のような心持がした。

トーマス少佐から呼びだしがあった旨告げてしばらく待つと、私がカーナルトーマスだといって、品のよい顔付きをした軍人がでてきた。先ず坐れといって煙草をすすめてくれた。久しぶりに吸う米国製のキャメルである。私の想像していた圧迫的に敗戦国民と見下す人物とは違い、柔かい態度で交渉が始った。彼は住友ビルを、第一軍司令部として接収するから案内せよ、接収するまでこのホテルに宿泊せよ、食事は米軍で支給するとのことであった。

夕闇の迫った土佐堀川の水は、黒く濁っている。近く米軍に占領せられる不安からか、人通りもまったく途絶えて淋しい。蝙蝠が建物の間を飛び交っているのは、廃墟を思わせるようで凄惨な感じがする。

トーマス少佐は軽機関銃を肩にした兵二人を連れてジープに乗った。ジープというものに初めて乗ったのだ。私は兵二人の間に挟まれて、後の席に坐らされた。物々しい警戒である。

彼等にしてみれば、小数の兵を連れた先発隊で、降伏はしたものの野蛮な日本人はなにをするか分からぬ、という不安があるのであろう。私としても、言葉の行違いなどから、どんな目に合わされるか分らないという危惧の念が伴う。始めて乗せられたジープの上で無言の内に、住友ビルディングに連れていかれた。

住友ビルディングの3階の東北隅の室は、住友本社の庶務課の室である。ここには電灯が煌々とついている。全館接収か、3階以上接収か、全然予想できない不安に馳られながら、私の交渉の結果を待っているのだろう。住友ビルディングの所有権は私の会社にあるが、戦時下の防衛と管理とは、本社が所管していたのである。

私はカーナルトーマスを3階の一室に招いて、館内の状況を説明した。

「1階2階は住友銀行、住友信託の2金融機関が使っており、3階は住友本社が使っている。金融機関の接収は、証券、現金の保管等があり、一日も業務を停止することはできない。もし、しいてこれを接収されると、わが国の経済界は大混乱をきたす。住友本社は傘下数十社の統制をしているのであって、その接収もまた経済の混乱をきたす。本ビルディングは5階建で、屋上である6階にも若干の室があるが、接収は最大4階5階及び屋上階に止められたい。もし、ゆるされるならば最上階である5階だけにして貰いたい。」

と縷々懇願した。

トーマス氏は黙って聞いていたが、ともかく案内せよという。

私は各階をくまなく案内した。社員の去ったビルディングの中は、気味の悪いものだ。機関銃を持った兵二人は、トーマス氏の側を離れない。その内の一人獰猛な顔をした兵は、私が話しかけても、睨みつけて返事もしない。彼自身も恐かったのだろう。

その夜は全館を一通りみるだけで、ホテルに帰った。米軍人ばかりのなかに一人淋しく、これも私の手にかけたホテルの客室に、一夜を明かした。室の装飾、家具調度品の一つ一つに、設計当時の思い出が浮び、万感胸に迫る。

翌朝食堂にいくと、ここも日本人は私一人、米軍人は私を見向きもしてくれない。敗戦国民とはいえ、佗しい思いがした。しかし久しぶりに味う豊富な食料の味は、長い食料難の敗戦国民である私のここ二、三年味ったことがないものだ。香り高いコーヒーの味も美味しいが、こういう感覚はなんだか自分自身を浅間しい者と感じさせる。

この日一日は例の軽機銃を持った兵二人にまもられたトーマス氏と、接収される室の交渉で暮した。

1、2階の銀行の部は接収しないということは午前中に定った。午後には住友本社のある3階も、無事であることが決定的となった。4階は最後まで怪しかったが、私も大分彼等の要求する室の配置も分ってきたので、図示してトーマスの仕事を助け、夜遅く5階全部と屋上階を接収するということに決定した。

トーマスは二日間に接収された階を空けよと命じた。

使う言葉は穏かだが内容は酷しい。そして重役室等の器具什器は一物も搬出すべからず、という命令である。

6階は共同施設の社員食堂、台所、貴賓応接と食堂等であるから問題はないとしても、5階は、住友生命が大部分をしめている。その業務は一日も休止できない。これだけの大会社を二日間に行き先きを見付けて、移転させることは不可能に近い無理なことだ。しかし、無理を押し通すのが戦争だから仕方がない。

東京でも同様のことで大混乱があったことを伝え聞いたが、丸ノ内のある海上火災保険の建物が、全館二日で

立退きを命ぜられた。それはできないというと、日本軍はマニラやシンガポールで、一日で退去を命じた。と反撃され、期限までに搬出された器具が道路に雨にうたれて放置されたと聞いていた。

私はトーマスの命を聞いて躊躇逡巡したが意を決して承諾してしまった。

トーマスに分れて3階の本社にいくと、銀行と本社が助かったので一安心していたところに4階も助かったというので、大成功とみなで喜んでくれた。

それにしても気の毒なのは住友生命である。二日間では、大切な書類や器具什器を搬出するだけでも容易でない。会社の秩序は破壊されてしまうだろう。しかも、まだ行先も定っていない。

社長の小松君に交渉の顛末を話して、こうするより他に仕方がなかったことを話して、苦衷を了解してくれと頼んだ。社長も機嫌がよかろうはずはない。しかし、そこは永年住友の禄を喰んだ男だけあって、大局的には最善の方法だっただろうといって理解してくれた。

二日間で城明渡しをせねばならない。その方の行先きは本社の総務でところどころ探し求めたが、結局近くの愛日小学校が、学童疎開で使われていないので、市当局に頼んで、とりあえずそこに引移ることになった。

翌日から5階6階は上を下への大騒動である。その間トーマスから間仕切等について、いろいろの注文がでる。私は本社営繕課の数人の技術者を従えていて、それぞれ命を下していた。

不眠不休の二日が過ぎ、進駐移転の日と定った9月27日朝には、一切の搬出と準備を終り、各室すみずみまで綺麗に清掃した。その上北沢常務理事の指図で元生命の社長室等、進駐軍の幹部の室には花まで生けておいた。

住友式の行届いた準備に、トーマス初め一同驚いたようだ。

米軍が一応入ってきて落付いた後で、私は古田総理事のお供をして、司令官に挨拶にいき正式に引渡しを了したのである。私はホッとして久しぶりに三田に帰って、静かな安眠を貪った。

翌日、住友生命の引越先である愛日小学校を覗いてみると、まだ片付いていない机、椅子、書類が、校庭に散乱している。敗戦の結果とはいえ悲惨な姿である。私は覚えず目頭が熱くなった。再び校舎の一室に見苦しい粗末な椅子卓子に向っている小松社長に、佗びる気持で挨拶した。

トーマスも至れり尽せりの準備で上官にも誉められたのであろう。いたって機嫌がよくよろこんでいる。

「お前がよくコオペレート（協力）してくれたので、司令官ももうこれ以上お前の建物の接収はしないといっていた。」といってくれた。

これ以上接収され、この二日間のような苦しみと迷惑を連系会社にかけてはたまったものでない。

その後も数日間トーマスの用事を助けていたが、和歌山からは次々にいろいろの部隊が進駐してくる。そして司令部であるためかいろいろの用事を持ってくる。なかには英語の話せる日本人はないかとトーマスに聞く。

横で聞いていると、トーマスが私の方に顎をしゃくって「this one speaks」といっているのが聞える。

いやしくも、連系会社ではあるが住友の一会社の重役である私を「ジスワン」とは酷いと思った。しかしこれに対しても、敗戦国に護身用の機関銃と一緒に上陸して間のない兵士であれば、仕方のない言葉と思って恥を忍んだ。

和歌山から進駐してくる新手の部隊は殆ど全部といってよいくらい、まだ占領されていない住友ビルディングの他の階に目をつける。そしてそのたびに私は呼びだされるが、私は

「ウッドラフ将軍は私が第一軍司令部の進駐によく協力したから、もうこれ以上この建物は接収しないと約束された。」といって接収に応じなかった。トーマスは横で笑っている。

あまり執拗に接収しようというものは、屋上に連れていって、

「河向うには沢山のよい建物があるではないか。」

といって拒否した。トーマスも横から応援してくれた。

後になって判ってきたのだが、司令部自身も他の雑多な部隊の入ってくるのを好まなかったらしい。

こうして住友ビルは日本の西半を支配する米第1軍の司令部として占領され、屋上高く米国旗が飜った。

財　閥　解　体

マッカーサーの東京進駐以来、占領軍によって戦敗者に対する種々の処置がとられた。財閥は戦争を誘発した原動力でだ。戦争犯罪者として主脳部は死刑に処せられるかも知れないなどというとんでもない噂まで伝えられた。

こうしたなかで住友土地では、住友本社常務理事の北沢敬二郎氏が社長を兼任していたのを退き、私が社長となった。住友に帰ってきて11ヵ月目である。

職名は専務取締役が社長に代っても、仕事の上ではなんら変化はない。ただアレヨアレヨと急速に推移していく状勢の目まぐるしい変化に驚きつつ、新しい政治経済の推移に順応して日常の仕事を進めるより他はないのである。

住友財閥にもついに最後の日がきた。

10月18日マッカーサー総司令部の経済科学局長であるクレーマーが、住友本社の古田総理事に会われた。当時は占領軍の総司令部のことをGeneral Head Quartersの頭文字をとってＧＨＱと呼んでいた。そして始めの頃は仕事の上でＧＨＱの名を聞くと思わず緊張したものである。

古田クレーマー会談はもちろん住友本社の経済支配力の停止、財閥の解体である。戦犯とみなされる財閥に対するクレーマーの態度はもちろん峻厳であって、戦勝者の戦敗者に対する命令である。妥協や抗議の余地は残されない。

翌19日には住友本社の理事会が開かれたらしい。そして10月24日はいよいよ運命の日となった。

24日午前10時に住友ビルディング２階の銀行の会議室にくるようにとの通知を前日に住友本社から受取り、ついにくるものがきたと感じた。

その日は雨雲の低くたれた陰鬱な日であった。街は爆撃の跡の片付けも出来ていない廃墟のような姿である。その間をなにをしようとてか薄汚れた服装の市民がうつろな顔をして右往左往している。そしてだれもが袋かリュックサックかを持っている。今日の糧が入っているのであろう。

大阪駅の内外に避難している罹災者の家族は、今日も昨日より一人二人減っている。昨日死相がでていると思った者の姿がないのである。天王寺の地下街の両側にあるショーウィンドーのなかに死体がある。どこから入って倒れて死んだのだろうと怪しんだ。これが戦敗国の都市の今の姿である。

銀行の会議室には住友財閥傘下各社の社長以下重役が集っている。だれをみても沈痛な面持で、今日のことを予想して控えている。いづれもこの戦争の戦力の根源となる種々の事業に身を挺して戦ってきた一騎当千の人物である。

私のような出戻りは、今は自身がその家族のなかにいるにもかかわらず、親や兄であるこれらの人々や、家庭自体さえも客観的にまたは批判的に観察するものだ。別に僻んでいるというわけではないが。

私はこの集りをみて、嗚呼立派だなと思った。

事業の根幹は人である。今集った人々の努力と結集によって、住友は大きくなったのである。私はこれが住友財閥の姿だと感じた。そして今日以来この偉大な姿はバラバラになって消滅するのである。その一人一人をとってみてももちろん立派である。しかしこれらの人々が結集してだす力は単なる数の総和だけでなく、数十倍、数百倍の力ともなる。これを思うと私は非常に貴重な品が潰されていくように感じた。

今日の集合の意義をほぼ予期している主管者達の面貌は深刻であって、いつものようななごやかさがない。室の空気は緊張している。

定刻に古田総理事がこれも悲痛な面持で入ってこられた。そして次のような話をされた。

「国連を賭しての戦も、国を挙げての努力も空しくついに連合軍に無条件降伏をする止むなきに至った。敗戦国であるわが国に対する戦勝者の処置は峻厳なるものがある。国体の将来についてさえも憂慮にたえないものがある。我々を裁く者は財閥を戦犯とみなすとも伝えられているが、ただ累を住友家に及ぼさざるようにひたすら念願し努力している。

住友連系会社の各社は住友本社の統制下にあり、一体として事業に従事してきたが、財閥に対する緊迫した状勢の推移のもとに種々考慮を巡らした結果、本日以後住友本社と連系各社とは一切の連系の絆を断つことになった。

今後は各社は独自の立場において、各主管者の統率のもとに事業を遂行されたい。

ただ、願わくは従来本社がとっていた社員の停年制は、各社において各々これを踏襲して貰いたい。

永年にわたり諸君と事業をともにしてきたが、今日をもって住友本社と連系会社との関係を断つの止むなきに至り感慨無量である。各社の将来の繁栄と社員各位の健康を祈る。」

これが古田総理事の訣別の辞の要旨であった。満堂声なくただ瀟然とした重苦しい空気のみが漲っていた。

かくして住友財閥解体の序幕が切って落された。

活　路　を　求　め　て

無条件降伏の勅語を聞いた直後から、住友関係の事業の日々の仕事は瞬時に止ってしまった。その事業の大部分は、軍艦、飛行機、砲弾、砲身等その他直接戦争を遂行するために必要なあらゆる資材の製造にあったので、こういう事態に陥るのは当然のことである。急行列車が急停車したようなものである。各社とも主脳者は、これに対していかに処置するかを当然考えねばならぬ。終戦後しばらくの間はただ茫然と成行きをみるほかなかったが、日を経るにしたがって製造店部のごとき全国各地に散乱している事業所が、製造すべき何物もないのにいたずらに人を抱えておくことはできなくなるのも当然である。

こうして各店部とも事業の転換と人員整理とが考えられた。

ある店部のごときは職工、職員とも9割も馘首すると伝えられた。こんなのは特殊な会社であるが、その他の連系の会社も2割位の人員整理はおこなったようであった。

その当時の状態としては平時と違って馘切が容易であった。国家が潰滅しようとしている際、会社の運命や将来など想像することもできないという捨鉢な気持が、全社員の心のどこかに芽生えていたのだろう。

食糧は極端に窮屈になっている。芋の蔓や蒲公英の根まで堀って食わねばならぬ時代で、国民が全部ある程度の栄養失調に陥っている。なかには終戦と聞いて会社には無断で逸早く田舎にいってしまった者も多数ある。しかも日々殆どなすべき仕事もない。こんな状態であるから2割や3割の人員整理は容易におこなわれたのである。

住友土地工務株式会社も現状をいかにすべきか、また将来はどういう方向に進むべきか、これは会社にとっても、社長である私にとっても今日課せられた重大な問題である。

経営面からいえば住友ビルディングその他からの家賃の収入がある。また設計の方も今日まで未収になっている設計料があるから、当分の間はなんとかなる。しかし戦争がすめば新たに復興ということも起るが、それまでは新らしい建築工事もおこるまい。土地の将来に対しては先々の見通しもなかなか困難である。現状のままでは、この会社も人員の整理は止むを得ない帰趨であろう。

しかし、昭和8年経財界不況の余波をうけて、私達数十名の者は住友を去った。そのときのわれわれの心境の淋しさや、生活の不安を思うと、現在会社自体の将来の運命、さらに国家の運命が混沌として予知できないときであっても、簡単に人員整理ということは私には考えられない。乏しきを忍びながらでもお互に助けあっていきたい。そしてなにか新らしい仕事の分野を開拓して、将来の生きる道を見出さねばなるまい。

私の過去に味った辛くにがい退職という経験から推して、私はこの際一切人員を整理するということをやるまい。満州・朝鮮・北支等に派遣している社員も帰還したらことごとく受入れよう。そして乏しきを頒ちあってなにか新らしい仕事の分野をみつけ、これによって会社が心理的にも経理的にも落付を取戻すまで忍耐を続けようと堅く決心した。

その内に満州・朝鮮・支那から追々に帰ってくるものがある。すばしこくて運のよい者は早く帰る。のろまで運の悪い者は帰還がおくれる。帰還者は着のみ着のままで無一物である。

彼等も数年前は住友の各社から、大陸において新事業の経営をするという大きな計画の一役を買って、勇んででかけた有為な住友マンである。

しかし、これ等の人々の殆んどが、外地にいくまで勤務していた連系の元の会社にいってもうけ入れて貰えない。

元の会社自身が人員整理で大わらわである。外地にあった他社に転出した者が帰ってきたからといって、ご苦労であった、よく帰ってきてくれた、元の通りに働いてくれとはいえない状態である。

そして住友本社はもうなくなっている。

私は外地の各所で新事業の建築に関係し、これ等の事業地にもたびたびいったので、連系の各社の幹部や建設の係の人に知人が多かった。みな仕事の上で世話になっ

た人々である。こういう人のなかにはだれも相手になってくれないからといって、私のところに頼ってくる人もある。なかには無一物でわずかな金を貸してくれという人もある。私はできるだけこれに応じていたが、これ等の人々はことごとくある時期に返しにきた。私は返済を予期していなかった。学校時代の友人など返さぬ方が普通である。やはり住友に育った者は違うと思った。なんとはかない人の運命だろう。こういう人達の今後を考えると心が痛む。

その内に私にとって非常に困った問題が起ってきた。

満州高岡組の社長高岡浩氏が常務の明石君とともに内地に帰還してきた。もちろん無一物である。私と満州住友金属株式会社の社長河村敏夫君と二人が住友の持株を代表して、高岡組の取締役をしていたことは前にも述べた通りである。

ところが満州から帰ってくる住友の社員がほとんど全部高岡組から金をかりている。そして内地に帰ったら、住友で支払って貰うことを約束しているのである。帰還した住友の社員もかりたことを証明するし、高岡氏も内地に帰ってきたから、約束通り返済して貰いたいというのである。

河村敏夫君はまだ満州にいて帰ってこない、そうすると内地で住友を代表して取締役をしていたのは私一人である。私がその要求の矢面にたたされることは当然である。

高岡氏は若くて温厚な大家の御曹子である。専務であった内田銈司氏は終戦前内地に帰り帰満が不可能となって、終戦を内地で迎えたのであるが、高岡氏と一緒に帰ってきた明石常務は、創立者である先代高岡氏の児飼いの実力者である。しかし中途から高岡組の幹部に入った内田氏と児飼いの明石氏との間は円満を欠くものがある。

内田氏は内地にあって終戦を迎え、世間の情勢も理解した教育のあるインテリであるが、明石氏は実務で叩きあげた技術一方の豪傑で、ひたすら主家大事と考える男である。しかも内田氏に対してはいかに情勢が困難であっても本社のある満州に帰らず、安穏に内地で終戦を迎えたということに対する不満がある。

私が交渉に当っても、内田氏の割合に理解のある交渉の仕方を明石氏は手ぬるしとして、容易に情勢を理解しようとしないのである。

満州では古くから大事業家として経済的にも重きをなしていた高岡組である。高岡氏の資産も莫大なものであったに違いない。しかし敗戦の結果そのすべてを残して裸で引揚げたのである。

日本に帰ったらかならず返却するといって、住友の名において数百万にのぼる莫大な金をかりて命からがら帰ってきた住友人が、帰ってきても元の会社には容れられず、住友本社はつぶれてしまっていて、法的な交渉相手がない。

高岡氏の内地にある資産としては、別府にある相当大きな不動産と、若干の動産に過ぎないという悲惨な状態であった。

住友が満州に事業をおこしたのは今度の戦争が始ってからであって、事業の方も設備を拡張するのに莫大な資産がいる。預金も少ない、そこに突然の敗戦であるから現金に余裕はない。

その点では高岡組は多年築いた地盤を持ち、資金の調達も住友関係の会社より楽である。内地に帰ったら内地の金で返済して貰えるという便利もあり、しかも相手は住友である。事業上の関係もあり、情誼の上からも困っている住友人を救助することは必要と考えた上でかしたものであろう。

高岡組からかりた金の恩恵をうけた住友人の数は非常な数にのぼるであろう。しかし住友土地工務という私の会社から満州に派遣せられていた者は遠山久、山形清松等数人に過ぎない。この点からいえば、高岡組に返済する金を分担するとしても、その比率は少なくてよい筈だ。しかし私が住友を代表して取締役として入っていた以上、国家が戦に負け満州から邦人が追いだされ、そのため他の事業とともに高岡組がつぶれても情として捨ててはおけない。

私は高岡氏の現状と満州における終戦時の住友人に対する厚意とを思い、私の会社でも相当の負担をせねばならぬと考えていた。

私は満州住友金属、満州住友電線その他の会社に関連のある内地の連系会社に交渉させてみた。しかし満州の諸会社は別法人であって、元はその会社に勤務していても、今はなんら関係がないという理由のもとに私の企図に同調しようというものはない。

なるほど理屈をいえばその通りである。しかし終戦までは姉妹会社として人事の交流もあり、資本の関係も絶無ではない満州における同系会社の社員がたとえ法的にはなんらの理由がないにしても、住友の伝統と信用に基いて援助して貰った好意を捨てて顧みないのは、あまりに無情ではないかと大いに憤慨した。

住友本社がその活動を停止していなかったら、もちろんこの問題は本社が取扱うべき問題である。しかし住友本社はもうその機能を停止している。そして私は高岡組の取締役ではあったが、その高岡組ももう潰滅している。私にはもうこの上他社を説く力はない。

仕方がないから元総理事の古田さんにこの問題を持込んだ。そして古田さんは田中良雄元本社理事を使って、若干の金を高岡組に返済するように他社に説かれて片付いた。もちろん種々の異論もあったようだ。連系の各社に責任がないという議論もでた。高岡組としても持って帰れる資金ではなかったではないかという議論もでた。また今日となっては、満州の円の価値と内地の円の価値を同一とみることはできない。相当レートの差をみるべきであるという議論もでた。しかしこれ等は理論としては正しくても、道義上は通用しない。

こうしてこの問題が、高岡氏としては不満足であったかも知れないが、一応片付いたので私はホッとした。

住友の連系会社の社員の整理が進むと、整理された社員が今後なにをすべきかということが問題となる。解雇社員が集ってなにか事業を企画すれば、もちろん会社はできるだけの援助をするだろう。私は住友土地工務は一切整理せぬ方針であるから、会社自体としての新事業は考えるがこういう心配は起らない。

なかには戦時中不足勝な石炭の購売入手に手腕をふるって豊富な知識と経験を得たというので、石炭商をやろうという者もでてくる。

ある会社のごときは戦時中工場の拡張新設の尨大な建設工事をした。多数の社員は建築事業に大きな経験を得た。この経験をもってすれば土木建築の請負業ができるだろう。戦後にはいずれは都市の復興が軌道に乗り、焼かれた住宅は大阪だけでも数十万戸にのぼる。その三分の一の工事を引受けても大きな事業になる。こうしてその会社では住友連系の会社の援助を得、退職社員を結集して一大請負会社を作ろうという企画ができ、尨大な調査計画書類もできた。

いよいよ実行に入ろうという段階になったらしく、その会社で会議が開かれた。これには住友土地工務もぜひ参加してほしいというので、私の出席を求めてきた。

この会議で前記の主旨が述べられ、あらたに一大建設業の会社を作ろうと提案された。

しかし私はこの会議でそういう会社の設立に極力反対した。

ほるほど建設事業に貴重な経験を持った人が戦時中できたことは、疑問をさしはさむ予地はない。しかしこの経験は建築主としての経験であって、請負者側としての経験ではない。請負業というものは、われわれ建築主またはこれを代行する設計監理者の仕事とは全然別個のものであって、その経験は住友人には全然ないといってもよい位である。住友土地工務にも設計監理の業務としては堪能な士はある。しかし私のみるところでは、請負者の能力のあるものはまずない。また建築の工事上で直接人を使うことになると、昔の金筋というものの流れを酌む因習などもなお残っており、建築主や設計監理の仕事に従事していた者には想像もできない社会もある。それがため私の会社が参加しても、役にたつという自信がない。今後の復興建築の予算量の内多くの工事を獲得することは既存の多数の請負業者のある際到底望めない。

というのが私の反対の主旨であった。

私の反対でこの計画は成立しなかった。それまで相当周到な調査の上で立案されたものであったので、当事者からは私は相当非難をうけたようであった。

私自身も今の会社の将来の事業を考えねばならぬ。私の経験からいっても、請負業等も考慮するだろうと一般からはみられるかも知れない。また私自身請負業がそんな容易なものであったら、今後の活路を見出すために早く計画していただろう。

私は建築界に身を投じて数十年請負業というものが容易なものでないことを知り過ぎる位知っているので、反対せざるを得なかったのである。

しかし、また今日になって考えてみると、私はあまりに建築界の事情に通じ過ぎていたために、これを防止するの過誤をおかしたのかも知れないとも思い、また今日になると別子鉱山のある住友鉱業はその解体に際して別子建設をうみ、それが相当業績をあげているではない

か。それにあのとき、別子よりもはるかに有力な建設業の設立を防止した私の措置は怪しからんという人が一部にあることを耳にしている。あるいはそうであったかも知れない。

その他にも各社それぞれの企画が会社自身のためにも、退職していく人のためにも考えられた。そして実行に移されたものもあれば、廃案になったものもある。

長い戦争の間にほとんどあらゆる物資が不足している。退職者が特殊の技術なくして手軽にできやすいのはどこからか品物を探しもとめて口銭をとる商売である。多くの人がこの道に走った。なかには闇ブローカーを始め、臭い飯を食って金儲けをした者もでてきた。またある者はこれも不足勝であった道具屋を始めた者もある。その他いろとりどりの姿であった。

住友土地工務も新事業を開拓せねばならぬ。地代や家賃収入で安閑としてはいられない。建築部の新規復興事業のおこるのもしばらく先のことである。

私の考えたのは請負業ではない。やはり商事活動である。ほかの重役連中にも反対者もいるが、多くは賛成である。

幸いにして住友土地工務は住友ビルディングを始めとする建物とその他に北港にある数十万坪の土地等莫大な価格の不動産を持っている。その他にも相当額の流動資産もある。商事の業務を営むにしてもこれに要する資金の担保力は相当にある。われわれの日常の生活も一種の商事活動である。商品に対する知識、仕入販売等の技倆の優劣はあるだろう。しかし他のいかなる事業よりも入りやすい。一方住友には伝統的に住友は商事をやってはいけないという不文律があった。

それは世界第一次大戦のとき、戦時景気に乗って大資本閥が商事会社を作り大いに活動した。住友にも、住友商事会社を作るべきであるという議論が内部の積極分子によって澎湃として起った。

その際、ときの総理事鈴木馬左也さんが断呼として商事会社設立に反対した。それがため一部血の気の多い優秀な社員のなかには、これが不満で退社したものもある。積極論者のなかでとどまった者も、そういう大それたことを主張する不都合な者として多くは退けられた。それほど大きな問題となったのであるが、しかしすべては鈴木総理事の一喝を喰って消滅した。消滅したばかりではない。住友内部では商事という言葉は一種の禁句となった感さえ生れた。そしてその強い伝統の観念は住友本社の首脳部の間には今も強く続いている。

鈴木総理事の考えでは、第一に住友人は商事をやり得るように訓練されていない。第二に住友には製造事業が多い。商事会社を作ることはその製品の消化にかえって悪影響を及ぼす面もあるということであったと伝え聞いている。

第一次戦争が終結するや戦時中に新設された商事会社は大打撃を被った。大財閥の作った商事会社すらも親会社の基礎をも揺がしかねまじき大打撃を被った。

鈴木総理事の予見はこのときは見事に当ったのである。

それから数代の総理事を経、住友の事業も財閥としての規模も数十倍に膨張し、経済界は変化しても住友商事という禁句は伝統的に無批判で続いていた。

それは当時の総理事の主張の態度が相当酷しかったのと、戦争終結後商事活動を始めなかったために他の財閥のごとく大きな打撃をうけなかったからである。

われわれ先輩のなかには戦後十数年を経た今日でも、住友が商事を始めたことは住友のマイナスであったとラジオなどで放送する人もある位、根強いものであった。

これほど根強い伝統と、禁句を犯してまでも、私はあえて住友土地工務株式会社の定款を変更し、商事活動を敢行しようと決心したのである。あるいは往年住友ビルディングの建築材料買付に当り、紐育でした仕事の経験から自分にも貿易や商事などできるという気持が私の心のどこかに潜在していたためかも知れない。

なるほど、大正初期の住友の経営規模と人的陣容では鈴木総理事の裁決も適当であったかも知れない。しかしその後十数年の住友の膨張は事業自体においても、人的要素の上においても非常に大きい。今日ではむしろ商事会社のある方が大局からみても適当である。また必要であると私は考えた。急速に推移する社会情勢に目をつぶって、十数年前の決意を固守するのも賢明な態度ではない。時運の歩みとともに昨日の非は今日の是ともなることがある。一方今日ではGHQは財閥を寸断しようという意図から種々命令がだされており、住友土地工務も独立して歩まねばならぬ。住友財閥としては商事は法度であり禁句でもあったが、住友財閥が消滅した今日では、

われわれが活路を商事活動に求めてもゆるされるのではないか。

10月24日住友本社が連系各社に対する支配権を放棄してからはなんらの制肘をうけてはいない。しかし個人的には先輩の意見を聞くのは礼儀でもあり、また情誼でもある。

もとの本社の理事は始めは一人として私の企図に賛成してくれる人はなかった。私はせめて建築材料の売買でもやってみたいといってわずかに同意を強要したものである。

私がこういう企画をしていると同時に、他方住友本社の少壮課長連にもこの時期を捕えてやるべしという論があったようだ。それには住友本社の一部であり、東京・神戸・呉・博多・仙台等に店舗を持つ住友本社販売店の始末をも考えていたからであろう。

私がまだ住友本社の建築課長をしていた頃である。昭和3年大学卒業の新進気鋭の学士連中を中心にした一団が、私に謡を教えてくれということであった。元気一杯の十数人のこれ等の人に一週一度宛住友倶楽部で謡の手ほどきをしていたが、ときどき私の家に集って謡会等を催していたため、自然家庭的にも親しくなり、この連中からは私はおやぢ扱いにされていた。正月の年始などにはそれぞれの上司の家を廻った後は私の家に流れ込み、喰い倒し、呑み倒しにくる。職務上の上司でないから、遠慮も気兼もない。元気潑剌たる青年達は勝手な熱をあげて帰るのであった。

昭和8年私が住友をやめてからは謡の稽古は杜絶した。そして昭和20年の今日では、この連中も大学を卒業して十数年を経ていて、各所で重要な役職についている。住友本社の重要な課長の地位にもこの連中のなかの者がいる。

平素の心安さからこの連中の気持を叩いてみたらおおむね賛成である。しかし商事をどこがやるかについては別な考えもあったようだ。その頃GHQの住友本社、住友家に対する処理の意図は、財閥を寸断して解体させるという大方針は定っていても、その方法等についてはまだ定っていない。住友本社の行動というものは慎重を要する。古田総理事はひたすら住友家に累を及ぼさざらむことに専念していられる。従って諸事に早急な決断ができない。

一方占領軍の時々刻々に行なう政策による周囲の事態は急速に処理されねばならぬ事情にある。財閥の事情は非常にデリケートな状態で、一歩処置を誤ればいかなる禍いが住友家などにおよぶか分らぬ状態だから、総理事は極めて慎重である。課長連は事務の処置に困惑する。気負いたった少壮課長連は辛棒できない。

こうしてその頃から住友本社に下克上にも似た気勢が生れてきた。なかには転勤を命じてもこれに応じない者すらでてくる始末である。どうせ永くない重役のいのちと見縊っていたのかも知れない。

こういう四囲の状況から元本社の理事達も、もとの住友の一会社である住友土地工務が商事を始めることも止むを得ぬとあきらめるような気運に向いてきた。

そこで私は住友人でだれか商事を担当し統率していける有能な敏腕家はないかと物色した。そして本社の人達にもいろいろと聞いてみた。古田総理事も近頃では止むを得ぬと思うようになり、人選に協力することを約された。

使われ上手と使い上手

さて俊秀山のごとくありと思われる多彩な住友の人的陣容を見渡しても、いよいよとなるとなかなか適任者も見当らない。戦後多数の人が退かねばならぬ状態にあっても、それぞれの会社もなくてはならぬ人は動かせない。いずれは財閥解体ということが実現するだろうし、その際は当然犠牲になる人も生ずるだろう。そういう人はいかに有能であってもこの際は避けねばならぬ。また年令の関係もある。

住友本社は住友関係事業の統制をやっていたが、もちろん人事の統制はその重要な仕事であり、事業は人であるから極めて慎重に取扱われていた。その人事統制が今度やめになるのであるから、永い将来には社風も変り社員の人柄も各社によって変化してくるであろう。

住友の社員はもとより、なんらかの意味で優秀な素質を持った者が多い。温順な俊才もあれば悍馬のごとき逸足もある。

私の過去をふり返ってみると、最初は人に使われる時代、次には上司に使われながら若干の部下を使う時代、最後は人を使う時代に分れる。

学校をでて10年はなんといっても経験もなく、一平社

員として上司に使われる時代であるが、よく観察していると、人によって、非常に使われることの上手な人と下手な人があって、その差に非常な開きがある。優秀な人でも使われることの下手な人がある。

人間の第一印象というものは恐ろしいもので、悪くすると一生つき纏うのであって、非常に大事なことだ。一度うけた誤った印象はなかなか取戻しにくいものである

ここにも人間の運不運がある。最初に使われる上司の性格である。温順で素直な人はどんな場合でも使われ上手だ。しかし悍馬のごとき強い性格を持った者は使い難いし、多くの場合は使われ下手だ。私なども若い時代をふり返ってみると、確かに使われ下手であった。

使われ下手は上司がよほど達観した人でないと、あれはよくないという烙印を捺されるという不運に陥るものである。

入社後十数年経っと相当の地位に登るが、まだ部下を使いながら上司につかえねばならぬ。この時代になってくると使われ上手であった下働き時代に評判のよかった者が存外伸びないで、期待に背するとみられる者が生れてくる。しかしこの時代でも使われ下手な者や、精悍な駿馬でも、つかえる上司に力がなく乗りこなせない場合は、この人はよくないという烙印を捺される場合がある。

この時代に重大なことはやはり上司である人によって運命が左右されるということである。上司である人がその会社の主流でなかったり、会社の意図と反する方向に向う人であったりすると、上司の不運の巻き添えを食うことになったりする。

これに反し上司が幸に精悍な駿馬でも乗りこなせる人であり、主流に添って順調な歩み方をしている人であればこの人は幸である。

この時代はほとんど人の一生の運命が定まる重大なときで運が悪いと埋れてしまう。サラリーマンの運不運の分れ目であり、悲哀でもある。

こういう時代を乗り過ぎ運よく人を使うだけの時代となるとまた変ってくる。使われ上手でかつ使い上手であればこれは最上であるが、使われ上手で評判がよかったものが、一国一城の主としては失敗であることもある。また一方使われ下手であったり、上司が駿馬を乗りこなす力がなくて不遇となったり、あるいは上司が失脚したとき、その上司のために懸命の努力をしたため、かえって不遇に陥ったりしたものが、今度使う立場になると存外持前の実力を発揮するものもある。

運不運は人の力ではなかなか支配できない。住友でも埋れた俊秀があるのが私のような出戻りにはかえってよくわかる。

住友では一度買った不評はなかなか取返せなかった。私など往年外人から私に対する中傷の手紙を本社理事にだされてから、僻目かも知れないがもう一生浮ばれないと観念していたから、昭和８年建築部の解散に際しても池のなかの生活のような宮仕えの気苦労から逃れて、自由な大海に活を得たような気もしたのである。

商事の担当者の人選に際してもいろいろの候補者があげられたが最後に私は私の好みで、当時の住友金属の伸銅所の副所長であった田路舜哉君にきて貰うことに定め、古田元総理事から説得して貰った。

本社からは昔の謡の弟子である佐藤俊雄、津田久の二人がきてくれることになり、人事上の主脳者が定った。その内津田君はそのとき企画された他の仕事に従事させるつもりであったが、この仕事は実現しなかった。

こうして会社の定款を改正して商事部門を設けたが、同時に社名も日本建設産業と改めた。

これはＧＨＱから財閥の名を冠した社名は廃止するよう慫慂されたためである。住友銀行が大阪銀行、住友金属工業が井華金属、住友化学が日新化学と改名したのはこのときである。

しかし後年事態が変化し住友の名を冠することが差支えなくなってから、日本建設産業は住友商事と改名し、大阪銀行も住友銀行にもどり、その他の旧住友の連系会社も旧に返って住友を名乗るように改名したのである。

昭和20年11月26日定款改正とともに商事部を、住友ビルディングの東南隅の向い側にある旧藤本ビルの１階に設けた。どこで工面したのか当時としては入手困難であるのに酒を酌んで、新たなる門出を祝した。私の前途は年令の上からいっても知れたものである。しかし後継者が将来は住友の名にふさわしい発達をとげるように祈った。

こうしてわが社では一人の識首者もなくてすませるばかりでなく、進んで若干の人をうけ入れる体制を作り得たことは私の最大の喜びであった。

追　　放

昭和22年３月28日私もいよいよ日本建設産業をさる日がきた。

敗戦後連合軍の日本に対する処理は着々と進んできた。要するに戦力の潰滅と経済力の破砕が目的である。戦争責任者として東条さん以下の死刑も決った。始めは財閥主脳者も死刑にされるような噂もあったが、幸にそういうこともなくてすんだ。

財閥に関する処置としては持株整理委員会という組織ができ、財閥と指定された者や、その家族および支配会社の所有する株式財産を全部取上げここで処分するというのである。

また財閥関係の諸会社はこれをＡＢＣの３階級に分ちその重役を公職とみなし、ＡＢＣの階級に応じて重役は公職追放の場合と同様に取扱われるのである。

この公職追放の手段が始めてとられたのはアメリカの南北戦争のときで、敵軍側の力を徹底的に長期にわたって完膚なきまでに潰滅するのに非常な成功を納めたと伝えられている。これを敗戦日本にも適用しようというのである。

そして今度の財閥関係の被追放者は一切の公職につくことをゆるされない。教職につくこともゆるされない。財閥関係の建物に出入りすることもゆるされない。退職に際して一切の給与の支給もゆるされない。

こうなると比較的老齢に達している被追放者達は生きていくこともむつかしくなる。

日本建設産業株式会社はＡ級に指定された。これは意外なことであった。

財閥の会社役員に対する処置は戦時中の事業の種類、また人事は戦時中の役員を基礎として処理せられている。日本建設産業は戦時中は不動産会社であった。そして他の財閥の不動産会社はＣ級に指定されているのに、住友のみがＡ級に指定されたのであるから驚かざるを得ない。

Ａ級とＣ級とでは被追放者の範囲が違う。Ａ級となると常任の重役は全部追放者と指定されるのである。Ｃ級では追放は社長だけで他は審査をうけて処理されるが、退職せねばならぬにしても追放と指定されることの不運はまぬがれることができるのである。

終戦以来のわが社の動きをかえりみると、三井物産、三菱商事のごときＧＨＱの嫌いな商事活動を創始したということもあるが、その他に住友人としてあるまじき不都合な行為をあえてした社員がわが社以外の者にあったという不幸がこういう結果をもたらしたものである。

少壮有為な住友の社員でありながらいかなる意図からか計り知れないが、ＧＨＱ、特殊整理委員会、大蔵省などにいって、住友は日本建設産業によって人事統制を行わんとしているとか、財閥復興をくわだてているなどといいふらしている者があった。

それがため21年暮れもおしつまってＧＨＱから、当社の住友関係会社の製品の取扱い高についての報告を求められたり、財閥活動に関係あるいろいろの質問をうけたりしたものである。遺憾なことである。

昭和22年１月勅令第一号で追放の範囲が発表された。日本建設産業としては戦時中常務取締役以上の役職にあったものは追放者となるのだ。

私自身は覚悟の上であるが、永く一緒に仕事をしていた池田宮彦君を常務取締役にして貰ったため、同君も巻き添えを喰って追放者の悩みを味わねばならぬようになったことは運命とはいえ気の毒なことである。

昭和22年３月28日を私達被追放者が会社をさる日と決めた。午前中本社４階会議室に社員を集めて左の要旨の袂別の辞を述べた。

「さる昭和19年12月住友本社関係の不動産を結集して住友土地工務株式会社が生れ、私は専務取締役となって鋭意戦時中の複雑な事態のもとに経営の任に当っていたが、20年８月敗戦という悲惨な結果にわれわれ国民は直面せねばならぬ破目になった。こういう際に北沢前社長の後をうけて私は社長として戦後の難関に当ったことは諸君のご承知の通りです。

じらい諸君のこの難局に処する懸命の努力によって幸に大過なく経営し、私が社長となるとともに新らしく商事部門を設けました。由来住友においては商事を営むことは社是に反するものとされていたのでありますが、すでに住友というものが解体された以上、連系の各社が多

数の解雇者をだしている際、なんらかの手段によって解雇者をださぬようにし、またできうべくんば進んで他社の余剰社員を吸収していくために新たに商事活動を始めることは今日としてはゆるされることと考え、20年8月定款を変更し、社名も今日のものに改めたこともご承知の通りであります。

幸にして14の店舗の各地に所在するものも整備せられて利益を得るまでに至ったのでありますが、これひとえに社員各位の努力によるものであります。

しかるに連合国の構想もいよいよ決定し、私始め終戦前に常務取締役であったものは本日当社をさることになったのであります 。

後は田路専務が社長となって当社を統率されるのでありますが、田路君は識見手腕において私より数等勝れた経営者であって、私は安心して当社をさることができます。

およそ人間は事業の上において優秀な後継者を得、家族においてよき相続者を得ることが最後の幸福であると考えるのであります。家族の相続者のことは将来のことでありますが、事業の後継者にかくも立派な人を得ることは私の人生の最後の一半を飾るものと考え、私自身はこの点で幸福な者であると考えるのであります。諸君は新社長のもとに今後社員一同協力して一層の努力をし、住友にふさわしい会社として成長されるように祈っています。」

私はこういう袂別の辞を残して通いなれた日本建設産業株式会社の建物を喪家の狗のごとく去っていった。

自分の設計したあの大きななっかしい住友ビルディング、一瞬前まで私が社長であった会社の所有であった建物、この建物にもＧＨＱから追放という烙印を捺されて、今日以後永久に出入り出来ないかと思うとそぞろに胸せまる思いがする。大川町の河畔にでて街路樹の柳の若葉が私の傷心を慰め顔に揺れるのを眺めながら歩いていく。道を隔てた住友ビルの玄関をみると、たまたまそこにたっていた顔見知りの守衛が、去っていく旧社長をみて軽く挨拶の目礼を送っている。私は心弱くも目頭のうるむのをそっとハンカチーフで拭った。

昭和24年夏のことである。今の日建設計工務がまだ住友商事から分離しないとき，社長の田路君が私を訪ねてきた。

今度，聖心が東京の久邇宮家の屋敷を買いとって，聖心女子大学を創設することとなり，設計者を探している。設計をさせてもらうように頼みにいったら，世間が認めている建築家で，直接英語で交渉ができる人がいたら設計を依頼しても良いが，通訳では困るという。そこで私にいってもらえないかというのである。

私は追放で会社をやめている。その上すでに米国で修業した建築家が幾人も頼みにいっているのに，私のごときがいっても，とうていお気にはいるまい，と辞退した。追放の関係は，聖心がG. H. Qと密接な関係があるし，今度マッカーサー元帥が発起人となって基金を集めるので，聖心が良いということになれば，建築の設計のことでもあり，戦力国力とは何ら関係がないから何とかなる。ともかく一度会ってみてくれとの田路社長の依頼である。大阪に東京のマザーがこられた機会に小林の聖心女子学院で初めてマザー・ブリットとマザー・シッケルとに会った。

私のようなものが，どうして気にいったのか，じらい十数年ほとんど毎年絶えることなく仕事が継続し，当初の膨大な計画もほぼ完成に近くなった。

私は聖心のマザーたちに会って，世にはこんなにも敬虔で優れた女性たちがあるものかと驚いた。

昭和24年頃は，終戦後間もないこととて人心が乱れていて，世の中が醜悪なものにみちていた。こんなときに聖心のマザーに会うことは心の飢をいやす糧となって嬉しかった。

26年に修道院ができて，院内に聖心会の創立者であるマザー・バラーを祀る祭壇を作り，その設計をした。正面にはめ込むその肖像画をだれかに描いてもらわねばならぬことになり，いろいろと画家を探しておられたが適当な人がないらしい。

ある日，レベレンド・マザー・ケオーが，私を呼んであなたが描いてくれないか，あなたは必ず描けると確信しているといわれるのである。

祭壇の設計ならともかく，私にマザー・バラーの肖像画を描けとは無理だとは思ったが，尊敬するレベレンド・マザーからの命である。お引受することにした。



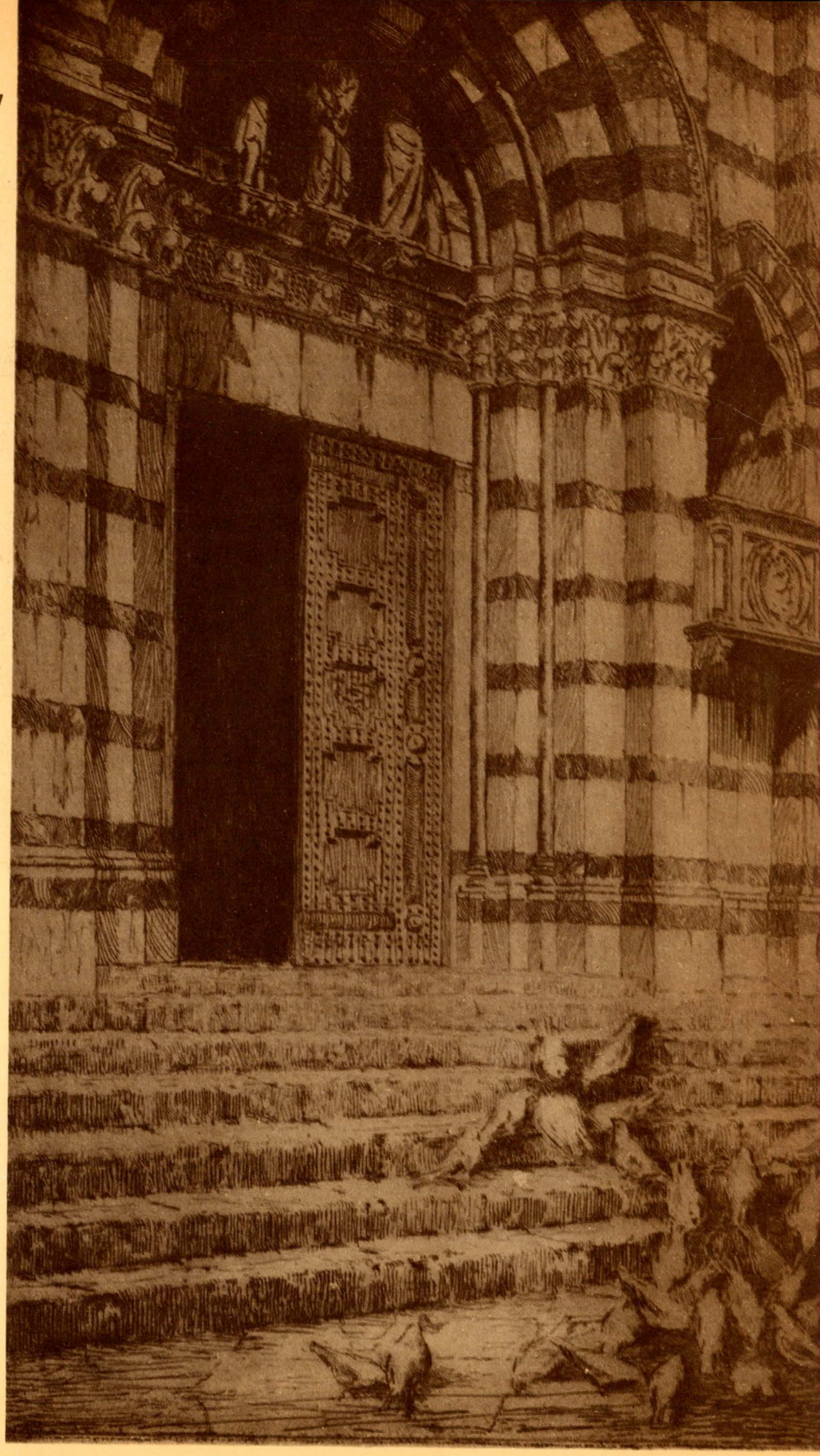
古いこととてお写真はなく，わずかにデスマスクがあるばかりだとのこと，それで敬虔な気持で描けば良いとのことであったので，三田の田舎家で油絵具を使って描きあげた。それがこの画である。

27年5月，私は3度目の外国旅行の旅にでた。もちろんそのときは聖心のお世話にもなった。ところがニューヨークの聖心を訪ねると，私の描いた肖像画に対する謝礼といって相当の弗の金が送ってあった。

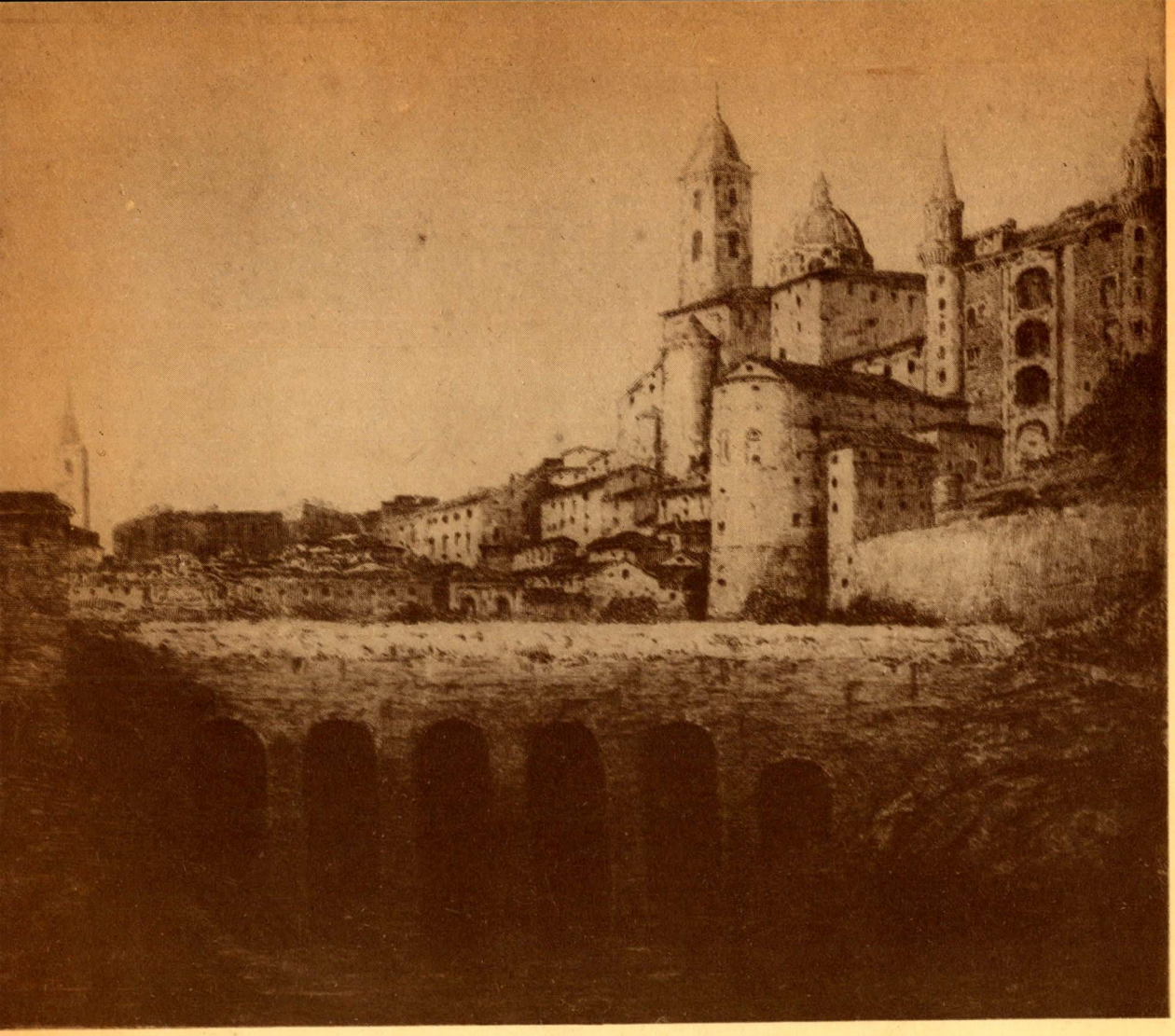
日本をでるときは何の話もなかった。私も謝礼など露ほども予期していなかった。私を不意に悦ばせてやろう，弗入手の困難な旅行を助けてやろうという繊細な思いやりからできた行いと感じ，私はしみじみとその心持をありがたく思った。

こういう人々の教育を受けた者のなかから，皇太子妃に選ばれるような女性がでるのは宜なる哉と思うのである。

Siena, Italy



竹腰健造エッチング



Urbino, Italy

1915～1917

竹腰健造エッチング

竹腰健造講演

—昭和31年2月22日—
大阪倶楽部講演特集転載

近代建築偶感

建築様式の変化は一朝一夕ではない

今日は戦後におけるわが国の建築の様相につき，その因ってくる経路と，またそれを，いかに考えるべきかについて申上げてみたいと思います。

近年，新築せられる，いわゆる戦後建築がその外貌，すなわち建築のスタイルにおいて，戦前のそれと著しく異っていることは皆さんもお気付きになっているところであります。最新流行とか，最新式とか，近代式とか呼ばれて，大都市の都心に次から次に大建築が建てられ，戦災によって破壊された敗戦後の，わが国の都市は偉大なる復興ぶりを見せているのであります。

建築の様式の樹立というものは，もちろん一朝一夕に成るものではありません。この戦後の建築のスタイルの変化も決して忽然として出現したものではないのでありまして，これは，やはり数十年前からの欧州の若い情熱に燃えた革命的な思想家，芸術家，またはそういう傾向を持った建築家の撓まざる努力が，戦後の，他動的に，あるいは自主的に旧慣を棄却するようになった敗戦の日本の土地に実を結んだのでありまして，これらの先覚者と申しますか，革新的な考えを持った人々は，政治的にも，また旧状を維持しようとする旧来の建築家が牛耳っており，建築界からも，各種の圧迫を加えられながら，その主義主張のために動いてきたのであります。私がここに，わが国の戦後建築のスタイルのことを述べようといたしますと，自然これらのパイオニアーのことを述べなければなりません。そういたしますと，自然，私自身がそのような思想を持った者であるかの如く譬きはしないかと懸念いたしますが，私は決してそういう先覚者ぶった，思い上がりようは致しておりません。したがって，またこれらの先覚者が陥りやすい，ある者は，実際ある程度足を踏み入れましたが，私はそういう政治的な革命思想などの持合せもありません。これから私の申上げてゆくお話の間にも，そういう点をお心に置かれてお聞きとりを願います。

なお，さらにお断わりしておきたいことは，私がこれから，ここに申し上げるような，革新的な建築上の主張や，その作品につき述べて参りますと，欧州においては，そういう主張の建築が大流行をいたし，都市にこういう作品が到るところに実現していたかのごとき感を皆さんに与えはしないかと懸念いたすのでありますが，こういう作品は，戦前はもちろん，戦後においても極めて少ないのであります。これら革新派の宣伝には多くは博覧会のごとき仮設的な建物とか，図上の計画というものが使われているのであります。したがって実際に実現したものは，過去の欧州においては，寥々たるものであることをご承知願いたいのであります。もちろんニュース・バリューから申しますと，こういう革新的なものの方が価値がありますので，ジャーナリズムの方面からは実際の姿よりは強く喧伝せられ，強く取扱われていることが，実際とかけ離れた感じを一般に与えていると思います。これは思想界においても同様のことがいえると思うのでありまして「ボーク」などの洋装のスタイル・ブックに出ているような服装をした女が，ロンドンやパリの街に見られないのと同様であります。

復興の順序は日本と逆

現在，日本の都市あるいは国全体の復興は急激に進んでおりますことはご承知のとおりであります。戦争のため，わが国のごとき敗けた国はもちろんでありますが，勝った国といえども，その都市は相当に破壊されました。繁華街の建物は破壊され，住居は焼かれ，住むに家なく，商売するのに事務所も不足する悲惨な状態となったのであります。

私，戦後去る昭和27年に短時日ではありましたが，欧米を廻ってみたのでありますが，ロンドンに行ってみますと，マーブルアーチからフェンチャーチ・ストリートまで，おそらく上野広小路から新橋までに相当する所と思いますが，その間にバスの上から50数ケ所の大きな爆撃の跡を見ることができました。板囲いができていて，街を歩いていては，汚ない見悪さはありませんが，相当の被害と想像されました。パリはあまり被害はありませんでしたが，仏，伊ともにその他の都市は大きな被害を受けております。私はベルリンには参りませんでしたが，ベルリンの被害は大変だという話です。これらの国が戦後復興にとりかかったことはもちろんであり，わが国においても東京，大阪をはじめとし，その他の都市の大きな被害を受けた所も，一斉に都市の復興にかかっているのであります。

しかし，復興の順序は日本とヨー

ロッパでは非常な差があります。イギリスの例を採ってみますと，イギリスでは戦後ほとんど総ての都市で，住宅以外の建物の新築に対して禁止的な措置をとりました。私は30年前1913年から17年まで，ロンドンにおり，はじめ学生々活をし，のちに建築事務所に働いておったのでありますが，そのときの友人を訪ねて聞きますと，No work for Architect 建築家には仕事はないといいました。建築資材の統制があって，住宅の建設にほとんど全部の資材をまわし，都市の建築には供給されない。住宅以外の建築は，金額的にも制限があって，はじめは200ポンド，のちには2,000ポンドに緩和されたが，その程度では修繕にも十分でないということでありました。

そのかわりに住宅の建築の方は極めて積極的でありまして，戦後ほとんど毎年17万戸以上建てておったのであります。

昨年あたりでイギリスはほぼ住宅は不足の緩和ができまして，これからは市街地の事務所建築の許可が緩和されるということがイギリスのオッフィーシアル，ブレッチンに出ております。この住宅建築を急務とするという考え方は，パリ，ローマはもちろん，全然被害のなかった米国でも同様でありまして，パリ，ローマなどに行ってみても，事務所や銀行の建築は一つも手をつけておりませんでした。ただ住宅ノ住宅ノと，ひたすら住宅の建築に一路邁進しておったのであります。

私はロンドンに着くと，直ちにフェンチャーチ・ストリートのバンク・オブ・インデアに，かねて送金してあった英貨を貰いに行きましたが，あれだけ大きな取引のある銀行であるにかかわらず，その建物の内外ともに見すぼらしいのに驚きました。日本と何という差だろうと驚いたのであります。

以前，私がロンドンにいた，若い頃の友人の子供が，ある大きな種物屋に勤めていました。その事務所を訪ねてみまして，その薄暗い汚ならしい狭い事務所に息づまるように，たくさんの人が働いております。この種物屋は世界的に取引をしている大きな会社ですが，話によると，これでも他の事務所にくらべると，よい方だということでした。

この青年が，自分は結婚して子供もできているから，家庭に夕食にきてくれと申しますので，サレーの田舎町にあるその家に行ってみますと，なんと，これはまた，彼の事務所の汚らしさに比べて，小さいながらも整った清潔な家で庭もあり，お手のものの種子で草花も咲かせており，家庭生活の楽しみの想像される家でありました。

これを見て私は，日本の俸給生活者の立派な事務室と悲惨な住居に対し，汚ない事務室に麗わしい住宅の英国の状態をくらべて，感慨無量なものがありました。

日本では戦後，とくに，朝鮮事変を境として，都市の銀行，事務所の建築は実に見事に建築せられ，二百数十の大ビルが建ったのであります。

一方，そこで働いている者の家庭生活はどうかというと，実に酷いものであります。六疊一間の一家族はまだ良いほうであります。とくに東京などにおきましては，三疊や四疊半に一家族，酷いのになると一室に数家族生活しているところすらあるのであります。しかも，その多くは不潔で見すぼらしいものであります。いかに昼間，冷房暖房の立派な事務室で働いていても，住居がこんなふうであっては家庭生活を楽しむ気にもなれません。したがって住居というところは，ただ寝に行くだけになり，そんなところにいる時間はできるだけ短かくしたくなるのは人情であります。

それがため会社がひけるとパチンコ屋で時間を過したり，飲屋を廻って時を過して，住む家には寝るだけに帰るということになります。

こういう状態が国民の思想にどういう影響を与えるでしょうか。また将来の国民の政治的な考えに，どういう変化を与えるでしょうか。復興の順序におけるイギリスとわが国との差を思いますと，大いに考えさせられるところがあります。

新芸術運動の台頭

しかし，ここでは，これ以上この問題についてお話しようと思いません。また戦後の政府の建築政策の良否を挙げつろう考えもありません。これから少し，こうして都市に建ち並びましたビルディングの外貌についてお話し申し上げようと思うのであります。

戦後のビルディングの外観が，戦前のものと非常に違ってきていることはお気づきのことと思いますが，然らば，どういうところから，こういう変貌が生れてきたかを申し上げて，皆さんの新しい建物をご覧になるうえの参考にしていただきたいと思うのが，私のこれから申し上げる話の目的であります。

わが国の戦後建築の様式の変貌は—それは確かに様式の革新とか，革命という言葉で表現されると思いますが，わが国では突如として出てきたのでありますが，これは一朝一夕にできるものではないことは，前にも申し上げたとおりであります。これから，こういう革命が成るまでの経路を基本のところから少し申し上げてみることに致します。

1888年という年は，いろいろの意味で意義のある年であります。第一私の生れた年であります。—これは冗談でありますが—。第二にあの世界大戦を起し，その後の世界の動きに大きな変動を起す元を作ったドイツのカイザー・ウイルヘルム二世の即位した年であります。第三にはパリのエッフエル塔の建った年であります。翌1889年は，また，ロンドンにおいてウイリアム・モリス，マッ

キントシュなどが，新芸術運動の第一回の展覧会を開いた年であります。このエッフエル塔の建設やウイリアム・モリスの新芸術運動が建築界に一つのエポックを作るスタートを切ったことになるのであります。

エッフエル塔と申しますと，世界で一番高い鉄の塔，あるいはパリの美しい建物として簡単に見過すかも知れませんが，決してそんなものではなくて，極めて意義の深いものであります。

19世紀の産業革命の結果，いろいろのものが生れました。その中で一番われわれにとって意義のあるものは鋼鉄でありましょう。

従来の西洋建築というものは，石や煉瓦の壁の上に重量をもたせて建てていたのでありますが，鋼鉄を使いますと，柱で重量をもたすことができ，根本的に建物の構造を変えてゆきます。鋼鉄の持つ力がどういうのを作り得るかという，その可能性を誇って作られたのがエッフエル塔なのであります。エッフエル塔はパリの博覧会の建物でありますが，博覧会の建物にはよくこういう，そのときの工業の進歩を示す新しい試みがなされるものであります。この鋼鉄の可能性を利用することが，のちに今日の建築様式の革命の一つの原因になっているのであります。

その翌年のウイリアム・モリス一派の新芸術運動は，一つの社会運動として宣伝せられ，これがまた建築の新様式に対する運動の導火線となり，次第にこれから，いろいろの運動が起ってきて，今日のいわゆる新建築を生む基となったのであります。

旧来の欧州建築の様式といえばギリシャの神殿建築から来たクラシック，それから，つづいてキリスト教によって生れたロマネスク・スタイル，ゴシック・スタイル，つぎに文芸復興とともに発達したルネッサンス・スタイル等々でありますが，19世紀ごろからは，こういうスタイルを現代の建築に踏襲することに人々が疑問を持ち始めました。われわれの時代の建築はこれでよいであろうか，われわれはこういうスタイルの建築に感銘を持つであろうか。われわれの時代には，われわれの建築のスタイルがあるべき筈であるということを真剣に考え始め，旧套を脱した新しい様式を求め始めたのであります。

こういう強い動きが建築家の間に生れ，そこで生れたものにフランスにアールヌーボーがあり，ウィーンにセセッションがありまして，クリムトとかワグナーとかオルブリッヒ等が活躍しました。

しかし様式やスタイルというものは，数人の建築家の主義や主張によって，そう容易に，また短日月の間に生れるものではありません。やはり新時代の新様式はその時代を支配する社会的な大きな精神とか，大きな宗教とかいったものがインピータス（主動力）になって社会大衆の共鳴を得て自然に発生し発達するものであります。

旧来のスタイルというものも，封建時代の貴族制度とかキリスト教とかいうものがインピータスになっておったのでありますが，この新しいアールヌーボーもセセッションも畢竟これらと同じインピータスの許に生れたものでありまして，スタイルを根本的に変革する新しいインピータスを持たなかったのであります。

ところが時代が次第に進み，19世紀末から20世紀の初めにかけて，旧来の封建制度，宗教等にとって代る新しい原動力となる社会思想が芽生えてきました。それは社会制度に対する思想的な問題がまず火蓋を切っております。ご承知のマルクスの思想もこのときに生れております。絵画，音楽，彫刻にも同じように，この旧来のものに反逆する主張のものが生れてきました。

絵画の方面におきましても，旧来のごとく自然や事物のごとき目に見るものを写して美を需めるのは邪道である。よろしく自己の中にあるものを表現すべきであるというカンヂンスキーやマルクなどの表現派というものなどが現われました。われわれは，その絵を見ても何だか判らない，描いた本人だけが判るような絵でありました。

私が初めて欧州に参りましたのが1913年でありまして，こういう動きが頭を上げたときであります。その後にはデスブルヒのキュービズム・フューチュアリズムなどという最新式と称せられる絵画の展覧会が催されておりましたが，遂にはアルヒペンコのダダイズムだとか，無対象主義の絵画だとか，パウルークレエのネオプリミチズム，すなわち童心に帰った絵画など千種万別の新主張による絵画が出てきました。マチスやピカソなども，これらの主張と一連のつながりを持っておりますし，また今日のアブストラクトというものも，またこれら澎湃として起った新主張につながりを持つものであります。

音楽もまたフューチュアリズムの音楽などといって，ロンドンのコロシアムなどで騒々しい何だか判らぬ音楽をやっておりました。

思想界は旧来の思想を酷しく批判し，これに反逆し新しい思想を生む時代，音楽，絵画も新しい主義主張の下に旧来のものを罵倒し，これに反逆する時代に，建築のみが独り旧態依然たるものがある理由がありません。

そういう時に，建築の方の革新思想は主として独仏，とくにドイツに芽生えつつあったのであります。そのころ，ドイツにはメーリングとかレーベンスとかいう建築家が—建築家というよりは，むしろエンジニアーといったほうが適当かも知れませんが，主として鉄橋だとか，その当時ようやく盛んになった鉄道の柱のない大停車場や工場などを設計しておりました。そして新材料である鋼

鉄—ガラス—コンクリートなどの持つ力で，どういう構造が可能であるかを工夫しており，大きい架構の建物がその努力によって建ってゆきました。

このレーベンスのもとに働いていた情熱に富んだ青年技能者がその影響をうけて，のちに建築革新運動の中心人物となりました。それはウオルター・グロピウスと仏のル・コルビュジェの2人であります。

この2人と皆さんご承知のドイツのブルノー・タウトの3人がなんと申しましても，現代建築革命の主動的役割を演じた，この方面での立役者と申して差支えないと思います。

これらの人々は，主として工場建築の方面から出発しておりまして，当時の一般の考え方から申しますと，こういう建築は美術建築の中には入らないのであります。

しかし彼らは，こういう新時代の建築材料を使用した大きな架構物にも美があるではないか，あるマスの配列，組合せに調和があり，美がある。否，むしろ，こういう鋼鉄，ガラス，コンクリートという，われわれの世界に今までの材料ではできなかった構造を可能にした新材料の使用の中に，新しい建物の様式，スタイルが生れるのではないか，近代の美術的感覚というものは，こういうものの中に存在する。今日までのクラシックとかゴシックとか，その他多数の様式は，昔のそれぞれの時代，民族の様式であって，われわれの時代のものではない。われわれには，われわれの時代のスタイルがあるべきはづで，それは，われわれの時代の新材料から生れるべきである。

われわれは今や，古くさい旧時代の様式には，何らの感激をも持たない，こういう歴史的な先人の旧習はよろしく放棄すべきであると考えたのであります。コルビュジェのごときは，こういう古い様式はわれわれに虫づをわかせるとさえいっております。

これらの青年技術者は画家であったり，当時，美術建築の中に入れられていなかった工場建築あるいは構造主体の建築に従事しておったりしていて，当時のエコール・デ・ボザールというフランスの国立美術学校を中心とする正統派の学歴をもつ建築家が中心勢力を示していた時代に一種のレジスタンスを感じておったことも，また想像されます。

タウトは1880年に生れ，コルビュジェは1887年でありまして，1888年の私よりは一つ年長であり，いずれも私どもと大差のない年輩でありまして，タウトを除くはかは，いずれも現在でも盛んに活躍しております。1913年26才の私は欧州に勉学に行ったのでありますが，その頃はまだ日本は西洋建築等の揺籃時代でありますが，当時30才前後の上記の3人は，すでに旧来の欧州建築様式の排撃のノロシを揚げておったのでありました。しかし当時は未来派の音楽や絵画とともに世人からは奇異の眼で見られていて，一時的，派生的なものとして重要視されていなかったのであります。

こういう革新的な主張を持った人の作品は，実現はなかなか困難であります。建築は絵画と違って莫大な資金が要るのでありまして，だれも永久的な建築に試作の犠牲になりたがらないのでありまして，とくに戦後の人心の不安定な時代ならともかく，平和が長くつづいた安定した時代にはなかなか，奇矯なとくに大きな投資はいたしません。そこで，こういう人は小さな住宅とか博覧会建築とかいうものが作品の初めとなるのでありまして，その他は多くはペーパー・プランであります。そして同志を集めてグループを作り，ニュース・バリュウのあるものを始終求めている建築の雑誌などの上で論議するのが最初のムーブメントであったのであります。

こうして運動をつづけている間に第一次世界大戦となり，こういう革新運動のリーダーたちも，みな戦争に巻き込まれ，戦争の動員のために一時，運動も中断されました。

戦争もドイツの敗戦と定って，タウトやグロピウスは敗戦の故国にあって，また自己の道を辿って行くこととなりました。

ドイツでは，その後ご承知のワイマール憲法ができまして，社会民主党の政府ができたのでありますが，グロピウスはワイマールに迎えられ，建築教育の任に当ることになりました。戦後の社会秩序の混乱によって，従来の主流派に代って，グロピウスのごとき革新的思想の者が迎えられたのも当時のドイツの思想政治の一面を表わしておりまして，グロピウスは在来のアカデミーと工芸学校とを一つにして，新しい組織のもとに，一方に建築に関係のある木工，金工，絵画，彫刻等の分科を持って，その関連性を生かして研究し，他方に工房と実験室を持ち，両々相まって今後の建式様式を考えて行こうと考え実施したのでありまして，これが建築界でやかましく言われていますバウハウスの組織であります。

このバウハウスは，建築革命の方から申しますと，歴史上みなが忘れることのできない一つのスタートであります。そうして，新しい指導精神のもとに，子弟の教育に当りました。

仏のコルビュジェも戦後は自国にあって，主として絵画に彼の熱情を傾け，レスプリ・ヌーボーという国際主義の雑誌，その他の言論機関で新芸術の宣伝に努め，1922年までセーブル街に事務所を開き，彼の言説に共鳴する世界各国の青年建築家を集めて都市計画の中心となったのであります。

彼らの主張は一致して，—今日までの様式というものは皆，宗教とか，封建制度とか，貴族や富豪の政治とかいうものが基礎となり，そう

いうものがインピータスとなって生れたものである。われわれの時代では，そういうインピータスはもう，なくなりかけている。そして過去のそういうインピータスから生れた様式には何らの興味も感じない。そんなものは棄ててしまえ。われわれの時代の様式のインピータスは宗教ではない，封建制度でもない貴族や富豪を悦ばせるような思想でもない，これからの時代の様式は，工業と商業とまた民主主義から生れるものでなければならない。それには鉄，ガラス，コンクリート等の新材料の可能性を生かし，商工業に奉仕することから新しい様式が生れるのである。こういう主張のもとに動いたのであります。

この3人は前にも申しましたように，工場建築の設計からスタートした人でありますが，3人ともに文筆の士であり，言論の士であり，また思想家でもあり，当時は著述や論説や紙上の計画が多く，実際の仕事はたくさんはありませんでした。そして，こういう傾向の人の常として，いずれも学校の教授になったりしてグループを作り指導的な地位も築いてゆくのでありました。

こういう立場の人の興味は多く国民生活の根拠であります住居の問題に注がれます。大戦後の敗戦国の混乱，住宅不足から，住宅，とくにジードルング—今日の共同アパート群に相当する問題をやかましく採り上げました。日本でも一時，若い建築家の間では，ジードルング，ジードルングともてはやされたものであります。

グロピウスのワイマールにおけるバウハウスは政治的の理由で解散されましたが，彼はそのとき左派の勢力の強い工業地のデッソウに再びバウハウスの組織を移しました。が，これも後にはハンネス・マイヤーに譲り，ベルリンで事務所を開き住宅主としてジードルングの建設に従事し，一万数千戸の住宅を建てたと申します。

グロピウスの情熱と申しますか，性格の強さと申しますか，いずれにしても建築のジャーナリズムの方面は，バウハウスを主張すればバウハウスに，ジードルングといえばまたジードルングに，新聞雑誌などを左右しました。それが日本にも渡ってきて，一時若い建築家などはジードルングの設計が建築家のやり甲斐のある仕事と感ぜられるようなこともありました。

ジードルングの問題を研究してゆくと，たくさんの住宅を建てるということでありますから，自然コンミュニチーというものができ，また都市計画に進んで行きます。タウトもグロピウスも，コルビュジェも皆まず住宅に興味を持ち，ついで都市計画の問題も熱心にグループを作って研究してゆきました。コルビュジェのごときは，都市に住宅が密集するような都市の計画は将来はなくすべきであると主張して種々の都市計画案がたてられました。

個人の集団から町村ができ，都市ができ，遂に国家ができるように，住宅から都市の形がいかにあるべきかが研究され，遂には国家の在り方をいかにすべきかの問題にまで移ってゆきます。そういたしますと自然，思想問題，社会問題にまで進んで行くことは自然であります。これらの人々も思想的に突き進んだ考えを持つに至ったことも止むを得ないのであります。

この人たちは，また新しい建築材料の可能性を生かして，新しい様式を生もうという主張なのでありますから，こういう材料は今日では世界各国にありますので，世界の各国が，この人たちと同じ主張で新様式の成立に努力すれば，世界中，同じ新しい様式が生れるはずであります。かくして新様式は世界共通となるのであります。こういう考えからインターナショナル・コングレス・フォア・モダン・アーキテクチュアすなわち新建築国際会議というものなどを計画し活動するようになりました。コンミュニズムの行き方と似たところも見られ，インターとかインターナショナルとかいう言葉は，その当時でも思想界の一面を表わすものでありまして，流行を追ったかも知れませんが，のちには禍となったのであります。

そうこうしているうちに，一時左傾しかけたドイツもまた国家意識，民族意識が熾んになり，グロピウスのワイマルのバウハウスは解散を命ぜられるような時代となり，前にも申しましたように，より左傾していたデッソウに移ったのでありますが，ナチスが次第に勢力を得てくるようになり，遂にヒトラーの独裁政治が始まりました。

澎湃として起ったドイツのゲルマン民族主義は猶太民族を国外に追放し新思想を排撃し，圧迫しました。そして，タウトもグロピウスもドイツにいることができなくなったのであります。

タウトの来日

その頃のことをご記憶になっている方々もおいでのことと思いますが，ドイツを追われた猶太人がたくさんロシアに逃れ，ロシアから日本に渡り，日本から支那やアメリカに行ったものであります。タウトも一部の人に猶太人だといわれておりましたが，自分では猶太系ではないといっていたそうであります。1933年タウトはロシアに逃れました。そうして，ここで若干の仕事をしかけていましたが，ここにも永住できず，わずか10ヵ月にして日本にきました

当時，日本の建築界にもタウト，グロピウス等の革新陣営の謳歌者のグループがありました。分離派，機能派，構成派の建築などといって一部で気焔を挙げておった時代であります。旧時代の様式と分離せよ，建物の用途を最もよく充たす建築こそ最も美しい建築である，と叫ばれ，

当時，東京丸の内の広場に新築された中央郵便局が最も美しい建物だなどと，もてはやされていました。

タウトはこういう人に迎えられて日本にきたのであります。彼は大阪にも参り，建築協会で歓迎し講演会を朝日会館で開くことになりましたが，亡くなられた片岡安さんが協会の会長で，私が副会長をしておりました。片岡さんは，どういう意図か，歓迎の辞を避け私にそれをやれとのことでしたが，私も平素，世の中のことはエボリューションで進むべきもので，レボリューションは避くべきであるという主張を持っておりましたので，彼を讃えて良いのやら，悪いのやら，変な曖昧な歓迎の辞を述べたものでした。

タウトは日本にきて，一時はチヤホヤされましたが，日本で生計の途を得ることはなかなか困難でありまして，窮迫した生活をしたのであります。

タウトは日本建築を見て非常に感心したのでありますが，これはもっともだと思いました。彼の従来の主張は，その土地その時代の建築材料を材料の姿のままに使い，構造も赤裸々に現わすところに建築の美しさがあり，新しい様式の見方があるというのでありますから，茶室や桂離宮の建物が彼の従来の主張とピッタリ合っておって，快心事と考えたのでありましょう。しかも疊や建具が6尺を基準としてスタンダダイズされているのを見てあの人たちの平素主張する，基準化する点を理想的に実施していることに驚いたに違いありません。日本にきて教える代りに教えられる形となり，日本の建築を讃えに讃えたので，日本人からは日本のよき理解者であると見られ，新しい感覚のもとに指導してもらえる人と思われるようになり，群馬県で工芸の指導者として迎えられたのであります。彼は日本にくれば彼の崇拝者もいることだし，デザイナーとして生計をたて得ると思ってたのでありましょうが，なかなかそうは行きません。日本での生活は困難でありました。もっとも一，二の日本式の家屋の設計はしましたが，なかなか日本の材料を使用しての技術となれば日本人には及びません。遂に昭和11年5月また日本を去りトルコに参りましたが，革新思想家らしく放浪の末，イスタンブールで客死いたしました。

グロピウスもタウトと同じころ政状の変化のためドイツにおられなくなり，これは先ず英国に去りました。英国では新建築運動について，いろいろ講演など致しておりましたが，タウトがロシアや日本で生計の途を得ることができなかったように，グロピウスを容れるには英国はあまりに保守的に過ぎておりました。彼はアメリカに渡ったのであります。

タウトが東に向ったのに対し，グロピウスは西に向ったのでありますが，これは彼にとっては極めて賢明な方向をとったものでありまして，アメリカはこういう建築家が驥足をのべるのに時勢が適していたのであります。アメリカという国は，ご承知のとおり欧州の植民地でありました。そして，国家としては歴史が浅く，建築も移民が持ってきた欧州様式であって，わずかにコロニアル・スタイルなどといって旧様式の変形が生れましたが，確固たる一様式と称するほどのものでもありません。しかし第一次世界大戦を契機として，国家としては一大飛躍をし，そして商工業の盛大なることは世界一で，何でも世界一と称せねば承知ができないような誇りを持つに至りました。そういうところに商工業こそ新建築様式のインピータスであるというグロピウスがきたことは，彼らを喜ばせずにはおきません。彼の主張を実現させる実業家はなかなかできないにしても，思想界は喜んで彼を迎え，ハーバード大学に教鞭を執り，彼の主張によって学生を教え込んだのであります。

批判される国連本部の建物

コルビュジェは建築の設計もいたしますけれども，元は画家であります。建築の新様式，国際様式などを唱えて都合が悪い場合は画家として逃避する道があり，そのうえフランスはドイツとは少しく国状を異にしておりますので，タウトやグロピウスのごとき圧迫は受けなかったのであります。

こういうふうに致しまして，アメリカにおきましては，何かアメリカのスタイルとして新しいスタイルを持ちたいという希望に添い，グロピウスの同調者やその教育を受けた者が次第に増し，彼の主張のものが次第に生長して行きつつあったときに，第二次世界戦争が起ったのであります。世界戦争はその名のごとく，世界の国ほとんど全部が戦争に巻き込まれ，アメリカ以外の強国は勝った者も負けた者も，都市や建築物が破壊されたのであります。

そこで戦後はどうかということになります。

まず，日本の場合も見てみましょう。

日本は敗戦後マッカーサーが入ってきて，日本の建て直しを始めました。在来の思想，慣習等は，すべて悪いということになりました。そして世の中が混沌となり，数十という新宗教が生れるやら，何でも外国の流行をすぐマネて，最新流行，最新式というものは何でも一時流行するという浮薄な時代となりました。マンボが最新流行だといえば日本人はすぐ飛びつきます。細いネクタイに細いズボンをはいた男が銀座街頭をサッソーと漫歩します。若い建築家の中にも早速そういう風采をマネる者もありました。チャーチルがベレー帽を被って画を描いている写真を見ますと，頭も禿げていないのにベレー帽をかぶる芸術家も出てきます。シャンソンが流行するといえ

ば，誰れも彼れもシャンソンを唄い，パリの裏街の淫蕩歌手にも礼讃の辞を捧げます。シャンソンはもう古い，今日ではタラバンだといいますと，すぐタラバンに変ります。

こんな不安定な状態の国状で，古いものは捨てろ，何でも最新流行，最新式という時代，とくに何でもアメリカ，アメリカと，アメリカ万能の時代に，ようやくグロピウス一派が育成し，ようやく発達しかかった新様式の建物，とくに国連の建物の設計が写真や雑誌などで紹介されたのでありますから，建築界がマンボやシャンソンやタラバンのように飛びつかぬ筈はありません。こうしてペガサスの建物や国連ばりの建物やレバービルデング等の模倣の建物等が，ガラス張りの家として東京，大阪の大都市に続々と建って行ったのであります。時あたかも，建築界は有史以来かって見ないほどの大ブームに会い，こういう建築の実現によい機会を与えました。

新思想といわれる共産主義や社会主義はアメリカでは成功しませんでしたが，商工業を建築様式のインピータスという好餌と，歴史のないアメリカに新しい建築様式を与えるという魅力で，グロピウスの建築様式の革命はアメリカで一応基盤を作りかけてきました。そして，その最も目立つ出来事は，ニューヨークのイーストリバー河畔に建てられた国際連合の建物でありましょう。これはグロピウスやコルビュジェが顧問となって建てられたのでありまして，写真でご承知のことと思いますが，ニューヨークではスクリーンといっております。アメリカ人の間にも，この建物に対して批判的な者，非難する者も非常に多いのでありますが，これを美しいと見るか見ないかは，観念の問題でありまして，少なくとも革新的な一派からは，美しいマスのハーモニーであると考えられており，戦後の日本にも新しいものとして迎えられて模倣されているのであります。そして，先にはタウト，最近はグロピウス，コルビュジェと建築様式革新の巨頭が，今日では3人とも日本を訪れたということになっております。

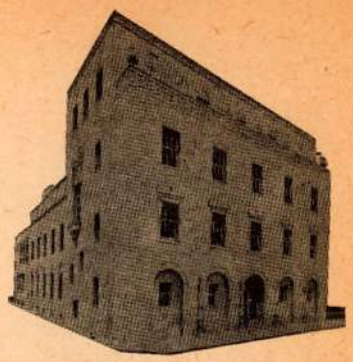
新様式との比較

以上のように，新建築の発生の由来と，戦後における日本の建築の様相を申し上げてきたのでありますが，多少観念的で判りにくかったかと思いますので，建築様式革新を叫ぶ人の主張を建物の実例によってお話しようと思います。

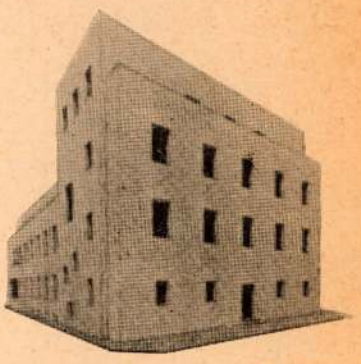
ちょうど第一次大戦と第二次大戦との間に，グロピウスなどとともに盛んに様式革新を唱えておりましたアドルフ・ベネーという人が，その主張をグルーネルワルトの貴族の家について説明しているのがありますが，私はそれを手近なこの建物（大阪倶楽部）に適用して申してみようと思います。

この図（第1図）は大阪倶楽部の建物の外観であります。尤もこの建物は伝統的なゴシックとかロマネスクとか称えるものではありませんが，やはり従来の様式建築の一つであります。ベネによりますと，こういう装飾は最早われわれのものではない，われわれには何らの感激も感じない。それで，そういうものを取り去った構造の赤裸々な姿を見よう。そうなると次の図のようになります。（第2図）これらが，われわれを悩ましつづけてきた様式というものから逃れて，まだ，ましではないかというのであります。

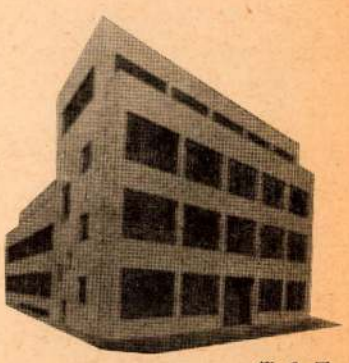
様式革新論者は，鉄，ガラス，コンクリートの可能性を進展させて，これらの材料を赤裸々に使うところに新様式が生れると考えることは別に述べましたが，コルビュジェは，ガラスの可能性を拡大しよう，ガラスというものは，光線を採り入れると同時に，外を眺めることを可能にするものである。人の首は横に振るので，窓を柱から柱の間全部にあけ



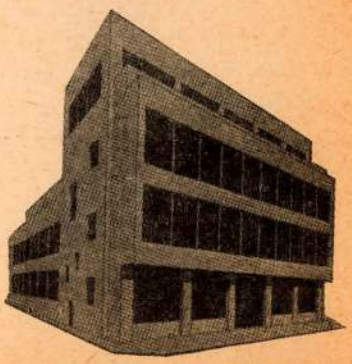
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

ようではないかというので，次の図（第3図）のように変ることを考えます。こうすると昨今われわれが，われわれの都市に見る，いわゆる新建築に近ずいて参ります。

さらに一歩を進めて，今度は鉄，鉄筋コンクリートの可能を検討しますと，カンチレバーすなわち持出しというものを非常に大きくすることが，これらの材料の持つ力で可能になったのであります。これを大阪倶楽部の建物に当てはめてみますと次の図（第4図）のようになり，柱が中に入りこんで参りますから，壁面全体が窓になるということにより，こういうふうにして新様式の建築ができ，生れてくるのであります。

そして第5図はカンチレバーを極度に利用し，ガラスをふんだんに使ったパリのスキスの学生のアパートでありまして，なるほど従前の建築と異った形態の建物となります。こういう主旨のもとに，わが国の戦後の建築も変化しつつあるのであります。

こういう建築については，いろいろの議論もあります。とくに欧州においては批判が酷しく，論議の旺盛な割に大衆はついて行きません。しかしアメリカでは大分発展し，日本では盛んに復興建築に用いられたのでありまして，タウト，グロピウス，コルビュジェなどが主唱して参りました20世紀前半の新建築運動はそれが一時的なものか，あるいは現社会状態の象徴として相当永続するものであるかは，今後の推移を見ねばなりませんが，20世紀も半ばを過ぎて一応の成果を得たものと思われます。また，絶えず動いている建築様式の推移に大きな刺戟を与えるものであることは確かでありましょう。

さて日本で現在，真似されている新様式の建築が，それでは果して，それでよいかという問題が起ってきております。

なるほど新様式ということは，主義主張としては結構かも知れません。しかし建築というものは，国情，習慣，風土，国民の経済力によって違うはづであります。とくに地震の多い，湿度の高い，経済力の低い日本で，アメリカの流行をそのまま模倣すると，いろいろの故障が起ったり，維持して行くことができなくなったりして参ります。マンボやシャンソンが無批判に流行するような国情でありますから，建築の方面も同様に，戦争後の日本では無批判に模倣されているのでありましょうが，日本を支配する諸条件を，相当の年月をかけてテストした後でないと，高価な建築費をかけて悔を千載に残す結果となるのであります。

アメリカにおいて国連の建物も一つのテスト・ケースでありました。雨風の強く当る高いガラス張りの建物でありますが，窓枠の構造が不完全で，風雨のときは雨が入って床が川のようになると，これに関係しておったハーバート大学のコリンズ氏が日本にきたとき，氏から直接聞きました。彼は，あれは試験中の建物だから仕方がないのだといっていました。ガラス張りの建物は暖房費がカサむ，冷房すれば冷房費がカサむ。コルビュジェがマルセイユに建てたアパートは雑誌で見たり，コルビュジェの宣伝で，日本人の間には有名でありますが，実際行って見て入っている人に聞くと，悪口ばかり聞かされる。こんなものはガラスが多くて寒いので，最近ガラス面をふさぐ工事が行われていると伝え聞きました。

最新式，最新流行というものは，アメリカなどの外国から来るものばかりではありません。国内においても戦後の社会状勢の混乱にのって，いろいろ新しい理論，新しい説がたてられ，中にも売名的なもの，生活のためにするもの等がたくさん出てきました。建築材料の方面も同様でありまして，充分の経験もテストもせずに，最新式というものが使われ，悪結果を来たすのが，たくさんあります。二，三の例を挙げてみましょう。

ガラスに対する不安

この頃，またビルディングの床のコンクリートを薄くすることが流行して参りました。建物全体の目方を軽くするためであります。建物の目方に加速度をかけたものが地震の力となりますから，床を軽くして目方を減せば，地震の破壊力も少なくなります。しかし，これは大いに注意を要する問題であります。関東大震災の前の年に，相当大きな地震がありました。そのとき，アメリカ人の設計，アメリカ人の施工になった丸の内のある某ビルが，床がムクレ上がったり，破れたりしました。しかし，同時に建てられた東京海上の建物や，日石の建物は，そういうことはありませんでした。これは日本の建物は床が必要以上に厚い，薄くして建物を軽くすべきであるという説で薄くしたためでありました。われわれが鉄骨や鉄筋コンクリートの構造の計算を致しますのに，今日の学問でも力の起る天然現象を全部とり入れて計算するというわけには参らないのであります。そこで，いろいろ，たくさんな仮定を設けます。その仮定のもとに，設計なり，計算なりを致しまして，そこに計算だけでは出てこないものが起り得るのであります。船も同様だと聞いております。船には，いろいろ複雑な力がかかるのであります。船が揺れるのにピッチングとローリングがありますが，そのほかに大変汚ない例で恐縮でありますが，以前私が米国から帰りに乗った商船の船長の話に，オイラン揺りというのがあるそうです。これは船の設計でも計算はできないということでした。建築の方でも，地震の際はそういう不可解な力が起るのであります。しかも地盤というものは，わずかな場面でも，いろいろに変化しておりますから，なおむ

つかしいのであります。まだ船の浮ぶ海水の方が質が均一であります。こういうわけで大震災後は床の薄いのは避けておりました。

地震のときは，瓦が落ちてケガ人がたくさん出ました。関東震災の後は建築規則で瓦は桟にかけるか，屋根に止めるという規則が出ましたが，今日ではもう忘れて，規則は空文となり，そんなことをする者もありません。こうして，今日働き盛りの建築家も大地震は体験しておりませんから，再び床を薄くする説が起ったりしております。

ここ数年来，セメントの強度を高くする要望，早く硬化させる要望が起ってきました。それがため各セメント会社は競ってファインネスを高くして，テンサイル・ストレングスを増し，早く固くするセメントを造りました。その結果は，今日の建物に収縮亀裂を生ずるようになりました。しかも梁と梁との真ん中に梁に平行して破れるのであります。こういう床の上に人造石の床などを張りますと，半年か一年すると人造石の床まで破れが出てきて見苦しくなるのです。それがために，また少しぐらい弱くても，硬化は遅くても，破れないセメントに帰す必要ができてきました。まあ，こんな具合に，戦後はフラフラしているのであります。

地盤についても，いろいろの新説，傾向が出てきており，地耐力を楽に考える傾向があり，隣接の建物を傾かせたり，自分が傾いたりする例が戦前より多いのであります。これも地耐力を軽々しく考えるようになり，慎重を欠くようになったためではないかと思います。最近もある高層建築が鉄骨を建て，コンクリートを上まで打ち上がるか上がらないのに，もう6寸も沈下したり，上の方で3寸も傾斜したりしている例があります。恐ろしいことでございます。その他の建築材料についても同様であります。戦後，人心の落着きを失ったため，新興宗教と同じように，新様式，新説，新材料が最新流行，最新式という名で雨後の筍のように出て参りました。

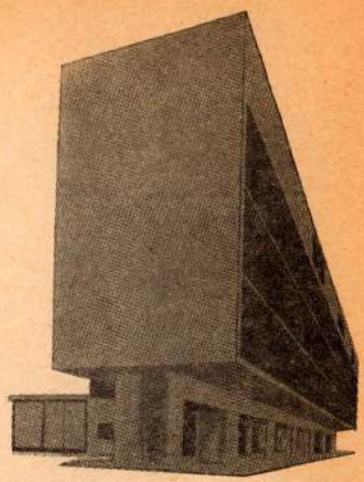
朝鮮事変以来の建築ブームに乗って，これらの新様式，新説，新材料の建築ができたのでありますが，爾来もう6年になり，経済界もようやく落着きを見せてきました。金融逼迫の金利ブームの時代も去ってきております。そうなってきますと，新様式のガラス張り建築の暖房費の不利などまでが問題となってきますし，種々の新しい説，新しい材料の使用からくる欠陥が現われてきて，建築界も社会一般もようやく批判的になり，これでよいのかと反省する時期に入ってきたのであります。現在はまあ，反省期と申してもよいでしょう。

ガラス張り建築論争

私ども年をとった建築士は，戦後のガラス張りの建物や，極端なカンチレバーを利用した建物を見て，危いぞ危いぞといっておったのでありますが，われわれがそういいますと，一昨年ごろまでは頭が古いということで片づけられておりました。ところが昨年の秋，東京大学の教授武藤清君が，名古屋の建築学会の大会で，ガラス張りの家はあれでいいのかという講演をし，一方，種々の欠陥も顕われつつあった際のこととて，建築界も今までの浮いた浮いたの状態から慎重に自己批判をやるようになってきたのであります。最近日本建築士会の会報に出ております，武藤君の説を読み上げてみましょう。

秋の建築学会・建築士会の連合大会が名古屋で催されたとき，筆者は学術講演会の席上で〝総サッシュ建築は地震でどうなるか〟という演題で，最近流行の国連ばりの総サッシュ仕上げの純ラーメン式構造のものが，地震でガラスが総割れになる危険のあることを指摘した。

この発表のあることをかぎつけた共同通信の社会部の記者が尋ねてきた。素人目にも，あの大きなガラスは何となく危い。あれが落ちて当ったら最後，生命はありませんね。地震のときに，こわれるんですか？　というわけで根ほり葉ほり質問をする。学術的にみて危いものもあるし，骨組によっては，こわれずにすむものもあるというと，すぐ，じゃ東京でいうと，どの建物が危いのかと突っ込んでくる。東京都庁舎か，鉄道会館かなどと聞かれても，いうわけにはゆかない。それは困るとほかすと記者さんは，設計者の話も聞いて対決させると面白い記事になるというわけで，くり返し3回も訪ねてきた。設計者との対決を逃げるわけではないが，特定の建物を対象にして，危険だなどということは穏やかでないので，とうとう逃げ切った。記事になるまいと思っていたら，東京・大阪その他の地方新聞にデカデカ出たり，民間放送に乗せられてしまった。新聞記事は大概，大きな誤報があるものだが，この記事の内容は大体私の意志を伝えていた。



第 5 図

最近また朝日新聞の学芸欄に建設省の研究所長の竹山氏が，新潟の大火の際の例をとり，ガラス建築の欠陥と地震に対する不安を書いておりました。こういうふうに現代建築と称するものに対する非難や批判がこの頃になって，ようやく出るようになってきました。竹山氏はその中で，建築評論家の浜口氏が「軽快な明るさと不安をはらんだガラスの建築は具象的な現代の象徴だ」とか，「現代の芸術には不安が一つの要素になっている」などといっていることを非難しておりますが，その後の朝日新聞にまた浜口氏が竹山氏の説に逆襲した文をのせております。

ともかく，見れば危いという感じは，心ある者は持っているのでありますが，建物を建てる者が，大金を

投じて建てた建物が不安なのは困ると感じるか，現代建築の美しさは不安感の上に立っている，スリルがあってよいと満足するかによって違うのであります。

これはガラスや構造の問題ばかりではありません。われわれから見ますと，実にヒヤヒヤするものがありますが，建築を依頼なさる方も建築士の方も，実に勇敢に充分に試練の積んでいない新方式材料を使っておられます。私のように永年，住友におって建てると同時にこれを維持してゆく立場にあった者は，大震災などのような不慮の災害のときに間違いのないように，また新築ができたときに，場当りでほめられるより，後に小言のないように，と心がけておりました者には，他で充分経験ずみのものでないと使わないクセがついていて，卑屈と申しますか，とにかく退嬰的になり勝ちで，当時は勇敢に新流行を追える建て逃げの建築家を羨しく思ったこともありました

コルビュジェもタウトもグロピウスもその主張するところに理屈はあります。しかし，彼らの国には地震がありません。この建物（第5図）を見てご覧なさい。なるほど現在の日本は政治的にみても思想的にみても，個人の生活でも一つとして不安でないものはありません。こういう世の中では不安のスリルででもなければアッピールしないかも知れません。そんなところから，不安が現代芸術の一つの要素という説の出るのもムリはないと思いますが，美しい建物ということと，その中に住むということとは別問題であります。

こんな時代であるから，せめて建築だけでも不安感のないものが美しいと見られるような考え方もあると思うのであります。

珍らしきが美しきものか

しかし新進の建築家さえ，こんな建物がうれしくて真似がしたいのであります。この頃はまたルーバーといって，日よけの板を何枚も建物外部に取り付けることの真似が入ってきました。若い建築家で，自分に西向きの建物を設計させてくれる人はないかといったという話があります。ルーバーも，縦のものはよいとして，横のものを付けてもらった人の話に，窓をあけるとルーバーの上に積った埃が，風で室の中に入って困るということでした。またシャーレンという構造が流行して，この頃よく波形の屋根や，庇をつけてもらってる建物が見うけられます。大きな円形の家など，この方法で設計されておりますが，防水がむつかしく，ヘアークラックが入って雨もりしているのが多いようです。戦後，荒廃した建物に住み馴れたせいかも知れませんが，近ごろの人は割合に雨もりに平気でおられるようであります。

浜口氏のいう不安定からくる一種の美しさということも，一応は肯けることであります。私の崇拝する能楽の創始者世阿弥の言葉に「珍らしきが美しきなり」というのがあります。また美と奇とは紙一重の差であります。世阿弥にいわせますと，美しい舞の手ばかり見せていると，人は飽きてきて，美しくなくなる。そこに美しくないものを少し混ぜて演じると，それが美しく見える。下手はこの悪い手だけを美しいと見て真似るが，上手は悪いと知りつつ演じるのだ，といっております。不安定の美というのも，この種類のものではないかと思います。前にも申しましたように，現在の日本はすべてが不安定であります。経済界を見ましても，資本金の数倍または数十倍の借金をして，勇敢に社会不安という芯棒を中心として廻しております。ちょうど非常な勢いで廻っているコマのようなものです。こういう時代の人の心が，安定感のある建物や，彫刻や，絵画や音楽に刺戟されないのもムリではないと思います。ここに現代の芸術は不安が一つの要素になっているという説も成り立ちます。

しかし建築界で昨年来，戦後の浮いた浮いたの最新流行が批判されだし，反省されだしたということは，社会全般が戦後の混乱から脱して安定の方向に向いつつあることを示しているものと思います。経済界におきましても資金難で困っていたのが，急に昨年末あたりから銀行の金利も下り，この頃では銀行の方が確実な投資先を探さねばならぬ状態となり，銀行の態度も急変するようなことになりましたし，労働問題でも一時のような非常識なことは少なくなりました。建築界も同様の方向に向うことと思います。グロピウスも結構です。タウトも結構です，コルビュジェも結構です，新建築もよろしい，しかし日本的にもう一度よく研究し，消化し，同化して採り入れることが必要であります。また，これからは次第にそうなると思います。要するに，人心が落着いて慎重になると思うのであります。そこで初めて安定した新建築様式というのができると思うのであります。所定の時間も過ぎ，申し上げることが秩序が立たなかったことと思い恐縮に思っております。（拙手）



竹腰健造氏を語る

（順不同）

山本為三郎氏
川田順氏
藤村朗氏
波江悌夫氏
西村好時氏
山下寿郎氏
中沢誠一郎氏
東畑謙三氏
棚橋諒氏
河津喜之助氏
池田宮彦氏
田路舜哉氏



Venice

Liverpool Art gallery

竹腰健造エッチング

竹腰健造著「能楽三昧」 〔昭和33年12月 東京わんや書店刊 213頁 ¥300〕



これは日本芸術の真髄をついた幽玄驚くべき書である。世阿弥が今日生きて，その「花伝書」の昭和版を出すとしても，本書以上を期待することは困難であろう。

著者は戦前に「能の本質とその見方」の好著を世に問うておったが，今日絶版となつている。本書は骨子においてその再版であるが，内容は著者みずからの境涯の発展を反映して全部書き直され，貴重なる写真版もまた追加されている著者が本書に托する願いは二つあるようだ。みずから師事した近世の名人，野口兼資師の依心伝心の境地を，20世紀の最高の教養によつて科学的に解明したいとの願い。他はゲイツケルの国際的名著「弓道」に含まれる日本的体験の世界をわかりやすく，しかも格調正しく記録したいとの願いであつて，それは二つとも成功しているのではあるまいか。

（補辺鎮太郎）

竹腰さんを語る

山本為三郎

私は竹腰さんの兄さんが昔の東京ビール会社（今は横浜硝子会社になっている）の技師長をしておられたという関係で，その頃から親近感を抱いていました。

そんな関係で昭和8年に東京ビール会社と私の会社が合併してから後は，当時の長谷部竹腰建築事務所にこの会社の仕事をして頂くようになり，仕事の上だけでなくロータリクラブの会員としても度々の会合に出席するうちに，だんだん親しい間柄になり，しまいには息子さんの媒酌までするようになったわけです。

竹腰さんは自分の生涯の仕事である建築に対して，多大の興味をもっておられることは勿論ですが，お能をはじめとして随分趣味の豊かな方で，これらは竹腰さんの生活の中にとけこんでいるといえましょう。

また竹腰さんは住友においても実によい立場に立っておられると思う。つまり住友の枠の中にあると同時に，その外にもあるといったような感じで，いわば住友という固い殻の中にありながら，決して殻にだけとじこもっていないといったような存在で，住友にとっても，また竹腰さん自身にとっても非常にプラスしたんじゃないかと思われる。このことは竹腰さんが建築家であることが，自然のうちに竹腰さんその人のものの見方，考え方などをそうあらしめたのだとも思う。

今日あの位の年輩でより新らしい創作意慾に燃えて実際にも相変らず仕事を続けている人は珍らしい。私はこんな人を友人にもったお蔭で公的にも私的にもいろいろな意味で利益を蒙った。

（朝日ビール株式会社社長）（文責在記者）

竹腰健造君を語る

川田順

竹腰君はボクと同時代の住友人であったが，今日では日本の建築家竹腰健造である。住友のためにも幾多の立派な仕事を残したが，それよりも広く，日本のために幾つかのすぐれた創作をした。

多岐にして失す，という古語があるけれども，多芸多能の竹腰君は道を失すことがない。けだし建築家という本職が立派に一貫したからである。建築は芸術である。竹腰君の余技（?）がいづれも芸術的のものであったことは，極めて自然である。

大抵の建築家は画を描くけれども，君のエッチングはその方の専門家をも驚かせ，ロンドンのローヤル・アカデミーの展覧会にも入選して「ライン」に懸けられたのだから素晴らしい。

さらに君の能楽も容易なものでない。野口兼資や金剛巌などと一緒に公開の能を舞ったのだから，世間にありふれた旦那芸とは選を異にする。もっと驚いたことがある。ある日，君は京都にボクを訪問して「謡曲を創作してみましたが，何分にも文章を書いたのはこれが最初で，ものになっていないかと思います。自由に添削してくれませんか」と十数枚の罫紙のとぢたのを差出した。「困ったわい。いくら竹腰が才人でも詩は作れまい」と思いながら一読したが，すっかり感服した。それは「世阿弥」と題してあった。「筆を入れる余地のないほどちゃんとしている。君はいつ文章を稽古したんですか」「稽古なんぞしませんが，花伝書をくり返し読んでみました。謡曲は大抵暗記しているので，美辞麗句は知ってます。それをつなぎ合せたのです」

「世阿弥」は先代の金剛巌師にフシとカタを附けてもらって，京都の金剛舞台で竹腰君みづから試演を公開した。ボクももちろん拝見した。いささか長過ぎて見所の人々は退屈したらしかった。

簡潔に，舞台に立つ時間は短いほどよろしいと悟った時に，竹腰君は能楽においても玄人の域に踏みこめるだろう。

（筆者　元住友本社理事・歌人）

竹腰健造への期待

藤村 朗

竹腰健造は芸術家であり，科学者であり，その上事業家である。建築家に二つのタイプがあることは衆知のとおりで，芸術家か科学者か，そのいづれかに傾いているものである。大抵一方が優れていれば他方は駄目であって，その両方を兼ねている者は滅多にない。さらにこの両方と全然違った才能であるところの事業家としての素質をも併せ持っている人となると実に稀れである。その人を僕はまず第一に竹腰に挙げる。芸術家で事業家たる者はないことはないし，また科学者にして事業家らしき人もあるにはあるが，しかし竹腰のごとくこの三つの才能を兼ね備えている人はまず絶無といってよい。僕の尊敬する所以である。次に人間は，これまた類い稀れなる人格者であると同時に，負けん気の闘志を内に秘めたる，男の中の男である。住友財閥の代表者の一人として大阪財界に大なる信用を得たのも故なしとしない。戦後財閥解体されて彼も追放されたが，パージが解けると再び大阪建築界に乗り出して，自分の事務所の仕事はもちろん，建築協会その他の公務に活躍して大御所の貫禄を示しつつあるのは立派であり，さらに住友再建に当って相当な蔭の力となって働いている事も争われない。その原因は一つに彼の才能と人徳にあると信ずる。彼の設計した建物や，描いたエッチングや油絵の美しさや上品さもさることながら，かっての住友建築部，その後の長谷部竹腰建築事務所の堅実な事業経営と，さらに進んで戦時中の住友商事創設から終戦に至る彼の仕事は，堂々として人目を欹てしめるものであった。今後も齢百才まで建築界並びに一般社会のため尽されんことを祈ってやまない。それにつけても思い出すのは，昭和31年2月大阪クラブでの彼の講演「近代建築偶感」である。それは近代建築の因って来るところを平易に解説するとともに，その長所と欠点とを明確に指摘して，財界人の注意を促すと同時に，建築家に深き反省を求めた適時安打であった。

その後も彼が時に応じ所に随って，社会のために私心でなく動いていることはいうまでもない。僕は幸にして健康なる肉体を恵まれた彼に，今後も永き将来に亘って，優秀な建築物を遺すことと社会指導の活躍とを期待する。

(筆者　三菱地所株式会社取締役)

竹腰さんの功績

波江悌夫

竹腰健造さんのわが日本建築協会に尽された功績は今さら私が喋々する必要もない。協会諸賢の夙に御承知のことであるが，私は公私に亘って竹腰さんの友情を受けておりますので，私の駄言を載せていただく次第である。

関西の建築界は大正初頭においては建築家の数も建築事務所の数も寥々とした暁天の星のようでもあった。従って建築家の会合と申しても，春秋二季に奈良，宇治，有馬等に懇親会をやる位が関の山であった。それも東京から辰野博士が見えたから，あるいは横河博士が下阪されるからという名目で，京都，奈良，神戸等の建築家に飛札を送っての会合で，名前も「オキナ」（大，京，奈）会といっておった。当時の幹事役は辰野片岡事務所か，横河建築工務所か，または住友建築部などが廻り持で当っておったらしい。住友建築部は部長に野口孫市氏がおられ，次長に日高胖氏がおられ，若手として長谷部鋭吉さんと竹腰さんがおられたのであるが，なんというても住友建築部は関西における有力なる存在であって，会合には幹事役を負わされるわけでもあった。

関西建築協会が創立せられたのは，大正六年であるが，関西建築家が大同団結して，建築法規と都市計画法の確立を要望するため，当時の建築学会と協力して政府に建言をするという題目があって，なかなか多忙でかつ景気のよい時代でもあって，盛に会合も協議も行われ，かつ熱心なる努力が払われたものであるが，住友建築部は常に協力と援助を惜しまなかったし，長谷部さんや竹腰さんは常に委員会の重要な「メンバー」であったのであるが，耐火耐震建築の見本ともいうべき主要建築が次々に産まれて，大阪の都市風景を一変するの傾向の主要策源地でもあった。

従って竹腰さんは協会の成立当初からの有力なる要人でもあったし，住友建築部を離れて以来も勉めて協会のために尽力されている。

戦時中軍部の要望で，学会と協会との合同を計るという問題が起ったとき，竹腰さんは副会長であったので会長の片岡安さんといつも東西に奔走せられていた。片岡さんは「軍部の要求ならそれも仕方があるまいよ」と達観しておられたようであったが，当時の関西少壮建築家は大いに反対して協会存続の意見を開陳する有様であったが，この間に処して竹腰さんの努力は並々ならぬものがあったと覚えている。戦時における協会関係の努力と処置についても，戦後日本建築協会の会館新設の問題に伴う諸団体との協力応酬においても，戦前にまさる配慮の連続であったように聞いているが，竹腰さんの信望と手腕とは片岡会長の後任として衆望を負い，今日の隆昌を産んだのである。

今やわが協会は有力なる関西の団体としてますます発展向上しつつある時，竹腰さんは後任に有能なる尾崎さんを得て安心して辞任されたが，なお，年ひさしく協会の御指導を願いたいと思う。

（筆者　本会名誉会員・元波江建築設計事務所所長）

竹腰健造君を語る

西村好時

竹腰君とは東大建築科在学時代にクラスメートであった。当時机を並べていた連中で健在しているのは山下寿郎，渡辺仁等がいる。考えて見るとちょうど五十年の旧友である。卒業後は活動の地域が東西に別れていたが，それでも意気相通ずるものがあり現在でも親友たるを失わない。

竹腰君は高知県の名家岩村家に生れ，厳格なる教養を受けたものと想像される。資性明敏，豪毅，人に後れることが大嫌い　何でも手を出すが第一人者とならなければ承知しない。それがどれも成功しているから驚く。元来器用でもあるが，事に当って熱中し研究すること夥しい。仕事であっても道楽であっても。

まず第一に熱中したのは弓術である。一高時代のことでその腕前はよく知らないが，とにかくあの虚弱な体を克服して七十歳の寿命を保ち得たことは恐らく弓道の賜と考えられる。そして竹腰君にはこの弓道から派生して忘れることの出来ない大きな獲物があるのである。それは彼の一生を通しての大ヒット宝生流の謡曲である。彼は波吉，野口両師に師事して斯道に大成し，今では全く素人の域を脱しているようである。続いて，鼓よろし，笛よろし，御能は已に数々の大曲を演し，ますます蘊奥を極めんとしている。

竹腰君はまた美術愛好者として見られるようになった。彼は学生時代によくスケッチをしていた。例の負けん気からみるみる巧くなっていった。そして英国留学中にエッチングを習得してきた。これも相当なものである。

かくして彼の眼はますます啓けてきた。能楽の観賞眼も加って彼の眼は古典的に進んできたと想像される。必然的の順序として骨董の収蒐を始め，最近では陶器また能面に及んだように聞いている。

ますます多趣味なる彼の余生を祝福したい。

（筆者　西村建築設計事務所所長）

竹腰君と私

山下壽郎

竹腰君と私とは，文字どおり寝食をともにした仲である。というのは，その昔第一高等学校の生徒時代，当時本郷の弥生ケ丘にあった寄宿舎中寮の同じ部屋住まいなので，二階の寝室に敷き放しの，いわゆる万年床を並べていたものであった。

彼は弓が好きで，一高時代，弓道部に入っておったかと思う。

短い春の休暇には，同室のとくに私とは仲の好かった佐野秀之助君（先年秋田大学学長在任中物故した元東京大学工学部長）と三人で三浦半島や，伊豆山などへ書生旅行をしたものである。私ども書生が当時政界で活躍しておられた萬里小路子爵とゆっくり話し合ったのも，その三崎へのガタ馬車の中であった。

当時小田原から伊豆山を経て熱海までは，軽便軌道の人車で通ったものである。

造船学科を志して一高の二部へ入学したはづの私が，建築学科へ志望を変えたのは，ボート部出身の先輩の慫慂に依るものだが，竹腰君の建築学科入学は，全く私に関係がある。

私達が二部の三年になると，大学の入学志望学科を決定して学校へ申告しなければならないのである。その時になって始めて将来専攻すべき確たる学科がきまるのである。そのとき竹腰君が「山下君！　君は何を志望するのか？　」と聞いたので，「建築だ」と返事したところ，「そうか，僕も建築をやろう」ということで，竹腰君の専攻学科がきまった次第。彼が大成してくれたからこそ好いが，万一巧く行かなかったら，一生私は彼に怨まれたことであろうと思う。彼が住友時代から今日まで，あるいは住友を通じ，あるいは長谷部竹腰建築事務所を通じ，また現在の双星社を通じて，前後五十年近くも国家社会のために彼が専攻した建築学を基礎として，建築のことばかりでなく，社会的にも，立派な業績を挙げてくれており，また現に挙げてくれつつあることを見るとき，友人としてまた学友として，私は実に嬉しく思っておるものである。彼が昨秋黄綬褒賞を頂いたのも，彼の多年に亘る社会的な功績を讃えられたからである。

私は彼の今後の健在と活動とを祈って止まない。（昭和33年11月）

（筆者　山下寿郎設計事務所会長）

竹腰先生の古い思い出

竹腰先生に初めてお目にかかったのは大正10年ごろですから，もうざっと40年近くになりましょうか。その時分に先生は洋行から帰って来られたようでした。それは大正会の会合のときだったと思います。大正会というのは大正に学校を出た者の会で，先生はその大先輩で名古屋におられる佐藤四郎先生とともに，われわれの〝はるかなる先輩〟であったのです。

全く古い話です。

そのときの一つの記憶。

〝明治の人たちが大正会に入れてくれという話があるんやが，どうやね，皆〟たしか今林さんからだったと思います。

〝そんな古い人は入って貰わんほうがええやないか〟これは誰の話だか忘れました。私たちは末席から，これを聞いていたわけです。

〝そんなことをいってると，今に大正会の連中が同じことを申し入れるようになるんじゃないかね〟といった人が，たしか竹腰先生じゃなかったかと思います。そんな記憶が一つ。

もう一つ。

支那事変が始まって建築協会に都市武装促進委員会というのができて，偽装問題がしきりに論議せられた時分のことです。

〝建物を黒く塗ってしまうのは困るね〟これは先生が，いろいろの案を検討せられている間に強く申された言葉だと記憶しています。

古い話はこれくらいで止めておきましょう。（1958．11．3）

（筆者　工博・大阪市建築審査会会長・中沢建築事務所所長）

竹腰先生

私が竹腰先生に接したのは大学の3年生のときで銀行建築の講義を聴いたときです。当日，先生は今の住友本社の工事を設計監理されていたときで，その資料等を持参され，またイングランド・バンク等の得がたき資料や，自らエッチング風に画かれたプリント等をたくさん貰ったのを覚えています。一度教えを受けた師には一生頭が上がらないものだが，ちょうど私が大阪で建築事務所を開いたのが，昭和7年暮，それと相前後して竹腰先生も長谷部先生と相ともに住友より分離され，あの華やかな活動が始まったのであるが，私にとってはワグネルやジョセフ・ホフマンの活動を紙上で見ると同じようで，一種の近づきがたき感があったものである。ただ外国の先輩と異って目のあたり作風作品に接する機を得るのであるから，若い者にとっては全く心のおどることであった。戦争もようやく敗戦の色の見えだしたとき，車もなくなり，こちらは尾羽うち枯らす状態で市中をトボトボ歩いているとき，先生が高麗橋通りを自転車にのっていられたのを見たことがある。権威とそれを裏づける実行，またそれを衰えさせない若さ，そして親しさを先生の中に見出し得て尊敬した。

戦後，協会の中で親しく，また永く足下で働く機を得たが，いつも会長の説のほうが若く，そして積極的で引きづられてゆく状態であった。しかし今にして想えば，その8年間は一人よがりになり勝ちの中年の者にとっては，業界に奉仕でき得たあと口のよき想い出であって，これも先生の教えと思っています。

一つだけ私のほうが先輩のものがある。それは中国古陶金石のたぐいである。先生は鼓と能楽との最高権威であることは衆知の事実であるが，最近この方面でも進境めざましいものがある。始めは手ほどきをするつもりでいたのが，いつのまにか抜きん出られて，しかもそれは，ちょうど若人が恋人を追うがごとく若さと熱とが満ちあふれているのである。私は齢と思考とは無関係であると昔の哲学者がいった言葉を竹腰先生の中に見出し得て，いささか処世の訓としています。

（筆者　KK東畑建築事務所所長・本会副会長）

竹腰先生と京都大学

棚橋 諒

京都大学の建築学教室の草創の時代，京都大学は竹腰先生を大学へ来ていただくようにと申し出たことがあったということである。話はほとんど九分どおり決まり，先生も京都大学へ来られるお考えにまでなられたが，住友本社の最高幹部の方から異論があって，その話は沙汰やみになったということである。住友家はもちろん京大に対して極めて友好的であって，京大の清風荘は住友家から寄附をうけたものである。その住友が遂に先生を手ばなすことを承知しなかったことは，京大にとっては残念なことであった。竹腰先生と東大をご同期の藤井厚二先生は武田五一先生の退かれた後のわが教室の柱石であり，日本の住宅に新風をおこされ，近代建築に日本建築の洗練された細部をとり入れられた先駆者であった。天が藤井先生に寿命をお与えになったならば，工学部長ともなられ，あるいは総長ともなられたであろうと思われ，先生のご早世は教室にとって痛恨事であった。竹腰先生がもし京大にお出で下さっていたら同じく学部長，総長として学部ならびに大学の発展に大きな足蹟を残されたであろうと私は信じる。

竹腰先生は故藤井教授とともにごじっこんの間柄でもあり，わが教室の発展のために，いつも心をくばっていただき，私ども学生のころ先生の銀行建築の特別講義をうかがったこともあった。また教室が独立で刊行していて経済的困難に陥っていた「建築学研究」の刊行を協会としてお引受け下さったのも竹腰先生のお力であった。この雑誌は戦争中，更に教室のほうで刊行するようになり，戦争の混乱の中で廃刊されたが，多くの貴重な研究業績を出版し得た点において悔いるところのないものであった。

武田先生，藤井先生とえらい先生方は他界されて年久しいが，竹腰先生がご健康でなお建築界をご指導になり，京大と竹腰先生の浅からぬ縁もあって，私が先生に師事することを許されていることは私の幸運である。

（筆者　工博・京都大学教授）

竹腰先生に望みたいこと

河津喜之助

昭和24年に大ビル2階に双星社の名前で建築事務所をもたれたが，それまで無謀な一部の財閥，軍閥，官僚の野望劃策によって大失敗を演じた大東亜戦争の犠牲者となって，63才から3年間パージにかかっておられた。その間，事務所でよく顔を合わしましたのは，銭高輝之（銭高組）さん，菅谷三郎（電気暖房）さん，浅海治平（浅海電気）さん，そして私とかでした。この間は先生の一番のご不遇のときだったと思います。しかし，愚痴を一口もおっしゃらずに悠然と堂島川を見ておられた。パージがすんでから，設計の仕事に戻られ，27，8年ごろからご依頼者の希望によって，相当大きな建物をおやりになっておられる。

私が先生に希望するところは，建築の設計等は後進におゆずりになって，建築家の社会的地位の向上のためと，建築家が社交性と政治性をもつように指導せられんことです。今まで，建築家は政治性にきわめて乏しい。こういう建築家を指導していただきたい。少なくとも晩年は，日本の建築界を代表して，参議院議員に席をおかれて，わが国の住宅政策に貢献せられたい。小さくては前片岡会長も務めておられたように，商工会議所議員として席をもたれ，関西の建築界のために御尽瘁願いたいと希望いたします。

もう一つの希望は，政治，経済，文芸等には評論家があるが，悲しいかな，建築界には政治性・経済性をもった評論家がいない。これは，さびしいことです。先生は終戦前に財界に足を入れておられるだけに視野もお広いので，大所高所より，わが国建築界の将来のため公正なるご批判を願いたいことです。

私は，先生が長い間やっておられた建築協会の会長を辞任される話があったとき，双手を上げて賛成しました。というのは，後進に道を開く意味でないまでも，国家的の仕事に力ぞえ願うことを希望し，かつ政治的に大きい仕事をやられるよう願うからです。最後に政財界人に年令がありませんから，ご健闘あらんことを切望いたします。

（筆者　河津装飾KK社長）

旅の思い出

池田宮彦

住友本社の命を受けて竹腰先生のお供をし，横浜港をエンプレス・オブ・エシア号で出帆したのは1922年9月16日で，9月25日にバンクーバーに上陸した。翌年秋に神戸港へ帰るまで13ケ月間，先生とともに仕事をして，いろいろと教えを受けた数々の事柄は旅の思い出とともに今でも役に立つことが多いが，ここには紙面の制限があるから割愛して，そのうちの一部分を述べることとしたい。

さて船中11日間（9月20日が2日ある）は全く退屈である。朝から晩まで海面以外には何も見るものがない。これが毎日つづくのだから困る。10時と後3時にお茶が出るが，それ以外の時間は船室の廻りのデッキを散歩するのが仕事である。

この船のお客さんは，ほとんど外人で日本人は数名だけである。散歩していると外人がすぐ友だちになってくれ一緒に歩く。この歩くのにエチケットがあって，必ずその人と肩を並べ歩調を揃えて歩かねばならない。こんなことも先生から教えられた。このようにして歩くと不思議にお互が親しみを感ずるものである。見ていても，いかにも睦まじそうである。日本人は，とかくガシャガシャとソソッかしく歩く癖があるのは，どうも，みっともない。内地でも友だち同志歩くときは歩調を揃えて歩くようにしたいものである。

さてニューヨークへ着いて，シンガービル2階の住友銀行支店の一室を貸してもらって先生と仕事を始めた。ここで，いろいろ参考になることが，たくさんあるが，紙面が少ないから省略する。

その年9月に関東震災があって，ニューヨークにいるわれわれに知らされた。われわれは色を失った。そうこうするうちに住友本社から先生の御親戚や，私の母・叔父等の無事であることを詳細に打電してきた。私は感泣した。住友のたくさんの建物や社員が被災混乱のうちにもかかわらず，私どもの一身上のことまで調査して安心させて下さる人情に全く心から打たれた。急いで仕事を片づけて帰国することになった。9月22日に下宿を引き払って，先生と帰国の途についた。シカゴ，ロサンゼルス，シスコ，シャトルを経てヴァンクーバーからエンプレス・オブ・カナダ号に乗った。

横浜が震災で上陸不能のため，神戸へ廻った。この船中で先生はオークション・ブリッジが大変お上手で，外人を相手にジャンジャン勝たれた。外国人は喜怒哀楽をすぐ顔に表わすから，手持札がよいか悪いか見透しがつきやすい。これに反して日本人はサッパリ顔に出さないので外人からは手持札の良否が読みにくいから，日本人の方が歩がよいのだと先生は申された。あまり勝てるので遂に興に乗り，毎晩夜更しがつづいたためご疲労が重なったのが原因か，急に盲腸炎にかかられて神戸港では担架に乗って上陸せられた。幸に一応癒って，後年に手術せられた。先生は元来，痩形の紳士であったが，ご手術後急にお太りになって今のような堂々たる体軀になられた。

（筆者　KK大阪建築事務所社長）

竹腰さんの一断面

田路舜哉

先日，尾崎君が見えて，建築協会の会誌の新年号を「竹腰健造特集号」として発行することになった。ついては竹腰さんについて何か書けとのお話であった。同時に聞けば，各界十余名の方が執筆され，竹腰さんご自身も，玉稿をものせらるということである。それで私は上司として仕えた竹腰さんの断面を書いてみることにする。因みに当時，竹腰さんは当社の社長で，私は常務であった。

(一) 機帆船沈没事件

終戦時「住友土地工務」といった会社に，商事部門を併設することになった。しかし商売のもとになる玉がなかった。たまたま機帆船の売物があった。それで，それを買って九州から阪神へ石炭を運び，阪神から九州へ各種物資を運ぶということを考えた。竹腰さんは賛成でなかった。しかし強いてお許しを得て船を買った。船は北陸の七尾の港にあった。回漕するため，港を出た途端に時化をくって，坐礁沈没した。当時は船体に保険を附することができなかったので，つまり全損である。わずか残骸を処分して若干の金円を手にした次第である。私は恐る恐るそれを報告に行ったら，竹腰さん曰く「旧円で船を買って，少いが新円を手にしたと思えばよい」と，それ以上は何もいわれなかった。私どもは，ほっとした。何しろ当時としては相当の損失である。竹腰さんのお言葉に私どもは本当にありがたい気持になった。

近頃になって，竹腰さんのいわれるのに「私は過ちは咎めない。過ちは経験になる。将に将たらんとすれば過ちを咎めてはいかぬ」と。

(二) 住友ビル接収事件

住友ビルは終戦に伴って，2回にわたって接収の命を受けた。最初は全館接収であったが，結局一部分を，第一軍団の司令部に使うということに納った。一軍が撤退した後，跡をキャバレーに使うとの申入れを受けたが，これも結局25師の兵舎に使うことに納まった。当時，進駐軍といえば何事も逆うことができないというように皆が感じており，私どもも心から困ったことだと感じた。竹腰さんは堪能な英語と，磨かれた人柄とをもって，堂々と折衝せられて，前述のごとく最高の司令部に，あるいは兵舎にすることになったのである。近頃この話が出ると，竹腰さんのいわれるのには，あれは北沢さん（竹腰さんの前の社長）から「これは君がやらねばならぬ。」といわれたので，やっただけなのだとおっしゃるに過ぎない。

以上はほんの一，二のエピソードである。こういうことを書けばかぎりがない。思うに竹腰さんは人も知る名門の出，長じて一高，東大と進まれ，さらに長く英京ロンドンに遊学せられ，生来の品格と叡智に磨きをかけられた。ある人はいう。「竹腰さんは事業家だ」と。そのとおりである。以上の一，二のエピソードを見ても，そのことがハッキリいえると思う。また，ある人は竹腰さんは芸術家であるという。そのとおりである。若くして大英帝国において，エッチングにおいて令名をほしいままにし，さらに転じて能楽の世界において，この人ありといわれ，その他絵画に，建築 design に，到るところに普通人の及ばない域に達しておられる。さらに，ある人は，竹腰さんは人格者であるという。これも，そのとおりである。まれにみる立派な家庭を営まれ，広く，深く人のお世話をなさり，その恩顧を受けた者は数知れぬと思う。

以上の点は皆そのとおりである。しかし，その一つだけをもって，それが竹腰さんだというのなら，それは恰も多勢の盲人が象の鼻をとらえ，尻尾をとらえ，脚をとらえて，これが象だという，いわゆる群盲象を撫づるの類であると思う。竹腰さんは，これらの点を渾然として融合された立派な方だと思う。私は深くこれを信じ，人にもしばしば説く。しかし人は，自分より秀れた人のことはわからぬものであるから，その意味において，私自身もまた群盲の一人であるかと思う。

ともあれ，少なくとも私にとっては，竹腰さんは得難い方であり，心から頼りになる人である。どうか，さらにご加餐，鶴寿を保たれんことをお祈りして擱筆する。

（筆者　住友商事KK会長）

時間・空間・建築家

浦辺鎮太郎

〔竹腰先生の人間像〕　外人がもし先生の姓名の意味を聞けば Kenzo=Sound structure, Takekoshi=Straight & elastic attitude で，それは先生の Personality そのものだと私は答えるであろう。もつとも，かようなことをいえば先生は「そんな英語はありませんよ」と苦笑されるに違いない。

〔建築は時代のサイン〕　いかなる時代でも，その土地にそこで生きた人間像と建築を通して語られた場合が最も生気があり，かつそれは妥当でもある。この記念号は何時か大阪市史に対して最良の資料の一つとなるであろう。時代の署名(サイン)をする人間—建築家が，本号では特定の人即ち前会長として取り上げられたのであるが，私は問題を広げて一般論化したいと思う。

〔暗示的な寓話(グクワ)〕　空間と時間との統一理論は1958年末までには発見されておらない。その絶壁に真正面から挑む愚をさけて，私はここに一つの古い寓話を記したい。この話は湯川博士がかつて「素粒子の諸問題」という大衆講演でも引用されている。中国の哲学者荘周（荘子—応帝王・五）の途方もない空想力が生んだ話である。

「南海の神シュクと北海の神コツとが中央の神渾沌(コントン)の地で会つた。渾沌は二人を好遇した。シュクとコツとは渾沌に御礼をいつた。渾沌はよく見ればノツペラボウなのだ。誰の顔にも皆七つの孔があつて，視たり聴いたり食べたり息をしたりすることが出来るのに，ノツペラボウではそれが出来まい。それで御礼にノツペラボウに孔をあけて見ましようといつた。日に1つづつ孔をあけたところ，7日目に渾沌は死んだ」

ここで「シュク」「コツ」は瞬間よりもなお速い時間という意味を元来持つている。「シュク・コツの間」といえばまばたきよりも速い時間のことである。従つて時間が空間とやりとりをしている場面だと見れば現代の物理学者にも建築家にも昔話ではなくなるのだ。

〔ギーディオン的解釈〕　「空間・時間・建築」の著者であるギーデイオンは，その著書に関する限りでは時間を一つの「時代」として見ている。従つて時間と空間との素粒子物理学的な見解，あるいは本質的な見方には欠けてのいるでこの寓話はその不足を補うか，あるいは新見解への方向を暗示する上で役立つのではあるまいか，それはともかくギーディオン流に荘子を解釈すれば次の如くなるであろう。

「忙しい時代性が建築空間の中に這入つてきた。ノツペラボウの建築空間はその時代性を迎いいれて好遇した。時代性は建築空間に機能を与えた。全部の機能が与えられた時建築空間は死んだ」

〔ライト的解釈〕　ライト老は自信に満ちた態度でかくうそぶくであろう。「そのシユクとはコルビユジエのことでコツとはグロピウスのことらしい。機能主義が死んだところから，わが有機建築 Organic Architecture は生れる」。理論家のグロピウス博士は（恐らく)—「誤訳らしいね。荘子は空間に目鼻をつける，即ち空間の有機化が完成した時に空間は死んだといつている。シユク・コツはすべてを変貌させる力であり渾沌はすべてに通じる共通分母だ」。コルビユジエは「1×7=0なんて方程式は初めて聞いたね。西洋では神は1人で渾沌から6日かかつて万物を作つた。後の1日は休養した」と一笑に附すであろう。それで見れば「時間」を単に時代性と直訳し，「空間」を建築と直訳することは便利ではあるが一般的ではないということだ。

〔統一理論への願望〕　19世紀の最大の悩みは，「物質と精神」別の見方をすれば「科学と宗教」の間を結ぶ統一理論への願望であつただろう。物理学的にいえば「物質とエネルギー」の統一理論の完成への願いであつた。今世紀前半でそれは完成されたが，今日当面している新らしい問題は「時間と空間」を統一的に説明し得る原則が何かということである。ギーディオンは「時間の座標軸を含んだ四次元の空間」について少しふれているだけで，それはいかにも19世紀的であり現在の Vision に合致しない。

シュク・コツの二神は渾沌と別の世界を支配しているのであろうか？それが三神合一することによつて新世界が生れると見る理論では，現代の進んだ物理学者を説得し得ないであろう。建築家に対しても同様である。

〔空間はエネルギーの場〕　物質がエネルギーと二元的に存在しているのでなくて，物質はエネルギーの特殊な状態だと20世紀後半の物理学者は誰しもいつている。空間（Space）は物質のない空虚な部分でなくて，エネルギーの充満したそして物質創造の場として認識される。

建築家にとつては空間は重力子，光子，電磁波の充満した場であり，空気は風となつて動き水は湿気となつて充満する場である。天文学者に取つては宇宙空間は絶えず広がりつつある場であり，宇宙が何万パーセクあるかということは時間のファクターを除外しては考えられない。急進的な見方が許されるのであれば私は次のイメージを物理学者に投げたい——空間はエネルギーの特殊な状態だ。

〔空間と時間〕　時間は地球の一回転やあるいは地球が太陽の廻りを一廻りすることで生れたものなのであろうか？　あるいは人間が何十回か太陽のまわりを回転する間に死んだり生きたりすることから実感されるあるものなのであろうか？　そのような見方は時間の本質と現象を混同させる。またそのような現象から時間の単位を決めたことは人間生活上の便利を除いてはあまり意味はなかつた。時間はエネルギー的単位——素粒子の持つライフより決定されて始めて絶対単位となり得る。素粒子のあらゆる秘密が解明されておらない今日，それだけで私共の「時間と空間」の統一理論を成立させる根拠は与えられたわけではないが，少くともそれに一歩近附くことにはなる。なぜならば私共が「渾沌」と呼んだものの正体はエネルギーであり，「シュク・コツ」と呼んだ時間の正体もまたエネルギーと関係づけられるからである。荘子の如く途方もない空想が許されるならば，時間と空間は共にエネルギーの特殊な状態であつて，エネルギーという唯一絶対神の双生児だと見たい。

20世紀後半の物理学者・天文学者はそれを証明してくれるであろう。

〔建築家の宇宙感はそのまま彼の作品に通じる〕

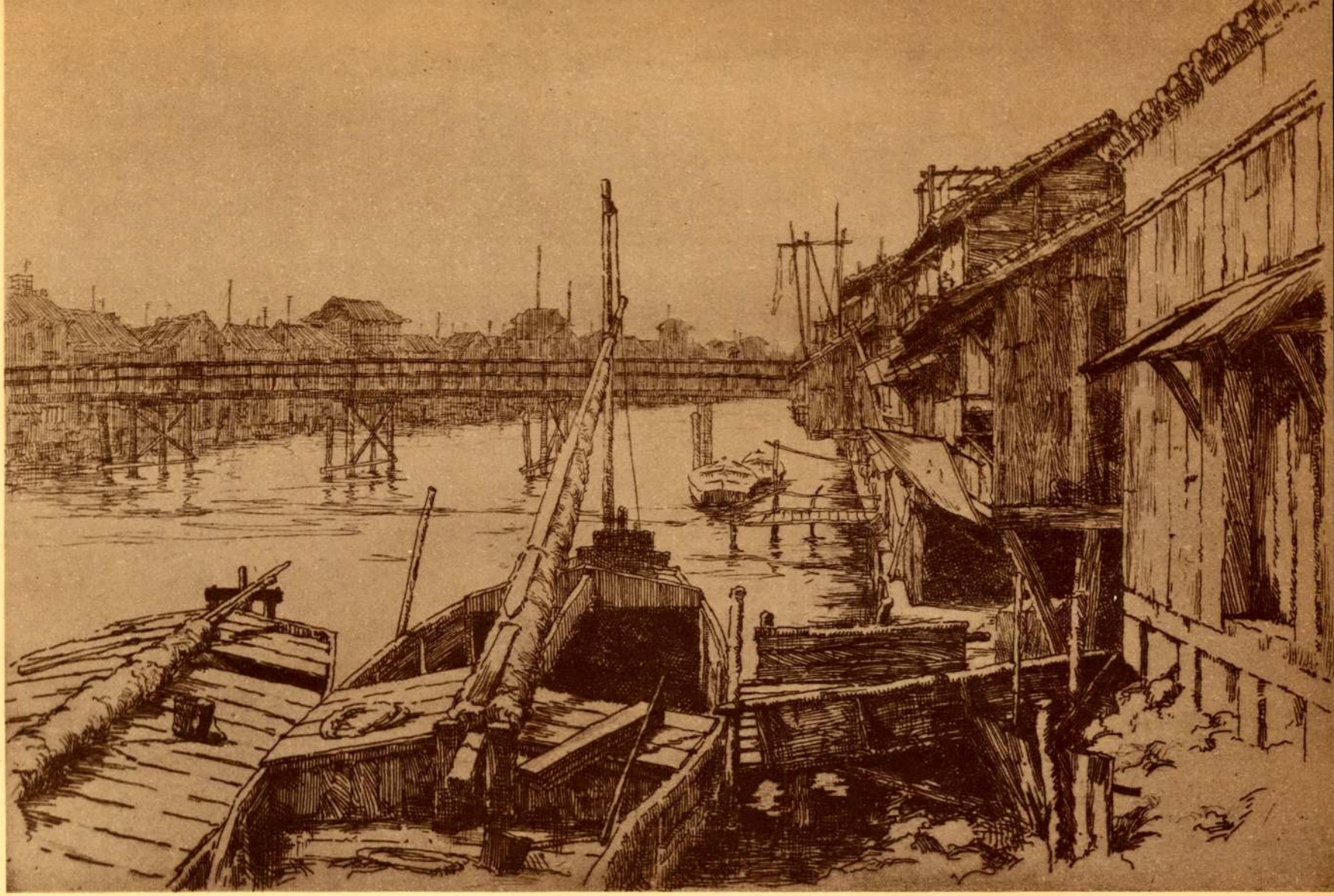
時間はすべてのものを変える力だと見ても誤りではないが，それよりも固定し変らないというものは一切ないのだと見る方が正しい。渾沌はシュク・コツにいつも目鼻を作られては死滅する。死滅したその時が同時に彼の新生である。渾沌は従つていつまでもノツペラボーなのだ。自信の強い建築家という人間だけが昔から「永遠の建築」を妄想した。建築空間と呼ばれる中間的なもの（宇宙に比してあまりにも微小であるが，素粒子に比してはあまりにも巨大という意味で）しかも甚だ人間的なものを創造する建築家が，新らしい物理学，天文学と対応を示し始めて来た。「現代建築のバロック化」と呼ばれる現象にそのきざしが見られるといえばあまりにも性急かも知れないが，新らしい宇宙感が建築家に実感されておらないのであれば，かかる現象は説明し得ないであろう。〔1958・11・14〕

（うらべ　しづたろう　倉敷レイヨンkk営繕部長）



Rouen, France

竹腰健造スケッチ



東横堀川 （大阪） 大正8年

竹鼕健造エッチング

大正時代の大阪の建築を語る

日　時：昭和33年11月14日午後2時～5時
場　所：近畿建築会館地階談話室
出席者（アイウエオ順）
今林彦太郎（大阪ガスKK嘱託）
置塩　章（置塩建築事務所所長）
波江悌夫（本会名誉会員）
鷲尾九郎（KK竹中工務店監査役）
（司会）塚本猛次（日建設計工務KK大阪事務所所長）
吉田信武（吉田建築事務所所長）


波江悌夫氏


置塩　章氏


今林彦太郎氏


鷲尾九郎氏

司会　今日はご多忙中のところお集まり下さいましてどうも有難うございます。実は「建築と社会」正月号に竹腰前会長の回顧録を載せることになりましたので，それと合わせて皆さんに明治から昭和にまたがる大正時代の大阪を中心とした建築界の情勢や建物について語っていただき，われわれ若い者に昔の事情を教えていただきたい。当時の大阪はある一面から見ると，むしろ東京をリードしていたものがあるのではないか，その実利主義的な特異性とか原因などもその中で適当にお話ししていただければわれわれにとっても有意義だと思うのですが……。

大正時代――模倣から近代への転機・橋渡し

波江　都市の建築というのは，大体好景気のときにどんどん新しいものが建っている。大正時代は欧洲大戦の影響でたくさん建ちましたね。

置塩　それらが大部分戦災にかかったりしてなくなってしまったのは惜しいね。

（一同，うなずく）

今林　われわれが仕事をはじめたころはいい参考書がなかった。あったのは「ブリティッシュ・コンペティション」の本一冊だった。当時はルネッサンスやイギリスの建築のコピーをいかにうまく模倣しょうかと思ってやってきた。

置塩　実際，われわれの学生時代はほとんど英国のコンペティションスタイルで，中村達太郎先生なんか「ほかの変なものをやってくれるな」といっていました。

今林　大正時代に入ると，ドイツのセセッションとか，フランスのアールヌーボーとかの新しいものが入って，面白いものがでてきた。大阪へきた当時，石原時計店のセセッション風のものと，大正4年8月竣工の木造だが桜橋の豊国火災のドイツ新興建築の影響を受けたもの，この二つに注目しましたね。桜橋の方のはいまはもうないが，当時の日本の代表的な新様式の洋風建築だったのではないかと思う。

それからこのころからぽつぽつ鉄筋コンクリートも建



石原時計店・心斉橋

ちだした。大正末期になるともう今日と同じようなものができていた。設備はおそまつだったろうが……。

それで大正時代というのは明治の西洋コピーから今日の建物への穴埋めをやって，大体その基礎ができた時代といってもよいのではないかと思う。

煉瓦・化粧煉瓦・タイル

波江　明治も終りになると，鉄骨構造煉瓦造というのが代表的な構造になっていました。学生時代佐野博士設計の東京の丸善本店なんか見にいったものだ。それ以前は銀行はほとんど煉瓦造あるいは石造だったね。

今林　堂島にあった北浜銀行堂島支店，大正元年10月に竣工しているが，それは鉄骨煉瓦造。

波江　このころ，東京では東京駅の鉄骨煉瓦造がはじまっていた。両国の国技館の鉄骨もこのころですが，大正に入ると化粧煉瓦ができた。ハリガワラは日本人の工夫でできてきたことも大きいと思うね。西洋では焼きすぎを使っていたが，日本では経済的な関係で，ハリガワラの発明になったんだろうね。それで大正時代はハリガワラ全盛時代になってきた。それから赤の煉瓦が嫌われて，東京で横河さんの帝劇なんか白い化粧煉瓦を使い，それがはやって，あのあたり一帯は白い建物ばかりになった。それから黄色，チョコレート色といろいろ代えてやってたね。

置塩　私はみがき煉瓦を使ったことがある。表面だけみがいて……タイルは高くつくのでね。

司会　当時は煉瓦はどこで焼いたんですか？



大阪中央公会堂・中の島

波江　ハリガワラと大阪窯業です。当時そこの谷口専務は，もう煉瓦の時代じゃないといって，米国を視察してきてセメント工場にキルンを入れた。また名古屋では，伊奈製陶が造っていた。

今林　当時はいまのようなタイルの考え方ではなかった。大正初期は小口型しかなかった。それはその型しか焼けなかったんだね。大きいのはゆがんでしまうからね。それからそれを煉瓦造のように見せようとしていたんだ。それに貼り方や積み方の検査がすごく厳重だった。

鷲尾　そのころは大抵窓の形が各階で変えてあった。同じ形の窓を繰り返すのは気がひけたらしい。中の島を歩いて見ても実に愉快ですよ。よくもこんなにいろいろの形が考えられたものだと感心させられる。控訴院の建物もその例なんだが，あの建物では窓の大きさと間隔が設計できめられて，それに応じてタイルを割りつけたということを聞いたことがあるが，普通とは逆の行き方ですね。だから，同じ小口型ではあるが，場所によって寸法が違ってるそうですよ。調べたら面白いと思いますね。

今林　そうかもしれないね。

鷲尾　そのころは目地は2分5厘と決まっていた。小口いってんばりで，背が2寸，それで2寸2分5厘で高さを割っていましたね。だから目地で逃げをとるなんて智慧が湧かなかった。

今林　後藤慶二さんの図面を見たことがあるんだが，縦も横もきっちり煉瓦割りをしてあってびっくりした。煉瓦を使うとややこしい半端な寸法がでてくるんですよ。それで学生時代の設計には，なるべく煉瓦を使わないでやったんですよ。辰野先生が「君の寸法は何だい？　こんな寸法になるはづはない」っていわれたので，「これは煉瓦は使わないんですよ」というと，「あっそうか」というわけだったんですよ。

大阪中央公会堂――コンペはアィデァだけ

波江　あの大阪の中央公会堂は，鉄骨煉瓦造で化粧煉瓦なんですが，辰野先生の目地の検査は厳重だったよ。針金を持ってきて，一々目地に突っ込んで行くんですよ。



大阪府立図書館・中の島

そこの監督主任をしていた谷民蔵君なんか憤慨して泣いていましたよ。でもそう厳重でなければ耐震的な価値がないですからね。辰野先生の建物は，丸の内なんか大震災でも被害は薄かった。

でもまあ煉瓦造は，大正初年か明治のものだと思っていいね。煉瓦造は大正初めで終りだよ。

今林　この公会堂は大正7年10月に竣工だね。

波江　これは辰野片岡事務所で監督しているんだが，これが一種の設計監督でしてね。コンペの一等原案を勝手に直しているのですよ。当選者の岡田信一郎君がやきもきして，「先生，お手伝いしましょうか？」って事務所へ行ったんだ。私は岡田君をかげにそっと呼んで「黙って見てる方がよい。でないと設計者は目茶苦茶になっちゃう」となだめたもんです。

置塩　あの公会堂の設計がやられていたとき，岡田君は「一生懸命しつけた娘が，嫁入先でしつけを変えられてしまったようで淋しい」なんていってましたよ。

波江　その点，日本のコンペというのは「案」をとってるだけなんですよ。外国のようにピュアな経過にはなっていなかった。

台湾総督府のコンペのときは，一等はなく，二等は長野さん，三等は片岡さんで，「一等というのはコンペの応募案の中で最良のものが得るものじゃないか」と長野さんが辰野先生にいっておられたが，審査員の一人だった辰野先生は「銀を金にしろ！　というのは無理だよ」といわれたという話しもあるんですよ。これは審査に採点法をとったためと思われるね。

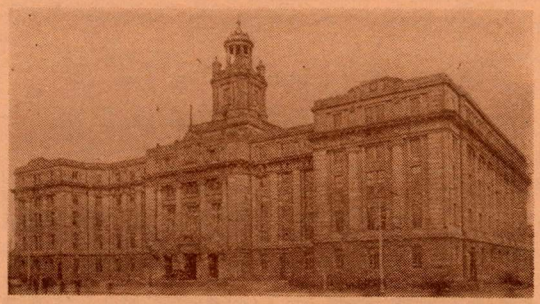
今林　いまから考えると，日本のコンペティションの経過は悪い風潮だったね。

大阪市役所の建設

波江　池上市長のとき，市役所を中の島に建てようといって，市役所のコンペをやった。一等は小川陽吉さん，二等は桜井小太郎さん，三等は……置塩さんだったんじゃないか？

置塩　そうだったな。ハハハ……（一同笑う）

今林　そのコンペは明治の終りだね。



大阪市庁・中の島

置塩　明治45年。

波江　片岡さんが市役所建設のための顧問になりましたね。片岡さんは「もう建物は三階建煉瓦造の時代じゃない。鉄筋コンクリート五階建でないといけない。懸賞は懸賞で，その努力は買うべきだが……」と大いに頑張っておられた。結局先生の指導で主任が牛村喜勇君，次席が今林さん。

今林　竣工は大正10年だったな。鉄筋コンクリートで，塔の部分の下がずっと鉄骨，大担な構造で，いまならようやらんね。役所のえらい人は塔がないと役所にならん，というわけだった。

置塩　胴は僕の案に似ているし，塔はニューヨークのシティホールに似ているといわれた。

波江　メトロポリタンビルに刺戟されたんじゃない？（一同うなずく）

波江　あれが計画された時は大き過ぎるといわれていたが，でき上るとすぐいっぱいになり，電気局や水道局なんか，それぞれ後年，九条と扇町に鉄筋コンクリート造でできた。

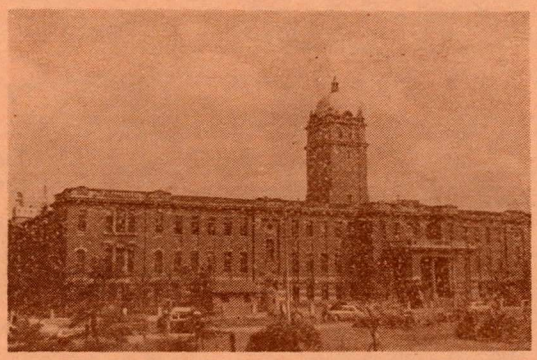
図書館はうまい！

置塩　公会堂・図書館・市役所と中の島に並んでるけど図書館が一番うまいね。

今林　そのことで，あのころは全部ルネサンス・スタイルで，それが独創性だとかでキャピタルに真四角なものをペタッと持ってきたりする。ディテールを一寸変えている。そのまま模倣するのは能がないというわけですね。その点長野宇平治さんはえらい。フレッチャーの本にでもあるとおりにやってね。中の島の図書館にしてもいいというのは，つまり向うのよいのをそのまま持ってきている。だからいまでも見られるんですよ。

赤煉瓦の美しい控訴院

司会　対岸の裁判所，控訴院というんですか，あれも大正時代にできたものと思うんですが，……この間彫刻家の中村真さんにお会いしたとき，「いまの人であれぐらいの色を使える人はいるだろうか？」ということだったんですが，色を意識して効果的に使ったんでしょうか？



大阪控訴院・中の島

今林　それより私は赤煉瓦がはやったからで，色の効果をねらったかどうかは疑問ですね。煉瓦は赤いものだと思っていたんじゃない？

波江　あれは設計は司法省となっているが，横浜勉さんだと思う。牛村君が現場主任，大正5年竣工。あの仕事は非常に苦労してますね。あれだけの壁に貼る煉瓦の色を揃えるのに煉瓦屋は大変だった。現場監督の金刺さんは苦労してましたよ。ここで面白かったのは，基礎が端から端まで長さが300尺ぐらいありますからね。コンクリートの上に壁の真を出すのに，朝と昼測ると半インチ違うんですよ。これは膨脹係数からいくと合うんだが，職人は「コンクリートが生きている」なんていっていましたよ。牛村君の話によると，巣鴨の監獄の塀（煉瓦）が長さ約20丁あるが，隅の塔のところで冬になると指が入るぐらいのスキ間ができるんだそうだ。

今林　それと同じだが，あの大阪の市役所は，引っ込んだ入隅にすき間ができると表から見えていけないといって，入隅は45°の壁を作って逃げましたよ。

鉄筋コンクリートとその取り壊し

今林　ところで鉄筋コンクリートの建物というのは，大体大正に入ってからだろう。大正5年10月竣工の朝日新聞の本社は大きい，新しい鉄筋コンクリートでは早い方じゃない？　武田五一さんの設計で，藤井厚二さんが現場におられた。

鷲尾　これは社内でもめてましたよ。煉瓦で行くか，鉄骨で行くか，鉄筋コンクリートかということで，当時の村山社長は新聞社百年の計にはどうしても耐震耐火でいくべきだといって建てられましたね。

置塩　私は明治43年に鉄筋コンクリートで陸軍の煙突をやりましたよ。

波江　私は大正2年に2,000坪の安田倉庫を鉄筋コンクリートでやった。学校を出てすぐ監督に出た。これで鉄筋コンクリートというものが分ったね。

置塩　当時セメントは大阪窯業と大阪セメントが作っていたね。

波江　この鉄筋コンクリートができた当時，これは壊すのは大変だろうと話していたところが，市区改正で銀行建物を壊しているのを見ると，いとも簡単に壊している。ニューマティックができて壊しやすくなったということもあるだろうが……。

鷲尾　いまの話しの当時の鉄筋コンクリートというのは，本当に簡単に壊れた例があるんですよ。別にコンクリートが悪かったというのじゃあない。梁なんか鉄筋が柱の中まで入ってなくて定着がない。スターラップは入っていないし，鉄筋もベンドアップしていない。それで梁なんかゴソッと落ちてくるんですよ。それは米国人の構造設計でカーンバーというのを使っていた。

波江　折角鉄筋コンクリートで，それも相当丹念につくったものでも具合が悪いと，サッサと壊してしまう。その点大阪人というのは進取的なところがあって，不都合だとすぐ壊してしまうという点もあるんだろうね。私は随分その壊すのを見ましたよ。時代が進むと壊すのも何でもなくなるんだろうか？

オフィス・ビルの盛行

波江　ところで堂ビルは何時建ったの？

今林　大正12年

波江　堂ビルは鷲尾さん，関係したんだろう？

鷲尾　ええ

波江　大阪ビルは？

今林　大正14年9月竣工

置塩　住友ビルの一期が大正14年4月ですね。長谷部さんがやったんだろう。

波江　そうすると今日のビル建築ができたのも大正時代だね。

今林　だからね，大正時代にほとんどすべてが今日の形態になった。煉瓦造三階建から今日の鉄骨鉄筋コンクリートが使われるに到る過程は大正時代15年間ですよ。

波江　東京の丸ビルはフーラー・カンパニーがやったろう。釣り足場だの，どんどん機械力を使って，その日の労働者を集め，材料もその日に必要なものだけ運んだ。事務能率やシステムもよかった。これに刺戟されて，日本の施工も早くなったね。それまでの建物は東京海上にしても，あの東京駅にしても長くかかってたね。

好景気——留学——建築業者の欧米視察

波江　大戦後の好景気でどんどん建物が建ったわけだが，またおかげでいろんな人がたくさん欧米へ行ったね。建築業者はとっても熱心に研究してましたよ。いろんな設備や実務についてね。須賀商会の主人なんか外国の女の人がどんな恰好で便所をしてるかというような観察まで。苦労してましたよ。ハリガワラの谷口君も，伊奈からも若主人が行きましたね。また赤阪の矢橋大理石の太郎さんなど，置塩さんは何時頃？

置塩　私は大正10年から11年。ヨーロッパからアメリカを廻って帰ってきた。帰ってきたら堂ビルができていた。どこかで見たようだなと思いましたよ。

波江　私は大正8年から9年へかけて米国へ視察を命ぜられ，サンフランシスコで，サンフランシスコ記念博覧会の図面を見たんだが，背景から考えてきている。そのスケッチが実物そっくりで，ふんいきもよく出ている。実によく書いてあるんでびっくりした。

今林　大阪で外人のやったビルの図面を見たんだが，百分の一の平面図には鉄骨の柱，鉄筋コンクリート部分，石，煉瓦の部分はもとより煖房のパイプ，給排水管の立上りまで全部書き入れてある。それを見てると建物全体がすぐ浮んでくるんですね。アメリカでは附帯工事屋と建築屋が共同して図面を書いているんだ。全部がこの要領で，その中でも原寸図が一番うまく書いてあるんで「これは誰が書くんだ？」と聞いたところが，「これは一番えらい人が書くんだ。仕事の分った人でないと書けない」というんだ。全く日本と逆だね。

波江　それから向うは組織が違う。現場の寸法が建具屋や石屋にすぐ現場から連絡がくるんだ。その寸法に合わせて加工して，電話一本で現場へ運んでくる。非常に現場寸法というものを大事にしてましたね。

住宅——住宅博覧会

司会　大変参考になるお話しをどうも。ところでこの時代のビルのほかに何か……。

波江　大正時代は都市の建物，ビルが全盛だが，アパートまでは手が伸びていない。私が市に入ってすぐ政府が金を貸してくれて，松坂屋の裏に不良住宅地区改良として，三階建の鉄筋コンクリートのアパートができた。これがまあアパートの起りだろうが，それぐらいのものですね。だからアパートも大正時代に起っているんだが，大阪では早くから郊外電車が発達して，それがどんどん沿線に住宅地を開拓したし，住宅は郊外へと行ったね。

住宅で画期的だったのは，大正11年，協会がやった桜ケ丘の住宅博覧会だったね。大仕事でしたね。恐らくあんなのは日本で最初だったんじゃない？　東京からもたくさん見にきましたよ。——しかも大正時代の住宅改良に大きな刺戟を与えている。

法規が制定されたことは大きい！

司会　御堂筋ができたのは？

波江　市街地建築物法・都市計画法ができてからでしょう。それで近代都市になってくるんでしょうね。大正中年にこの法規ができたということは大きいですね。それと明治42年の北区の大火と，明治45年の南区の大火があったが，これに刺戟されて，市の消防設備も近代化するし，道路も大きくなってきた。御堂筋は巾24間で広過ぎると思われていたが，いまではもうもっと広い方がよいといっているらしい。とにかく大阪の名物になっちゃった

司会　それまで建物には法規的なものは全然なかったんですか？



大正時代の　朝日新聞社

今林　台湾には法規はあったんですがね。こっちでも建物全体を規制するものはなかったが，職業的に，また建物の種類によって，行政・保安・衛生的な他の見地からのものはありました。どんなものでも勝手に建てたらよいというのではなかった。

関東大震災——偉大な教訓

波江　大正時代はおかしなもので，大阪ではほとんど火事はなかった。ただその火事のなかったときに二つの事件があった。私のやった堂島の安田倉庫の中で大正4年にセルロイドの爆発があり，それから大正6年に安治川の三菱倉庫で大爆発があった。

置塩　あの音にはびっくりした。

波江　大きな鉄筋の梁が安治川を越えて，対岸へとんだんだからね。

ところで，大正12年の関東大震災は，日本に大きな教訓を残したね。内藤多仲君のタッチした耐震壁を配置したものはほとんど被害を受けていないが，ほかの多くの建物には亀裂ができるし，丸の内で鉄筋コンクリート八階建の完成間際のものが一つつぶれてしまった。

今林　いまの建築はそれを忘れているんじゃない？　また地震がきて思い出す。人間の世界はそういうことを繰返す……。

波江　たしかにいまは不安を感じさせる壁が多い。もちろん計算してあるんだろうけれど。

置塩　こんな地震も刺戟や反省を与えたり，新しいものができてくるためにはときどきあった方がよいような気がする。それとどうもいまは仕事がスピーディになり，何でも簡略化されてきた。大正時代には総ガラスだとか，コンクリート打放しの丸出しのものなんか考えられなかった。あれはいまでも金がかかるんでしょう？

司会　そうですね，最後はどうも耳の痛い，痛烈なご批判までいただきました。ではこの辺で，貴重な，面白いお話しをいろいろ有難うございました。おかげで大正時代が非常に重要な時代だったということをあらためて認識いたしました。

子供の遊びさまざま

牧村史陽

◇

私が初めて洋服というものをこしらえてもらったのは小学4年生のころだから，明治42年のことである。もちろん詰めえりの小倉服，それが2年ほどのうちには小さくて着られないようになったが，もうすぐ上の学校へ行くのだからムダになるというので，6年生のときには和服で通学させられた。それが船場のドまんなかの汎愛校だったのだから，場末の子供はおして知るべしである。

家では大てい紺がすりの筒袖，その袖で水ばなを拭くものだから，どの子供も袖の先はテカテカと光っていた。商人の家では，子供も縞ものばかりで，前垂れがけである。

そうした男の子の遊びといえば，バイにベッタ，戸外ではイカノボシ（たこ上げ）よりほかにはなかった。そのバイやベッタも，そんなもので遊んではいけないと堅くとめられていたので，私などは人の遊んでいるのを，こっそりと，そばから見ているだけだったが……。

それにくらべると，いまの子供の玩具はピストルに刀，松屋町あたりでは，それがまた一番よく売れるとかで，関西主婦連合会とやらから戦争玩具の追放を申し入れたことなどもあったが，それも，いつのまにかウヤムヤ，そのうえ最近は〝月光仮面〟とか〝スーパーマン〟〝名犬リンチンチン〟などとピストルのうち合いばかりをテレビなどでも次々に出すので，子供は勉強もそこのけでテレビにかじりついて離れない。

いろはカルタでも，昔なら「石の上にも三年」「論語読みの論語知らず」などと，意味もわからぬながらに，それで子供は満足していたものを，この節は二丁拳銃や剣劇の絵がないと承知しないようになってしまった。だから商人の方でも，子供に受けるような際物ばかりをつくる。いくら悪い影響があるからといって，テレビでさえ手を引かぬものを，彼らが製造をやめるはずもないではないか。

もっとも，明治43年ごろから〝立川文庫〟という豆本が大阪で発行されて，玉田玉秀斎の〝猿飛佐助〟が初めて登場し，それが映画に移されて，尾上松之助の忍術映画（当時はもちろん無声，それに映画という名はまだなく，活動写真といって，はやし鳴物・声色入りと宣伝せられていた）が盛んになり，子供たちは，しきりにその忍術をまねて小さな手で九字を切り，パッと姿が消えるのを喜んだものであるから，二丁拳銃も時世であろう。

◇

バイとは，唄の字を書く。貝の一種で形はタニシに似てちょっと大きく，肉は食べられたもの，九州の天草あたりから西区のざこばへ入ってきた。

その貝の殻に晒し蠟を詰めて重味をもたせたのが玩具のバイで，一文菓子屋などに売っていた。赤や青，鉄色などの色ロウを詰め，あるいは，いろいろな模様を象眼式に描いた，きれいなものもあった。

西鶴の「好色一代男」（1682年発行）には「よい年をして螺まはし，扇引，なんこよびて，おのづと子供心になりて……」とあるから，その時分からバイまわしをやっていたことがわかる。ところが，日露戦争のあとぐらいから〝かねバイ〟という鋳物のものが大量製産されるようになって，本物のバイは次第に駆逐せられていった。

バイをまわすヒモを〝ヨウジ〟といい，このバイをまわして遊ぶ座を〝ボン〟といった。普通はセキタン箱（石油カン2個入りの空箱）の上に，3尺角のござを二つ折りにしてのせ，まんなかを押えて，くぼませておく。そして，2人が同時にその上に糸を巻きつけたバイを振り出して勝負を争うのである。いわばコマの打ち合

いと同じようなものと思えばよい。

これに対して，東京には〝ベイベイごま〟というのがあった。バイを木でつくったもので，棒の先に革をつけたもので叩いて廻すのだが，ベイとはバイの江戸なまりである。

このごろは，また夜店が市の周囲部あたりで，ぼつぼつ復活し始めたが，昔は1・6の日の平野町，3・8の日の順慶町など，ずいぶん盛んなものであった。その夜店にバイ屋が店を出していて，中でも一番大きなバイは小さな蒲団の上にドッシリとすわり込み，子供心にもそれがほしくてならなかった。しかし，小さいものでも，ロウの中底に鉛を仕込んだものは目方も重く，勝負にも強かった。そして，そのバイ屋の屋台のそばには，必ず勝負の座が設けられていて，大人までも混って盛んに遊んでいたものである。

◇

夜店のことを書いたが，夜店で面白いのは1銭9厘屋とて，子供の玩具から台所道具まで，なんでもかでも，よりどり1個1銭9厘で売っていた。2銭でもよいところを1厘だけ安くしたところが客引きのコツで，もちろん1厘というような釣り銭はなかったから，2銭出すと釣りの代りにマッチを1個添えて，木のシャクに入れて差し出したものだ。後の10銭ストアというのは，これを組織化したものであろう。

夏ならば1ばい1銭のミゾレ（かき氷に砂糖密をかけたもの）や，すいとう・ところてん店，秋のはじめになると，美しい紙あんどんを掛けた虫売り屋が荷をおろして，鈴虫・松虫・くつわ虫などを売っていた。

いまの〝たこ焼〟が初めて売り出されたのは大正の末ごろであろうか。もっとも，まだ〝たこ焼〟という名はなくて，〝ラジオ焼〟と呼んでいたが，別にラジオとは何の関係もなく，ちょうどラジオがようやく，はやり出した時分のこととて，新しいものとでもいうような意味で名づけたのではないだろうか。お好み焼が始められたのは，それからずっと後のことである。

炭火をカンカンおこして大きな金アミで，はじき豆や，きんなんを煎っている豆売り屋，そのほか古道具・古本に化粧品などの店は今でも同じことだが，平野町などは堺筋から東へ東横堀までの間に，古本屋と植木屋だけが一区画をなして，ずらりと店を並べていた。

大体，夜店の客は八分までがひやかし，安ければ買うてもよいという程度で，〝しらの半値〟といわれるくらいに，客の方も言い値の半分ぐらいに値をつける。すると，ポンと「負けときまひょ」と手を打たれて，はじめから買うつもりもなかったので，そのままスタスタと逃げ出すというようなこともある。そのかわりに根のない盆栽をつかまされたりするようなことも，ないではなかった。安いと思うて買うたカタン糸が，シンが太くて糸の長さが半分もなかったというようなインチキものが，現在も天王寺のお彼岸などで売られているところから見ると，昔の夜店のイカサマをとやかくいうことができないかも知れぬが……。

◇

話を戻そう。ベッタは，いまの子はベッタンという。ボール紙に，武者絵などを，あくどい色で印刷したのを張りつけて，円形や角形に打ちぬいた，ちょうど安ものカルタのようなもの。

のちには，相撲取りや軍人などの絵をその形のままに打ちぬいたものもできて，裏へ梅が谷・常陸山・太刀山大木戸などという，そのころ人気の大関や横綱の名であるとか，大将・中将などと軍人の階級，あるいは何十万というような大きな数字を書いたものもあり，それを互に打ち合って，相手のものがあおられて裏返ったりすれば負けになるという単純な遊びであった。このごろは，そのルールも大分複雑になってきているようであるが，見ているだけでは，どうもよくわからない。

◇

たこあげは，大阪では〝イカノボシ〟という。

石川雅望の「ねざめのすさび」という書に「都人はイカと呼び，関東人はタコと呼べり」とあるが，イカもタコも，その形から出た名であろう。

終戦後の正月，焼け跡のなんのジャマものもない広っぱで久しぶりに手製のイカが空高くのぼっているのを見たときには，日本ものどかになったものだと，いかにもなつかしい気がしたが，それから次第に街が整理され，電線が張りめぐらされるようになって，また都会ではイカも見られなくなってしまった。

いまの子供用のタコは大てい〝奴だこ〟であるが，これは東京からはやってきたもので，もとは〝尾張イカ〟とて，紅白の紙を市松模様に張った扇形のが普通であった。そのほか〝朝鮮だこ〟とて，赤や紺の紙で直線模様をつくった長崎のタコと同じような菱形のものがあり，これは小さい子供用の一番安ものであった。

長崎のたこあげは，阿波の徳島とともに有名であるが，長崎ではタコのことを〝竜〟ともいうそうである。大阪でも〝竜〟や〝虎〟などの字を大きく書いたり，武者絵などを書いた長方形のものもあった。イカ合戦に相手に負けぬ強そうな絵や字を書いたのであろう。これがいわゆる〝絵だこ〟に〝字だこ〟で，大阪では普通〝四角イカ〟といって，やや大きい子が上げたものである。

そのほか〝こつま（勝間）イカ〟とて，鳥がつばさをひろげた格好のものがあり，これは極彩色の木版刷りでなかなか手のかかったものであるが，今はすっかり姿を消してしまった。

イカノボシで壮快なのはウナリである。風を受けてウワーンと鳴ると，いかにもタコあげの気分になる。

また〝マト〟というものがあって，竹細工に赤紙を張ってあり，イカが高くのぼったころを見はからって，手元にこの的を仕掛けてサッと放すと，的は風をはらんでスウッと糸をつたって上の方へのぼってゆく。そして，それが一番上の糸の結び目に突きあたると，パッと日の丸型に開いて，中に仕込んである五色の紙がヒラヒラと大空にまかれる。的は役目をはたすと，またスルスルと手元へ戻ってくるのだが，その的がパッと開いたときの気持は何ともいえぬ痛快なものであった。

城のバンバ，いまの馬場町交叉点から北方一帯，昔はもちろん府庁などの建物もない広っぱで，イカノボシには持ってこいのところ，よくイカ合戦が行なわれたそうである。もちろん明治時代のことだが，〝イカ茶屋〟というのがあって，昼の弁当を食べたり，イカを預けておいたりしたものだとか。

このイカ合戦のときには，糸にガラスの粉を塗りつけておいて，それで相手の糸を磨り切るのだと聞いた。その切れたイカが風のまにまに大空を飛んでいたのを見たことがある。

「テングン(天狗)さん，風おくれ，あーまったーら，かーやーす」

風が出るのを待って子供らが歌っていた声が，いまだに耳についているようだ。

◇

輪まわしとて，直径50センチほどの竹のたが（後には鉄の輪になった）を，太い針金の先をカギ型にまげたもので引っかけて街中を走って行くのだ。いまのフラフープよりも危いが，町を走るのは人力車よりほかにはなかった時代なればこそ，こんなこともできたわけである。丁稚などが使いに行くときにも，手製の輪をまわしながら駈けて行った。走るので使いが早く片づいた。

〝ドンドン〟というのは，まり当て遊びである。ゴムまりが一般に普及したのは明治30年ごろだと聞いているが，いまのような大きなものはなくて，大てい直径5，6センチぐらい。それを当て合って，当てられたものが鬼になる。往来でこんな遊びができたのも大正中ごろまでではなかろうか。

女の子は，そのゴムまりで手まりつき，もちろん和服だが，長いたもとを左手でかかげてマリをついていた姿はなつかしい。

ひィふゥみィよォ，よもの景色を春となが めて，梅にうぐいす，ホホン法華経とさーえずる，あすは祇園の二軒茶一屋で，琴や三味線，はやしテンテン手まりうた，歌の中山，チョ五ン五ン十で，チョ六六々，チョ七七々，チョ八八々，チョ九が九ゥ十で，チョト百ついた，ひィふゥみィよォ……。

こんな，のんびりした歌も明治時代なればこそ，大正初年になると，その歌もすっかり変ってくる。

トントトントン，トンとおとせば，すだれ小やなぎ，まわりすとよりスットントン，いちゃドンドン，二やドンドン，三やドンドン，四やドンドン，五位あがり，じゃくろーや一匁，じゃくろーや二匁……，さのやが一，さのやが二……，あまいちりんしょりんしょ，あま二りんしょりんしょ……。

どこまでもつづいて，だんだん曲づきになってゆく。このような歌には，これという原歌があるではなし，その所，その人によって，どんなにでも歌われる性質のものだから，同じ大阪でも船場と島之内では，もう歌も違っていたかもしれない。

◇

子供のはやし歌には，ずいぶんいろんなものがある。

おーに（鬼）になって苦しいか，だいこ（大根）の汁なと飲ましゃんせ——鬼ごとなどの時のはやし歌。

もうせん，きっき，はーらいた（腹痛）おーこった，また，はーらのむーし（腹の虫）がおーこった——鬼ごとや，かくれんぼをやめるときにいう。

けんかはおよし，相撲はおとり——けんかの仲裁。

子供のけんかに親出すな——けんかの中へ親が仲裁にはいったりするとき。

男と女と遊ばんもん，一間まなかにきずがつく——男の子と女の子が仲よくしているのを見てはやす。

蛸たいてもお醤油が足らん——坊主をあざけっていう

郵便屋さん，走りんか，もうかれこれ12時や。

赤・安心，白・心配——赤，白に分れた競争のときに白の旗色が悪いのを見て，赤組の方からはやす。

ビビンチョにさーわらまい，いしかね（石金）持って来い——道で汚ないものを踏みつけたときなどに，それを見ていた他の者がはやし立てる。

ビビンチョ，カイチョ，カイチョ持って走れ——前項と同じ。後にはなまって，ビビンチョ，カンチョといった。

まねし万才，米もらい，一日歩いて米一升——人のまねをする子があると，こういってはやした。

うそ泣きするもん，役者の子——うそ泣きをしている子にはやす。

（筆者　郷土史家）

良質と量産を誇る

伊奈の

定評のある

タイル

躍進する

衛生陶器

IS カタログ送呈



常滑農協会館

設計・日建設計工務（株）
施工・竹中工務店

CC 130/114P TC 4丁掛

伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電(代) 700
東京事務所、東京都中央区西八丁堀2—8　電 ㊺ 5261—2 5921

岩住のサッシ・ドアー

弊社製品の総てに

オートメーションに依る **ボンデライト** を

錆止メ塗装は **焼付塗装** を

実施致しまして **完全防錆** を

期しています　是非御採用の程願上ます

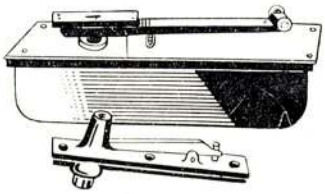
株式会社 岩住鐵工所

大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地

電話 淀川(47) 0903・0904・3000・4351・4352・4353

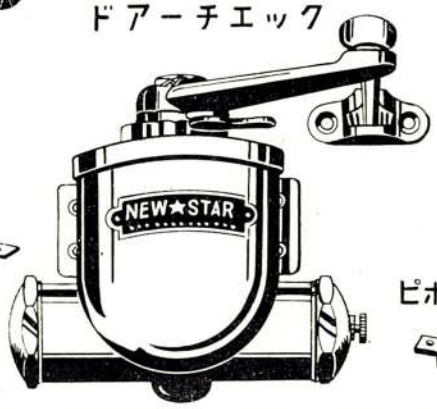
NEW★STAR

創業大正八年



フロアーヒンヂ（両開キ）

ドアーチエック

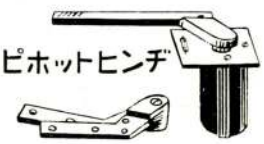


フロアーヒンヂ（片開キ）





ラバトリーヒンヂ



ピボットヒンヂ

輸出　本邦唯一

ニューヨーク・ロスアンゼルス・カラカス・バンクーバー・ロッテルダム・マニラ・シンガポール・香港等へ毎月輸出致しております。

日本ドアーチエック製造株式会社

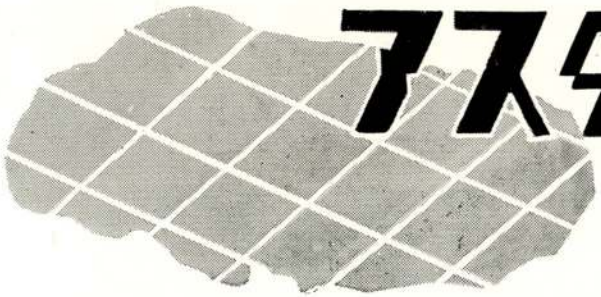
取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町3丁目11番地　電話大阪(72)代表6666－9
東京支店　東京都千代田区神田錦町1丁目23　電話東京(29) 1920・4920
福岡出張所　福岡市舟津町1番地　電話福岡(4) 2372・3312
名古屋出張所　名古屋市中区下園町1丁目5番地　電話名古屋(23) 7361

最も進歩した建築には最も進歩した床材

ビニアスタイル

(2粍厚)



アスタイル

を

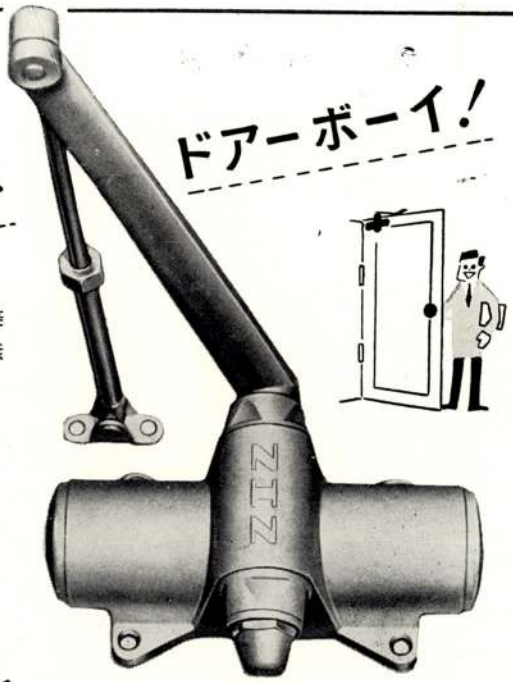
藤森建材株式会社

本　社　東京都中央区日本橋通1ノ5(中央ビル)
電話　東京　㉗　6　4　3　2　～　5
大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1丁目1番地(大同ビル内)
電話　土佐堀　㊹　1　6　2　3

NHN

あなたの忠実な…

ドアーボーイ!



型状優美
故障絶無

日・米・英・独、各国特許

ニッカナ
ドアーチエック

日本金具製作所

製造元　ダイハツ工業株式會社

ABCの建材

ABCコーキング

凡ゆる間隙から永久に漏水の心配を根絶する
永久に気密を保持する
廉価で耐久性のある コーキング剤

18リッター罐		8,500円（現場渡）
1cm×1cm×1cm	材料費	48円
コーキングガン		3,000円（現場渡）

カラクリート

美しく，磨耗せず，滑らず，かつ耐水性に富んだ床材床，廊下，階段，ロビー，バルコニー，ガソリンスタンド等美しい色彩と耐磨耗性を必要とする場所や，防水力があるので戸外にも使用出来る。

価格　42kg袋入（6坪分）　現場渡｛緑 7,080円（坪当り￥1,180）／その他 5,880円（〃 ￥980）

フェロコン

工場，倉庫用コンクリート床仕上材
コンクリート床の金属性硬化材で，フェロコンの施工によって床は恰も鋼板を張ったような効果をあげる。

価格　49kg袋入（7坪分）　現場渡｛色物 6,200円／ナチュラル 5,400円

コルキート

近代人の部屋には疲れをいやし，いらいらを取る壁材
合成ゴムとコルクから製造されたコルクシートで落着いた上品な感覚で，老化せず水洗出来る

価格　坪当り　東京渡　2,200円　　寸法　3尺×6尺×0.7mm

ロビンスコンダクティブタイル

麻酔ガスの爆発を防止する手術室用電導ビニールタイル

- 常に一定の電導性を保証出来る
- 施工翌日から使用出来る
- 掃除、補修が容易である

K.K. ABC商会
東京都中央区八重洲5～5
TEL (28) 7687～8・2765～6・0760
大阪出張所
大阪市西区京町堀通1～18(日新ビル)
TEL (44) 3915・0500

近　代　建　築　史　年　表

—— 海　外・日　本・関　西　(附・竹　腰　健　造) ——

島　田　勝　次　編

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰建造
明治1 (1868)	エレベーター実用化・ シーメンス平炉製鋼所開設	明治維新・江戸開城・五箇条の誓文発布・官制改正・ 工芸家ワグナー来日	英人ウォートルス来日 築地ホテル（清水喜助）建設	神戸居留地工事成る 神戸開港・神戸東運上所開所・神戸事件起る	
明治2 (1869)	スエズ運河開通・ メンデレフ元素の週期律発見・ トルストイの「戦争と平和」	版籍奉還・全国平定・東京遷都・京浜間電信開通・観音崎と野島崎灯台完成	長崎浜の町大橋・横浜吉田橋（共に鉄造橋）建設	外商ツレジング神戸に製鉄工場設置	
明治3 (1870)	普仏戦争・仏共和国宣言・ イタリヤ統一	集議院開設・国旗制定・ 初の日刊新聞「横浜毎日新聞」発行始む	工部省設置・ 英人ダイアック来日 清水横浜居留地商館建設	大阪高麗橋（鉄造様・本木昌造）建設 大阪神戸間電信開通	
明治4 (1871)	仏の鉄骨のチョコレート工場建設 ドイツ統一完成・バクニンの「神と国家」・ゾラの「ルーゴンマッカール双書」（～1893）	廃藩置県・郵便規則・散髪廃刀令・官立富岡製糸場設置・新貨条令発布・東京裁判所開く	工学寮設置・工務省赤羽工作分局設立 竜之口勧工場（東京初の煉瓦造・ウォートルス）・海軍兵学寮建設	大阪造幣寮及泉布観（ウォートルス）建設 神戸川崎浜に工部省製鉄造船事業開始・淡路江崎灯台建設	
明治5 (1872)	デデキントの「連続と無理数」・エンゲルスの「自然弁証法」	徴兵令・学制・福沢の「学問のすすめ」・横浜東京間鉄道開設・横浜にガス点火・ランプ流行・日本初の博覧会湯島聖堂に開く・暦制改正し太陽暦採用	仏人ボアンヴィル来日・英人アラー著訳本「西洋家屋雛形」（洋風建築の最初のまとまった紹介書）出版・銀座大火→煉瓦造家屋へ 新橋停車場（ブリジンス）・英大使館（ウォートルス）・大蔵省（林忠恕）建設	神戸税関開設	
明治6 (1873)	ウィーン万国博開く 米でタイプライター発明・ミルの「自叙伝」・トルストイの「アンナカレニナ」・世界経済恐慌	征韓論破れる・「明六雑誌」刊行・東京の上野・芝・浅草・深川・飛鳥山公園となる。皇居火災・太陽暦実施・地租改正・王子製紙会社設立・日本ウィーン万国博に参加	工部大学校開校・ウィーン万国博で日本工芸反響呼ぶ・大蔵省土木寮建築局深川出張所でセメント試作・東京諸官省庁舎第一回集中計画・大倉組商会（大倉土木）組織 銀座煉瓦街（ウォートルス）完成・第一銀行（清水喜助）・開成学校（林忠恕）建設	住吉と箕面が大阪初の公園となる・工務省の兵庫造船所開く・神戸ホーム（神戸女学院の前身）設立	
明治7 (1874)	モールの不静定トラス理論発表 印象派第一回展開く・ 万国郵便同盟・ ヴントの「生理学的心理学綱要」	民選議院設立を建白・佐賀の乱起る・読売新聞・朝野新聞創刊・釜石で日本初の洋式製鉄始む・東京警視庁を置く・東京衛生試験所設立	工部省に営繕局設置・工部省深川工作分局（セメント製造）設立 為替バンク三井組・駅逓寮（林忠恕）・工部大学校生徒館建設	大阪府庁（西洋建築の最も早い地方官庁・キンドルス）・初代大阪駅（ワット）、神戸駅・三宮駅・神戸税関役所（林忠恕）建設 大阪神戸間鉄道開通	
明治8 (1875)	カスティリアノの最小仕事の原理発表 メートル条約に十六カ国調印	元老院・大審院設置・新聞紙条令・中央気象台設立	工学寮に造家学科設置 印刷局・元老院議事堂・慶応演説館建設	新島襄同志社を創立・ 大阪衛生試験所創立	
明治9 (1876)	ボアローとエッフェルのボンマルシエ百貨店建設 ベル電話発明・キルヒホフの新力学体系・ドストエフスキーの「カラマゾフの兄弟」（～1880）	東大開設・工部美術学校創設　神風連・秋風・萩の各乱起る・東京女子師範学校附属幼稚園（幼稚園の始まり）開設・札幌農学校創設	伊人カッペレッチー来日・工部省品川ガラス製作所設立 松本の開智小学校（立石清重）・東大医学部建設	この頃同志社新島旧邸建設	

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
明治10 (1877)	ハイアットの鉄筋コンクリート実験結果発表・英レーレ郷「音の理論」発刊 露土戦争起る・ エジソン蓄音器発明	西南の役起る。 第一回内国勧業博開く 田口卯吉の「日本開化小史」刊	コンドル来日・ 工学寮造家学科は官制改革により工部大学校家学科となる。 工部大学校講堂(ボアンヴィル)・学習院・大書院建設	京都駅建設 京都大阪間鉄道開通	
明治11 (1878)	第三回パリ万国博開く・ トーマスの鉄の塩基性転炉法 印象派全盛・ベルリン会議・エンゲルスの「反デューリング論」・イプセンの「人形の家」・ファーブルの「昆虫記」(〜1910)・パースのプラグマティズム	大久保利通暗殺さる・ 米人フェノロサ来日	新富座・東京上等裁判所建設	大阪橋本組創業	
明治12 (1879)	エジソン炭素線電球の発明・ 独墺同盟・ ベーベルの「婦人論」	教育令制定・帝国学士院創立・ 新約聖書の邦訳成る	工部大学校造家学科第一回卒業(辰野・片山・曽禰・佐立)・ 京橋と日本橋大火→屋上制限令・ 参謀本部(カツペレツチー)・旧日本銀行(コンドル)建設	住友旧本邸洋館（大工八木甚兵衛）建設 大阪朝日新聞創刊	
明治13 (1880)	電気エレベーター発明・エッフェルのキャラビ高架橋建設(〜1884) ゾラの「実験小説論」	刑法・治罪法制定・ 自由民権運動発展	アンダーソン著瓜生訳「暗氏材力論」発刊・辰野欧洲留学（〜1883） 有栖川宮邸（〜1884）及び北白川宮邸(〜1885)（コンドル）建設	大阪大火	
明治14 (1881)	セディユのプランタン百貨店建設(〜1889) パナマ運河起工・独墺露三帝協商・ランケの「世界史」	明治23年国会開設の詔勅下る・ 板垣自由党結成・東京大火	小野田セメント工場設立 遊就館(カツペレツチー)・札幌豊平館(バスチヤン)建設		
明治15 (1882)	独墺伊三国同盟締結・ 世界経済恐慌・ コツホ結核菌発見	日本銀行創立・早大の前身学校創立・大隈立憲改進党結成・軍人勅諭・兆民訳「ルソー民約論」・銀座に電灯つく・「新体詩抄」	片山東熊渡欧 上野博物館(コンドル)・華族銀行（藤本寿吉）建設・皇居造営	初代兵庫県会議事堂（八角堂）建設	
明治16 (1883)	マツハの「力学発展史」・コツホ細菌学確立・モーパツサンの「女の一生」	華族制度・官報発行・ 野田種太郎ベンサムの「自由論」訳出・日本鉄道営業開始	鹿鳴館(コンドル)・海軍兵学校生徒館(ダイヤツク)建設		
明治17 (1884)	ジエニーのホームインシユランスビル建設（〜1889） コツホのコレラ菌発見・グリニチ子午線を万国共通と定む	農村恐慌・上野停車場開業・石川暎作スミスの「国富論」訳出・海底電線朝鮮内地連絡・朝鮮京城の変(1882〜)・長崎造船所を三菱に払下げ	深川セメント製造所浅野に払下げ浅野セメント工場設立・土木組合結成 東大講堂及東大法文学部舎(コンドル)・旧東京銀行集会所（辰野）建設	同志社彰栄館建設	
明治18 (1885)	電信往復法発明・ 独のマーシャル群島占領・ マルクスの「資本論第二巻」・ マツハの「感覚の分析」・ イーストマンの写真フイルム	朝鮮と講和条約成立・清国と天津条約結ぶ・伊藤内閣成立・国際メートル条約加入・専売特許条令布告 坪内逍遙の「当世書生気質」『小説神髄』	工部省営繕局廃止 理科大学(山口半六)・横浜税関（三代清水満之助）・逓信省・坂本町銀行集会所建設		

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
明治19 (1886)	独のケーネンとワイス鉄筋コンクリート強さの計算方法発表 この頃より新理想主義・新浪漫主義の思想起る・世紀末思想風靡	小学校令・帝大令制定・標準時制定・赤十字加入 この頃より近代機械工業展開 演劇改良会設立	造家学会創立・工部大学改組して帝大工科大学に造家学科設立・独人ベックマン来日・ベックマン貸費生として若干の職工と妻木頼黄・渡辺譲・河合浩蔵渡欧 東京諸官省庁舎第二回集中計画（エンデ・ベックマン）	同志社公会堂建設 神戸兵庫造船所を川崎に払下げ	
明治20 (1887)	タコマビル・サリヴァンのシカゴオーディトリアム(〜1889)建設・ブレスラウの「図式力学」出版 仏領インドシナ成立・アツベの顕微鏡・ザメンホフ　エスペラント語創案	叙位条令・学位令・保安条令公布・東京電灯会社始めて点灯・明治学院創立・鹿鳴館事件起る 二葉亭四迷の「浮雲」	建築学会「建築雑誌」発行・この頃から日本人の手で洋風建築始む・独人エンデ来日・安藤組創業・日本土木会社創立・ 岩崎別邸(コンドル)・名古屋郵便電話局（佐立）建設	同志社有終館建設 大阪市区改正法案調査委員会を大阪府に設置	
明治21 (1888)	アッシュビー工芸学校設立・ パスツール研究所開設・イーストマンコダック写真機完成・ニイチエの「この人を見よ」	枢密院設置・東京朝日新聞創設・東京天文台創立・横浜大火 田中正平純正調オルガン発明	コンドル日本初の民間建築事務所開く・辰野金吾造家学初の工学博士となる・工手学校（後の工学院大学）創設・東京市区改正条令 工科大学本館及諏訪邸(辰野)・宮内省(コンドル）建設	兵庫駅・姫路駅建設 神戸電灯会社点灯開始	6月25日石川県金沢市で生まる
明治22 (1889)	第四回パリ万国博開く（機械館及エッフェル塔建設）・ルートのモナドノックビル(〜1891)及ランドマクナリービル（〜1890・最初の全鉄骨）建設 第二インターナショナル成立・パブロフ胃分泌神経証明	帝国憲法発布・皇室典範制定・国粋主義運動盛ん・東海道本線開通・市町村会公布・ 「国華」創刊・大槻文彦の「言海」	二重橋際銅像意匠コンペ（日本初のコンペ）・東京土工組合発足・ 第一高等学校(山口半六)・横浜郵便電信局(佐立)・華族女学校(新家孝正)・王子製紙工場・梅積邸（中村達太郎）建設	大阪裁判所(大倉土木)・旧大阪中郵・天王寺駅　湊町駅建設 大阪・京都・神戸・姫路・和歌山・堺等市制実施・東海道本線全通・関西学院創立	
明治23 (1890)	サリヴァンのウエインライトビル建設 ジエームズの「心理学」・マーシャルの「経済学原理」・エジソンのキネトスコープ・ツベルクリン発見・破傷風及びジフテリヤ血清療法完成	教育勅語公布・第一回衆議院議員総選挙・第一回帝国議会開く・ 水道条令・府県制公布 フエノロサ帰米・上野公園に電車 国民新聞刊・鷗外の「舞姫」	丸の内の土地一部三菱に払下げ・「蘭均氏土木工学」発行 日本赤十字病院(片山)・学習院(渡辺)・国会仮議事堂建設	琵琶湖疎水運河完成	
明治24 (1891)	ジエニーのフエアビル・ルートのマソニックテンプル（22階）建設・この頃マッキントッシュを中心にグラスゴー派生れる。 露仏同盟・ワイルドの「サロメ」	度量衡法にメートル法併用・ 東京青森間鉄道開通 幸田露伴の「五重塔」	濃美大地震→震災予防調査会設立 ニコライ堂(コンドル)・一条公邸（片山)・農商務省(新家)・春木座(河合)・箱根富士屋ホテル建設・国会仮議事堂焼失・再築	第一国立銀行大阪支店(辰野)建設 中の島公園開く・ ロシヤ皇太子来朝して大津事件起る	
明治25 (1892)	エヌビックスタラップ考案・英ローヴの「弾性理論」出版 欧洲各地で無政府主義者暴動・英でビスコース人絹発明	静岡大火・浜松大火 落合直文和歌革新を唱う	三菱一号館着工・東京郵便電信局（片山)・鍋島邸(辰野)・細川公邸（片山)建設	琵琶湖水力発電所・大阪郵便電信局（佐立）建設・大林組創設	

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
明治26 (1893)	シカゴ万国博開く・ライトのウインスロー邸・ホルタのテユラン通りの家（アールヌーボー）建設・ニューヨークで潜函基礎工法使用 米恐慌発生・オツシログラフ製作・ディゼル機関発明	ケーベル博士来日・美術学校第一回卒業・ 「文学界」創刊	岩崎邸(百坪大邸宅・コンドル)・明治座（宗・横河）建設	清水組京都支店設立 国産機関車製造始む（神戸工場）	
明治27 (1894)	ブラッセル工芸博開く（アールヌーボー盛行） ドレフユース事件起る・マルクスの「資本論第三巻」刊・ヴインデルバントの「歴史と自然科学」	日清戦争起る・日英改正通商条約 北村透谷自殺	この頃より鉄筋コンクリート構造紹介され始める・伊東忠太「造家」の改名を望む 東京府庁(妻木)・三菱一号館及海軍省(コンドル)・市村座(高原弘遺)・キリスト教青年会館（コンドル）建設	奈良博物館（片山）・奈良県庁(長野宇平治)建設・清水組大阪支店設立	4月東京市四谷区四谷尋常小学校入学
明治28 (1895)	ワグナー「現代建築」著・ヴエルデのユックルの自邸建設・セーヴインの残響理論 レントゲンX線発見・フロイド精神分析始む・仏シネマトグラフ・米ヴアイタスコープ完成・ナンセン北極探検	日清戦争終る・日清下関条約締結・台湾総督府設置 樋口一葉の「たけくらべ」・豊田佐吉自動織機発明	秀英舎工場(日本初の鉄骨構造)・司法省・三菱二号館（曽禰）建設	京都博物館（片山）建設 英人グルーム六甲山を開く・京都電気鉄道（京都市電の前身・日本初の営業電車）・浪速鉄道開通・大阪鉄道天王寺大阪間開通	
明治29 (1896)	フレッチャーの建築史出版・雑誌「ユーゲント」創刊・パリにアールヌーボーの店開店 第一回オリンピックをアテネに開く・マルコニー無線電信発明・ベルグソン「物質と記憶」	進歩党結成・拓殖省設置・日本郵船欧洲航路開設 歌舞伎座開場	日本銀行本店(辰野)・東京裁判所（現最高裁・エンデ・ベツクマン）・三菱三号館(曽禰)・東京クラブ建設	大阪日本生命本館(関野貞)・大阪電話交換局・神戸関帝廟建設 神戸で日本初めて映画公開	4月福岡市春吉尋常小学校に転校
明治30 (1897)	ドレスデン工芸博開く・オルタのブリュッセル人民の家・マッキントッシュのクランストン喫茶店(〜1898)建設・ウインセセッション結成 希土戦争・ブラウン管発明	金本位制・諸国と通商航海条約調印・京大創設・八幡製鉄設立 赤痢菌発見・藤村の「若菜集」・紅葉の「金色夜叉」(〜1902)	造家学会を建築学会と改称・古社寺保存法・伊東忠太日本建築の講師となる 長崎ホテル(コンドル)・東京株式取引所（佐立）建設	兵庫水族館・京都株式取引所(植村常吉)建設・大阪築港工事開始・神戸土地建物ＫＫ創立 大阪一次市域拡張・阪鶴鉄道池田宝塚間開通	
明治31 (1898)	ハワードの田園都市論・ベルラーへのアムステルダム取引所建設・ヘッペルの「材料力学講義」刊 ラジウム発見・高速度鋼発明・米西戦争起る	日本美術院結成・毎日新聞発刊・民法施行・社会主義研究会生まる・東京大阪長距離電話開通・日鉄スト起る 蘆花の「不如歸」(〜1899)	この頃中流住宅の和洋折衷意見出る	旧大阪取引所(大倉土木)・京都銀行(神谷・岡本)建設 奈良・大津市制・西成鉄道開業・南海鉄道阪堺鉄道を譲受け開業	3月春吉尋常小学校卒業 4月小倉市小倉高等小学校入学
明治32 (1899)	サリヴァンのカーソンピリースコットストア(〜1904)・マッキントッシュのグラスゴー美術学校・オルブリッヒのセセッション館建設 南阿戦争・ヘーグ万国平和会議・トルストイの「復活」	商法施行・ 中央公論刊	日本土木組合創立・北田九一「和洋折衷住宅」刊行 東京商業会議所(妻木)・日本勧業銀行(妻木・武田五一)・参謀本部(薩大吉)建設	二代目大阪停車場(吉井茂則)・大阪地方裁判所・三菱銀行神戸西支店（曽禰）建設 神戸居留地租借解消	

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
明治33 (1900)	第五回パリ万国博開く・プライウッド発明・セセッション展開く パブロフの条件反射・プランク量子論の基礎・メンデル遺伝法則再発見	北清事変起る・下水道法・文官任用令改正(官僚制度確立)・立憲政友会組織・東京工業試験所創立 高峰譲吉アドレナリン創製	横浜山手教会（コンドル）建設	旧大阪控訴院(河合)・旧京都中郵建設・鴻池組組織・住友本店臨時建築部設立	
明治34 (1901)	ガルニエ産業都市計画発表（～1904）・オルブリヒ他の芸術家村建設 ノーベル賞制定・英に技術規格委員会誕生・マルコニー大西洋横断無線通信に成功	社会民主党結成・日本女子大創立・地震計発明・この頃より各都市に電車運転・官営八幡製鉄操業開始	この頃より鉄骨建築本格化 横浜ユナイテツドクラブ（コンドル）建設	辰野金吾大阪住友の顧問となる(～1911)・安田銀行大阪支店(山口半六)・三井銀行大阪支店・住友須磨別邸建設 山陽鉄道神戸赤間間全通	3月小倉高等小学校三学年修業 4月福岡県立豊津中学校入学
明治35 (1902)	トリノ万国博開く・ベルラーヘのアムステにダム都市計画 シベリヤ鉄道完成・クロポトキンの「相互扶助論」・ラザフォード等の原子崩壊説	日英同盟締結（～1922）・早大設立 大村栄緯度変化Z項発見	東大・京大でコンクリート学講義・東京工高建築科設立 三井銀行本店（横河）・第一銀行本店（辰野・石井）建設	兵庫県庁(山口半六)・第一銀行京都支店(辰野・田辺)建設 英人グルーム六甲に日本初のゴルフクラブ作る	
明治36 (1903)	ホフマンウイン工房設立・レッチワース田園都市建設・ペレーの8階建住宅建設（初の鉄筋コンクリート住宅） ライト兄弟飛行機初めて飛ぶ・ゴーリキーの「どん底」・米フオード自動車会社設立	平民新聞発刊・幸徳秋水の「社会主義真髄」発表・東京日比谷公園開く・小学校国定教科書制度公布 小杉天外の「魔風恋風」連載始む・藤村操華厳滝投身	浅野セメント廻転炉で製造開始・滋賀重列の「住宅改良論」・東大で佐野利器鉄骨建築構造の講義始む・辰野葛西事務所開く・横河工務所開く 東京札幌ビール工場建設	京都疎水のメラン式運河橋に始めて鉄筋コンクリート応用・日本銀行大阪支店（辰野）建設 大淀で第五回内国勧業博開く・南海鉄道大阪和歌山間全通・大阪市電開業(築港花園橋間―日本最初の市電)	
明治37 (1904)	ライトのラーキン石鹸会社・メッセルのウエルトハイム百貨店・ワグナーのウイン貯金局（～1906）建設 英仏協商成立・ロランの「ジャンクリストフ」(～1912)・ローレンツ変換式・英で構造用圧延鋼材の最初の標準化が行われる	日露戦争起る・日韓議定書成る・三越創業(デパートの始め)・煙草専売制・愛国婦人会創立	八幡製鉄シヤモット煉瓦製造・東大の鉄骨構造研究に横河民輔加わる 横浜正金銀行（妻木）建設	大阪図書館(野口孫一・日高)・神戸地方裁判所(河合)・三和銀行高麗橋支店(片岡安)・旧京都府庁(松室・一井)・北浜銀行本店(鈴木禎次)建設 天王寺公園起工	
明治38 (1905)	マイヤール橋梁建設始む（ダヴァナサ橋）・ペレーのポンテウ街ガレージ建設 モロツコ事件・ノルウエー独立・ロシヤ第一革命・アインシュタインの特殊相対性理論・徹毒スピロヘーター発見・フオービズムの名称起る	日露戦争終る→日露講和条約調印・東京日比谷焼打事件起る 漱石の「吾輩は猫である」	法隆寺再建非再建論争起る・セメントの試験規格制定・東大で佐野鉄骨鉄筋の講義始む・名古屋高工建築科設立 福島邸(武田五一・アールヌーボー風)建設	大阪に辰野片岡事務所開く・大阪商船会社及神戸電灯兵庫発電所(河合)・大阪ガス(田辺淳吉)建設 大阪神戸間阪神電鉄開通・神戸製鋼所創立	
明治39 (1906)	和蘭ヘーグ平和宮コンペ・ワグナーのシュタインホフ礼拝堂建設・ベーレンスＡＥＧ就職 英労働党成立・ロシヤ国会初めて開く・ハーバー空中窒素固定・英露協商成立	樺太南部領有・鉄道国有法公布・南満鉄道会社設立・韓国総監督府設置・日本社会党結成・医師法公布 藤村の「破戒」・漱石の「坊ちやん」	日露戦役記念建築コンペ・日比忠彦「鉄骨構造建築学」連載(～1910) 帝国図書館・第一生命建設	東京倉庫兵庫出張所（日本初の鉄筋コンクリート建築・白石直治)・日本銀行京都支店(辰野・長野）建設・横河工務所大阪出張所開く 神戸港築港工事計画着工	3月豊津中学校卒業 9月第一高等学校入学

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
明治40 (1907)	ドイツ工作連盟(D.W.B)設立・ニューヨークシンガービル(41階)建設 英仏露三国協商成立・世界経済恐慌・ベルグソンの「創造的進化」・ジェームズの「プラグマティズム」・この頃立体派起る・ピカソの「アビニョンの娘たち」	日仏・日露・日韓協約調印・小学校令改正 花袋の「蒲団」——自然主義文学高潮	旭ガラス商会設立・「建築世界」創刊 前田邸洋館(渡辺譲)・岩崎高輪別邸(コンドル)建設	大阪帝国生命保険会社（辰野片岡)・神戸川崎造船本館（河合)・神戸オリエンタルホテル（ランド)・神戸商品取引所(辰野片岡)建設 南海鉄道難波浜寺間電化	
明治41 (1908)	ライトのユニテイ教会建設・無梁版研究始まる レーニンの「唯物論と経験批判論」・ミンコフスキーの四次元世界の概念	戊申詔書下る・経済恐慌・ブラジル移民始まる・国際無線電信開始 早大理工科創立・味の素発明	建築師報酬規定公表(〜1918廃止)・中流住宅に中廊下導入・曽禰中条事務所開く 海軍参考館(渡辺譲)・朝鮮銀行(辰野)・日比谷図書館・東京銀行（岡田信一郎）建設	ヴォーリス始めて建築設計・宇治川発電所(茂事務所)・大阪帝国座(辰野)・第一銀行神戸支店(現大和銀行・辰野)・神戸東亜ホテル建設 大阪市電南北線開通	
明治42 (1909)	マリネッティの未来派宣言・ベーレンスのA.E.Gタービン工場・ガルニエのリヨンの屠殺場建設 ツエツペリン飛行船・ジードの「狭き門」・メーテルリンクの「青い鳥」・ペアリー北極到達	伊藤博文ハルピンで暗殺さる・新聞紙法公布・三井合名成立・度量衡法改正・工芸家リーチ来日・芝浦製作所米G.E.会社と提携 小山内薫自由劇場を起す・サルバルサン創製・高峰譲吉タカジアスターゼ創製	台湾総督府庁コンペ（長野宇平治二等当選)・伊東の「我国建築の前途」・近江美濃大地震・早大建築科設置 深川の澁沢倉庫(鉄筋コンクリート)・東宮御所(赤坂離宮・片山・1899〜)・渋野邸(伊東)・国技館(辰野葛西)・丸善(鉄骨・佐野)建設	大阪府建築取締規則公布（初の建築物法)・京都府記念図書館(武田五一)・奈良ホテル・伊勢徴古館(片山)・大阪税務監督局(村井三吾)・神戸市庁舎(秋吉金徳)建設・竹中名古屋から神戸へ進出 天王寺公園拡張開工・神戸築港工事落成・大阪北区大火	3月第一高等学校卒業 9月東京大学工学部建築学科入学
明治43 (1910)	ライトの作品集ベルリンで発刊・ロースの平屋根住宅・マイヤールの無梁版倉庫建設・この頃ワグナーウイン全地域計画 南阿連邦成立・ポルトガル革命・ハレー彗星出現	日韓併合・幸徳秋水事件起る・国民党結成・東北大・九大創立 白瀬中尉南極探険・鈴木梅太郎オリザニン創製・白樺派成立・「国宝帖」刊	大蔵省に議院建築準備委員会設置(〜11)・帝国議事堂建築計画を機に建築様式論争起る ロンドン日英博に日本家屋建つ・鉄道院(上野驛)・逓信省庁舎(吉井・内田)建設	京都商品陳列所（鉄筋コンクリート・武田五一）建設 天王寺公園拡張・神戸市街電車（兵庫春日野間）全通・大阪宝塚箕面間電鉄開業(現京阪神急行)・京阪電鉄開業	
明治44 (1911)	この頃表現派起る・グロピウスのファグス靴型工場(〜13)・ホフマンのストクレー邸・エストベリのストックホルム市庁舎(〜23)建設 フオード自動車大量生産開始・アムンゼン南極に達す・ヴォーリンガーの「ゴチツクの形式の問題」・中国辛亥革命	日英同盟改訂・工場法制定・電気事業法公布・特高警察設置・片山潜社会党組織・所沢飛行場建設 野口英世梅毒スピロヘーター培養成功・西田幾太郎の「善の研究」	建築業協会・建築士会創立 帝劇(横河民輔)・警視庁(福岡常次郎)・白木屋(伊藤吉太郎)・三井物産横浜支店(本格的鉄筋事務所)・早大恩賜記念館(曽禰中条)・歌舞伎座（志水正太郎)・日本橋建設	三菱銀行大阪支店(曽禰・保岡)・渋沢倉庫大阪支店(辰野片岡)・旧文楽座(設楽事務所)建設 大阪電灯安治川発電所運転開始（当時東洋一）	
明治45 大正1 (1912)	ペルッイヒのルーバン化学工場建設 清亡び中華民国成立・第一次バルカン戦争起る・独汎ゲルマン主義・露汎スラブ主義起る・タイタニツク号沈没・ウイルソン露箱考案	明治天皇崩御・乃木夫妻殉死・労働団体友愛会設立・オリンピック日本初参加・機械化学重工業抬頭 日活・帝キネ・松竹の映画会社創立・「ジゴマ」映画流行	東京クラブ（コンドル)・慶応図書館(曽禰中条)・早大図書館・日本赤十字社(妻木)建設	大阪市庁舎コンペ（一等小川陽吉)・大阪通天閣（設楽事務所)完成・鐘紡淀川工場(横河)・堺公会堂(辰野)・神戸川崎造船所ガントリークレーン・京都高島屋建設 大阪南区大火	10月東京大学工学部建築学科卒業

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
大正2 (1913)	ベルグのブレスラウの世紀のホール・タウトの鉄のモニュメント・ペレーのシャンゼリゼ劇場・ギルバートのウールワースビル建設・アルミナセメント発明 第二次バルカン戦争起る・マレヴイッチのシュプレマニズム・フッセルの現象学	ブラジル移民本格化・全国新聞記者大会・東海道本線複線完成(1896～) 白樺派人道主義文学流行・中里介山「大菩薩峠」書き始む・抱月須磨子等芸術座創立・御木本幸吉真珠素質被着法	横浜記念館コンペ(福田重義当選)・三菱合資会社コンペ（木子幸三郎当選）・装飾棟瓦木造家屋使用コンペ 神奈川県庁舎(片山)・村井銀行（吉武長一)・所沢飛行船格納庫建設	大阪市公会堂コンペ（一等岡田信一郎)・大阪安田倉庫(鉄筋コンクリート)・大和田銀行大阪支店(田中実)・大同生命保険京都支店(田中実)・神戸旧聚楽館(設楽)建設・木子七郎事務所開く 能勢電鉄開業	英国に留学しアーキテクチユラルアソシエーションスクールに学ぶ
大正3 (1914)	ケルンでドイツ工作連盟展開く・コルビユジエドミノシステム発表・タウト「ガラス建築」出版・ボナツツシユテユットガルト停車場(～27)建設 第一次世界大戦勃発・パナマ運河開通	日独開戦・シーメンス事件・憲政擁護運動・二科会・土木学会創立・日本鉄鋼協会創立 外国文学翻訳物続出・高村光太郎の「道程」・阿部次郎の「三太郎日記」	東京大正博開く 東京中央停車場（辰野)・三越呉服店(横河)・三菱21号館（日本初の近代設備をもつ貸室専用ビル）建設	大阪楽天地(設楽)・旧大阪クラブ(野口・長谷部)・三井銀行京都支店(鈴木禎次)・二代目京都駅・京都商工会議所(武田五一)・神戸銀行集会所(辰野片岡)建設・神戸三菱ドック完工 大阪電気軌道上六奈良間開通・宝塚少女歌劇開く	
大正4 (1915)	ヴエルフリン「芸術史の基礎概念」・英にD.I.A.設立・アインシユタインの一般相対性理論・フロイドの「精神分析学」・独毒ガス使用	日支条約調印(21ケ条)・米価調整令公布・無線電信法公布 杉本京太邦文タイプライター発明	野田俊彦「建築非芸術論」提唱・明治神宮宝物殿コンペ（一位大森喜一)・報知新聞主催の日本初の住宅コンペ・この頃より大正期住宅改良の気運高まる・鉄道請負業協会創設 横浜駅・帝国製麻建設	天王寺動物園設置	7月英国ＲＩＢＡの建築士試験に合格・オースチン建築事務所に勤務しかたわらローヤルアカデミーに修学（～17.1)
大正5 (1916)	フレツシネのオルリ飛行場倉庫建設・タトリン構成的オブジエ発表・独鉄筋コンクリート標準仕様書公布・独ゲーラー撓角撓度法発表 米ウイルソン天文台百吋反射望遠鏡成る	憲政会発会・大隈首相襲撃 パーマネントウエーブ始まる・倉田百三の「出家とその弟子」・河上肇の「貧乏物語」	佐野博士「家屋耐震構造論」発表(1917発行)・大阪朝日主催の合所設計コンペ・住宅改良会設立・米のライト来日・東京土木建築業組合創立 東京銀行集会所（横河）建設	大阪朝日新聞本社(武田)・新大阪控訴院（山下啓次郎・横浜勉他)・三井銀行大阪西支店(長野)・三井銀行神戸支店（現第一銀行・長野)・大阪府立貿易館建設 尼崎市制実施	
大正6 (1917)	「デ・ステイル」発刊・クラークのアムステルダムの集合住宅建設・この頃ピユーリズム運動起る ロシヤ二月・十月革命・ロシヤ社会主義共和国成る・フインランド独立・世界大戦に米国参戦・シユペングラーの「西洋の没落」(～22)・ダダ運動起る	金輸出禁止・日米協会創立・理化学研究所設立・高等教育機関整備・製鉄業奨励法・浅草オペラ始まる・活動写真取締規則・関東関西風水害 萩原朔太郎の「月に吠える」	衛生工業協会創立 東京日々新聞社・古河邸(コンドル)建設	関西建築協会創立（創立委員―片岡・池田・武田・波江・設楽)・渡辺節事務所開く・大阪三越新館・日本郵船大阪支店（曽禰中条)・旧京都市公会堂建設 兵庫電気鉄道(現山陽電鉄)兵庫明石間全通・風水害起る	3月海外より帰国 5月住友総本店に入社
大正7 (1918)	「ウエンデインヘン」発刊・ポークのハリディビル(総ガラス最初期)・米ウイルソン撓角撓度法発表・アブラムスの水セメント比説 第一次世界大戦終る・ドイツ革命起る・チエツコスロヴアキヤ・ユーゴスラビヤ・ハンガリー独立・露共産党成立	シベリヤ出兵・高等普通文官試験令公布・北大創立・東大に新人会・米騒動各地に起る 鈴木三重吉「赤い鳥」創刊・武者小路の「新しき村開拓」	内務省に都市計画調査委員会設置・国会議事堂建設の段取方針決定・国会議事堂コンペ実施・住宅改良会主催台所設計図コンペ・聖徳記念絵画館コンペ(一等小林正紹)・大正便所 東京海上ビル（曽禰中条）建設	大阪市中央公会堂（辰野片岡・コンペ岡田案)・旧十合呉服店(竹中)・日本郵船神戸支店（曽禰中条)・勧業銀行神戸支店・キリンビール尼崎工場建設 米騒動起る―神戸焼打事件・大阪工業試験所創立・大阪電気軌道の生駒山鋼索鉄道開業(日本初のケーブル)	聖徳記念絵画館記念建築物コンペ三等当選

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
大正8 (1919)	ワイマールバウハウス創立・「エスプリヌーボー」刊・タウトの「色彩建築への宣言」・タトリンの第三インターナショナル記念塔計画・ペルッイヒのベルリン大劇場改築 パリ平和会議・国際連盟成立・ベルサイユ条約・独ワイマール憲法発布・第三インターナショナル成立・ワシントンで第一回国際労働会議・バルトの「ロマ書」	朝鮮に独立運動起る・第一回コミンテルン大会・大日本国粋会創立・中国で排日運動起る・活版工大罷業―この頃より労働争議頻発す・度量衡及工業品規格統一委員会設置・東京大阪間航空便開始 野口英世南米で黄熱病原体発見・有島武郎の「或る女」・津田左右吉の「記紀の研究」・第一回帝展開く	市街地建築物法及都市計画法公布（翌年12月施工）・国会議事堂コンペ結果発表（一等渡辺福三）・日本土木建築請負業者連合会発足・建築学会に建築材料寸法統一調査委員会設置 如水会館・大同生命ビル建設	関西建築協会を日本建築協会と改称・大阪北港ＫＫ・関西土地ＫＫ・城北土地ＫＫ等土地住宅経営始む・大阪市長屋及共同宿泊所経営・大阪市民博物館・大阪大紙クラブ・三井物産神戸支店（河合）・三井銀行神戸支店・神戸海岸ビル・神戸山下汽船ビル（長野）・神戸十合ビル（片岡）建設 大阪幹線道路計画・神戸街路新設拡張・明石市制実施・阪神国道起工	
大正9 (1920)	モスクワで構成主義綜合展開く・オウトのロッテルダムテユッシエンデイケンの集合住宅建設・この頃マーレヴィッチ建築構成作成 大戦後の世界経済恐慌・世界経済会議・ジュネーヴに国際連盟第一回総会開く・米婦人参政権・この頃よりプロレタリヤ文学起る・ウエールズの「世界文化史大系」・米でラジオ実用化	経済恐慌・尼港事件起る・八幡製鉄・東京市電スト・日本で初めてメーデー行わる・第一回国勢調査・日本社会主義同盟結成・日英同盟廃棄・東京商大創立 高昌素之「資本論」完訳	「分離派建築会」（日本最初の建築運動）生まる（～30解散）・京大建築科設置・中村順平仏国立美術院入学（～23）・組立家屋輸入・レーモンド来日 明治神宮・東京朝日新聞社・中央気象台・日本工業クラブ会館（横河）建設・国会議事堂地鎮	雲中小学校（日本初の鉄筋校舎）・神戸川崎銀行本店（片岡）・神戸海洋気象台（渡辺節）・旧神戸取引所（原田正）・大阪税関・日本興業銀行大阪支店（長野）・中の島ビル・大阪角座（岡部）・大阪神田ビル（渡辺節）・大阪証券交換所ビル建設・ヴォーリス事務所開く 大阪市区改造計画・神戸海洋気象台設立・阪急電鉄神戸線及伊丹支線開通営業開始	
大正10 (1921)	ローエの鉄とガラスの摩天楼案発表・メンデルゾーンのアインシュタイン塔建設 ワシントン軍縮会議開く・中国共産党創立・レーニン新経済政策（ネップ）提案・オートマティズム起る・魯迅の「阿Q正伝」	米穀法・借地法・借家法・住宅組合法公布・原首相暗殺さる・学術研究会議設立・日本労働総同盟成立・美濃部博士「日本憲法」刊・度量衡法再改正（メートル法専用）・ＪＥＳ制定 倉田百三の「愛と認識との出発」・志賀直哉の「暗夜行路」（～1937）	第一生命・自由学園（ライト・遠藤新）建設・国技館再築	大阪貸家払底・住友本社工作部設立・大阪市役所（片岡）・大江ビル（大阪における貸オフィスビルの初め・葛西事務所）・神戸明海ビル（竹中）・野村北浜ビル（竹中）・北浜ビル（宗兵蔵）・大阪グラントパレス（設楽）・神戸市立図書館（竹中）建設 大阪・京都街路新設拡張・神戸三菱及川崎で3.5万人の大争議	5月住友合資会社技師に命ぜらる
大正11 (1922)	シカゴトリビユーン社屋コンペ・ローエの大事務所計画案・コルビユジエのパリ300万人の都市計画案発表 伊ムツソリーニのフアツシヨ内閣成立・ワシントン条約調印・九カ国・四カ国条約・希土戦争・ジヨイスの「ユリシーズ」・デユガールの「チボー家の人々」（～39）	第一次日本共産党組織・南洋庁発足・大日本青年団創立・健康保健法公布・土木試験所創立	平和記念博開く（分離派大活躍）・朝鮮建築会創立・内藤博士「架構建築耐震構造論」発表（～23） 三菱銀行（桜井小太郎）・東京自治会館（曽禰中条）・ライトの帝国ホテル・東大工学部新館（内田祥三）建設	建築協会大阪桜ケ丘住宅改良大博覧会開催（日本住宅展の嚆矢）・大阪毎日新聞社（片岡）・旧大阪高島屋（岡田信一郎）・京都大丸一期・大阪銀行集会所（片岡）・日本海上保険（横浜）・大阪日本信託銀行（渡辺節）・神戸の大阪商船ビル（渡辺節）・兵庫県会議事堂建設・神戸高工設立 この頃阪急・阪神・南海沿線分譲住宅地開発・大阪及神戸都市計画区域決定・京都防火地区指定・岸和田市制実施	日本建築協会理事となる・9月住友ビル建築用務のため欧米に出張

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
大正12 (1923)	コルビュジエ「新建築へ」発刊・ソ連労働宮コンペ・ローエの田園住宅試案発表・ペレーのランシーのノートルダム・ヘーゲルのチリー館・メンデルゾーンの製帽工場建設・イエナの工場内建物に鉄筋コンクリートシャーレ試作 ソビエト社会主義共和国成立・トルコ共和国宣言・国際ペンクラブ設立・リルケの「ドウイノの悲歌」・カツシラーの「象徴形式の哲学一巻」・第一回トリエンナーレ展開く	マルキシズム流行し始む・大杉栄殺さる・虎の門大逆事件・第一次共産党検挙・関東大震災 有島武郎自殺・横山大観の「生々流転」・「文芸春秋」創刊	関東大震災→耐震耐火構造大々的に討議始まる・「創宇社」結成・帝都復興院設置・復興建築助成ＫＫ（耐震耐火建築促進の民間建築金融会社）設立 丸ビル（三菱地所・フーラー会社施工）・郵船ビル（曽禰中条）・永楽ビル・日本興業銀行ビル建設	大阪府庁舎コンペ（一位平林岡本）・神戸市公会堂第一回コンペ（前田岡田）・大阪堂島ビル（竹中）・大阪三品取引所・旧山口ビル（三和ビル・片岡）・大阪松竹座（大林）・神戸栄光教会（難波停吉）・大阪ランバス女学院及大阪女子キリスト教会館（ヴォーリス）・甲南高校（宗）建設・竹中神戸より大阪に本店を移す 大阪・神戸防火地区指定・堺市都市計画発足	11月欧米より帰国
大正13 (1924)	マイヤールのテッシンの倉庫（無梁版）・ベーレンスのヘーヒスト化学工場・リートフエルトのユトレヒトの住宅・オウトのヘークの集合住宅建設・リシッキーの高層建築計画・米デービスクリープ研究をコンクリートに応用 列国ソ連を承認・孫文の三民主義・ブルトンのシュールレアリスム・トーマス・マンの「魔の山」	米国排日移民法実施・小作調停法公布・政友会分裂・政友本党結成・メートル法による度量衡法施行・東京地下鉄道認可 小山内薫ら築地小劇場創設	同潤会（震災地住宅建設）設立・土木建築材料一部規格統一・ 歌舞伎座（岡田信一郎）・明治神宮外苑競技場・丸の内ホテル（小笹徳蔵）建設	甲子園球場（大林）・宝塚大劇場（竹中）・大阪野村銀行（片岡）・大阪クラブ（安井）・明治屋大阪支店（曽禰中条）・京都銀行集会所（武田）・京都大丸二期（ヴォーリス）建設・神戸オリエンタルホテル復興・大阪淀屋橋及大江橋設計コンペ・安井武男及小笠原事務所開く 大阪下水道改良	
大正14 (1925)	デッサウバウハウス設立・グロピウス「国際建築論」発表・ブロイヤーのパイプ椅子考案・パリ国際工芸美術博開く・コルビュジエのパリのプラン・ボアザン発表・ベルリンの「ウンテル・デン・リンデン」コンペ（一等エーステレン）・ペレーのモントマニー聖テレーズ・フランクフルトアムマインの大規模住宅（～28）建設 ロカルノ安全保障会議・独に新郎物主義起る・トーキー発明・英で実用的テレビ発明・ライカカメラ出現・ハイゼルベルグ量子力学創始・ショーロホフの「静かなるドン」	普通選挙法・治安維持法・日本プロレタリヤ文芸同盟結成・日ソ国交回復・総同盟分裂・農林省・商工省設置・京大学生事件・工業組合法・東京放送局開設・国際学術会議を日本で開く・商工省工業品の標準寸法及工業品に用いる等比標準数告示・地震研究所創立・東京国鉄山手線（環状線）完成 パリ国際工芸美術博に日本出品好評	「新建築」創刊・大蔵省に営繕管財局設置・国会仮議事堂二度目の焼失・再築・東京防火地区指定 東京中電（山田守）・東京中央放送局（内藤多仲・木子七郎）・東大安田講堂（内田・岸田）・新橋演舞場（菅原栄蔵）・帝大キリスト教会館（遠藤新）建設・長崎浦上天主堂完成	大阪ビル（渡辺節）・大同生命ビル（ヴォーリス）・大平ビル（吉武長一）・大阪商工会議所（片岡）・大阪市民病院・大阪産業奨励館・京大本館（武田）・京大楽友会館（森田慶一）・京都都ホテル（片岡）・三菱銀行京都支店（桜井小太郎）・明治銀行京都支店（鈴木禎次）・川西神戸倉庫（渡辺節）・三菱神戸倉庫（竹中）・神戸税関港湾部綜合庁舎建設 神戸摩耶ケーブル完成・新京阪鉄道開業・西宮市制実施	

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
大正15 昭和1 (1926)	メンデルゾーンの「アメリカ」・ベーネの「近代目的建築」発刊・独のジードルンク建設盛ん・タウトのベルリンジードルンク・モザーの聖アントニウス教会・テンボムのストックホルム音楽堂建設 英総同盟ゼネスト決定・独の国連加入・シユレーデインガーの波動力学	労働争議調停法公布・労働農民党・社会民衆党結成・京大事件起る・第二次日本共産党創立・左翼思想高まる・日本放送協会成立・円本や円タク流行し始む・東京で第三回汎太平洋学術会議開く・大正天皇崩御・ネオン現る・商工省圧延鋼規格公布	東京府美術館(岡田信一郎)・明治神宮外苑絵画館(高橋貞太郎)・青山アパート(同潤会)・東京電力鶴見火力発電所建設	日本建築協会の社団法人化・大阪電気博(武田・松室設計)開く・大阪野村証券(安井)・大阪江商ビル(設楽)・大阪朝日会館・日本勧業銀行大阪支店(渡辺節)・大阪住友ビル一期・大阪京阪ビル(渡辺節)・大軌百貨店（大林)・宝塚ホテル（古塚)・日銀神戸支店(長野)・日本レーヨン宇治工場建設 甲子園花苑都市計画——阪神電鉄甲子園線開業・京都土地区画整理・阪神国道(巾15間)開通	5月住友合資会社工作課長に命ぜらる
昭和2 (1927)	ジュネーヴ国際連盟会館コンペ・ストットガルトワイセンホフジードルンク建設・ヒルベルザイマーの「大都市建築」刊・フラーの工場生産住宅・ノイトラの健康住宅・アアルトのヴイプリ図書館（～34)・アスプルンドのストックホルム市図書館建設 蔣介石の南京国民政府統一・ジユネーヴの軍縮会議・リンドバーグ大西洋無着陸横断・ハイデツガーの「存在と時間」	南京事件起る・コミンテルン27年テーゼ・立憲民政党結成・東京地下鉄浅草上野間開通・第一次山東出兵 岩波文庫発刊・芥川竜之介自殺	「日本インターナショナル建築会」誕生・「国際建築」「日本建築士」創刊・不良住宅地区改良法公布 東京朝日新聞社(石本喜久治)・東京三越(横河工務所)・早大大隈講堂・代官山アパート・大倉集古館（伊東忠太)建設	「日本インターナショナル建築会」（伊藤・本田・本野・中尾・中西・新名・竹内・上野）関西で生まる・大阪府庁・京都府庁・大阪中央電信局・阪大医学部・第一銀行大阪支店・大同病院(竹中)・高麗橋野村ビル（安井)・京都中央卸売市場・神戸大丸(竹中)・神戸三越（横河工務所)・朝日ビ－ル西宮工場・旭硝子尼崎工場・神戸三宮郵便局・神戸税関・神戸生糸検査所・京都先斗町歌舞練場(大林)建設・大阪市美術館着工(～36) 奥丹後地方強震・経済恐慌・阪神国道電車開通・省線吹田須磨間電化・神戸移民収容所開設	11月京都大学建築学科で特別講義として銀行建築講義を委嘱さる
昭和3 (1928)	ＣＩＡＭ創立(スイスのラ・サラ)・グロピウス「住宅工業」発表・フレッシネのプレストレストコンクリ－ト発明・メンデルゾ－ンのショッケンデパ－ト・コルビュジエのサヴォイ邸・ヤンウィルスのアムステルダムオリンピック競技場建設 ソ連第一次五カ年計画開始・伊フアシスト独裁法案成立・英フレミングのペニシリン発明・パリ不戦条約調印	「赤旗」発刊・３・15事件・張作霖爆死・第一回普通選挙実施・治安維持法改悪・特高設置・済南事件起る・日ソ漁業条約調印・大礼を記念して名古屋・京都・仙台・岡山・高松・大阪・甲子園・神戸に博覧会開く プロ文学隆盛・商工省工芸指導所仙台に設立(産業工芸試験所ＩＡＩの前身)	前川国男コルビユジエのもとへ・パリに日本学生寄宿舎(城閣様式)建つ 学士会館・神奈川県庁・横浜駅・白木屋一期（石本)・資生堂（前田健次郎)建設	大阪天守閣再建始まる・泉布観復旧・京都ホテル(清水)・京都大丸三期(ヴォーリス)・大阪北野病院(森田慶一)・大阪鉄道病院（久野)・神戸ユニオン教会(ヴォーリス)・神戸移民斡旋所・日本勧銀京都支店及神戸支店(渡辺節)・大阪鮮満案内所（安井)・藤井寺野球場・大阪鉄道局庁舎建設 この頃より塩屋ジエームス山開拓・神戸有馬電鉄開業・大阪駅前大広場計画開工	住友銀行名古屋支店

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和4 (1929)	第二回CIAM（フランクフルト・最小限住居）・ヴァルセロナ国際博(ローエの独パヴィリオン)・ニューヨーク近代美術館設立・コルビュジエのアルジエ計画(〜34)・アアルトのパイミオサナトリウム(〜33)・フルークトとブリクマンのフアンネルレ工場・シチューゼフのレーニン廊建設 世界大恐慌(〜32)・スターリン政権確立・独ツエツペリン号世界一周	4・16共産党大検挙・拓務省設置・日華関税条約・山本宣治暗殺・歴史家トインビー来日・万国工業会議東京で開く・朝日文化章制定 小林多喜二の「蟹工船」・島崎藤村の「夜明け前」(〜35)	国宝保存法公布・台湾建築会創立・鉄筋コンクリート標準仕様書発表・「建築工学ポケットブック」刊行・「国際建築」コルビュジエ特集・名古屋市庁舎コンペ（一位平林金吾）・ ニコライ堂再建(岡田信一郎)・東京三越増築始む・上野松坂屋・三井本館・日比谷公会堂(佐藤功一)建設	大阪阪急ビル一期(竹中)・日赤大阪支部病院・大阪文楽座（橋本組)・花園ラグビー競技場(中尾保)・大阪モリビル(片岡・石本)・京都中央電話局・京都南座・曽根崎警察署・西宮関西学院(ヴォーリス)・神戸商工会議所（古宇田実)・神戸モダン寺(葛西)・神戸ダンロップゴム工場(レーモンド)・神戸摩耶クラブ(大林)建設・大阪市営アパート建設・村野藤吾事務所開く 新御堂筋計画(24間巾)工事・表六甲ドライヴウエー完成	住友倉庫築港埠頭事務所・住友銀行人形町支店・住友電線工場
昭和5 (1930)	第三回CIAM（ブラッセル・合理的敷地割)・ストックホルム博開く・コルビュジエ「輝く都市」試案・ソ連ウクライナ劇場コンペ・英テクトングループ結成・伊MIAR結成・ローエのテユゲントハットハウス・アレンのクライスラービル・コルビュジエのスイス学生会館建設 ソ連モダニズム批判起る・ロンドン軍縮会議開く・独ナチス党勢力を得・ガンジー反英運動・米サイクロトロン考案	農村危機・不況深刻・多数失業・金輸出解禁・浜口首相狙撃さる・清水トンネル開通・東海道線に特急つばめ運転・ 日本初のアンデパンダン展開く・倉敷の大原美術館開設	「新興建築家連盟」結成・原沢東吾「唯物史観建築史の必要と建築の本質について」発表・帝都復興記念展・ウクライナ劇場コンペ川喜多煉七郎入選・日本生命館コンペ(特選高橋貞太郎)・小野薫「架構力学」発刊 東京海上ビル新館(曽禰中条)・東京日本橋野村ビル(安井武雄)・名古屋市公会堂・東劇・震災記念堂・日本勧業銀行本店建設	甲子園ホテル(遠藤新)・キリンビール神崎工場(曽禰中条)・京大阿武山地震及東山天体観測所・大阪桃山病院一期・住友ビル二期・南海ビル一期(久野〜32)・大阪市中央市場・帝塚山高女(岡部)・東洋紡本社・日本生命一号館(片岡・石本)・神戸松竹座(古宇田)・大阪中央電気クラブ(葛野)・南大阪教会(村野)・西宮辰馬酒醸工場建設・大阪市不良住宅アパート建設・京都美術館コンペ(一等前田健二郎) 経済界不況・大阪地下鉄着工	住友ビル本社・住友倉庫東京越前堀倉庫・住友製銅所工場
昭和6 (1931)	モスクワのソヴエトパレスコンペ(一位ヨーファン)・英MARS組織・米エンパイヤステートビル・デユドックのヒルベルスムの市庁舎建設・フッドのロックフエラーセンター建設開始（〜35） 世界経済恐慌拡大深化・ロンドン条約調印・スペイン革命・米フーヴアのモラトリアム提唱・米カローザスの合成ゴム発明・太平洋無着陸横断飛行	満洲事変勃発・金輸出再禁止・重要産業統制令公布・日本農民党・全国労働大衆党結成・血盟団・愛郷塾結成・プロレタリア文化連盟成立・大阪大学創立・マルロー来日 日本映画トーキー化・永井荷風「つゆのあとさき」	軍人会館コンペ・東京帝室博物館コンペ（一位渡辺仁)・「アイシーオール」発刊・坂倉準三コルビュジエのもとへ・「デザム」結成 白木屋二期(石本)・東京科学博物館・警視庁・虎屋(岡田信一郎)・靖国神社遊就館(伊東)・帝人岩国工場・倉敷レーヨン倉敷工場 ・ 森五商店東京支店(村野)・浅草松屋建設	大阪朝日ビル(石川純一郎)・大阪阪急ビル二期(竹中)・大阪大丸一期(ヴォーリス)・京都市公会堂・大阪日本綿業会館（渡辺節)・大阪桃山病院二期・姫路公会堂(置塩章)・兵庫県産業奨励館・神戸新生田川不良住宅改良アパート(〜34)・新神戸駅・野田醤油関西工場建設・大阪城天守閣復興完成	10月住友合資会社建築課長に命ぜらる 住友銀行横浜支店・住友伸銅管工場・満州住友館大博覧会

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰建造
昭和7 (1932)	バウハウス閉鎖・ローエらベルリン私立バウハウス開くが直ぐ閉鎖・ニューヨークで近代国際建築展開く・アアルト合板家具考案・ライトのタリアスン工房・スイスのヴェルクブントジードルンク「ノイビユール」・レスケーズのフイラデルフイヤ貯蓄銀行・マルケリウスのヘルシンクボルクの音楽堂建設 独ナチス第一党となる・米の広告業発達・国連一般軍縮会議・ローザンヌ賠償会議	上海事変・満洲国建国・5・15事件起る・共産党32年テーゼ・唯物論研究会設立・日本学術振興会創立・国民精神文化研究所創立・救護法・大東京生まる	「日本青年建築家連盟」（JAF）結成・新興ドイツ建築工芸展・イタリヤ美術展開催・「デザム」刊・最小限住宅研究活発・東京第一生命相互本社コンペ(一位渡辺仁)・日本橋白木屋百貨店火災 服部時計店(渡辺仁)・聖ロカ病院（レーモンド）・日本銀行新館・大倉精神文化研究所(長野宇平治)	大阪日本放送協会局舎コンペ(一位渡辺仁)・大阪駅及同構内高架線・大阪歌舞伎座・大阪南海ビル二期(久野)・大阪日本綿業会館(渡辺節)・大阪阪急ビル三期（竹中）・大阪パンション(村野)・大阪公楽座及キネマパレス(池田事務所)・京都洛東アパート(土浦稲城)・神戸中央卸売市場・神戸市民運動場・神戸キリスト教会堂(原科)・西宮カトリック教会(梅木省三)・神戸ゴルフクラブ(ヴォーリス)・国立生糸検査所(置塩)・神戸光徳寺(大林)・山陽中央火力飾磨発電所(竹中)建設・大美野田園都市住宅展 六甲ケーブル完成	住友分家邸
昭和8 (1933)	第四回CIAM（アテネ・アテネ憲章）・米TVA発足・シカゴ世紀博・独近代建築家達亡命・サンフランシスコ金門橋建設 独ヒツトラー独裁内閣・ナチスの焚書事件・ロンドン世界経済会議・米ソ国交回復・日独国際連盟脱退・米ニューデール政策	日本国際連盟脱退・京大滝川事件起る・神兵隊事件・佐野と鍋山転向声明・小林多喜二殺さる・大山郁夫夫妻渡米・丹那トンネル開通・宇部第二発電所建設・商工省メートル法実施延期	ブルーノ・タウト来日・「青年建築家クラブ」結成・建築学会鉄筋コンクリート構造計算規準発表・建築材料研究所創立・東大で第一回木造家屋火災実験・デザム解散・日本インターナショナル建築会運動停止 東京ゴルフクラブ(レーモンド)・日劇(渡辺仁)・東京宝塚劇場(竹中)・文部省・内務省・伊勢丹新宿支店・名古屋市役所・東京府中競馬場・東京住友ビル・日本生命館建設・同潤会の産業労働者住宅建設始む	大阪市シビックセンターコンペ・大阪大丸二期(ヴォーリス)・神戸女学院(ヴォーリス)・京都市美術館(前田)・大阪ガスビル(安井)・大阪三井ビル（高橋貞太郎)・大劇（八木工務店)・日赤大阪支部病院・大阪伊藤万ビル(小笠原)・神戸阪神ビル（久野)・神戸十合百貨店・御影公会堂(清水栄二)・兵庫県警察本部・大阪九条電灯営業所・大阪乃根山療養所・大阪淀屋橋建設 大阪地下鉄完成(梅田心斎橋間)・神戸第一回みなと祭行う・城東線電化	5月住友合資会社工作部解散のため退職し株式会社長谷部竹腰建築事務所を設立・ 神戸岡崎ビル(神戸銀本店)・東京住友ビル・ 大阪市長より土木部臨時ホテル建築事務所副主幹を係嘱され新大阪ホテル設計監督に従事 新大阪ホテル装飾
昭和9 (1934)	ライトの最初のユソニアンハウス・テクトンのロンドン動物園ペンギンプール・マイヤールのトエス橋(独特のスラブ構造)・フリユーゲ「曲面板の力学」・チモシエンコ"弾性体の力学」刊・ ヒツトラー首相と総統兼任・独ルカスの電子顕微鏡発明・ジヨリオ夫妻の人工放射能発見・露ルイセンコのメンデル遺伝学説挑戦	満洲国帝政を敷く・ワシントン条約廃棄・帝人疑獄発覚・プロレタリヤ作家同盟解散・陸軍省「国防の本義とその強化」発表・通商擁護法・社会事業研究所・日本製鉄会社設立・函館市大火	東京市庁舎コンペ(一等宮地二郎)・この頃日本建築再発見高まる・法隆寺国宝保存昭和大修理始まる 築地本願寺(伊東忠太)・軍人会館（伊東・川元)・日本歯科医専(山口文象)・同潤会江戸川アパート・東京中郵(吉田鉄郎）建設	新大阪ホテル・鳴尾競馬場・京都ドイツ文化研究所(村野)・日赤京都支部病院(武田)・大阪大丸三期(ヴォーリス)・神戸白鶴美術館(竹中)・甲南病院（木下事務所)・神戸株式取引所(渡辺節)・神戸聚楽館（木村組)・琵琶湖ホテル(岡田)・甲子園運動施設・尼崎関西共同火力発電所(横河工務所)建設・大阪左官組合結成 関西室戸台風風水害	東京手形交換所設計競技に当選し設計監理委嘱さる 神戸住友ビル・株式会社辻久商店・福岡住友ビル・新大阪ホテル・住友銀行福岡支店

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和10 (1935)	ロックフエラーセンター完成・テクトンのハイポント集合住宅一号・ノイトラの円型校舎建設・ブラジル教育保健省舎コンペ（36～42建設） 独再軍備宣言・伊エチオピヤ出兵・ロンドン軍縮会議開く・独ユダヤ市民権剝奪・コミンテルン世界大会・ソ連ステハノフ運動・フイリピン共和国創立・独仏独自にズルフオンアミド剤創製・高層気象観測にラジオゾンデ実用化	美濃部達吉の天皇機関説問題・全日本労働総同盟成立・「赤旗」終刊・政府国体明徴声明・軍需工業勃興・この頃日本製品の外国市場進出著し・日ソ北鉄譲渡協定成立 湯川博士の中間子概念成立・日本ペンクラブ創立・第一回芥川賞・映画主要作品殆んどトーキー化	前川国男本郷森永に乾式構造を試みる・熔接構造物標準示方書出る・建築統計調査開始 宮内省・府中刑務所建設・東京三越増築完成	大阪教育塔コンペ(一位島川精)・京都朝日会館(石川純一郎)・大阪十合百貨店(村野)・国鉄奈良駅本屋(柴田四郎)・京都宝塚劇場(竹中)・丸紅大阪支店（岩本基)・京都藤井大丸(上田工務店)・京都大丸四期・帝塚山学院(岡部事務所)・大阪府産業会館・神戸回教寺院（スワガー事務所)・神戸海員会館・神戸川崎病院(木下事務所)・東京銀行神戸支店(旧横浜正金銀行)・神戸武藤記念館建設・宝塚大劇場復旧(竹中)・大阪明治天皇記念館建設 大阪地下鉄心斉橋難波間完成	1月大阪市長より新大阪ホテル新築工事の功績により表彰さる 住友銀行熊本支店・竹中商店・東京山崎商店・四国中央電力発電所・住宅甲子園寮・大阪株式取引所竣工
昭和11 (1936)	ライトの落水荘・ブロイヤーとヨークのブリストルの展示住宅・マイヤールのアルヴエ橋建設・スイス第一回木材会議に木構造特にヂベル接合・膠着接合注目さる・ノイフエルトの「建築設計資料集成」刊 独ロカルノ条約廃棄宣言・ラインランド進駐・伊エチオピヤ占領・スペイン内乱・仏人民戦線成立・ベルリンオリンピツク開く・英で初のテレビ放送・デリンジヤー現象発見	2・26事件起る・日本ロンドン軍縮会議脱退・日独防共協定調印・中国の抗日人民戦線成る・国策会社続出・国家独占資本主義体制強化・同盟通信社創立 仁科芳雄の理研サイクロトロン建設	国会議事堂竣工・「日本工作文化連盟」発足 満鉄東京支社ビル(安井)・野々宮アパート(土浦亀城)・山中観光ホテル（大林)・名古屋観光ホテル・海軍兵学校教育参考館（山下寿郎）建設	大阪中央放送局(渡辺仁)・大阪阪急ビル四期(竹中)・大阪教育塔・大阪博愛社礼拝堂（ヴォーリス)・京都丸物百貨店（渡辺節)・大阪共同ビル（曽禰中条)・三井銀行大阪支店(同)・関西日仏会館(木子七郎)・大阪市立美術館・神戸阪急会館（阿部美樹志)・京都都ホテル（村野)・神戸大丸増築(村野)・西宮野球場(中尾事務所)・神戸市勧業館建設・神戸市公会堂第二回コンペ(一位武田健三) 阪神電鉄神戸三宮元町地下線開通・阪急電鉄三宮乗入・豊中市制実施	住友銀行和歌山支店・西宮浜脇小学校・鐘紡丸子工場・輝く日本博住友館・大阪株式取引所事務所・西宮市小学校・住友製鋼各工場
昭和12 (1937)	第五回ＣＩＡＭ(パリ・家と余暇)・パリ万国博開く・ライトのジョンソンワックス会社ビル建設・第一回ソ連建築家大会開く 伊国連脱退・アイルランド独立・オパーリン「生命の起源」出版・ピカソの「ゲルニカ」発表	日支事変起る・防空法・銅使用制限・企画院・大本営設置・日独伊三国防共協定・「国体の本義」文部省より刊・教育審議会・帝国芸術院創設・人民戦線関係者検挙・国民精神総動員中央連盟結成・諸物資配給統制次第に強化・労働組合の禁止再編転向続出・重要工業動員法・文化勲章制定 朝日新聞神風機訪欧飛行	日本様式の建国記念館コンペ・名古屋汎太平洋平和博開く・基礎潜函工法普及・振動打ちコンクリート工法実用化・国産網入ガラス実用化・新鋼木構造研究・鉄鋼工作物築造許可規則公布 東京帝室博物館(渡辺仁)・東京逓信病院(山田守)・宇部市民館(村野)・慶応幼稚舎(谷口吉郎)・若狭邸(堀口捨己)・名古屋駅・浅草国際劇場・後楽園球場・パリ博日本館(坂倉準三)建設	大阪電気科学館(和田順顕)・京都電灯会社（武田)・北野劇場(竹中)・大阪警察病院（木子七郎)・叡山ホテル（村野)・神戸松竹劇場・堺脳病院(清水)・大阪軍人会館・神戸日毛ビル(竹中)・神戸ガスビル（渡辺）建設 大阪神戸間国鉄復々線開通・吹田京都間電化・京都明石間電車・彦根及布施市制実施	日本建築協会副会長となる 東京手形交換所完成・堺市立水族館・大阪宇治電ビル・住友ビル御堂筋分館・京都住友ビル・神戸大同貿易・新居浜住友クラブ・大阪薬剤師会館・東京神学校・神戸海上火災保険事務所

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和13 (1938)	ナギーのシカゴ新バウハウス設立・間接照明起る・米実用的螢光灯発表・ネルヴィのローマの格納庫・アアルトの住宅マイレア・テクトンのフインスベリーヘルスセンター建設 独墺合併・ミュンヘン協定・米カロザースの合成繊維ナイロン発明・独ウラニウム原子核分裂発見・サルトルの「嘔土」	国家総動員法公布・メーデー禁止・興亜院・東亜研究所・厚生省・日独文化協会設立・武漢三鎮占領・東亜新秩序建設声明・国民徴用令・学徒動労動員始まり・岡田嘉子越境入ソ・張鼓峰事件起る・航空局設置 文部省美術展覧会(文展)始まる	古典様式や記念性の問題論議盛ん・偽装耐爆構造研究開始・大連市公会堂コンペ（一位前川国男） 東京女子大チャペル(レーモンド)・強羅ホテル(土浦亀城)・第一生命相互ビル(渡辺仁)・鉄道省庁舎・放送会館・第一ホテル・愛知県庁舎・金沢白雲楼(大林)・東京府立第10高女（木造ヂベル構造の先駆）建設	京都競馬場(安井)・堺市民病院(中尾保)・和歌山県庁舎・大阪合同運送ＫＫ(竹中)・神戸池長美術館(神戸市美術館)・岩城ガラス大阪支店(高橋栄治)建設 大阪駅前区画整理による土地使用区域指定・大阪地下鉄難波天王寺間開通・南海鉄道難波天下茶屋間高架複々線開通・神戸大風水害	旧丸紅商店京都支店・ 旧大阪共同信託
昭和14 (1939)	ニューヨーク世界博開く・コルビュジエの螺旋形美術館提案・フエダーの「新都市」・メンデルゾーンのハイフア国立病院建設・米フーバーダム建設 第二次世界大戦勃発(英仏対独)・独ソ不可侵条約・国連ソ連除名・独チエツコ合併・独ソポーランド分割	ノモンハン事件・日米通商条約破棄・物価統制令・東大河合・土方両教授休職問題・軍機保護法強化・第二次欧洲大戦不介入声明・メートル法実施再延期・用材生産統制規則 毎日新聞ニツポン機世界一周	防空建築規則・木造建築規則・住宅問題研究論策活発化・ＰＳコンクリート紹介・熔接・無筋・竹筋コンクリート研究・大日本忠霊塔コンペ・都市の防火試験 大島測候所(堀口捨己)・ニューヨーク博茶室(山脇巌)	大阪中郵(吉田鉄郎)・滋賀県庁舎(佐藤功一)・神港ビル（木下事務所）・神戸海洋気象台改築(堀口捨巳)・神戸三越増築（横河）建設 池田市制実施	吹田日債寮・ 大阪日生保険本社
昭和15 (1940)	アスプルンドのストックホルム火葬場建設・ローエのイリノイエ大学舎全体計画始まる・プレキヤストコンクリート始まる・米ミシガン大のブロック「リミットデザインの理論」発表 フランス独に降伏・イタリヤ参戦・独空軍の英本国爆撃・トロツキー暗殺・この頃より電探やレーダー実用化	紀元二千六百年式典挙行・大政翼賛会発足・内閣情報局設置・労働総同盟・労働組合会議・政友会・民政党・社会大衆党等解散・生活必需品統制・奢侈品制限・津田左右吉及岩波茂雄起訴さる テレビ実験放送に成功	住宅営団発足(同潤会吸収)・建築資材統制・建築新体制促進同志会結成・「国際建築」誌休刊・木構造・大スパン構造・工場遮光・換気等の研究盛ん	橿原神宮外苑・橿原道場完成・橿原神宮前駅(村野)・新大阪駅・大阪北市民病院・生駒山航空道場(石川純一郎)建設・四天王寺五重塔落成 大阪駅前地下道完成・南海電鉄と阪和電鉄合併・吹田・洲本・芦屋・伊丹市制実施	（有限会社土地建物双星社設立） 旧共同信託福岡支店・ 京都陽明文庫・ 東京淡成寮・ 甲子園住友謙和寮
昭和16 (1941)	仏ＡＳＣＯＲＡＬ結成・ギーデイオンの「空間・時間・建築」発行・ブリグマンの礼拝堂建設 独伊対米宣戦・独ソ開戦・英ソ軍事同盟・太平洋戦争始まる・米ペニシリンやDDT等実用化と大量生産	東条内閣出現・日本対米英蘭と宣戦・日ソ不可侵条約成立・総動員法発動・重要物資統制令公布・国民学校令実施・国防保安令公布・科学技術新体制確立・重要産業団体令・ゾルゲ事件・言論出版臨時取締法・関門海底トンネル開通	学会・協会・士会・業協会四会連合で新体制協議会設置・学会鉄骨構造計算規準及建築偽装指針発表・木材統制規則 岸記念体育館(丹下健三)・山口画伯邸(吉田五十八)建設	石原産業海運ＫＫ(村野)・武田薬品十三工場・宇治山田神宮皇学館・大阪興亜訓練道場建設 大阪電気鉄道と参宮急行電鉄合併し関西急行鉄道となる・神戸移民収容所閉鎖	住友某氏邸・ 兵庫県K工場工員寄宿舎・ 富士航空計器事務所（現キヤノンカメラ）
昭和17 (1942)	コスタとニーマイヤーのブラジル教育保健省舎(36～)建設・ローマ博開く 26カ国反枢軸共同宣言・独ソスターリングラド争奪戦・シカゴ大学原子炉でウラン分裂連鎖反応成功	日独伊新軍事協定・大東亜省新設・企業整備会公布・日本文学報国会・大日本言論報告会創立・産業新体制確立・翼賛政治発動・本土(東京・名古屋・神戸等)初空襲を受く・ミッドウエー沖海戦・技術院創設	大東亜建設記念造営計画コンペ(一位丹下)・レオナルドダヴィンチ展(構成坂倉)開く・国民住宅コンペ・近代主義建築の屈服・西山卯三「食寝分離論」発表・学会「建築設計資料集成一巻」刊	この頃より学会と協会の合併問題起る(～45)・住宅営団労務者住宅各地に建設・大阪絹人絹会館(渡辺節)・甲子園竹友寮（竹中）建設 神戸初空襲を受く・ 泉大津・相生市制実施	

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰建造
昭和18 (1943)	ローエのイリノイ工大学舎建設・ライトのグッゲンハイム美術館計画 カイロ会談・テヘラン会談・コミンテルン解散・ガンジー断食・イタリヤ降伏	大東亜共同宣言・日独伊経済協定・労務報告会結成・軍需・運輸通商・農省設置・学徒出陣・ジャズレコード禁止・アツツ島守備隊全滅・日本ガダルカナルより後退・東京都制施行	日泰文化会館コンペ(一位丹下)・土木建築業統制整備要綱・工作物築造統制規則・市街地建築物法一部規定停止・法隆寺解体に着手	川西航空甲南工場(竹中)建設 高槻・貝塚市制実施・関西急行鉄道と大阪鉄道合併・阪急電鉄と京阪電鉄合併(京阪神急行)	12月23日新作能「世阿弥」自作自演於京都金剛舞台
昭和19 (1944)	ケペッシュ「視覚言語」発刊 米SID・英COID結成・独ロケット機V1・2号出現・米ストレプトマイシン発見	決戦非常措置実施・国民登録令公布・疎開命令施行・緊急国民勤労動員・国民総決起運動・サイパン失陥・B29による本土空襲本格化・特攻隊・レイテ決戦	建築設計監理統制規則廃止・土建統制組合創立・破壊消防・地下工場の建設や研究開始	南海鉄道と関西急行鉄道合併し近畿日本鉄道設立・米の空襲激化	11月KK住友本社に入社し参事に命ぜられ・長谷部竹腰建築事務所を住友土地工務KKと合併し・同社専務取締役に就任
昭和20 (1945)	グロピウスコミユニテイ再建を唱える・コルビユジエのサンデイエ復興計画案発表 ヤルタ会談・ポツダム宣言・ドイツ降伏・米原爆創製と投下・日本降伏・国共内戦始まる・国際連合成立・世界労連結成・ユネスコ創設	沖縄決戦・広島と長崎原爆投下・ソ連宣戦・日本降伏・マッカーサー日本管理・GHQ日本民主化改革指示・治安維持法廃止・政治犯人釈放・財閥解体指令・日本社会党再建・日本自由党・日本進歩党・日本協同党結成・日本共産党再建・枕崎と阿久根台風	戦時建設団令・工作物築造統制規則廃止・住宅緊急措置令・戦災復興院設置・戦災都市復興計画・学会の戦後都市計画及住宅対策建議・住宅営団の6.25坪越冬住宅大量建設・「国土会」結成	日本建設産業KK設立 神戸駅待合室で無宿戦災者大会開く	12月住友土地工務KK改組し日本建設産業KK設立し取締役社長に就任
昭和21 (1946)	グロピウスTAC組織・コツホの組立住宅エイコーン・国連本部建築計画案発表・マルケリウスの郊外住宅建設 国連及ユネスコ第一回総会・フイリピン共和国独立・米ビキニ原爆実験・ホーチミンと仏軍衝突・ニユールンベルグ国際裁判判決・レマルクの「凱旋門」	天皇人間宣言・日本国憲法公布・六三制教育体制・民主々義科学者協会設立・婦人参政初の総選挙・インフレ昂騰・預金封鎖・物価統制令・物価庁・経済安定本部設置・余裕住宅解放措置・地代家賃統制令公布・食糧メーデー（米よこせ運動）・農地改革実施・極東軍事裁判開廷・公職適否審査委員会設置・軍国主義指導者の公職追放・当用漢字制定・新かなづかい決定・リーダースダイジエスト売出す・西日本台風・労働基準法・児童福祉法公布 日本美術展覧会(日展)開く	建築民主団体簇生（日本建築文化連盟・住文化協会・住宅生産同学会・日本民主建築会・都市計画懇話会・工場生産住宅協会等）・全日本建築民主協議会設立・住宅復興会議創立・全国セメント労連結成・住宅営団閉鎖・都市計画協会発足・東京都市計画コンペ・復興院第二技研(建研)開設・臨時建築制限令・「新建築」復刊・「建築文化」創刊・復興院の不燃化提唱	天王寺に復興住宅展開く・神戸高砂倉庫建設・神戸駐留軍六甲ハイツ着工・関西建築文化連盟生まる 第一回国民体育大会を京都を中心として開く・ 守口市制実施	8月日本建築協会会長に就任・大阪市復興委員会委員に命ぜらる 11月30日新作能「恋塚」自作自演於京都金剛舞台

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和22 (1947)	第六回ＣＩＡＭ（ブリッジウォーター・ヨーロッパ復興）・ヨーロッパ復興会議パリで開く・アアルトのＭＩＴ寄宿舎建設・コルビュジエのマルセイユアパート着工（〜52） インド独立・米マーシャルプラン発表・コミンフオルム結成・米タフトハートレー法可決・中共の国府総攻撃・カミユの「ペスト」	全官公労組2・1ゼネストＧＨＱ中止命令・独占禁止法・日本国憲法施行・新国会開会・教育基本法・学校教育法公布（六三三新学制実施）・労働三法施行・国鉄労組・日教組結成・経団連結成・特別調達庁・労働省発足・内務省解体・皇居前広場で住宅獲得国民大会・関東大水害・東北水害・八高線列車転覆・飯田市大火・国家公務員法公布・制限付民間貿易再開	「新日本建築家集団」（ＮＡＵ）発足・広島聖堂コンペ（一位該当作なく審査員村野設計と決定）・西山卯三の「これからのすまい」・浜口隆一の「ヒューマニズムの建築」発行・ヒューマニズム論争起る・ＭＩＤで工場生産住宅プレモス研究・日本建築設計監理協会設立・全国木材労組同盟・土建同盟・全日本土建一般労組結成・東京三越で都市復興展開く・登呂遺跡発掘始まる 炭労住宅建設・高輪アパート（戦後初の官公営アパート）・紀伊國屋書店（前川事務所）建設	大阪天王寺区及南区公館地区計画コンペ・大阪大和川に大規模な木造住宅団地建設・スバル座・メトロダンスホール・中座・ホテルナニワ（日建）建設 大阪港湾復興計画・都市計画・公園計画決定・枚方市制実施・南海電鉄が近鉄より分離	公職追放により日本建設産業ＫＫ取締役社長を退任
昭和23 (1948)	国際建築家連合（Ｕ．Ｉ．Ａ．）生まる・国際都市計画及住宅問題会議チユリッヒに開く・テクトンのＳＰＡグリーンアパート・カーンのフォード工場建設 国連で世界人権宣言・アムステルダムで第一回世界宗教会議・冷戦激化・大韓民国・北鮮人民共和国・中国政府発足・ビルマ独立成立・ガンジー暗殺・ブラッセル条約調印・英連邦会議・米トランジスター発明・パロマ天文台二百吋望遠鏡完成	ＧＨＱ経済安定九原則発表・教育委員会法公布・国家行政組織法公布・日本学術委員会法公布・工業技術庁設立・スト各地に激化・東宝大争議・昭和電工事件起る・大都市転入抑制解除・日経連結成・民間貿易許可・自治体警察発足・極東軍事裁判判決・北陸・北九州水害・福井大震災・全学連結成 谷崎潤一郎の「細雪」・太宰治投身	建設省設置・全国住宅調査・住宅坪数制限緩和・全国建設業協会・建築行政協会・不燃住宅協会設立・仙台公会堂コンペ（一位武基雄）・宮崎市庁舎コンペ・臨時建築防火規則・土建一般労組同盟・国鉄建協・全建労結成・福井震災→北陸震災調査・軽量コンクリート研究 公営鉄筋アパート各地に建設・芝児童館（河野通祐）・慶応附属病院（前川事務所）建設・戸山ハイツ着工	大阪平和博開く・各地に公営アパート建設（小宮・筆ケ崎・夕陽丘・西宮）・六甲ハイツ完成・高島屋和歌山支店（坂倉）・喫茶店プランタン（村野）・大阪スバルビル（石本事務所）・大阪白雲ビル（西沢文隆）・神戸木材会館（武田健三）建設・神戸新オリエンタルホテル改造（三菱重工） 茨木・八尾・泉佐野市制実施	有限会社双星社顧問に就任
昭和24 (1949)	第七回ＣＩＡＭ（ペルガモ・住宅の連帯性）・ノイトラの砂漠の家・ジョンソンのガラスの家・イームズの実験住宅・ライトのジョンソンワックス会社新研究所建設・ペレーのル・アーブル都市復興計画始まる・建築インターをミラノで結成 中国人民共和国・ヴエトナム国・インドネシア共和国・西独・東独成立・北大西洋条約成立・米ウィーナーの「サイバネテイツクス」	単一為替レート決定・シャウプ勧告・中小企業不振・デフレ傾向・新制大学発足・通産省・郵政省・電通省・法務省・国税庁・国鉄公社・専売公社発足・人事院規則・団体等規制令公布・官公労・新産別結成・日本学術会議成立・三鷹事件・下山事件・松川事件・福島事件等起る・ドッジライン決定・工業標準化法・ＪＩＳ制定・屋外広告物法施行・キテイ台風・湯川博士のノーベル賞受賞	建設業法公布・木材セメント統制撤廃・建築制限緩和・住宅対策審議会設置・第一回建築白書・第一回建築サロン開く・新制作建築部設立・広島平和都市建設法公布・広島平和公園及記念館コンペ（丹下グループ）・横浜日本貿易博開く・全建設省労組結成・東大生産技術研究所設置・イワキセメントの生コンプラント操業開始・労組民主団体関係の建物建設ピーク・法隆寺金堂焼失 最高裁判所・歌舞伎座復興・慶応学舎及学生ホール（谷口）・藤村記念堂（谷口）・新日本文学会館・全造船会館（今泉善一）建設・戸山ハイツ完成	京都公楽会館（村野）・京都女子大（竹中）・立大文学部（内藤事務所）・大阪人絹文化協会（竹中）・大阪北税務署（竹中）・大阪南郵便局・山一証券神戸支店建設・祇園会館改築（白石・福田）・神戸元町ジュラルミン街完成・兵庫県繊維問屋街（関・石川）完成	この年より引きつづいて東京聖心女子大学建設中

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和25 (1950)	メンデルゾーンのメモニデスヘルスセンター・カリニ他のローマ駅・TACのハーバード大学寄宿舎・アールボムのヘルデンアパート団地建設・独D.W.B再建 米タフトハートレー法発動・中ソ友好条約成立・英の中共承認・朝鮮事変勃発	警察予備隊発足・国勢調査施行・経済統制殆ど消滅・国土綜合開発法・港湾法公布・特需景気・一万人追放解除・共産党幹部追放・レッドパージ盛ん・平和問題論議と運動盛ん・炭鉱事件起る・日本炭鉱労組・日本労働総評議会結成・生活保護法・熱海大火・熊の平沢駅土砂崩壊・NHKテレビ実験放送・米沖縄軍事基地化 中尊寺学術調査・イサムノグチ作品展開く	建築基準法・同施行令・建築士法公布・住宅金融金庫設置・住宅制限規則解く・建築経済統制終止・ビルブーム・首都建設法公布・金閣寺及京都駅全焼・文化財保護法・住宅建設低下（バラックヤミ建築一段落し住宅不足潜在化）・住宅協会設立し公庫資金で鉄筋アパート建設開始・岸田日出刀芸術院賞受く・竹山論争・農村建築研究会・LV誕生・イサムノグチ来日・「建築技術」発刊・「国際建築」復刊 東京海上ビル別館(竹中)・八勝館御幸の間(堀口)・東京逓信病院高等看護学院(小坂)・西戸山小学校・山口市庁舎(蔵田周忠)・立体最小限住宅(池辺陽)・クレハ紡庄川工場(初の無窓工場)・仙台公会堂(武)建設	関西建材会設立・日建設計工務KK設立・大阪高島屋新館（坂倉）・大阪モータース（浦辺）・大阪府工業奨励館本館・大阪球場(坂倉)・大阪プール・西宮日芸会館（大林）・神戸市体育館(置塩)・神戸銀行協会(日建)・竹中神戸支店・大阪府住宅協会法円坂団地建設 神戸国際港都建設法公布・豊岡・加古川・富田林市制・西宮アメリカ博・神戸日本貿易博開く・ジエーン台風禍	10月公職追放解除・12月大阪府建築審査会委員を命ぜられ同会会長となる・有限会社双星社を双星社竹腰建築事務所と変更して取締役社長に就任・8月KK新大阪ホテル顧問・12月武田薬品工業KK顧問に委嘱さる
昭和26 (1951)	第八回CIAM（ロンドン・都市のコア）・ロンドン大英博開く・ロイヤルフエスティヴァルホール・ローエのレイクシヨアドライヴアパート及フアンスワース邸・サーリネンのゼネラルモータース技術本部・TACのボストン郊外集団小住宅建設・東ベルリンにスターリンアレー完成 インド第一次五カ年計画・ヴオルガドン運河開通・イラン石油問題起る・朝鮮休戦会談・欧洲統一軍正式発足・世界平和評議会開く・サンパウロビエンナーレ展始まる	講和条約・日米安全保障条約調印・GHQ対日援助打切り声明・六万八千の公職追放解除・日本ユネスコ加入承認・児童憲章制定・民間放送開始・社会党左右両派に分裂・マッカーサー解任・ケイト台風西日本風水害・松阪及小田原大火・横浜桜木町国電事故・計量法公布・八海事件起る・鉄鋼労連結成 源氏物語ブーム・「チヤタレー」訳本発禁・映画「羅生門」ヴエニス大賞受く・マチス展・ピカソ展開く・レーモンド・ローウイ来日・日本宣伝美術会創立	ビル建築制限措置・官庁営繕法公布・公営住宅法施行・都市計画学会創立・登呂家屋復原・AE剤使用始む・「NAU」瓦解・天理教東京会館コンペ(一等小坂秀雄)・名古屋放送会館コンペ（一等富田哲輔）・下関市庁舎コンペ（一等田中誠他）・リーダースダイジエスト構造論争起る・沖縄基地工事国際入札 鎌倉近代美術館(坂倉)・リーダースダイジエスト東京支社(レーモンド)・日活国際会館(竹中)・森邸(清家清)・ブリジストンビル(松田平田)建設・鶴見倉庫にシヤーレ出現・東京駅復旧	朝日放送・新日本放送・ラジオ京都等スタジオ・志摩観光ホテル及アポロ座(村野)・大阪国際見本市会館・阪急航空ビル（竹中)・日端貿易大阪事務所(レーモンド)・日経新聞大阪支社(戸田組)・神戸自転車会館（置塩)・大阪南住吉我孫子団地・神戸モツシエビル建設・神戸港第七突堤建設開始 尼崎港防潮堤築く・竜野・赤穂・寝屋川・宇治市制実施・芦屋国際文化都市建設法公布	7月大阪市固定資産資産税研究会委員に委嘱さる
昭和27 (1952)	スキッドモアのレヴァハウス・ノヴィッキのノースカロライナ展示場・ハリソンのアルコアビル建設・ブロイヤーのパリユネスコ本部建設開始・ニューヨーク国連ビル完成・コルビユジエのチャンディガール都市計画・建築研究会議ロンドンで開く・ヴェニスのユネスコ国際芸術家会議開く 英エリザベス二世女王即位・欧洲防衛共同体条約調印・エジプトクーデター起る・米水爆実験行う・カミユとサルトル論争	電々公社発足・皇居前メーデー事件起る・破防法成立・予備隊保安隊に改組・保安庁発足・日米行政協定調印・日華平和条約調印・住民登録全国実施・道路法公布・電源開発促進法成立・改進党・協同党結成・日本オリンピック参加復帰(ヘルシンキ)・鳥取大火・十勝沖地震・日航もくせい号遭難 国立近代美術館・ブリジストン美術館設置・ブラック展・日本国際美術展開く・インダストリアルデザイナー協会(JIDA)設立・ローウイデザインのピース発売	日本建築士連合会設立・建築士事務所開設・日本建築設計監理協会発足・耐火建築促進法公布・宅地建物取引業法公布・日本住宅協会設立・東京都庁舎指名コンペ(一位丹下)・ノイトラ来日・ソヴエト建築研究会誕生・吉田五十八芸術院賞受く・山口文象のローコストハウス論議・併存アパート出現・厚生年金保険の住宅資金貸付開始・建築設計事務所員懇談会発足・日本建設企業組合・全国土建総連結成 日本相互銀行(全溶接・前川)・日本楽器・新丸ビル(三菱地所)・アメリカ大使館アパート(レーモンド)グレセツト記念館建設・銀座松屋改装(松田平田)・法隆寺五重塔落成	大阪産経ビル(竹中)・大和ビル(安井)・蝶理KK(清水建設)・クラブ関西(坂倉)・大阪府立体育館・新京都駅・住友銀行備後町支店(日建山根)・大阪第一生命ビル(9階まで・竹中)・神戸証券取引所(竹中)・神戸松岡ビル（竹中）建設・羽衣住宅展開く・神戸港第七突堤完成・神戸長田番町公営アパート建設開始 神戸移住民あつせん所業務再開	米国マキノに開催のMRA1952年大会に招聘されて渡米・帰途欧米の建築事情視察 北陸学院・ 神戸海星女子学院

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和28 (1953)	第九回ＣＩＡＭ（プロヴァンス・住宅憲章）・プラーグの国際学連サナトリウムコンペ・イーローサーリネンのＭＩＴオーデイトリアム建設・ＴＡＣのバックベイセンター計画・モスクワ大学完成・この頃より欧洲共同でモデュール研究始む スターリン死去・朝鮮動乱終結・インドシナ動乱起る・エジプト共和国宣言・ローゼンバーグ夫妻死刑・バーミュダ英米仏三巨頭会談・欧州生産性本部(EPA) 生まる・英エヴェレスト山征服	日本防衛会議・スト規制法成立・町村合併促進法公布・日傭労務者保健法成立・住宅政策推進国民大会開く・内灘紛争始まる・日米船舶貸借協定実施・日米通商条約調印・株式ブーム起る・九州及和歌山豪雨禍・水害関係諸法律成立 クート一展・ルオー展開く	産労住宅資金融通法・北海道防寒住宅建設促進法公布・鋼鉄足場使用始む・ホモゲンホルツ関係の技術導入・早大学生グループのサンパウロビエンナーレ入賞（住区中心施設計画）・ボドコ・火曜会結成・レーヴァイの「建築の伝統と近代主義」紹介・西山卯三の「日本的伝統と国民的課題」発表・伝統論議起る・国会図書館コンペ要項発表・科学博物館理工学館指名コンペ(一位谷口)・愛知県文化会館コンペ(一位小坂秀雄)・全国主要都市に建築防火帯指定・沼津防火帯工事開始・名古屋千種台大住宅団地開発開始・村野藤吾芸術院賞受く・米フオラム誌に日本建築特集号刊・石井桂参議院当選 広島児童図書館（丹下）・愛媛県民館(丹下)・東京厚生年金病院(山田守)・沼津公会堂（池辺）・法政大学大学院(大江宏)・宮城邸（清家）・鉄骨住宅(広瀬鎌二)・丸栄百貨店(村野)・広島平和記念聖堂(村野)建設	大日本製糖堺工場(山口文象)・近畿電気通信会館・アサヒアリーナ（竹中）・大阪新阪神ビル(大林)・大阪富士フィルムビル(東畑)・神戸銀行船場ビル（渡部事務所）・フジカワ画廊（村野)・真珠会館（光安義光)・神戸市民病院・神戸銀行本店（日建)・兵庫相互銀行（安井)・大阪厚生年金病院(山田守)・大阪第一生命ビル12階に増築(竹中)建設・大阪十合百貨店増築（村野）・大阪古市団地建設開始 神戸東部海面埋立て計画着手・和歌山豪雨禍	朝日ビール吹田工場・ビヤホール・ 大阪江口証券・ 大阪岡三証券
昭和29 (1954)	第一回国際建築学生会議(ローマ)・サンパウロ四百年記念博開く・フルシチョフの自国建築批判・ワックスマン格納庫試案発表・メキシコ大学・コルビユジエのロンシャン教育堂建設 インドシナ休戦・ジュネーヴ極東平和会議・コロンボグループ成立・ネール平和五原則声明・ストツクホルム世界平和集会開く・国連総会原子力平和利用決議	日米ＭＳＡ協定発効・防衛二法成立・陸海空自衛隊発足・防衛庁設置・教育二法成立・日本民主党結成・デフレ深刻化・近江絹糸スト・市制ブーム・第五福竜丸死の灰あびる・原爆マグロの脅威・洞爺丸転覆・皇居二重橋事件起る・岩内町大火 ルーヴルフランス美術展開く・広津和郎の「松川事件」執筆始む(～58)	日本建築学生会議発足・国会図書館コンペボイコット・建築著作権確立運動起る・グロピウス来日・「グロピウスとバウハウス展」開く・建築研究団体連絡会発足・例の会・日本建築ペンクラブ誕生・国会図書館コンペ結果発表（一等田中・大高他）・総評会館設計スタート・土地区画整理法施行・京都小御所炎上・平城京発掘調査 神奈川県音楽堂(前川)・図書印刷原町工場(丹下)・名古屋テレビ塔・都体育館・東急会館(坂倉)・コアのある住宅(増沢洵)・鉄道会館・帝国ホテル別館・博多会館(竹中)・サンパウロ博日本館(堀口)・ニューヨーク近代美術館書院遊(吉村順三)建設	神戸電々ビル・大阪アシベ劇場(清水建設)・岸和田市庁舎（日建)・近映会館（村野)・松下電子工業高槻工場(日建)・西成区役所建設・兵庫大開団地建設(～57) 河内長野・天理・西脇・宝塚・高砂・川西・小野・三木等市制実施	大阪被昇天学園

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和30 (1955)	イーローサーリネンのMIT大学礼拝堂・コルビュジエのナンテレゼユニテ建設 アジヤアフリカのバンドン会議・ジュネーヴ四巨頭会談・ソ連ユーゴ共同宣言・東欧八国相互防衛条約調印・西欧連合正式発足・原子力平和利用国際会議開く	日米原子力協定成立・原子力委員会設置・日本生産性本部発足・社会党統一・自由民主党結成・オネストジョン試射・砂川基地強制測量始まる・紫雲丸沈没・南九州及秋田水害・新潟市大火・中国学術視察団来訪・日ソ国交交渉始まる・原水爆禁止世界大会を広島で開く コルビュジエ・レジエ・ペリアン三人展・メキシコ展開く・石原慎太郎の「太陽の季節」	住宅42万戸建設計画を政府発表・住宅公団発足・公団の大規模団地を大都市郊外に計画・南極建築委員会設置・法隆寺昭和大修理終了・コルビュジエ来日・ワックスマン来日・ノイフエルト来日・ルドルフスキ来日・「五期会」結成・モデュール研究会生まる・早大学生グループのサンパウロビエンナーレ入賞(勤労者休養施設)・宅地造成や土地開発事業に公庫融資始まる・ベルリンの建築インターに日本参加・金閣寺復興 国際文化会館(前川・坂倉・吉村)・広島平和記念館(丹下)・長崎国際文化会館(佐藤武夫)・羽田国際空港（松田平田)・国際電々東京局舎（清水建設)・八雲小学校(吉武泰水他)・総評会館・下関市庁舎（田中尚他)・延岡市庁舎(日建)・明大学舎（堀口)・法大学舎(大江)建設	梅田大映(丹堂)・大阪三和銀行本店(山下寿郎)・ドウトン食堂ビル(村野)・梅田ビル(竹中)・OS劇場(竹中)・京都貯金局・伊丹市庁舎(久米)・神戸水産会館(光安)・大阪港安治川サイロ・大阪ガス岩崎工場・明治製菓大阪工場(阿部事務所)・大阪府教育会館建設 阪神都市協議会発足・枚岡・河内・松原・大東市制実施	4月大阪府知事より大阪府建築行政の功績のため表彰さる・8月KK北国銀行顧問に委嘱さる 双星社竹夢建築事務所ビル堂島中町に建設（事務所をここにおく)・ 西宮カントリークラブハウス 西宮仁川学院・ 西宮マリヤ幼稚園
昭和31 (1956)	第十回CIAM（ドウブロフニク・CIAM再編成決議)・EPAの「建築におけるモデュラーコオディネーション」刊 スエズ運河問題・ハンガリヤ動乱起る・国際原子力機関創立総会・チトー・ネール・ナセル会談・ソ連コミンフオルム解散	日ソ漁業協定・日ソ国交回復共同宣言調印・日本国連加盟・マナスル山登頂成功・南極予備観測・新潟県弥彦神社圧死事件・能代・魚津・大館大火・原子力三法・売春防止法成立・歴史家トインビー来日・新教育委員会発足 「人間家族」写真展開く・国際遺伝学会東京で開く	日本建築家協会発足・建築五団体で建築国際連絡協議会設立・現代建築不安感論争起る・「新建築」国際版発行・日本道路公団法及都市公園法施行・首都圏整備法制定・長崎市庁舎コンペ（一位郵政省建築部)・延暦寺大講堂焼く・建築懇話会発足 ヴエニスビエンナーレ日本館(吉坂)・大石寺宝蔵（合作社)・福島教育会館(ミド)・秩父セメント第二工場(谷口)・掛川市庁舎(日建)・府中市庁舎（日建)・湯河原整形外科病院（日建)・聖アンセルモ教会(レーモンド)・久留米石橋センター(菊竹事務所)・ニューヨークのモテル「山の上」(吉村)・毎日名古屋会館(日建)建設・佐久間ダム竣工	奈良あやめ池に朝日新聞主催の「新しい生活と住宅展」開く・公団の堺金岡・枚方中宮・伊丹寺本の各団地建設・通天閣復興(内藤多仲)・国際電々大阪局社・大阪テレビ放送局(清水)・神戸新聞会館(村野)・神戸国際会館(竹中)・神戸電々会館・大阪建設会館(大林)・梅田コマスタジアム(竹中)・専売公社京都病院(山下寿郎)・早川電機工業会社(清水)・大阪府立図書館新館・神戸そごう百貨店増築(大成)・クローバー乳業大阪工場（山下寿郎）建設・綜合デザイナー協会(DAS)結成 和泉・箕面市制実施・神戸で国民体育大会開く・神戸表六甲有料ドライヴウエー完成	武田薬品工業枫川寮・ 中川電機冷蔵庫工場・ 西宮中尾邸・ 東京聖心女子学院

年次	海外（建築・社会）	日本（社会・文化）	日本（建築界・建築）	関西（建築・社会）	竹腰健造
昭和32 (1957)	シドニーオペラ劇場コンペ（一位ウトゾン）・伊フエルミ記念館コンペ(一位ＭＩＴナイト)・トロント市庁舎コンペ発表・ベルリンインターバウ開催 国際地球観測年・ゲツチンゲン宣言（原子兵器禁止）・欧洲共同市場・欧洲原子力共同体設立条約調印・台北暴動・マラヤ連邦独立・ソ連の人工衛星飛ぶ	国際ペン大会日本で開く・日本原子力研究所(東海村)建設→原子炉運転開始・ジラード事件起る・九州諫早大村豪雨禍・第五北川丸三原沖沈没・南極本観測・愛媛県で勤務評定問題 ジョージ・ネルソン来日・アンフオルメル画家来日・日本国際デザイン協会（JDC）設立・鉄斉展をニューヨークで開く・ミラノトリエンナーレ日本初参加	世田谷区民会館指名コンペ（一位前川）・横浜シルクセンター指名コンペ(一位坂倉)・京都観光文化会館指名コンペ(一位前川)・学会・家協会・士会三会で「建築設計競技規準」設定・トロント市庁舎コンペ参加をめぐり「建築家」の資格問題・サンパウロビエンナーレ建築展審査員に丹下出席・早大学生グループのサンパウロビエンナーレ入賞（工場労務者住宅群計画）・20世紀デザイン展・ドイツ現代建築展開く・大宅吉坂論争（読売新聞）・「新建築」編集員更迭・駐車場法公布・ライトゲージ及生コンクリート普及・南極越冬家屋昭和基地に建設・輸入原子動力炉構造の地震問題化・イームズ夫妻来日・堀口捨己芸術院賞受く 国際見本市米工業館（フーラーのドーム）・東京都庁舎（丹下）・東京読売会館(村野)・倉吉市庁舎(岸田・丹下)・静岡体育館(丹下)・日比谷図書館・岡山県庁舎(前川)・中央公論ビル(芦原)・墨記念館(丹下)・三田東急アパート・成城学園（増沢）・ヴイラクウクウ(吉坂)建設・小河内ダム完成	神戸アメリカ領事館（ミノルヤマサキ）・神戸市庁舎（日建）・神戸市水族館・南海会館(坂倉)・竹中工務店本社(竹中)・近鉄アベノ百貨店・塩野義製薬西宮寮・播磨造船相生綜合事務所・公団の出来島・千里山・関目・東長居の各団地・新桜橋ビル(日建)・淡路南淡町庁舎（坂・増田）建設 神戸シアトル姉妹都市提携	6月大阪市不動産評価審議会委員に委嘱さる・12月建築関係功労賞として黄綬褒賞授与さる 神戸愛徳童貞会舞子礼拝堂・八尾吉川邸・ 大阪北村林業kk・ 松下電器産業茨木工場・ 同豊中工場・ 同福岡営業所・ 同広島営業所・ 石川交通株式会社
昭和33 (1958)	ブラッセル万国博開く・ローエのニューヨークシーグラムビル・ロジャースのミラノ高層アパート建設・ネルヴィのローマオリンピックドーム完成 アメリカの人工衛星飛ぶ・エジプトシリヤ合併(統一アラブ共和国)・ヨルダンイラク合併(アラブ連邦)・仏チユニジヤ紛争・アルジエリヤ問題起る・仏ドゴール政権誕生・仏領スーダン共和国宣言・中国金門島争い起る・西阿のガーナとギニヤ合併	売春防止法実施・勤務評定問題高まる・警職法問題起る・都市騒音防止普及・関門海底トンネル完成・アジヤ競技大会東京で開く・南海丸遭難・全日空航空機伊豆沖墜落・伊豆地方大風水害・王子製絲スト・南極追観測へ・マルロー来日 中国敦煌展・フインランドデンマーク展・ゴツホ展開く・民営社団法人化の日展出発・広津和郎の「松川事件」完成・日米原子力船ノーチラス号北極海潜航横断成功・モスクワ芸術座来日	モデュール研究本格化・駐車場法施行・尾崎記念館コンペ（一位海老原一郎）・丹下ＡＩＡ第一回汎太平洋建築賞受く・名神高速道路着工・東京テレビ塔完成・帝国ホテル増築抗議・東京宝塚劇場火災 香川県庁舎(丹下)・今治市庁舎(丹下)・草月会館(丹下)・国立競技場・晴海高層アパート(ミド)・大手町ビル・虎の門病院(伊藤喜三郎)・日本芸術院会館(吉田五十八)・明治座(吉田五十八)・米子市公会堂(村野)・ブラッセル博日本館(前川)・新潟市庁舎(佐藤武夫)・坂出市庁舎及瀬戸市庁舎(日建)・三菱商事ビル・広島朝日ビル(竹中)建設	大阪新朝日ビル(竹中)・大阪毎日会館(日建)・大阪新歌舞伎座(村野)・新大阪ビル(村野)・関西テレビ（竹中）・読売テレビ(清水)・公団の西長堀高層アパート・豊中旭ケ丘団地・枚方香里団地・兵庫県農業会館(東畑)・兵庫県職員寮建設 大阪国際芸術祭と大阪国際見本市開く・大阪城公園開く	3月日本建築協会会長を退任 武田薬品工業KK研究所 ・著書「能楽三昧」発行

戸締りは
これで安心

火も！
風も！



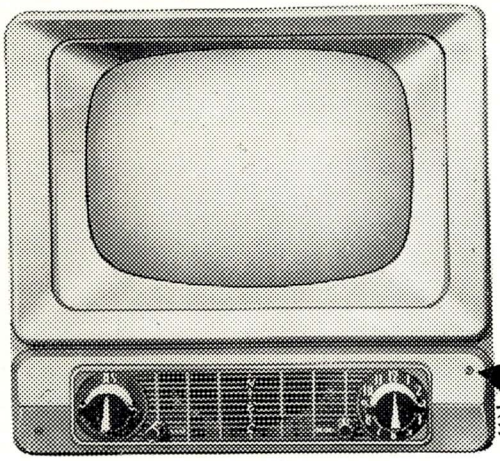
キレクスパルグシヤッター

（御一報　カタログ進呈、近くの店より係員参上します）

大阪　**東洋シヤッター株式会社**　東京

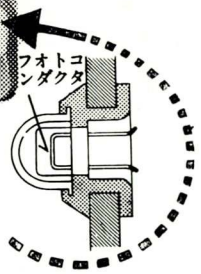
本社・工場　大阪市西淀川区佃町4－33
電話㊼2812～3・3116
東京支店　東京都大田区新井宿5－547
電話㊻2947
名古屋支店　名古屋市中区正木町2－27
電話㉜0388
京都支店　京都市左京区東大路三条上ル東門前町
電話⑦3581
神戸支店　神戸市生田区加納町4－1
電話葺合②8843

テレビは放送施設から受像機までオール*NEC*!



ねこの眼のようにまるい明るせわのあるひとみにわさてるりで変る

フォトコンダクタ



明暗自動調整装置付
(A. B. C. C. 方式)

NEC テレビ

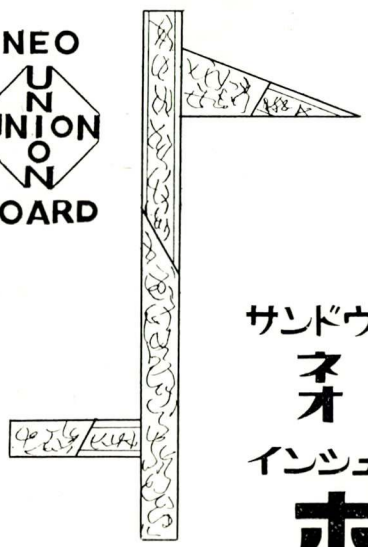
14T-107型 14インチ 卓上型超遠距離用
現金正価 ¥ 66,500
正価 ¥ 70,000

17T-107型 17インチ 卓上型超遠距離用
現金正価 ¥ 98,000
正価 ¥104,000

世界の話題……東京タワーの送信装置・アンテナをはじめ各テレビ局の放送施設・マイクロウェーブ中継装置の殆んどを製作した*NEC*の技術が*NEC*フォトコンダクタを使ってテレビ受像機を更に進歩させました。

NEC 新日本電氣株式會社　日本電氣株式會社

NEO UNION BOARD

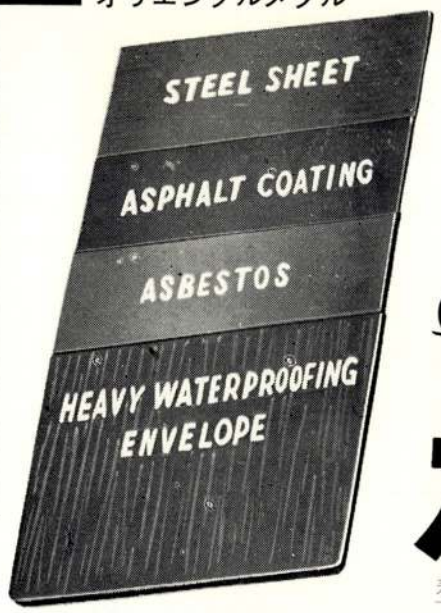


サンドウイッチパネル
ネオ ユニオンボード
インシュレーション
ポーライト

旭化工板製造株式会社

営業所 大阪市北区茶屋町三八 電話大阪代表 ㊱ 6555~7
本社工場 尼崎市下坂部久々知前二三五 電話大阪 ㊽ 3082

オリエンタルメタル



営業品目
特許　スーパーオリエンタルメタル製
特許　オリエンタルメタル製
屋根板・谷樋・軒樋・竪樋・呼樋
棟包・雨押類・ダクト並臭突類
特許　オリエンタル　スカイライト
特許　特殊屋根材「セラクタイト」
特許　オリエンタル・アスファルトブロック

製設計施工販売

asbestos protected metal

耐酸，耐アルカリ性被覆鋼板

オリエンタル メタル

着色カラー，不燃性，超耐酸被覆鋼鉄板

スーパーオリエンタルメタル

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長州字稲川新田44	TEL 大阪（48）4947～9・592J
東京支店及工場	埼玉県北足郡蕨町塚越	TEL 蕨（0889）3252～4
九州支店及工場	福岡県八幡市東浜町16の2	TEL（八幡）723・2512
東北支店及工場	福島県郡山市外富久山町久保田142	TEL（郡山）267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松町2の35	TEL 名古屋（8）7674

日本レイヨン株式会社

天井に間仕切に家具材に

サンライト

リブサンライト
チェックライト
吸音ライト

お家の…ちょっと修理サンライト
お家で…ちょっと工作サンライト

大阪サンライト会（イロハ順）

稲葉ベニヤ商会	布施市長堂一丁目　電㉒三四八二
株式会社　紅中商会	浪速区幸町四丁目　電㊸二〇五六
株式会社　ベニヤ商会	西区北堀江上通一　電㊸三三六四
田辺工業株式会社	西区江戸堀下通二　電㊹七四三七
株式会社　室谷商店	北区絹笠町堂ビル　電㊱二〇二一
内田商会	北区万歳町四七　電㊱九〇〇
株式会社　山本建材社	西区・四ツ橋南詰　電㊹二一三一
株式会社　大和商会	南区高津町四番丁　電㊹一五八八
丸尾建材株式会社	西区九条南通一　電㊸五六八〇
丸駒建材株式会社	西区北堀江通一　電㉗二六二八
丸正ベニヤ株式会社	南区日本橋筋三　電㊹二二一
三友工業株式会社	西区南堀江上通一　電㊹〇七八三
宮本建材株式会社	南区・賑橋電停前　電㉕九〇〇五

マルエス印

床の色彩調節は

ビニエスタイル

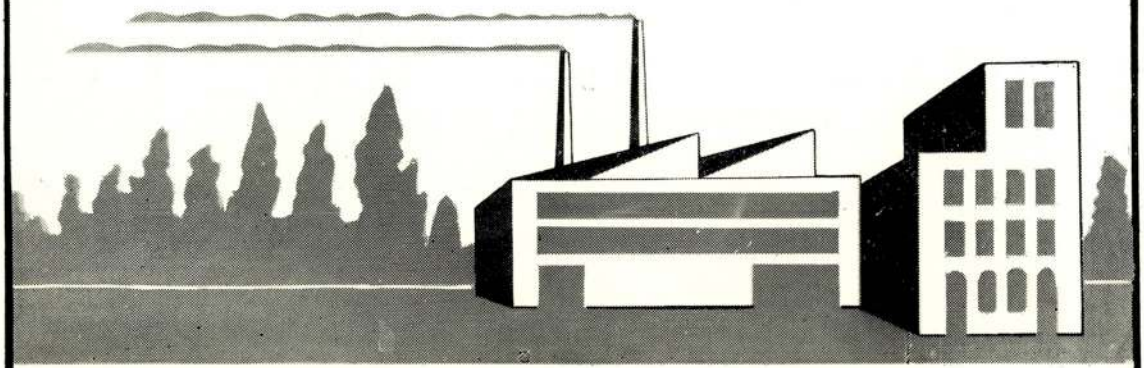
エスタイル

屋根材

ルーフィング

完全な防水工事をするためには

マルエス印石綿ウエルドルーフィング
マルエス印石綿エアーフリーフエルト
マルエス印石綿ノーコルーフィング（特許31408）
マルエス印ガラス網状ルーフィング



日新工業株式會社大阪支店

大阪市西区新町北通一丁目四〇番地　電話(53) 5281 5282 5283

新しい建築材料

スーパートーン

スーパートーンは昨年末，三菱地所指導のもとに大手町ビル機械室に試験的に使用されて以来，三菱地所関係の三菱商事ビル，第二大手町ビル各機械室に使用され，従来から課題とされていたビル機械室の防音，防火が本品の出現によって解決された。

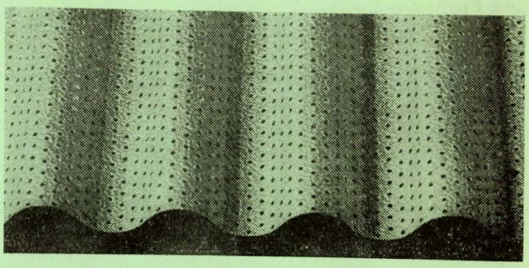
現在のビルは密閉されており，そのため発電機室や冷暖房送風機室等は完全な消音装置をしないとダクトの中に音が入り，各室に耳ざわりな音を伝波したりする例がままあります。不燃吸音材の中で最高の吸音率を示す本品は，天井だけでなく，こうした機械室等の壁面にも優れた利用価値があるわけで，第二都庁舎はじめ今後新築される各ビルの機械室にますます使われていくものと思われる。

また一方，東京宝塚劇場，明治座と引続き大火のために惨禍に見舞われて以来，劇場の不燃化が急激にやかましくなり，当局による火災防止の建築法規強化のすう勢と相まって本品が東京宝塚劇場に使用されて以来，新宿地球座，松戸劇場，渋谷峰岸割場，新原町田松竹，浅草新劇場，池袋大映，日活撮影所，池袋東武劇場等に使われ，この方面に急激な背伸びが予想されます。

宝塚劇場にしても燃えないはずの鉄筋コンクリート造であるのに，燃えたということは，不燃構造といっても外形だけで，建物の内部，とくに壁や天井等の内装材に問題があるわけです。緞帳を燃え上がった炎が，すごい勢いで天井に移り，天井から燃え落ちる火の子が，さらに客席を総なめにするといった経路が劇場の火事の特徴だといわれていますが，もし天井が「燃えない天井」であったとしたら，宝塚でも，あんな大事に至らずに済んだことでしょう。不運な経験にこりて東宝では，今度は完全に燃えない天井〝スーパートーン〟を装備して再開したわけです。

その他，新建材に非常に興味を持っている電々公社では，従来のテックスに変るべき不燃吸音材として本品に注目しており，草加電話局に試験的に採用，その結果にならって各電話局に使用されてゆくものと思われ，また防衛庁においても警備艦の内装に使用決定以来，各造船関係にも大量に見込まれ．電源開発にても日本最大の奥只見発電所内装に全面的使用が決まり，体育館，講堂，アーケード，醸造所，寺院，事務所等と相まって非常に期待がもたれております。

理想的吸音材料〝スーパートーン〟とは，それ自体軽く，美しく，錆びず，しかも比較的廉価であるアルミニウム板に従来欠点とされていた掻痕や毀損等の汚れを目立たなくし，板の強度を増すためのエンボス加工（浮出し模様）を施し，穴をあけ，波をつけ，その裏面に吸音材（グラスウール，ロックウール等）を保持して吸音と断熱の効果を挙げるものである。



特　性

1. **不変の美しさ**……さびることのないアルミ製品であり，表面保護の塗装を必要とせず，いつまでも美しさを保つ，銀波のような魅惑的な美しさには，建築家には斬新なデザインを可能にし，照明やその他の資材との組合せも容易であり，清明な内装効果をあげている。
2. **絶対不燃**……天井，壁面の仕上げ材料として重要な要素である耐火の問題は，本材を使用することによつて解決される。
3. **吸音効果**……同時に使用される吸音材料の吸音率がそのまま反映されるので，使用される材料によつて変動がある。
4. **軽　量**……スーパートーンはアルミのパネルとグラスウール等の吸音断熱材を保持するのみであるから極めて軽量であり，坪当りの自重は8.32キロに過ぎない。
5. **耐湿性**……アルミもグラスウールも高度の耐湿性を有し，室内プール，台所，浴室その他湿度の高い所に安心して使用できる。
6. **断熱，保温**……グラスウールを吸音材料に使用することにより優れた断熱保温の効果を得，暖房やエア・コンデイショニング経費の節約となる。
7. **取扱簡便**……それぞれのパネルの取りはずしが容易であり，天井裏の配線，配管工事等の補修追加工事が簡単に行なえる。
8. **経済的**……1枚のパネルが大きくて軽いため施工がまことに楽であり，小人数，短時間仕上げと加えてアルミニウムの比重は鉄，銅等の3分の1であり，重量の軽さが一つの利点であつたが，エンボスシートの使用は強度の点から，それを，さらに減ずることになり，そのまま実質的なコスト・ダウンをもたらします。

施工法……天井廻り縁にアングルをとめ，中間保持材としてTバーを8ミリ・ボールトまたは8番鉄線で天井より吊り，その間にパネルを置き，さらにグラスウールを重ねて保持する。木造の場合はTバーを使用せず，野縁に亜鉛釘をもつて直接保持することも可能であり，または下地にMバーを敷きパネルの穴を化粧ネジ釘で数ケ所とめて張りあげる方法もある。

価格……スーパートーンは坪当り 3,300円前後で，酸化被膜を付けると500円増しである。

取付上の注意……1，軽金属が鉄，銅，黄銅などの異種金属と接触フ食を防ぐため絶縁に注意しなければならない。この場合は異種金属にカドミウムまたは亜鉛メツキを施し，あるいはアスファルト塗料ジンクロメート塗料などを塗るが，それらに浸した布または紙を間に入れて絶縁しなければならない。

2，軽金属が石灰，モルタル，コンクリートなどのアルカリ性材料に接触することを極力避けなければならない。なお，これらにフ食される恐れのある場合は前項に準じて絶縁しなければならない。

3，リベット，ボールト，小ネジ，釘，ワツシヤーなどは指定された材質のものを用い，やむを得ず鉄，黄銅製のものを使用する際はカドミウム，亜鉛またはクロームメツキして使用しなければならない。

4，軽金属は膨脹係数が大きいから（鉄の約2倍）膨脹ならびに収縮の逃げを作るように施工する必要がある。とくに他の構造材に固定する際は注意を要する。

朝日機材株式会社

本社	東京都中央区八重洲2丁目5番地（不二ビル）	Tel ⑳7611（代表）～6番
大阪支店	大阪市北区中之島2丁目22番地（新朝日ビル）	Tel ㉖8591～5番
名古屋営業所	名古屋市広小路通2丁目11番地（朝日ビル）	Tel ㉓2927番

三機のレディーメードサッシ・ドアについて

"6S型引違サッシ"

多量生産方式は近代工業の特徴でありまして，自動車，テレビ，ラジオ，冷蔵庫その他の電気器具から，小さなビス1本に至るまで，多くの工業製品が標準化され，一つの型式によって多量に生産されております。

標準化の最大の長所は，品質が安定向上し，価格が安くなり，いわゆる生産性が向上することにありましょう。

以上の観点から標準化と量産により品質の安定した安価なサッシの生産を目標として，数年前よりS型からNS型と研究と努力をつづけてきたのでありますが，6S型引違サッシは品質を飛躍的に引上げる一方，設計および製造を近代的量産方式の面から徹底的に検討の結果，さらにコストを引下げ得るとの結論に達しまして，56年標準 (Standard) 引違サッシ (Sliding Sash) の意味を含めて発売したものであります。

設計，品質，強度，気密性はもちろん，各細部に至るまで従来に見られぬ特徴を具備しておりまして，とくに防錆処理は，わが国唯一の全自動式装置の塗装ラインにより，下地をボンデライヂング施工後，高ジンク系塗料の焼付を行っている点は画期的なことで，業界に先鞭をつけたものと自負しておる次第であります。

標準タイプ28種類とランマ10種を常時相当数を在庫しておりまして，いわゆるレディーメード・サッシとして，いつでもご注文に応じられるわけであります。

標準仕様

材料　枠は上枠2mm，竪枠1.6mm，皿板2.3mm，鋼板。障子は2.3mm鋼板を使用，組子は25mm T型サッシバーを使用。

構造　障子は各々2個の吊車で吊られ，ふれ止めをもちガタガタしない，上枠及びふれ止めの隙間ふさぎ突起，竪枠の溝下部の隙間ふさぎ片が，互にかみ合い気密を保たせます。

金具

真鍮製クレセント	1組
真鍮製引手	2個
吊車	4個

アンカーは着脱式を使用

塗装　組立後ボンデライヂングを施し，高ジンク・クロメート塗料の焼付を，8工程の塗装ラインにより実施します。

材料の大部に鋼板を用いる理由は，近代的量産方式に適合させるためで，ロールフォーミングによる部材の能率的量産も可能であります。上吊式引違サッツの生命ともいうべき吊車はオイルレスベヤリング（注油不要の軸受）を使用して万全を期しております。

塗料に関しましては，永年の研究の結果，ジンク系に樹脂系塗料を併用したものが諸条件に対して優秀なことが立証されていますので，次の調合による高ジンク系塗料を使用しております。

ジンク・クロメート	15	計 106（重量）
フエノール樹脂	17	
フタール酸 〃	38	
二酸化チタン	30	
体質顔料	5	
その他		

次に塗装ラインによる防錆処理は，極めて安価に，しかも理想的に管理された方法で施工されるので効果が極めて信頼できるのであります。

塗装ライン（8工程）

脱脂（80°C×3分）→湯洗（50°C×4分）→ボンデライト促進剤添加（55°C×4分）

→水洗（1分）→クローム酸仕上（65°C×0.5分）→蒸気乾燥（100°C×5分）

→浸漬塗装（10分）→焼付乾燥（100°C～140°C×12分）

強度

サッシの風圧に対する強度は，四周を固定されている枠は一応問題外で，障子が風圧の撓みに耐えることが必要の条件で，最も撓む部分は中央召合せ骨2本であります。数次の荷重試験の結果はH1750型のみは50m/s，他は60m/sに耐えることが立証されております。

気密性

東大生産技術研究所に於て実施したデーターによれば上げ下げ窓の完全エヤタイト型に比較して3割程度のロスでありまして，スチームヒーター等による一般暖冷房装置の事務所なら充分使用に耐えるものであります。北海道方面の寒冷地に実際に使用した結果は，この種引違サッシと比較して極めて良好の報告を得ております。

"8D型軸吊ドア"

標準化と量産による安価なドアの製造を進めて参りましたが，軸吊丁番を使用したタイプの10種を標準型として量産しております。旗丁番と軸吊丁番の構造上の有利であることはご承知のとおりであります。わが国唯一のレディーメード・ドアとして各種多量に在庫しております。

三機工業株式会社建材部
本社　東京都千代田区有楽町1—10　電 ㊾ 5251～10
大阪支店　大阪市東区高麗橋3—1　電 ㉖ 2951・3076

海渡化学のプラスチックス・シート

丈夫で
美しく
施工が容易

デック"7"セブン

各種建材に
デック"7" Si

各種照明カバーに
デック"7" Sℓ



Siは耐衝撃性の優れた内装用
スチロール・シートです
表面のソフトな感じは他の材料では
得られません
Sℓは散光性、耐光性の特に優れた照明用
スチロール・シートです
柔らかい、影のない光が得られます

Si
厚サ・0.5・1・2・3・4㎜
寸法・3尺×6尺・4尺×8尺
1,000㎜×2,000㎜

Sℓ
寸法
1,260㎜×1,400㎜×2㎜

KAITO

海渡化学工業株式会社
本社　東京都中央区日本橋横山町7　TEL(66)1201～5 4161～5
工場　東京都大田区新井宿7－7　TEL(76)2126～9

カタログ進呈・工場企画課K・S係

彰国社新刊重版案内

新刊 **木構造・特殊構造**
建築学大系・第15巻

建築学大系編集委員会編　執筆は久田俊彦・竹田謙三郎・浅野新一・加藤六美・後藤一雄・松下清夫・大島久治・中野清司の諸氏です
A5判480頁 特製函入　定価 ¥1,200 〒120

現代建築と芸術

神代雄一郎著　明大の助教授であり，建築評論家として多角的な活躍を続ける著者が，現代建築と芸術との諸関係を解明した逸本です
B6判192頁ビニール張製本 定価¥280 〒30

日本の住宅政策
建築文庫・第38巻

上野洋著　本書は，戦前の住宅事情より戦後の住宅問題を通して現在の住宅対策及び日本経済との関連について述べた得難い書物です
B6変形判 224頁 上製　定価 ¥200 〒20

旅館の設備
建築写真文庫・第65巻

彰国社編　本巻は，旅館のあらゆる設備について，その詳細に至るまでを写真により収録した旅館関係者にとって手放せぬ手引書です
B6判80頁 総アート上製　定価 ¥300 〒30

生活器具
建築写真文庫・第88巻

彰国社編　本書は，生活に関する諸器具を写真によって収録紹介したもので，すぐに実生活に役立つ好適な写真集としてお薦めします
B6判80頁 総アート上製　定価 ¥300 〒30

重版 **北欧篇**
世界の現代住宅・第1巻

小池新二・浜口隆一・阿部公正共編　1954年度日本建築学会賞に輝くこのシリーズは，住宅面に国際的な展望を与えてくれるものです
A4横判102頁総アート特製定価¥1,000〒100

材料
建築講座・第8巻

執筆：飯塚五郎蔵・監修：加藤清作　本書は2級建築士受験の参考書・工高の教材として具体的に図表などを多く取り入れた好著です
A5判 246頁 上製　定価 ¥350 〒40

東京都千代田区平河町2-11　電(33)営業-0293・2851　編集-1745・4523　振替東京173401

会　　合　（11月分）

◀ **定時評議員会**

28日　12時——12時20分　於会館集会室
出席者　評議員　鈴木議長外56名(委任状共)
理事4名

議　事　1．昭和34年度評議員選出数決定に関する件
閉会後，一同会食のうえ懇談を交わす。

◀ **理　事　会**

12日　3時半——5時　於会館会議室
出席者　尾崎会長外7理事，山内兵庫支部長
山邑監事

議　事　（1）定時評議員会開催の件
（2）建築設備講習会実施の件
（3）大阪市より地盤沈下防止条例制定につき諮問に関する件
（4）P.S.コンクリート講演会後援の件
（5）編集委員交代の件
（6）忘年懇親会開催に関する件
（7）関西建材協会より会館設備に関し申し入れの件
（8）その他
（イ）建築団体合同の新年交礼会開催の件
（ロ）大阪府表彰につき候補者追加推薦の件
（9）入退会者承認の件
（10）報告事項
（イ）メートル法実施に伴いモデユールに関し検討の件
（ロ）10月会計報告
（ハ）10月事業報告

◀ **事　業　委　員　会**

小　委　員　会（若い会員の集い）

6日　正午——1時半　於会館会議室
出席者　三品主査外5委員
昭和34年新春の集会企画について審議

委　員　会

9日　4時——5時　於京都清滝ますや
出席者　岩崎委員長外7委員

日曜の午後を利用して京都島原の角屋および泰山タイルの工場を見学した後，清滝に於て委員会を開催，終了後委員懇親会を催す。

議　事　（1）忘年懇親会の件
（2）新春の「若い会員の集い」に関する件
（3）来年度事業企画の件
（4）メートル法実施に伴うモデユール検討に関する件

◀ **災　害　委　員　会**

11日　3時半——7時半　於会館会議室
出席者　大阪市　八木企画課長外2係長
災害委員　12委員

大阪市が制定を考えておる地盤沈下防止条例について，大阪市長から本会に諮問があったので，災害委員会に於てこれを検討するため市当局者から地下水汲上げと地盤沈下の関係について説明を聞いた。

◀ **編　集　委　員　会**

幹　事　会

12日　5時半——7時　於会館会議室
出席者　塚本委員長，笹川幹事
3月「住宅特集」号の企画について審議



委員会

15日　4時——6時半　於会館会議室

出席者　塚本委員長外11委員

議　事　（1）12月「地方建築特集」号経過報告

（2）1月「竹腰健造特集」号経過報告

（3）2月「構造特集」号経過報告

（4）3月「共同住宅特集」号企画審議

◀ **法規委員会**

20日　6時——8時　於会館会議室

出席者　恒岡委員長外5委員

建築基準法第55条に関して意見の交換を行い，無届建築を防止のため第55条の空地制限を緩和する要望書を建設大臣宛提出することを決めた。

◀ **工高生デザイン・コンクール入選者表彰式**

7日　2時——3時半　於会館集会室

出席者　奥島教育委員長，岡橋審査委員長外2審査委員，入選者6名，教諭2名

奥島委員長が表彰状と日高賞を交付したのち祝辞を述べ，次いで岡橋審査委員長から審査概評が行われた。式後，出席者一同で座談会を催し，終了後，住友生命の新築ビルを見学した。

◀ **委員会懇親ソフトボール試合の会**

8日　1時——4時　於成育小学校々庭

各委員長および委員約30名出席のうえ懇親試合を行う。終了後，喜楽別館に於て懇親会を開催。

◀ **座　談　会**

大正時代の大阪の建築を語る座談会

14日　2時——5時　於会館談話室

出席者　置塩，波江，今林，鷲尾の4氏

会誌正月号の企画として塚本委員長出席のうえ開催

◀ **講　習　会**

第2回現場管理実務講習会

午前9時——11時　於大阪建設会館

11月4日，14日　土工事，基礎工事，排水工事の施工と管理　森　組　渡辺　秀幸氏

8日，12日　鉄筋コンクリート工事，鉄骨工事，防水工事の施工と管理　清水建設　鬼頭　寿郎氏

13日，15日　木工事，屋根工事，金属工事，雑工事の施工と管理　鹿島建設　岩下久哉氏

18日，20日　石工事，タイル工事の施工と管理　藤木工務店　矢野　豊作氏

22日，25日　左官工事，塗装工事の施工と管理　銭高組　七尾　健三氏

27日，29日　設備工事の施工と管理　大林組　高橋　誠義氏

29日講義終了後，終講式を行う。

空気調和設備と電気設備講習会

於大阪建設会館

11月17日　午前9時——午後5時

空気調和の基礎科学	京都大学	前田	敏男氏
暖冷房の熱負荷	須賀工業	三村	胖氏
暖　房	同	同	上

18日　午後1時——午後5時

暖　房	須賀工業	三村	胖氏
空気調和	大阪暖房	吉川	照夫氏
同	高砂熱学	田本	栄一氏

19日　午前9時——午後5時

送排気及び除塵	建材社	浜田	栄一氏
建築設備室	大林組	高橋	誠義氏
自動制御	山武ハネウエル計器 kk	田辺	実氏
騒音と震動	神戸大学	前川	純一氏

21日　午前9時——午後5時

近代建築と電気設備	近畿電気工事 kk	真砂野	昭氏



電源設備　同　白庄司秀三氏
屋内電気設備及び避雷針設備　大阪電気　鳴尾　源蔵氏

24日　午前9時——午後5時

弱電設備　三機工業　山瀬　暁平氏
エレベータ設備　三菱電機　木村　武雄氏
照明設備　東芝電機　北島　英二氏

◀ 見学会

新歌舞伎座見学会

5日　10時——11時　参加者50名

見学後観劇

大阪ガス K.K 酉島工場と北港工場見学会

15日　1時——5時半　参加者40名

住友ベークライト京都工場見学会

21日　1時——5時半　参加者35名

サントリー・ウイスキー工場見学会

27日　2時——5時　参加者25名

桂離宮見学会

12日	1時半	参加者	8名
14日	同	〃	8名
18日	同	〃	11名
20日	同	〃	10名

修学院離宮見学会

21日	11時	参加者	15名
28日	1時半	〃	15名

◀ 建築基準法改正に関する要望書提出

建築基準法第55条の空地制限緩和に関する要望書を29日，建設大臣宛に提出した。

◀ 後援した会

1. 名称　P.S. コンクリート工法講演会

主催　P.S. コンクリート技術協会

演題及び講師

デイビダーク工法について

デイッカーホーフ，ビドマン社技師

ハインツ，ビーター，ショルツ

日時　11月5日　2時——4時

場所　大阪クラブ3階ホール

1. 名称　第2回建設資材展示会

主催　大阪建設業協会

会期　11月19日——26日　9時——16時

会場　国際見本市会館

1. 名称　構造計算規準講習会

主催　日本建築学会

会期　11月25日，26日

会場　大阪市立労働会館講堂

編集記

編集は後記を書かないことになっています。それは多分，書いても，常に寄稿者への謝辞と，編集のまづさのエキスキユーズが多いからでありましょう。あるいは編集の中立性とか，客観性が失われるからでもありましょう。ただ，この新年号については編集の経緯を書いておく方がよいと思うので，簡単に書きます。

はじめ編集で話題が出たのは，竹腰前会長がご自分の回想記を書くから，4，5ケ月連載してほしいとのご希望が伝えられてからです。1，2ケ月機会を待っていたとき，本号にのっている「回顧五十年」の始めの部分20枚ぐらいの原稿が出されました。何かの機会に編集でさんざん苦労されたU氏が「建築と社会」が青年建築家特集を初夏にやっているので，新年には先輩を中心に特集して，歴史を振りかえることも必要だということの提案があつて，これはよい考えだというので，8月下旬に特別に会合して，前会長の回想記を中心に特集をしよう，そして回想記も連載といつても，単に頁をうづめるという考えになりだしたら大へんだというので正月号を竹腰健造特集にふみきつて，前会長にもご無理でも，それに間に合うよう執筆をお願いしました。（うちわ話で恐縮ですが，この示唆をうけたU氏は私に，正月号の編集が一番困るんだといわれました。）

このようなわけで，竹腰健造特集ではあるが，竹腰前会長の回想を通じて，歴史を考え，明治，大正，昭和の動きを回想してほしい。編集が前会長という結びつきはあつても，単純に，一つの号を一個人のためにとり上げたと考えられると，それは，あまりに酷な見方で，その辺は会員諸兄も，巾広く，この冊子に盛られた他の諸論，随想，資料等を併せ見て頂いて，その意図をくんでほしい。

ここでいえることは，どんなに世の中が，社会化されても，社会の中の個人の自由な動きの重要性はますます認められてゆくであろうということも見てほしい。

なお竹腰前会長の知友の方々に玉稿を頂きました。牧村先生はじめ他の諸玉稿ならびに「近代建築史年表」とともに，この号の価値をさらに高めて頂いたわけで，厚く感謝する次第です。

さらに付け加えますならば「建築と社会」1958年正月号を本号とともに併せ読んで頂くと，編集として一層光栄に存じます。　（T生記）

特許　防火シヤッター全般
小俣式
電動式～箱型・ウオーム・スパー
手動式～自動・鎖
オートマチック
株式会社 小俣製作所大阪出張所
（旧田中シヤッター）
大阪市北区若松町30　TEL ㉞9016
本社及工場・埼玉県与野町
東京事務所及工場・東京都北区田端町

各種陶管・大正便所・S.P. 石綿パイプ・モルタル製敷ブロック・腰掛ブロック・スペンサー
セメント煉瓦・流司洗濯槽・塵芥箱・空気抜・ヒューム管
各種セメント製品・コンクリート製品製造・販売
三舟建材商會
大阪市住吉区上住吉町三一番地
電話 ㊲2420番

社団法人 関西建材協会 11月分会報

理事会　13日　3～5時

室谷理事長外12名出席，福岡展示場開館の件，経費その他運営方針協議，入退会承認その他協議

見学会　20日　前8～後11（KK矢橋大理石赤坂工場と養老公園）

本会前8時借切バスにて出発，午後1時50分工場着，矢橋社長の挨拶と社歴と工場概説があった後，同社員の案内にて工場隈なく見学，記念品を頂き養老の滝を一巡，5.30より公園内千歳楼にて同社招待懇親夕食会開催，室谷理事長より矢橋大理石商店に対し謝辞を述べ参加者に挨拶後，6.30再びバスに乗じ11時大阪着解散，会員約30名外事務局参加。

建物保全A部会　21日　3～5時

ケントク社外9名出席，パンフレット発行内容再検討小委員会に托し整理申し合せ。新年に特別会員と懇談会開催の件等協議。

タイル部会　22日　1～3時

諏訪商会外7社出席，メートル法実施に関し及び協同カタログ集の会計等につき協議。

福岡展示場開館披露　25,26,27日

青木副会長，室谷理事長，笠原副理事長，大和常務理事接待に当り，25日約100人，26日大和常務及び事務局接待約70人。27日大和，真砂事務員接待約50人。盛会。これより先24日正午，地元運営委員会をクラブ九州にて開催，青木副会長以下出席，万般協議のうえ後事を托した。尚25日夜，開設に当り特に協力支援を得た竹中工務店赤江次長，岩本設計部次長，寺田建設社長，青盛建材社長各位に対し，青木副会長以下列席，感謝状等の贈呈式を挙行し謝意を表した。

会員家族の訃

理事安田レールＫＫ社長安田誠一氏夫人安田マサエ殿（55才）には11月2日逝去されました。青木副会長外理事会葬

梅本石油KK社長母堂梅本ヨシノ殿（84才）には11月18日に逝去されました。代表参向弔意を表した。

謹みて哀悼の意を表し御冥福を祈ります。

——会員動勢——

○所在異動

日東石膏KK大阪営業所は下記に移転しました。

南区安堂寺橋4—23（佐野屋橋ビル）

寿化成KKは下記に移転

北区梅田町17の1（新桜橋ビル）㊱7981・8081

○社名変更

山陰建材店（旧江津建設工業所）

三和プラスチックKK（旧三和プラスチック工芸KK）

藤森工業KK　福岡出張所開設

業務拡張のため今般福岡市薬院大通2丁目に九州出張所を開設　電④1945

○丸駒建材電話変更

社屋新築移転に伴い㊹3919・3947㊸9717に変更

新入会員紹介

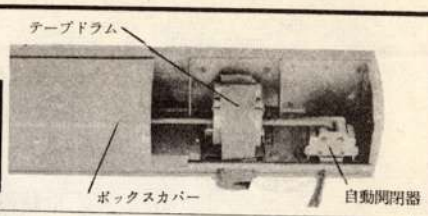
社名・代表社	取扱品	所在	電話
東海ボードＫＫ 山内幸太郎	ハードボード アヅマライト	静岡県島田市4507の1	島田３１２８
近畿ビニプライ工業所 浅田稔	ビニプライ(床材) ビニグレー(壁材)	大阪市北区絹笠町35	㉞ 5464 7456
太田産業ＫＫ 太田勲	三井ハードボード 大同パイル	福岡市下対馬小路120	③ 1887 6805
辰元タイル工業ＫＫ 辰元喜蔵	タイル，モザイク 衛生陶器	福岡市住吉松月町293	西１２８２～3
合名，上山製陶所 上山塚士	壁タイル 無糊モザイク	岐阜県多治見市上山町	多治見２１５１
中村タイル店 中村正一	タイル，衛生陶器	大阪市西区南堀江通1の5	㊸ ７２６３
名古屋木材ＫＫ 加藤周太郎	ナゴヤボード フローリング	名古屋市中村区清船町3の1	㉜ １５２６
ＫＫ成瀬勝彦商店 成瀬友一郎	ダイヤモンドリバー ベニヤ板各種・三井ボード	浪速区幸町4047	㊸ ８６３１～4

天井・間仕切には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北㉞四一三一～四

杭
株式会社 武智工務所
取締役社長　福留並喜
大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話 ㉖ 3606・4089

世界的に認められた

ライト ベネシャンブラインド LK型



ライト〃LK〃は他のブラインドに比してどこが優れているか？

(1) 従来の設計常識を覆えし，どんな場所にも簡単に美しく取付ができます。
(2) しかも他のブラインドのようにボックス内部にホコリが入らない完全防塵です。
(3) 塗装はオートメーション赤外線焼付ですから，サビやはがれる心配はありません。
(4) その他各部には最高級品を使用してあります。

ブラインドは値段の安い点にばかり惚れ込んで買えば必ず後悔します。内部迄良心的に造るライトのベネッシャンブラインドは他の追従を許さない作動の軽快さと耐久性とを持った最も信頼できるブラインドです。〃ライトLK〃は40年の豊富な経験と近代的工場施設によって作られ，世界各地に最も大量に輸出されています。

株式会社 ライト製作所

本社工場 大阪市城東区野江東3—78TEL㉝代1751—4
東　京・広　島・和　歌　山

田中式 スカイライト

スチールサッシュ
スチールシャッター
オペレーター
スチールドアー

ベンチレーター

田中工業㈱大阪出張所

設計施工

大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2ノ89 電話 ㊽0545
本　社 東京都墨田区吾嬬町東4ノ122 電話 城東㊽0870・0970
錦糸工場 東京都墨田区錦糸町1ノ25 電話本所㊽0790・5133
小倉工場 小倉市赤坂上の宿37 電話小倉0653・2833
川崎出張所 神奈川県川崎市東渡田3ノ43 電話 川崎②4540
札幌出張所 北海道札幌市北三条東7ノ4 電話 札幌③0515
盛岡出張所 岩手県盛岡市木伏 179 電話 盛岡2554
名古屋代理店 名古屋市西区西菊井町2ノ12岡田建材店 電話 西㊽0121

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(34)207～8・4836～7

株式会社 浅沼組

取締役社長 浅沼猪之吉

本　社・大阪市天王寺区石ケ辻町・電話代表㉟730・737～9番
支　店・東京都新宿区荒木町五番地・電話四ツ谷4141～4番
　　名古屋市中村区太閤通り一丁目・電話笹島4020・4021
営業所・鳥取・広島・金沢・郡山・奈良・京都・神戸・仙台
　　札幌・静岡・津・岐阜

株式会社 新工務所（アクラシ）

取締役社長 新順一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三・電話代表大阪（34）9151番
支　店・東京都千代田区神田猿楽町二丁目七・電話（29）代表2714番
出張所・神戸・広島・静岡

株式会社 安藤組大阪支店

取締役
支店長 瀬川博

大阪市西区江戸堀上通一丁目十八番地
電話 大阪（44）3788　（代表）3789・3780番　（45）393番
本　社・東京都中央区八重洲四丁目七番地
支店・出張所・名古屋・仙台・静岡・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸

株式会社 大林組

取締役社長 大林芳郎

本　店・大阪市東区京橋三丁目七五番地
　　電　話（94）861～6・1151～4
支　店 東京・札幌・仙台・横浜・名古屋・岡山・広島・福岡・高松
出張所 神戸

株式会社 奥村組

取締役社長 奥村太平

本　店・大阪市阿倍野区松崎町一丁目五一
営業所・電話 大阪㊼代表 337・1500
支　店・東京・名古屋・広島・高松・八幡
出張所・千葉・奈良・西宮・光・松山・福岡

鹿島建設株式会社

会長　鹿島守之助

本　社　東京都中央区八重洲五の三
大阪支店　大阪市阿倍野区阿倍野筋二の三三
電　話　大　阪（77）代表３７３７番

株式会社 **勝呂組大阪支店**

大阪市東区石町二丁目五十番地ノ二（電話（94）6861・6862番）
本　社・静岡市日出町一ノ二（電話静岡（2）7171～5番）
支　店・東京・名古屋・大阪・九州・北海道
営業所・若松・沼津・岐阜
出張所・滋賀・広島・八代・熊本・鹿児島・宮崎・函館・北見

株式会社 **神崎組大阪支店**

取締役支店長　大西繁市
大阪市北区曽根崎新地１丁目２１
電　話　（34）７８３７～８
本店・姫路市北条口86—3（電話代表姫路2020）

株式会社 **熊谷組大阪支店**

大阪市東区備後町一丁目十三番地（電話大阪㉘1726・1926番）
本　社　福井市豊島上町一番地　（市外専用 12・4800～2）
営業所　東京都新宿区築土八幡町二二番地（電話九段㊸5280～９番）
支　店　東京・名古屋・広島・福岡・札幌
出張所　横浜・仙台・静岡・佐久間・下関・神戸・岡山・福井・長野・小又川・青海・大鳥川・高知・宮崎

株式会社 **鴻池組**

本　店・大阪市此花区伝法町北三丁目六七番地
電　話（46）２６３１～９番
支　店・東京・名古屋・福岡・松江
営業所・広島・神戸・京都・横浜・札幌・仙台・水戸・富山
四日市・和歌山・米子・鳥取・宮崎・鹿児島・戸畑

佐藤工業株式会社 大阪支店

取締役支店長　北　村　平　作

大阪市東区北浜一ノ二五　電話北浜(23)6731～3, 7293

本　　社・富山市総曲輪二三〇
東京支店・東京都中央区日本橋本町一ノ二　本社分室・同　左
名古屋支店・名古屋市中区仲ノ町一ノ一　富山工場・富山市稲荷元町九六
札幌支店・札幌市南七条西一一丁目　営業所・京　都
出張所・神戸・横浜・岐阜・三重・仙台・盛岡・宇都宮・浦和・横須賀・静岡・四日市
春日井・金沢・高岡・新潟・今庄・川口・和田川・黒部・御母衣・岩清水

清水建設株式會社

社長清水康雄

本　社・東京都中央区宝町二ノ一

常務取締役支店長　小栗賛吾

大阪支店・大阪市西区土佐堀通リ二ノ二

電話（44）1531（10）夜間専用（44）1531—32

株式会社 錢高組

本　　店・大阪市西区京町堀上通一丁目三三番地・電話大阪㊹(代表)2431番
東京支店・東京都中央区銀座東五丁目二番地ノ一二
名古屋支店・名古屋市中区材木町一丁目五番地
福岡支店・福岡市箔屋町一六番地
出張所・札幌・盛岡・仙台・神奈川・京都・神戸・岡山・広島・徳島・松山・沖縄

大成建設株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　石井源一

大阪市東区南本町四丁目二〇番地(有楽ビル内)・電話船場(25)0778・4254(代)

大日本土木株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島北町九番地

電話大阪（34）5931（代表）—5934番

神戸営業所　神戸市生田区下山手通八丁目四二番地　電話元町（4）2114番
和歌山営業所　和歌山市小松原通一丁目一番地　電話和歌山(2) 9869番
本　　社　岐阜市長住町二丁目三番地　電話岐阜（2）6141（代表）—6145
支　　店　東　京　・　名　古　屋



株式会社 竹中工務店

本　店・大阪市北区堂島中2丁目30番地
電話大阪㉞ 代表 4751　代表 7351

営業所・札幌・仙台・東京・横浜・静岡・名古屋
京都・神戸・広島・高松・岡山・福岡



鉄道建設興業株式会社大阪支店

取締役支店長 西島尚義

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地（天六阪急ビル七階）
電話（35）883・2427・2693

本　社 東京都千代田区神田三崎町二丁目六番地
電話（九段）代表8411—8415



株式会社 戸田組大阪支店

常務取締役支店長 石丸正名

大阪市北区真砂町三二番地・電話㊱ 5951～8番
本　社・東京都中央区京橋一丁目三番地
支　店・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡
大阪支店営業所・京都・神戸・福井・金沢・富山

西松建設株式会社関西支店

取締役支店長 高橋勝雄

本　社　東京都港区芝西久保桜川町十三番地
支　店　大阪市東区釣鐘町二丁目四十一番地
電話代表 ㊹ 8431



株式会社 間組大阪支店

取締役支店長 牧村利勝

大阪市東区横堀二丁目七〇番地（電話㉓代表5035）
本　店・東京都港区赤坂青山南町一丁目一番地（電話東京(408)代表2171）
支　店・仙台・名古屋・大阪・福岡

株式会社 藤木工務店

本　店・大阪市東区両替町一丁目一七電話（94）451～4番
支　店・東京都新宿区三栄町二三番地
岡山県倉敷市旭町六六〇
香川県高松市丸ノ内十一番地ノ十二
出張所・津・岡　山・新居浜・徳　島・京　都

株式会社 藤田組大阪支店

取締役
支店長　村　島　良　雄
大阪市北区堂島中二丁目三八番地　電話㉞757（代表）
本　社・東京都中央区八重洲四の五
支　店・横浜・仙台・名古屋・大阪・広島・九州・札幌

株式会社 眞柄組大阪支店

大阪市天王寺区生玉前町九五番地　電　話㊼1521・6381番
本　社　金沢市弓ノ町二五番地　電　話（金沢）③1266番
支　店　東京・大阪・名古屋
営業所　金沢・富山・福井・大津・京都・岡崎・神戸・和歌山

株式会社 松村組

大阪本店・大阪市東区京橋二丁目二八番地　電話代表大阪㊹3171
東京支店・東京都千代田区内幸町一丁目一番地　電話代表東京㊾2226
札幌支店・札幌市南一条東三丁目九番地　電話代表札幌④9151
広島支店・広島市大手町七丁目三三番地　電話代表西③6151
福岡支店・福岡市上市小路二二番地　電話代表東③3667
営業所・水戸・名古屋・京都・福知山・岡山・呉・高松・八幡・大分・沖縄

三井建設株式会社 大阪支店

取締役
支店長　伊　豆　倉　武　一
大阪市西区江戸堀下通一丁目五三番地　電話大阪（44）代表4020
本　社　東京都中央区日本橋室町二ノ一（三井ビル）電話日本橋（24）代表3261
支店所在地　札幌・横浜・名古屋・広島・福岡・大阪
大阪支店管轄営業所　京都・神戸・和歌山・奈良・岡山

株式会社 **岡組**

取締役社長 岡 三郎

本店 大阪市北区堂山町八九番地 電話大阪(36)2967・2984・7720番
支店 京都市右京区嵯峨明星町一 電話 (86) 415・218番
出張所 枚方市伊賀七七五番地 電話 枚方 3555番
工作所 大阪市大淀区中津本通二丁目 電話 豊崎 (37) 5493番

長谷川組株式会社

取締役社長 長谷川為一

本社 大阪市天王寺区大道町四丁目七九
電話 (77) 4148・7322・9929
工作場 大阪市天王寺区大道二丁目三
電話 (77) 9044番

水野建設株式会社大阪支店

取締役副社長 水野久市
支店長 梅沢正一

大阪市北区太融寺町120 電話大阪 (34) 2107・2816・(36) 3987
工作場 同北区鶴野町71 電話大阪 (37) 1921
本店 京都市下京区西七条市部町17 電話下8052・8277
営業所 横浜市・平塚市

株式会社 **八木工務店**

取締役社長 八木一郎

本社 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目25番地
工作場 大阪市阿倍野区松崎町3丁目10番地
電話天王寺(77)1626・5772・9256・8990

矢島建設株式會社

取締役社長 矢島萬助

本社 東京都千代田区内幸町一丁目一番地 電話東京(59)代4181番
大阪支店 大阪市南区北炭屋町八番地ノ七 電話大阪(27)代5837番
取締役支店長 西野照市
支店・営業所 仙台・富山・蒲郡・佐賀賀

株式会社 井上組

代表取締役 井上福蔵

本店 大阪市都島区東野田町二丁目一五番地 電話㉟0530・2823・4038・4782
出張所 神戸市生田区中町二丁目七六番地 電話④0485

株式会社 今西組

取締役社長 佐藤音松

大阪市天王寺区上本町七丁目（上六ビル内）電話⑰8231～3

㈱鍵仲建設株式會社

取締役社長 鍵仲定一

本社 大阪市阿倍野区阪南町中一丁目九番地 電話㊻0261～2
営業所 大津市膳所北浦町一四一一番地 電話 大津 6514

栗本建設工業株式会社

取締役社長 村上勇

本社 大阪市西区北堀江通一丁目二二番地 電話㊸代表5801
工作所 大阪市城東区森町二番地 電話⑰0569
出張所 東京・和歌山・福井・徳島

株式会社 小坂井組

代表取締役 川崎盛治

本店 大阪市北区曽根崎中一丁目一九 電話㉞9331～4
出張所 京都市上京区寺町今出川下ル扇町二六七 電話③3928

大洋建設工業株式会社

取締役社長　木戸口信義

本店	大阪市天王寺区北河堀町五四番地	電話 ㊼2672・3880・7113・7862
営業所	和歌山市南材木町三丁目二番地	電話和歌山 ② 3225
〃	京都市下京区揚梅通烏丸西入	電話下京 ⑤ 0470
出張所	泉大津市我孫子六九番地	電話泉大津 1675

株式会社 大末組

取締役社長　山本末男

大阪市南区大和町一九番地　電話 ㊺ 0555（代表）
出張所　東京・奈良・神戸

株式会社 長谷川工務店

取締役社長　長谷川武彦

本社	大阪市東区淡路町五丁目二番地	電話 ㉓ 7646～9
東京支社	東京都千代田区大手町二丁目四番地	電話⑳2040・3474・4478
神戸出張所	神戸市葺合区八幡通五丁目六番地	電話 ② 4847
姫路出張所	姫路市飾磨区御幸八五番地	電話飾磨 0348

不動建設株式會社

取締役社長　庄野勝

本社	大阪市南区鰻谷仲之町五七番地	電話㉗ 4771～7
東京支店	東京都中央区銀座東八丁目四番地(燃料会館内)	電話㊹5711～21・直通0967
神戸営業所	神戸市灘区大和町一丁目六番地	電話⑧ 9605
出張所	広島・石川県小松	

望月建設株式會社

取締役社長　望月小太郎

本社	大阪市北区堂島上一ノ一八	電話㉞614～5・3805・7883・7913
工作所	豊中市庄内東町2丁目37	電話 ㊴ 115・116番
出張所	尼崎市神田北通2丁目12	（阪神尼崎駅前）電話 ㊽9745番

電気工事設計施工
電気冷蔵庫・電気洗濯機
修理販売
工藤電気株式会社
大阪市北区太融寺町五四
電話・大阪㊱2891—5番
工場 大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話 淀川㊼3477・3478
営業所 東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工
淺海電気株式会社
取締役社長 浅海正雄
大阪市東区北浜二丁目六九
電話 北浜㉓5273—5・5451—2
営業所 東京・札幌・沖縄・福岡

電気工事
設計・施工
朝陽電気株式会社
取締役社長 山本博三
本社 大阪市北区中之島三丁目三 朝日ビル6階
電話 大阪局㉓9531（大代表）
営業所 大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話 大阪局㊹5201番（代表）～3

電気工事全般設計施工
中央電気工業株式会社
取締役社長 今村騰
本社 大阪市北区曾根崎上一丁目四一
電話 大阪㉞8131代表～4
営業所 東京・新宮・御坊

電気工事設計施工
三菱電機・冷凍機工事特約店
株式会社 野上工業所
取締役社長 野上清二郎
本社 大阪市東区北浜三丁目四七 電話北浜㉓770～3
支店 福岡市上東町十五 電話東③5010
支店 松阪市本町 電話2480～2
出張所 東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分・四日市

電気工事設計施工
株式会社 **ヤマト電気商会**
取締役社長 山本龍太郎
本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話 大阪㉞代3056
東京営業所 東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室 電話東京㊾7464
出張所 名古屋・四日市・福山・福岡

電気工事設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納傳三
本社 大阪市大淀区浦江北2丁目51
電話㊺5148・6460・6646
分室 大阪市北区絹笠町50（堂ビル8階）
電話㊱3862・1141
支店 東京都千代田区飯田町2—15（飯田橋ビル4階）電話㉝8520・8527～9
出張所 名古屋・光

電気工事全般設計施工
株式会社 **三興社**
取締役社長 坪井大（タケシ）
本社 大阪市北区絹笠町50番地（堂ビル703号室）
電話 大阪㊱2138代表・5018
支店 東京都中央区日本橋箱崎町三丁目二番地
電話 兜町㊼1478・1479・1470番
出張所 大阪堺・名古屋・下関

電気工事各種設計施工
株式会社 **松重電機商店**
取締役社長 松本芳太郎
大阪市東区今橋二丁目十六番地
電話 北浜㉓6951（代表）～3㉓8121

電気設備工事・設計・施工
中本電気株式会社
取締役社長 中本正明
本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話 大阪㉝5143・5373
機器工場 大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫 電話 大阪㉝2193・2134

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

代表取締役　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話京都⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸④5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 大阪電気商会
会社 大阪暖房商会

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話大阪㊹代表 5231番 / 8231番
支店　東京・名古屋
出張所　京都・神戸・岡山・高松・広島・福岡
熊本・札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・煖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話大阪㉖代表4496～8・4993～4番
本店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話 28局 6505～8番
金沢営業所　金沢市高岡町三五　電話金沢本局②2074
福井出張所　福井市城之橋下町一〇　電話　福井2436
高松出張所　高松市二番丁九　電話　高松5195

創業 大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店　大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店　札幌・北四・西四(札幌駅前)
電話 札幌 ② 0010・0956 ③ 4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号　電話 中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売

三機工業大阪支店

大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076
本社　東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・広島
工場　川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工

須賀工業株式会社

大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺代表1171番 / 代表1351番
東京支店　東京都港区芝田村町6丁目　電話㊸代表7121
名古屋支店　名古屋市中区材木町1丁目　電話㉓代表7856
京都支店　京都市下京区烏丸通松原下ル電話⑤1989・2255
神戸支店　神戸市生田区北長狭通2丁目　電話③代表5101
福岡支店　福岡市千代栄町　電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置

株式会社

西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話 福島 ㊺ 3415(代)
東京事務所　東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話 三田 ㊺ 5281(代)

空気調和装置・設計施工

株式会社 建材社

大阪支店

大阪市北区中ノ島三丁目(朝日ビル九階)
電話北浜㉓6041(代)
本社及東京支店　東京都中央区八重州三丁目七
営業所　名古屋市中区西万町二丁目一

暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

山田工業株式会社

取締役社長　山田文次

本社　大阪市西区京町堀上通一丁目七　㊹代2613・2061
営業所　神戸市生田区北長狭通七丁目一の一　④1778・4386
出張所　名古屋市中区宮出町四七　㉔5721
〃　東京都北区上十条一丁目一〇　㊶2346
〃　岡山市桜町七六　②295

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社　大阪市北区堂島北町一四　㉞代表7031
出張所　東京都港区芝琴平町四〇　㊿9278
名古屋市中区新栄町二丁目一　⑨1820
福井市宝永上町一〇五　1596
広島市石見屋町五五　②1938
福岡市柳原一丁目七　④1158

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設計施工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電話北浜㉓7641(大代)
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電話大阪㉞局8356(代表)
本社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 東京都足立区下沼田町360番地

媛冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 栄興商会

取締役社長 中山俊人
本社 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話福島㊺3391～5番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話㉟2177～8番
出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三
電話元町④3035番

媛房・冷房水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工

株式会社 朝日工業社

大阪市北区中之島4－39 電㊹6671～5
東京支店 東京都港区芝浜松町2－7 電⑬7341～5
北海道出張所 札幌市北四条西15丁目 電②2203
仙台出張所 仙台市元寺小路(五城ビル) 電8061
名古屋出張所 名古屋市中区東陽町6－5 電㉔1270・1484
広島出張所 広島市中町3 電②1428
福岡出張所 福岡市薬研町3 電④0788・⑤0296

温湿度調整装置、媛房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30 電話大阪㉞{(代表)0977 / 0978～9・0970}
本社 東京都千代田区丸ノ内2－10
電話㉘2631-5
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話732
名古屋出張所 名古屋市東区東門前町3－6
電話⑨2893

温湿度調整・媛冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役 市川進男
本社 京都市中京区両替町通リ姉小路上ル
電話②2290・5532・6945
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話㉟8829
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話7503・3665
津営業所 津市栄町2－111電話3610

暖・冷房・空気温湿度調整装置 設計施工
各種送排風機・エロヒンヒーター・キャビネットヒーター
冷却塔・各種レヂスター・アネモスタット類製作

藤本鉄工株式会社

本社並工場 大阪市旭区赤川町三丁目二八 電話㊴1264－6
梅田営業所 大阪市北区神明町五〇 電話㉞1144－5
名古屋出張所 名古屋市東区駿河町一丁目三 電話⑨4594・5118
寝屋川工場 寝屋川市大字太間一九五 電話(寝屋川)0404

アーマーコート西日本代理店

近畿建材工業株式会社

防水美装塗料……アーマーコート
特殊防水パテ……タイガー印コーキング・ハイドロシール
床面美装仕上材料……フアルベトン
美装吸音材料……ラテックス，ボード

本社 大阪市北区茶屋町33 TEL大阪㉝3003番
九州出張所 久留米市原古賀町北134の1 TEL久留米7065番
北陸出張所 石川県松任町字布市町50 TEL松任672番

PAINTING CONTRACTOR

塗装工事請負

株式会社 林塗装店

TEL. 大阪㉕1756—7・東京㉙1335

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目五十三ノ一
(市電桜橋停留所前) 電話大阪㉞1274～6
支店・徳島・神戸・姫路・東京

雨風に強く
緩勾配に最適
だいわ
大和洋瓦
超軽量荷重（坪当37貫）和型より安い
発売元
大仏組　大仏瓦・各種和洋瓦
工事請負一式
本　店　京都市東山区今熊野池田町九　⑥3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町一丁目　㊾975

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店
株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話大阪㉞2403・3904

タイル 衛生陶器
販売と施工
奉仕感謝の店
株式会社 川岸窯業
大阪市西区靱南通二の二五（市電靱南通電停前）
電話㊹ 2571・2764 番

株式会社 矢橋大理石商店
大阪出張所
大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話北浜㉓ 4257 — 8 番

特許植物性　型枠離剝塗料
サンヒット
関西代理店　株式会社 金剛商會
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道電車　野里電停前
製造元 東京 坂巻サンヒット商会　電 淀川㊼0417・4091

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目七三 電話(64)五六五
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量 水止付(空葺)瓦

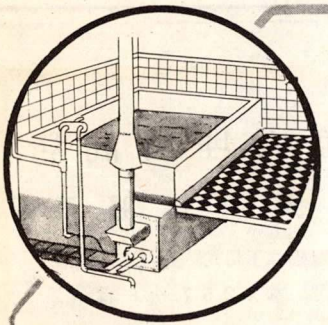
Acoustic Tex
吸音テックス
株式会社 室谷商店
本　社　神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 三宮③0881～3
支　店　大阪市北区絹笠町五〇　堂ビル5階
TEL大阪㊱2021・3486・1141

燃えない建築資材
タイガー印
耐火ボード
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店　大阪市西区土佐堀通1—1(大同ビル)
電話(44)3694・0131
本　社　東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話 東京(28)2391(代表)
九州営業所　福岡市相生町1—1　電話西(2)7420

アルミニウム
ステンレス
サッシュ・ドアー
スチールシヤッター

東京鋼板工業株式会社

本社及工場　東京都荒川区尾久町5ノ1000
電話 ㊽ 8131～6
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル3階）
電話 ㉞ 0621・0628
名古屋支店　名古屋市中区大池町24（丸菱ビル）㉙3048・4593
代理店　広島・福岡・富山・札幌



田中のガス風呂

清

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂

大阪ガス会社指定

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町1丁目742　但シ賑橋電停前　電話㊹5313・8128

陶管・ベンチレーター

株式会社 三幸商会
大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㉞ 3145

ヒューム管

白蟻

特許

松平式白蟻殺滅予防所
奈良市南城戸南方町28　電話奈良4098
（近日移転先）
奈良市登大路二番町（博物館前）電話奈良4098
出張所　奈良市春日町尾田組内　電話 6011・6012
本部　高知県宿毛市宿毛町2639

FUTABAYA DECORATORS, LTD.

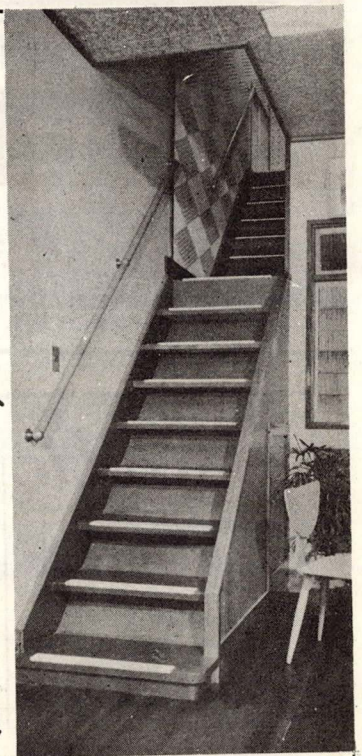
建築物船舶等造作工事
家具・建具・室内装飾工事　設計施工
内外織物・敷物類一式
（創業大正7年）

若

二葉屋装備工業株式会社

取締役社長　若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
（天六電停西北2丁）
電話・豊崎㊲3321～3・3630

リブ付塗装合板
美装パネル
吸音多孔合板
ベニヤトーン
日楽の繊維板
ヤマハボード
二重色調浮出柄
カラーボード
織物の壁貼材料
オーツカクロース
線條塗装合板
ラインボード
ビニール合板
ビニライト
立体塗装合板
カーベライト
九つの特長を誇る
九徳天井板



モデルルームへどうぞ

一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています

大阪市浪速区幸町通3丁目20

浪速合板

電話 新町(53) 2201－3番

工場　大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話 住吉(67)5109

鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町33　電話㊲0098・5837・8729

コペンハーゲンリブ

商月報無料送呈

井田ベニヤ

井田商事株式会社

大阪市浪速区西円手町一.0一七番地 湊町駅貨物八号門前

電話　(53) 4890・(54) 0808~9

低水位の地盤に

地建の合成基礎杭

木杭にほんの僅かな工費が嵩むだけです

責任施工　**地建工業株式会社**

大阪市北区絹笠町50堂ビル内電㊱2701

軽量鉄骨・軽量鋼製窓枠の

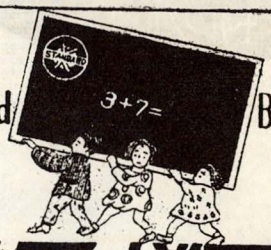
設計・加工・販売

新鋼建設工業株式会社

取締役社長 吉田信武

大阪市西区新町通2—25

電話大阪㊸6575・0609



Standard　Board&Slate

フタバ黒板

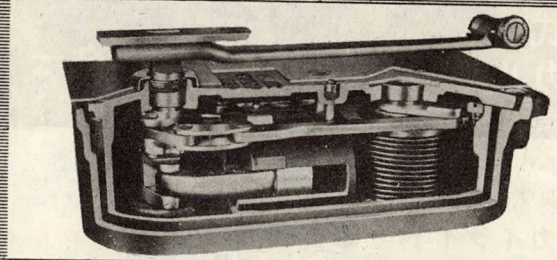
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地 電話天王寺(77)4692番

S.K ユートピア

近代人の感覚にマッチする

S.K.ユートピア印の

フロアーヒンヂ



カタログ御入用の節は御申込み下さい

製造元 **敷島金物株式会社**

布施市横沼町1丁目46番地　電話　布施(72)　839番

東京都千代田区神田和泉町1ノ11　電話 東京(866) 3051～2番

NA式軽便シヤッター

防火、盗難予防用　軽快にして堅固なり

中谷シヤッター製作所

営業所　大阪市福島区上福島北三丁目137　TEL (45) 7389
出張所　岡山・広島・宇部・福岡

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

N.G.C式

メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社

脇山静夫

本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話㊸3434～6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

N.G.インシュライト断熱材製造発売元

豊国セメント株式会社

本社　福岡県苅田町
事務所　小倉・大阪・東京

40年の伝統と経験を誇る

内外式 バーチカル(電動式)ベンチレーター

自然換気の15倍・従来のものより5割も効率大

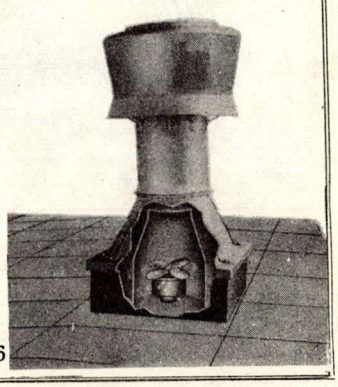
工場・発電所・病院・ボイラー室・倉庫・料理店等
特に熱及び臭気の発生する所に最適です

内外式スカイライト・波型硝子完全葺
内外式ベンチレーターコンチニアス並二筒型

設計施工

株式会社 内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）　TEL (44) 3983・4396



簡易で生均質なコンクリート

阪急砕石コンクリート工業株式会社
大阪市東区北浜四ノ二六（新日本汽船ビル四階）
電話（23）四六六七・九二四一番

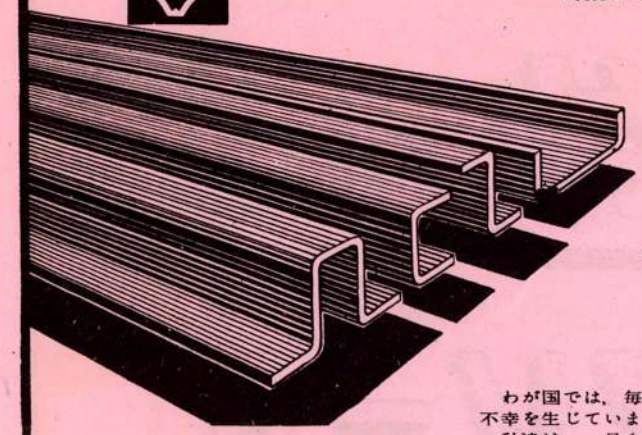
小野田レミコン株式会社大阪事務所
大阪市北区梅田町（第一生命ビル二階）
電話（36）一二六一番（代表）

大阪宇部コンクリート工業株式会社
大阪市港区新福崎町二ノ六
電話（57）二七九七番（代表）

大阪生コンクリート株式会社
大阪市北区堂島浜通一ノ二五（新大ビル内）
電話（34）六一三一番（代表）

大阪アサノコンクリート株式会社
大阪市西成区津守西六丁目三〇
電話（65）一六〇一―一六〇三番

燃えない家を造りましょう





わが国では，毎年火災のために400億円に近い莫大な損失と，大きな不幸を生じています。
私達は，一日も早くこのようなことから解放されなければなりません そのためには燃えない建築材料が必要です。
当社では，この要望に応えるために，最適の建築材料として，すでに欧米で大量に使用されている「軽量形鋼」を，当社川崎製鋼所の新鋭設備で生産しております。
この「軽量形鋼」は，軽くて丈夫な「薄鋼板」を冷間成型して，各種の形鋼を大量に生産するもので価格も低廉です。

富士製鐵の輕量形鋼

ヨーギヨーセメント

大阪窯業セメント株式会社

本　　社	大阪市北区堂島浜通1丁目25新大ビル内
東京支店	東京都千代田区丸の内郵船ビル内
名古屋支店	名古屋市中村区 住友銀行 名古屋駅前支店 ビル内
工　　場	大　　阪　・　伊　　吹

小野田

ONODA WHITE
PORTLAND CEMENT
白色
ポルトランドセメント

建築の美装化

白色ポルトランドセメント

用　途
建築の内外面の仕上塗
装飾用・採光用
標識用・各種加工品



小野田セメント株式会社

社長　安藤豊祿

本　部　東京丸ノ内1ノ1・鉄鋼ビル
大阪支店　大阪梅田・第一生命ビル

アサノ　セメント

日本セメント株式会社

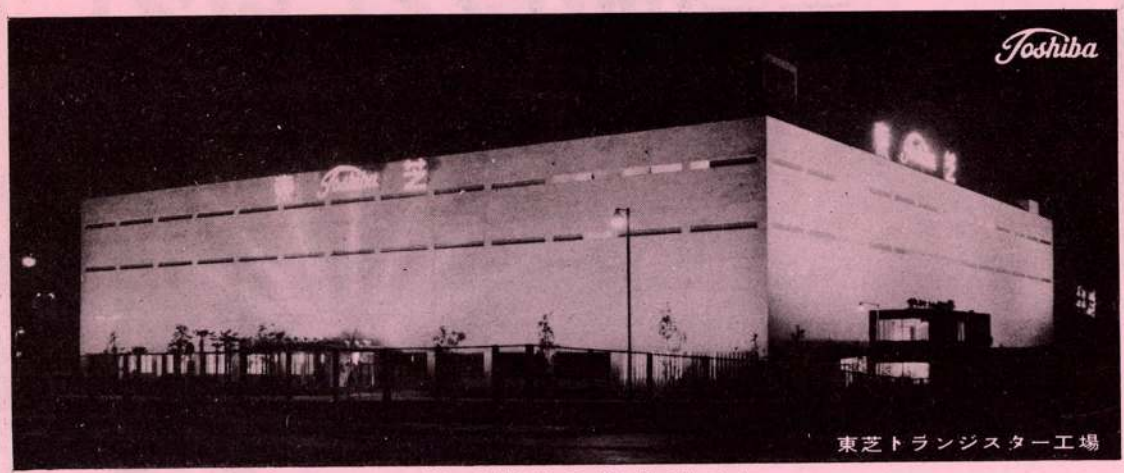
関西事務所　大阪市北区梅田町47番地　新阪神ビル6階　電話大阪（36）3351～6

本　社　東京都千代田区大手町2丁目9番地
事務所　北海道・東京・関西・九州
出張所　仙台・名古屋・広島・高知
包装所　釧路・函館・青森・下板橋・横浜・新潟・名古屋・小倉

東芝の

マツダ水銀灯

マツダ



マツダ水銀灯投光器による壁面照明の施設例です。

東芝商事株式会社大阪支店（大阪市北区堂島浜通1－15　TEL(36)1101）

建築用の接着剤には

Bond ボンド

木工用	ボンド CH_2	ハードボード用	ボンド CV_{2000}	
テックスボード用	ボンド K	化粧板用	ボンド G_5	
セメントモルタル補強用	ボンド CZ	ビニタイルサラン用	ボンド G_{100}	その他
コンクリート石材用	ボンド E	木材構造用	ボンド KR	170種

製造元　株式会社 小西儀助商店 **ボンド工場**

見本カタログ進呈

営業所
- 大阪市東区道修町2丁目6番地　電話（23）2047，2057（代表）
- 東京都中央区日本橋本町3丁目1番地　電話（24）5524～8，3815
- 分室・東京都中央区日本橋本町1丁目7番地　電話（24）2191～4，2541
- 名古屋市西区菊井通り8丁目17番地　電話（55）0658，1058

工場　大阪・東京

電氣工事・土木工事
設計・施工

近畿電氣工事株式會社

取締役社長　佐　藤　　太

本　店　大阪市北区南扇町十二番地
電話大阪㉞7171－8番
支　店　大阪北・大阪南・京都・神戸・姫路・奈良・和歌山・滋賀
支　社　名古屋・広島・東京

Golden BOARD

第3の材質
ゴールデンボード



魔法ビンの中の住心地……
冬暖かく夏冷しい理想的建材

ゴールデン インシュレーション
ゴールデン ハードボード

日本ハードボード工業株式會社
本社　名古屋市中区広小路通六丁目三番地

（代理店）伊藤忠商事株式会社・安宅産業株式会社
三菱商事株式会社・住友商事株式会社

ハガキで御一報下さい。カタログお送り致します。

謹賀新年

昔からの建材店ゆるがぬ信用　　建材信和会（いろは順）

岩元式スカイライト
岩元式通風装置（ベンチレーター）
その他建築材料
岩元工業株式会社
社長 岩元熊雄
大阪市東成区東今里町四丁目40
電話 ㊽ 0616～7

Ⓢ印ルーフイング・フエルト
Ⓢ印砂付ルーフイング
Ⓢ印石綿ウエルドルーフイング
陸屋根・地下室防水及耐酸工事 責任施工
日新工業株式会社大阪支店
支店長 井場績
大阪市西区新町北通一丁目40
電話 ㊸ 5281～3

衛生陶器・同附属器具
製造販売
東洋陶器株式会社大阪営業所
所長 中松通明
大阪市東区伏見町五丁目3
電話 ㉓ 4518～9・1424

東洋フレンチ瓦・S型瓦
東洋スパニッシュ瓦
東洋日本型瓦・陶器瓦
製造販売・責任施工
東洋洋瓦株式会社
社長 青木友一
大阪市天王寺区大道三丁目125
電話 ㊼ 3076～8

暖冷房・給排水・換気・衛生
汚水浄化装置・大正便所
設計・施工
株式会社大阪城口研究所
社長 城口庸平
大阪市北区高垣町1
電話 ㊲ 7575～7

ガス圧接
建築金物
株式会社小野弥商店
社長 小野甚蔵
大阪市西区立売堀北通一丁目24
㊹ 1443
電話 ㊸ 1212・1667

日進式軽量鉄骨
日進式リブラス
日進式メタルラス
日進式クリップ
株式会社奥村重兵衛商店
社長 奥村重兵衛
大阪市北区木幡町56
電話 ㉞ 4131～4

室内装飾設計施工
窓掛・リノリューム・アスタイル
オリエンタルクロス・ニッポンクロス
カラークロス 製造発売元
河津装飾株式会社
社長 河津喜之助
大阪市北区堂島上一丁目24
電話 ㉞ 1351～3

耐酸防水工事
ポリエステルレヂンライニング
エポキシレヂンライニング
耐酸塗料
耐酸化学工業株式会社
社長 松井邦彦
大阪市北区高垣町80
電話 ㊱ 0178～9・4161

石灰・セメント・壁材料
大阪窯業セメント（株）代理店
コガネライト（蛭石）製造販売
玉置産業株式会社
社長 玉置孝太郎
大阪市南区鰻谷仲之町25
電話 ㉗ 5675～7

一般塗装工事
請負業
竹林塗装工業株式会社
社長 竹林昭二
大阪市北区茶屋町38
電話 ㊲ 0564～5・9932

各種硝子工事一式
建築用特殊硝子工事一式
請負
株式会社村田硝子店
社長 村田経政
大阪市南区北炭屋町7
電話 ㉗ 4580・3367

艶出ケントク（白木・家具・塗物用）
液体ケントク（フローリング・アスタイル・リノリューム用）
フロアオイルケントク
床清掃請負・掃除器具販売
株式会社ケントク
社長 鈴木清市
大阪市東淀川区新高南通一丁目14
電話 ㊴ 0864～6・1416・1658

建築金物・建具金物
サッシュ金物
製造販売
株式会社日垣本社
社長 日垣太市郎
大阪市南区安堂寺橋通二丁目3
電話 ㉖ 5091～6

タイル工事一式
株式会社平田タイル
社長 平田伊三郎
大阪市西区阿波座中一丁目5
電話 ㊸ 1003～5

謹賀新年　火曜會

株式会社 星屋電気商会	山上　孟男	大阪市北区堂島浜通1ノ80	(34) 1575(代)
株式会社 紅屋商会	唐住　侑	大阪市天王寺区上本町6ノ1	(77) 6636(代)
株式会社 東亜電気商会	平山　勇	大阪市北区神明町40	(34) 4677(代) 9127
東光電気工事株式会社 大阪支社	姉川　正男	大阪市東区高麗橋5ノ28	(23) 360 447 569
中央電気工業株式会社	今村　騰	大阪市北区曽根崎町上1ノ41	(34) 8131(代)
株式会社 大阪電気商会 大阪暖房商会	菅谷　三郎	大阪市西区江戸堀南通1ノ37	(44) 5231(代)
太陽電設工業株式会社	古谷庄太郎	大阪市此花区恩貴島南之町73	(46) 4651(代)
株式会社 野上工業所	野上清二郎	大阪市東区北浜3ノ47	(23) 771(代)
栗原工業株式会社	栗原　信虎	大阪市北区永楽町8 日産生命館内	(34) 1234(代) 1230
工藤電気株式会社	工藤　寿男	大阪市北区太融寺町54	(36) 2891(代)
株式会社 ヤマト電気商会	山本竜太郎	大阪市北区西堀川町15	(34) 3056(代)
八千代電設工業株式会社	梶本　秀尾	大阪市東区森之宮東之町392 下	(94) 6531(代)
株式会社 山川工業所	山川　義夫	大阪市北区曽根崎上1ノ10	(34) 8374(代)
株式会社 松重電機商店	松本芳太郎	大阪市東区今橋2ノ16	(23) 6951(代)
江東電気工業株式会社	猪飼幸次郎	大阪市生野区勝山通9ノ72	(73) 4035(代)
近藤工業株式会社	近藤　義明	大阪市西成区東四条3ノ3	(64) 1713 7729
浅海電気株式会社	浅海　正雄	大阪市東区北浜2ノ69	(23) 5273(代) 5451
三和電気土木工事株式会社	助野　信三	大阪市北区東堀川町11	(36) 6451(代)
株式会社 三興社	坪井　大	大阪市北区絹笠町50 堂ビル内	(36) 2138(代)
三機工業株式会社大阪支店	下山田政友	大阪市東区高麗橋3ノ1 東棉ビル内	(26) 2951(代) 3076(代)
近畿電気工事株式会社	佐藤　太	大阪市北区南扇町12	(34) 7171(代)
株式会社 明和工務店 大阪営業所	馬淵　忠義	大阪市福島区上福島南3ノ89	(45) 4772(代)



社団法人 日本サッシュ協会 大阪支部

大阪支部　大阪市北区神山町26（富国信用ビル2階）　電話 ㊱ 6501～2番

支部長　福田好雄

西日本規格サツシ株式会社
朝日建材工業株式会社
旭鋼鈑工業株式会社
麻村サッシュ工業株式会社
尼崎建材株式会社
株式会社岩住鉄工所
栄進鋼業株式会社
栄進社大阪営業所
大阪機工株式会社
大阪建材工業株式会社
株式会社大阪鉄工所
大阪理研工業株式会社
加地シヤッター工業株式会社
川鉄商事株式会社魚崎工場
合資会社関西鋼業製作所
三機工業(株)大阪支店
昭和鋼機(株)大阪支店
谷山鋼機株式会社
中国理研サッシュ株式会社
東京鋼板工業(株)大阪支店
浪速建材工業株式会社
日東建鉄株式会社
日本建鉄(株)大阪営業所
株式会社汎建製作所
不二製作所大阪支店
理研鋼機(株)大阪営業所

広告目次

(50音順)

ア 青山鋼材kk ……37
浅海電気kk ……10
麻村サッシュ工業kk ……36
kk 朝日工業社……12
朝日石綿工業kk ……表紙4
旭化工板製造kk ……中挟
伊奈製陶kk ……中挟
泉石綿工業kk ……31
井田商事kk ……15
kk 岩住鉄工所……中挟
岩元工業kk ……29
宇部スレート工業kk …… 173
kk ABC商会……中挟
kk 栄興商会……12
栄進鋼業kk ……30
オリエンタルメタル製造kk 中挟
大阪建材工業kk ……38
大阪コンベス建材社 ……30
kk 大阪城口研究所……11
kk 大阪電気暖房商会……11
大阪耐酸工業所 ……29
大阪サンライト会 ……中挟
大阪耐火ボードkk ……前付
大島応用化学工業kk ……30
kk 奥村重兵衛商店…… 176
奥山化工業kk ……36
織本特殊構造研究所 ……32
カ 樫野石灰工業kk ……12
kk 桂商会……目次対抗面裏
kk 川岸窯業……13
亀井kk ……30
川口ゴム工業kk ……前付
河津装飾kk ……前付
関西三星タイル会 ……35
近畿建材工業kk ……12
工藤電気kk ……10
kk 久保商店…… 1
黒川化学工業所 ……30
kk ケントク……38
kk 建材社……11
kk 小俣製作所…… 175
kk 金剛商会……13
サ 斎久工業kk ……11
kk 斎藤省三商店……11
佐村木商店 ……30
三機工業kk ……11
kk 三幸商会……14
kk 三興社……10
kk 三晃商会……11
三宝電機kk ……10
kk 三和シヤツター製作所
……目次対抗面裏
敷島金物kk ……15
彰 国 社 …… 170
昭和アルミニウム kk……31
kk 新興建材工業所……34
新鋼建設工業kk ……15
須賀工業kk ……11
鈴木シヤタア商会 ……15
タ 耐酸化学工業kk ……26
田島応用化工kk ……表紙2
田中工業kk …… 1
kk 田中風呂製作所……14
田辺工業kk …… 124
田村商会建材部 ……27
kk 谷山製作所……31
第一工業kk ……12
大日本硝子工業kk ……29
大日鋼業kk ……26
大 仏 組 ……13
高砂熱学工業kk ……12
kk 武智工務所…… 176
淡陶kk ……前付
地建工業kk ……15
中央電気工業kk ……10
朝陽電気kk ……10
東京鋼板工業kk ……14
東京装備工業kk ……26
東洋キヤリア工業kk ……12
東洋シヤッターkk ……中挟
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋レーヨンkk ……目次対抗面
ナ ナニワ瓦kk ……13
内外工業kk ……16
内外土木建材社 ……16
中谷シヤッター製作所 ……16
中本電気kk ……10
浪速合板 ……14
浪速建材工業kk ……37
日本エレベータ工業kk ……37
日本管工業kk ……12
kk 日本金具製作所……中挟
日本サッシュ協会大阪支部 …24
kk 日本シヤッター
製作所 …表紙3
日本セメント
防水剤製造所 …表紙3
日本ドアーチエック製造KK ……中挟
日本ハードボード工業kk ……21
日本レーヨンkk ……表紙4
日宝蛭石kk ……29
kk 西原衛生工業所……11
日本ペイント ……33
日新工業kk ……中挟
kk 野上工業所……10
ハ kk 林塗装店……12
kk 汎建製作所……32
パラマウント硝子工業kk …前付
kk 日立製作所……前付
平川鉄工所 ……前付
藤本鉄工kk ……12
福屋工業kk ……14
藤森建材kk ……中挟
二葉屋装備工業kk ……14
kk 不二製作所……33
フタバ黒板 ……15
kk 平和シヤッター製作所……31
豊国セメントkk ……16
マ kk 松重電機商店……10
水谷ペイントkk …… 174
kk 水島商店……33
kk 三高製作所……32
kk 三谷製作所……前付
三井金属鉱業kk ……目次対抗面
kk 峰岸商店……27
三舟建材商会 …… 175
kk 室谷商店……13
kk 明正社……31
ヤ kk 矢橋大理石商店……13
山宗化学kk ……表紙3
山田工業kk ……11
kk ヤマト電気商会……10
kk 油脂化工社……表紙3
kk 吉田芳雄商店……13
吉野石膏kk ……13
ラ kk ライト製作所…… 1

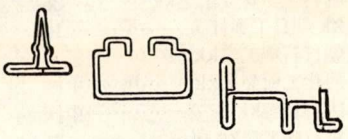
特 別 広 告 (順不同)

kk 三越……前付
新日本電気kk ……中挟
関西生コンクリート懇話会 …17
富士製鉄kk ……18
大阪窯業セメントkk ……18
小野田セメントkk ……19
日本セメントkk ……19
東芝商事kk ……20
kk 小西儀助商店ボンド工場…20
近畿電気工事kk ……21
建材信和会 ……22
火 曜 会 ……23
kk 大阪防水建設社……28
kk 井上浄夫商店……28
住江織物kk ……28
kk 平田タイル……28

(五日会・十日会関係の分は誌面の都合上省略させていただきます。)

R付キ
角出シ

コールドロールによる
角パイプ
特殊軽量形鋼



呈カタログ　　日本特殊形鋼株式会社

発売元　大日鋼業株式会社

大阪市西区立売堀北通七丁目二一
電　話(54)1721・1722・1723

セラボード

石膏ボードは進化した！

火に遭えば陶器となり
水に遭えばスレートになる

関西地区販売店

青盛建材株式会社　広島市鉄砲町108　TEL中②2281～3
中央建材株式会社　大阪市南区難波新地1—36　TEL ⑮ 6531・2431
株式会社 室谷商店　大阪市北区絹笠町50　TEL ㊱ 2021・3486

● リーフレットの用意があります　ご請求下さい

あけましておめでとうございます

生活にいっぱいカーテン運動
特許C型カーテンレール

東京装備工業株式会社 東京都中央区新川1-6 TEL 55|0771-5

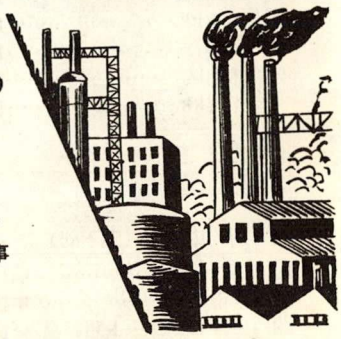


化学工場の建物を
酸蝕から守れ！

耐酸　耐油　耐アルカリ

最新式　耐酸　レヂンライニング
ポリエステル系レヂンライニング
特殊アスファルト耐酸工事
現場責任施工

設計・施工には是非弊社に御相談願います

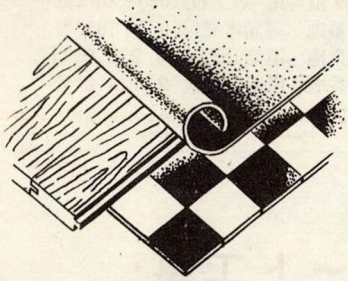


耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80 電話大阪(36)178・4161(代表)

タムラ 最高の品質・新しい建築資材

床　　材



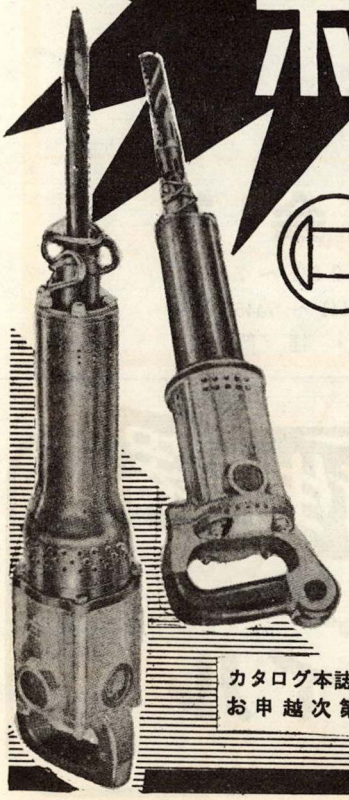
フローリング さくら・なら・ぶな
ブロック さくら・なら・ぶな
パーケット・寄木 さくら・なら・ぶな
アピトン・桧床板
三星印アスファルトタイル
東洋リノリューム
田村式コンベス床

創業 明治24年
貿易・木材・建材

田村商會 建材部

本　店・神戸市生田区栄町通二丁目三九(安田火災ビル)　電話神戸③局0591—3・5092—3・0498
支　店　東京都中央区八重洲一丁目一 西河岸橋西詰　電話東京㊲局6181・6182

ボッシュ電動式ハンマー



強力・堅牢・高能率

穿孔・削切兼用・(電灯線使用)

コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店

株式会社 峰岸商店

大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話土佐堀㊹0842・2181

カタログ本誌名記入
お申越次第進呈

専売特許　ウカ式化学防水工事　グラウチング防水工事
グナイト工事　アスファルト防水工事
薬液注入防水及土壌硬化工事

株式会社 **大阪防水建設社**

本　社　大阪市天王寺区餌差町42番地　電話南㉕2595・2572番
出張所　名古屋市中区和泉町一丁目九番地　電話本局㉓5075・1048番
〃　神戸市兵庫区神田町四三九番地　電話元町④6930番
〃　東京都渋谷区千駄ケ谷二丁目四八〇番地　電話青山㊵2432番

防水・防熱
石綿スレート工事

株式会社 **井上淨夫商店**

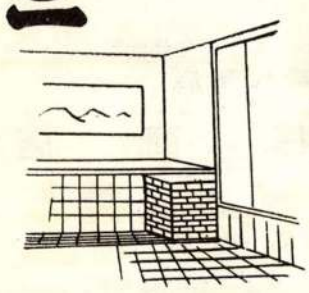
本　社　大阪市西区江戸堀下通り一丁目七　電話大阪㊹8531～5番
出張所　東京都中央区日本橋室町一丁目一五　電話㉔5715番

最古の歴史・最高の品質

カーペット・タフトン 8 綴通・ドレープ

住江織物株式会社

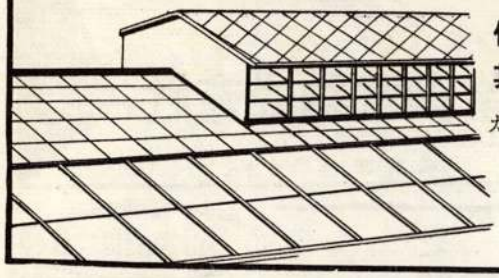
本　社　大阪市南区安堂寺橋通四ノ五五　電(25)0081～7
東京支店　東京都港区芝西久保桜川町　電(59)7441～7445
出張所　札幌・名古屋・広島・福岡



タイル・衛生陶器

株式會社
平田タイル

岩元式 スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター



サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工

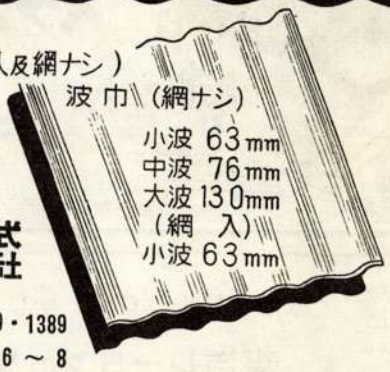


カタログ進呈

岩元工業株式会社
本社 大阪市東成区東今里町4の40
電話 ㊽0616・0617

光り 波型ガラス （網入及網ナシ）

ダイニチライト
ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板
6尺×2尺4寸(波型)



製造元 大日本硝子工業株式会社

大阪支店 大阪市北区玉江町2—4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹3389・1389
本 社 東京都中央区京橋3—6 電話㉘6926～8

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルダル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地 電話豊崎㊲1333番

ヒルコン

耐火 断熱 保温 保冷 防音
吸音 結露 防止 に

焼成蛭石

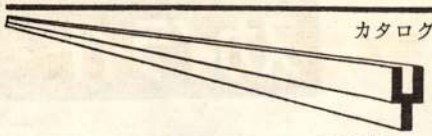
㊝ 日宝蛭石株式会社

大阪市東区高麗橋3～7 TEL(23)1601.1704.5627.5628.淀川工場・大阪市東淀川区豊里菅原町119 TEL(38)3101

（ＪＩＳ）製作工場

スチール.サッシュ
スチール.ドア
スチール.シャッター


NS型

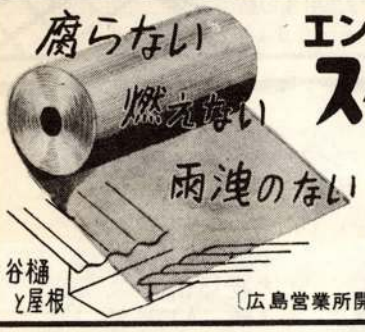

LS型

カタログ進呈

パテ切リ不要ノ　〝サッシュバー〟

栄進鋼業株式會社
本社及工場　大阪市城東区野江西之町2丁目2
電話城東㉝8261～3

出張所 福岡 連絡所 名古屋 広島 長崎 富山



エンドレス（長尺もの）
スタンダードメタル
谷樋.屋根に是非どうぞ

PATENT Standard

スタンダードーメタルの大島化学
エバーブライトの大島化学（アルミ箔ルーフイング）
オーシマライトの大島化学（ポリエステル樹脂積層板）

大島応用化学工業㈱
本社工場　大阪市城東区野江東ノ町4丁目　電話城東㉝3679・4481・8471
第二工場　大阪市城東区古市中通2丁目　電話城東㉝8813
支店　新居浜市西原町　電話2327・2938・3255
営業所　名古屋市 電(中)7025・広島市 電③7582 出張所 四日市市 電2065
〔広島営業所開設〕

窓掛、緞帳、日除、壁紙　室内装飾　絨氈、舗床材一般
東洋レーヨンのナイロン緞通と絨氈 発売元
亀井株式會社
大阪市東区南久宝寺町四丁目(心斎橋筋)
電話船場(25)1353～5番

経験と技術
Y.C.コンベス（リグノイド）
ゴムタイル　スポンヂシート
プラスチツクラブ　アスファルトタイル
大阪コンベス建材社
大阪市北区浪花町三五　電話豊崎㉗6760・7063

標準セメント防水材・特許ニッポン
特許ニッポン防水液・急結液一号（噴水急止）
二号（湧水防止）・姉妹品粉末ニッポン
施工指導並ニ責任模範施工
黒川化学工業所
（国立大阪工業試験所創製）セメント防水材特許権実施工場
（大阪営業所）北区芝田町六八　電話北㉞7916
（本社・工場）神戸市灘区住吉町反高林1876・
御影⑧2723

赤褐色・銀黒色・青緑色及瀬戸焼色瓦
平安瓦
耐台風に
耐震に
優雅な瓦
各種瓦葺工事請負業
合資会社　佐村木商店
大阪市東区京橋前之町2（市電京阪東口停前）
電話㊹7016・7017・1528番

良心的な工事と材料

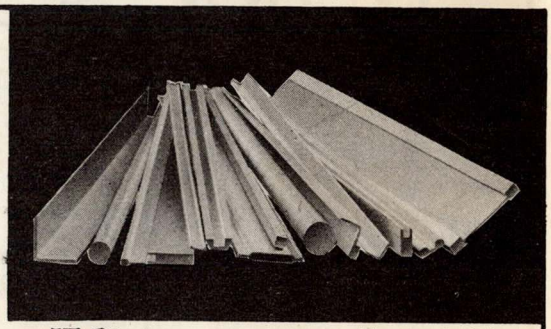
アスファルト
防水工事．耐酸工事．

ブリヂストンの
エバーソフト
最も進んだゴムのクッション

大阪市北区樋上町45
TEL (34) 8157・8158・8159

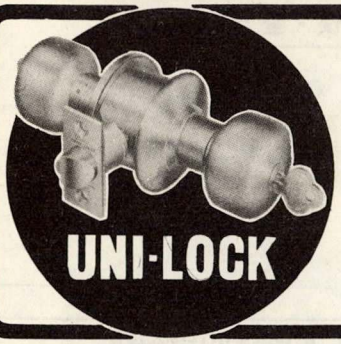
志垣の 明正社

昭和アルミの
押出型材



アルミニウムの押出型材は複雑な型状のものが容易に作れ、製品コストを下げ、軽く、美しく、錆びず、合金によって鉄鋼に匹敵する強度を持ちます。
最近は、建築、船舶、航空機、その他軽工業や家庭器具等極めて広範囲に使用されています。
アルミニウム工業に於て伝統を誇る当社は、最新式押出機により、棒、管、線、その他各種の型材を生産し、急激に増大してきた新しい需要に応じています。

昭和アルミニウム株式会社
本　社　堺市海山町6の224
東京営業所　東京都中央区日本橋堀留町1の12



建築界待望の新扉錠……！
ゴールユニロック
GOAL

日本住宅公団・公営住宅御指定
株式會社 谷山製作所
大阪市東淀川区三津屋北通四丁目　電話(37) 3117・5871・7724

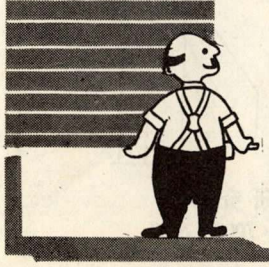
シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠

石綿セメント製品の最高水準を行く!!
アスベストバリヤ（硬質石綿板）
Asbesto. Barrier

建物内外壁、間仕切、天井扉
電気室、発電所、配電室、製鋼
ガラス工場の壁、製糖、製油
製薬工場の床スカート壁など
に最適

呈カタログ

泉石綿工業株式会社
大阪市北区北同心町1丁目11
電話堀川㉟3442・4078



平和式
親切・丁寧
ご御照会
軽量シャッター

株式会社 平和シャッター製作所
大阪工場　大阪市浪速区河原町2丁目　電㊹5750・8444
東京工場　東京都太田区糀谷町4丁目　電㉞0160・1733

三高式 サッシュ.ドアー.シャッター

オペレーター
ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社工場 大阪市東淀川区西中島町7－69
電 話 大 阪 37—1 7 5 4（代 表）

伝統に輝く
優秀な製品

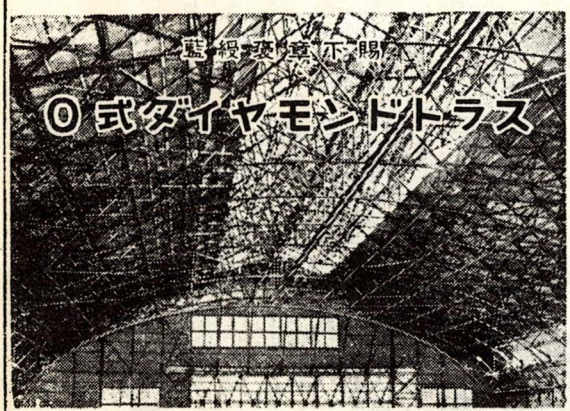
スチール サッシュ
スチール シャッター
スチール ドーア

新規製品
完全密閉片引き窓
気密度極めて高く
開閉軽快・堅牢・低価

株式会社 汎建製作所

大阪市此花区恩貴島北之町11 電話 此花 ㊻ 2903・4461

鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS

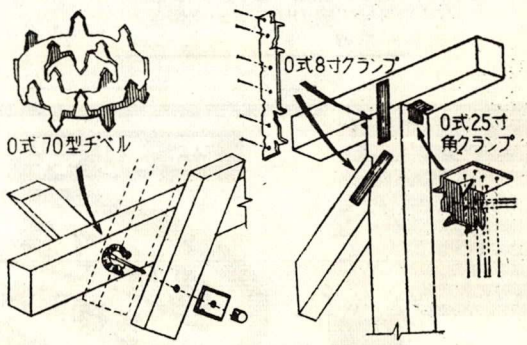


設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈

考案 織本建築設計計算事務所
東京都中央区日本橋蠣殻町3～2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

官公庁御採用 耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた2階梁に

PAT O式ヂベル
PAT O式クランプ



販売 織本特殊構造研究所



不二サッシ

◦機械設備の充実　◦絶対責任製作
◦卓越せる技術　◦堅牢軽快優美

株式会社 不二製作所大阪支店

大阪市西淀川区御幣島町中三ノ四
電話淀川㊼1220・1454～6・4414～5
本社及び工場　川崎市中丸子一三五　電話田園調布㉜4261～5

ビニール壁塗料

ビニレックス

5000 (エマルジョン)
6000 (溶剤型)

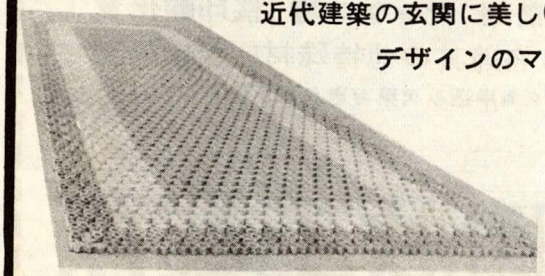
乾燥が早く、密着性が優れ、のびが良く、経済的である

日本ペイント
大阪・東京

MIZUSHIMA

MOP MAT WAX
モップ マット ワックス

近代建築の玄関に美しい
デザインのマット

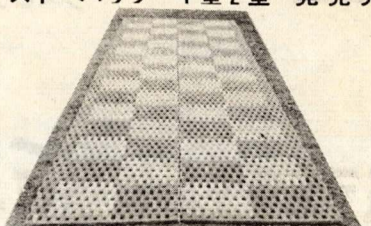


近代的おそうじ百貨

信用と品質を誇る店

OSAKA ミツシマ KYOTO

ユービ金属マット・ユービゴムマット
ユービ鉄マット・ラインゴムマット
カラーラインマット・ニューラインマット
ホーム・ソフト・モップ
ダスト パック 1型2型 発売元



株式会社
水島商店

大阪店　大阪市西区北堀江上通一丁目・TEL㊸3514・8246
京都店　京都市中京区蛸薬師烏丸西入・TEL②5363・0214
工作所　京都市右京区西院松井町八・TEL㉞1697

SK

特殊壁材製造と左官材料専門卸



★セメント防水剤は世界的水準のJIS合格品のご使用を！

シンケン
防水剤・急結剤

★近代建築の和洋室内壁に防音・保温・落ちぬ塗壁材

いすゞかべ

★劇場・洋室・学校講堂・公会堂の内壁に防音・保温の

チエリーウオール

★純日本趣味の塗り良い優雅な壁……

錦壁

★セメント・石灰・プラスターの着色に純鉱物性不変色の…

チエリーカラー

★セメントの（アク）でお困りの場合に

シンケン　セメント(アク)止剤

水溶性特殊接着剤〝シンケン糊〟桜印酸化黄
ラスヒゲコ・末広布連其の他特殊材料製造発売
（カタログお申込み次第お送りします）

株式会社 新興建材工業所

color conditioning for flooring

プラスタイルP

（Pタイル）

カタログ・見本御申込
次第お送り致します。

責任施工代理店（順不同）

〔近　畿〕

三友工業株式会社
大阪営業所
大阪市東成区大今里町655
大阪セルロイド会館内
電話今里㊼8031～4

合名会社　利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20
（日本橋電停前）
電話　南㉕471・472
京都出張所
京都市中京区河原町夷川下ル
電話　③3299

株式会社
木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話土佐堀㊹5408・5486

株式会社
久保商店
大阪市北区真砂町5
電話北㉞207～8・4836～7

タテバヤシ商店
京都市上京区大宮通四条下ル
電話壬生㉞4468

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話湊川⑤2697・2140

〔中国・九州〕

青盛建材株式会社
広島市鉄砲町108
電話中②2281～4

青盛建材岡山営業所
岡山市東田町3
電話②7911・8169

青盛建材福岡営業所
福岡市万行寺前町14
電話東③1225～6

〔東　海〕

株式会社
名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話中㉔1329・2106・2817

合資会社
岡田建材店
名古屋市西区西菊井町2ノ12
電話西㊸0121・2057

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話茂㊹3286

関西三星タイル会

優秀技術を誇る！

麻村の

A

スチール
サッシュ
ドアー
シャッター

責任・設計・製作

麻村サッシュ工業株式会社

本　社　大阪市城東区野江東之町1－12　電話大阪㉝0342・1859・2854・5272・8016番
第一工場　大阪市城東区野江東之町1－11　第三工場　大阪市城東区古市大通2－28
第二工場　大阪市城東区野江西之町1－15　第四工場　大阪市城東区天王田町1－171
営業所　名古屋市中区下日置町2－25(日置ビル内)　電話名古屋㉜4006
出張所　金沢・広島・松山

黄綬褒章受賞

特許　奥山式熱工法　冷工法　綜合防水層

カッパー防水

C.F #38

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

カッパーメッシュ
コーパータイト

耐酸耐油工事
アスファルト工事一般

製造元　奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8丁目3番地・電話　銀座　57　2703　4・2370・4064・0264

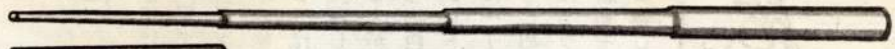
運　搬　機　械

エレベータ・コンベヤー
ホイスト・リフト・クレーン
設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K.K.

大阪市大淀区天神橋筋六丁目天六阪急ビル
電話　大阪（38）3812,4987,9339,7071

段付テーパー
テーパーパイプ



アラヤの新製品
異形特殊パイプ

異形直線パイプ



建築・家具・電気のデラックス　デザインに

アラヤ特殊パイプは本邦唯一の製法による電縫管で（ステンレス・軽合金・引抜鋼管も製作可能）下記の様な特長をもっております

1. 長尺にても真直ぐな製品が出来ます
2. 表面地肌が非常に美しい
3. 従ってメッキ及び塗装が非常に楽に行われます
4. 製品価格が非常に安い

カタログ・値段表送呈。見本御希望の方は（8本1組）¥370—要

製造元　新家工業株式会社
発売元　青山鋼材株式会社　パイプ課
大阪市西淀川区野里町1239ノ8
電話大阪（47）0012・0013・0014・3760

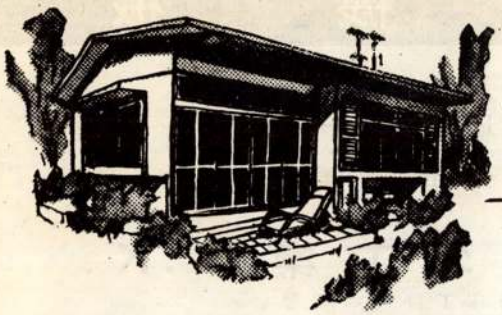
NK 浪建式

スチールサッシュ・ドアー
シャッター・オペレーター
—製造販売—

日満ゴムタイル
全国総代理店
責任施工

大正十四年創業
浪速建材工業株式會社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉝1171～3番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㊺4611
福岡営業所・福岡市天神町三番地（サンビル内）　電話福岡④8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番



家を建てたら・・
ツヤ出しケントク

——板の間・廊下に——→

新築に

水拭きではすぐに黒ずみニス・ラツカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

ケントク

白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ポンド二九〇円で約五坪みがけます



大阪市東淀川区新高南通 1—14　KKケントク　電話㊽1658・1416
0864～6

防錆処理には
ボンデライトを
自家設備一貫作業



サッシ
ドアー
シャッター
オペレーター

建

大阪建材工業株式會社

営業所　大阪市南区九郎右衛門町21番地　電話 ㊼ 代 836-839・830
本社工場　堺市松屋一丁目6番地　電話 堺1586・3323・4800-1
工事部　大阪市南区久左衛門町7番地　電話 ㊼ 7047・7127
出張所　名古屋　金沢

住宅や家具につく白アリや害虫を退治します、その上「アリノン」は
くされ・かびにも特効があります。



白アリに **アリノン**

山宗化学株式会社 東京都中央区八丁堀2丁目3番地 電話(55)5292・3634・0729
大阪市西区江戸堀下通2～38西船場ビル 電話土佐堀(44)7715・2803

特許神田式 あらゆるシャッターの専門メーカー

株式会社 日本シャッター製作所

日本シャッター

本社工場 大阪市東淀川区田川通6丁目38(電)代37-8565・東京工場 川崎市新丸子東3丁目1159(電)047-5350
名古屋支店 名古屋市中区宮出町23(電)24-4811・九州工場 福岡市榎田町1268(電)2-6708
営業所 高知・岡山・高松・姫路 代行店 全国主要都市ニアリ

日本建築協会優良證明

セメント 増強防水剤



ウォータイトB号

株式会社 日本セメント防水剤製造所

仕様書 型録 贈呈

本社 兵庫県宝塚市高台上の池北28—1 電話 宝塚 2153
工場 尼崎市難波本町1—34 電話大阪㊽8544(代表)
出張所電話 東京(43)0874 仙台(3)0721・名古屋(32)1331

ウォータイト式防水工事代行店電話 高山工業 東京(25)0161～3・安藤工事 福岡(3)5765・大三工業 高松6710

紫綬褒章に輝く

JIS合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤 特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

本社 東京都品川区二葉町1—441 電話荏原㊼1715
大阪営業所 大阪市東成区西今里町2—48 電話㊾4765・0063

取締役社長 矢中龍次郎

昭和二十四年三月十九日
第三種郵便物認可

昭和三十四年一月二十日印刷
昭和三十四年一月廿五日発行（毎月廿五日発行）

高圧 朝日スレート

米国式 朝日コンクリートブロック

A.S.K.

朝日石綿工業株式会社

大阪営業所　大阪市北区神山町四六　電話 大阪 ㊱ 7236代表～9 2095夜間専用
本　　社　東京銀座七.営業所-東京.横浜.名古屋.岡山.九州.北海道
工　　場　東京.横浜.山梨.名古屋.大阪.岡山.門司.宮城

設計へは是非 ○○○

色相の美くしい…
施工の簡便な…

ハードボード JIS ㊈ A5907(1957)

○○○ サンライト

製造元 日本レイヨン株式会社

売価・本号に限り 一部金弐百五十円（送料共）

御入会の御申込は……
「建築と社会」発行所　社団法人 日本建築協会　大阪市東区北浜3－37　電話北浜 ㉓ 9648・9649・9640